

平成29年度

# 病 院 年 報

第 15 号



日本赤十字社

## 高槻赤十字病院

## 理 念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

## 方 針

1. 患者さんの人権と意思を尊重し、患者さん中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さんを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さんのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字にかせられた使命を果たします。

## 患者さんの権利の尊重

1. 患者さんは個人として常にその人格を尊重される権利があります。
2. 患者さんは良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. 患者さんは自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無等について、分かりやすい説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは自分が受ける治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定する権利があります。医療機関を選択し、転院・退院する権利があります。
5. 患者さんは自分が受けている医療について知る権利があります。
6. 患者さんは自分の情報を自分の承諾無くして第三者に開示されない権利があります。

## 看護部の理念

赤十字の理念に基づき、療養生活支援の専門家としての誇りを持ち、その知識や技術を活用し、看護の対象者がどのような健康状態であっても、その人なりの生活ができるよう支援し、健康の実現に貢献します。

# 平成 29 年度病院年報出版にあたり

平成29年度（2017年4月から2018年3月）病院年報がまとまりました。

今回からは紙媒体は中止してCD版とし、さらに高槻赤十字病院のホームページにアップする予定です（<http://www.takatsuki.jrc.or.jp>）。

さて、病院年報は、その年度を振り返り、自己検証し、将来への発展的展開を図るものです。平成29年度を振り返ると、前年度の診療実績が本院の実力や地域貢献を十二分に果たしているとは言いがたい状況でしたので、いくつかの工夫と改善を試みた結果、診療実績はやや回復しました。しかし、平成29年度から始まった財政などの3カ年改善計画を完遂するためには、尚一層の努力が求められていると判断できます。

実際、3カ年改善計画の最終年度である平成31年度に向けて、平成30年度に電子カルテの導入、クリーンルームの増設、病床病棟の適正再配置、シャトルバスの増設などが行われる予定です。これらの中には、職員の負担を伴うものもありますが、果敢に実行されるものと思います。

高槻赤十字病院は、日本赤十字社の一員として、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減し、生命と健康を守り、人間の尊重を確保する赤十字の人道の実践を通じ、地域の人々に誇りにしていただける病院となることを基本としています。特徴ある高槻赤十字病院とするために、皆さんもどんどん意見を寄せてください。

この年報は、これらのことを実行していく上での基盤となります。今後ともこの年報の精度を上げて、広く周知していくようにしたいものです。

平成31年度3月4日

院長 古川 福実

# 目 次

## I 病院の沿革

病院の沿革 .....	1
-------------	---

## II 病院の現況

1. 病院の特色 .....	5
2. 施設の概要 .....	6
3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認 .....	6
4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況 .....	7
5. 診療体系 .....	8
6. 配置図 .....	12
7. 付近見取図 .....	13
8. 主な施設・機器 .....	14
9. 年 表 (沿革) .....	17
10. 整備医療器械備品 .....	20

## III 組織及び職員

1. 高槻赤十字病院組織図 .....	21
2. 幹部職員 .....	22
3. 職員現況表 .....	23
4. 職種別・年齢別・職員構成表 .....	23
5. 会議及び委員会 .....	24

## IV 統 計

1. 平成 29 年度実績表 .....	25
2. 入院患者数 .....	26
3. 入院稼働額 .....	27
4. 入院単価 .....	28
5. 外来患者数 .....	29
6. 外来稼働額 .....	30
7. 外来単価 .....	31
8. 科別患者構成比 .....	54
9. 診療科年齢別構成表 .....	55
10. 救急患者数 .....	56

11. 剖検件数	57
12. 紹介率・逆紹介率	58
13. 食事別給食数	59
14. 栄養指導件数	60
15. 手術件数	61
16. 分娩件数	61
17. 特定保健指導	62
18. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について	62
19. 病院利益（損失）	63
20. 平成 29 年 年間購入雑誌一覧	64
21. 医療社会事業年報（平成 29 年度）	65

## V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数	66
2. 科別・月別退院患者数	67
3. 科別・転帰別退院患者数	68
4. 疾病大分類別・性別退院患者数	69
5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数	70
6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数	71
7. 科別死亡数および剖検数	72

## VI 診療科・部門別活動実績

糖尿病・内分泌・生活習慣病科	73
緩和ケア科	75
緩和ケア診療科	76
血液腫瘍内科	78
循環器科	79
消化器科・消化器内視鏡センター	80
神経内科	83
呼吸器外科	84
呼吸器科	85
小児科	88
外科	89
脳神経外科	92
整形外科	93
形成外科	95

皮膚科	96
泌尿器科	97
産婦人科	98
眼 科	99
耳鼻咽喉科	100
放射線科 + 核医学科	101
リハビリテーション科	104
麻酔科	108
救急部	109
健診部	113
医療技術部	115
薬剤部	119
検査部	124
病理診断科部	126
看護部	127
医療社会事業部	140
医療安全推進室	166
教育研修推進室	169
事務部	170

## VII 委員会活動

委員会	172
-----	-----

## VIII 誌上・講演発表

誌 上	217
講 演	228

# I 病院の沿革

## I. 病院の沿革

当院は、昭和 16 年 11 月 2 日、「日本赤十字社大阪支部病院分院阿武野勝景園」として誕生しました。

日本赤十字社大阪支部は、大正から昭和にかけて蔓延し、「亡国病」とまでいわれた結核の予防と治療という国家的見地に立って、昭和 10 年頃から大規模な結核療養所の建設を計画していました。この計画を知った東洋紡績株式会社からの寄付金を基金とし、各方面からの援助も得て、昭和 15 年 6 月より大規模な建設工事が始まりました。

生駒連峰を望み、北摂平野を見下ろす、林間景勝の地（当時の三島郡阿武野村、土室・奈佐原・塚原の三大字にわたる地域）にちなみ「阿武野勝景園」と命名され、敷地は約 20 万坪、近世式木造平屋建、一部 2 階建 71 棟、134 室、250 床を有し、非常時には 400 床の収容が可能な結核療養所が完成しました。しかしながら、竣工式の一ヵ月後の 12 月 8 日に太平洋戦争が始まり、当院も時代の大きな渦に飲み込まれて行くこととなりました。

昭和 17 年 5 月 20 日からは「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として、軍患者を収容することとなり、昭和 20 年 6 月 6 日以降は「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍所属となり 475 名の傷病兵を受け入れ救護にあたりました。

終戦後の昭和 20 年 11 月 30 日、軍病院は解除され、12 月 1 日からは「大阪赤十字病院阿武野勝景園」として軍患者以外の一般診療を開始し、昭和 22 年 9 月 1 日には、分院から昇格し「大阪阿武野赤十字病院」と改称し独立しました。

戦後の厳しい状況下にあっても、患者の食糧や燃料の欠乏を補うため、農作業や薪炭作りの勤労奉仕にあたり、また府下の有力大病院が結束して結成した結核病院協会に参画する一方、近接地域に結核相談部を開設して巡回診療を実施するなど、事業進展に最大限の努力を行った時代でもありました。戦後 20 年を経て高度経済成長の時代の中、千里丘陵での万国博覧会の開催と相まって高槻市、茨木市などは京阪神のベッドタウンとして大きな発展を見せはじめました。病院の周辺においても宅地造成が進み、隣接地域に約 3000 戸の公団住宅が建つなど目ざましいものがありました。住民の地域医療に対する渴望に応えることが求められるようになり、時を同じくして結核患者の急速な減少が見られるようになったことから、一般各科の診療を開始し、総合病院への転換を図ることになりました。

昭和 45 年 1 月 1 日、病院名を現在の「高槻赤十字病院」に改称し、同年 2 月より第一次病院整備事業として外来診療棟を中心とした、一般科患者の入院設備も有する鉄筋コンクリート造り、地下 1 階地上 3 階の新館において診療を開始しました。とはいえ、当院の設立のいきさつもあり、この時点では、一般病床 99 床に対し、結核病床は 559 床でした。

新薬の開発など、結核の予防と治療は飛躍的に進歩しました。結核患者の減少傾向は一層加速し、懸命な経営改善への取り組みにも関わらず財政は悪化の一途をたどることとなり、ますます一般病床への移行が重要な課題となってきました。

昭和 53 年 10 月 31 日、鉄筋コンクリート 6 階建て、延床面積 22,991㎡の新病棟の完成により、二次にわたった病院整備事業は一つの区切りを迎えることができました。この新病棟の完成により同年 11 月 21 日より名実ともに総合病院としての診療業務が開始されました。この時、一般病床 322 床、結核病床 197 床、合計 519 床と一般病床が結核病床を上回ることとなりました。その後も結核患者の

減少と疾病構造の多様化に対応するため、結核病床の削減と一般病床の開設を順次行い、昭和 61 年 2 月には、一般病床 454 床、結核病床 65 床に、そして平成 9 年 3 月末には、この 65 床も廃止し、厚生省（当時）の結核患者収容モデル事業による陰圧室の病床（6 床）を設置することにより、一般病床 446 床、結核病床 0 床の病院となりました。

地域医療への取り組みでは、平成 4 年 4 月の医療法改定を受けて、平成 8 年 7 月には「高槻赤十字訪問看護ステーション」を開設、平成 10 年 10 月には「開放型病院」認定、平成 11 年 8 月には介護保険法の制定により「高槻赤十字病院居宅介護支援事業所」を設置するなど、訪問看護の充実、在宅介護支援、地域診療所との連携を図りつつ、地域住民への医療サービスの提供に努めてきました。

こうした中、がんの増加とそれを受けての終末期医療の充実を求める声の高まりを受けて、平成 14 年 5 月に緩和ケア病棟『Lakeside Home』（20 床）を尾広池の辺に開設しました。豊かな自然環境を生かした癒しの空間が特徴であり、「第 1 回癒しと安らぎの環境賞」の最優秀賞（ホスピス部門）を受賞しました。

また、当院の病院機能等への評価・格付けに関するところでは、平成 11 年 4 月には「臨床研修病院」の指定を受け、研修医の育成に貢献するとともに、平成 14 年 12 月には「地域がん診療拠点病院」に指定され、地域のがん診療の中核を担うこととなり、更に平成 16 年 2 月には第三者による医療機関の評価である「病院機能評価（Ver.3.1 一般病院 B）」の認定を受けました。

また、医療の I T 化が叫ばれる中、平成 17 年 11 月に電子カルテシステムを稼働することができました。

医療機器の高度化・医療の I T 化に伴い、安定した電力供給は必要不可欠なものとなり、環境保全・省エネルギー・省コストとともに、商用電力との併用による電力の二重化により、万一の際にも一定の電力が確保できるように、自家発電装置以外の発電設備としてガスコージェネレーションシステムを平成 18 年 6 月から稼働させました。

更に平成 17 年度にはこれらと並行し、老朽化・狭隘化という問題を抱えていた手術室を新たに外来正面玄関前に新築移転することになり、2 階部分にバイオクリーンルーム 2 室を含む計 7 室の手術室、1 階部分には生理機能検査室と外科の外来診察室、更には緩和ケア病棟や高槻市街が眼下に広がる場所に『外来化学療法室』を持つ新手術棟・外来棟が平成 18 年 3 月に竣工しました。

続いて平成 18 年 10 月には、旧手術室を内視鏡室・血液浄化療法室などに改修するとともに、眼科・整形外科を中心に外来部門も整備改修し、診療機能の整備とアメニティの向上にも努めました。併せて病院建物全体の耐震補強工事を行い、万一の際にも赤十字病院としての医療機能を保持できるようにしました。

この病棟改修、手術棟・内視鏡室の新設・改修、外来部門の整備にあわせ、診療機能・管理体制の充実にも努めました。平成 16 年 4 月には、それまで皮膚科の中に含まれていた形成外科部門を独立した診療科として標榜するとともに、呼吸器科についても呼吸器科（呼吸器アレルギー内科）と呼吸器外科に分科し、それぞれの専門性を発揮できる体制としました。続いて平成 18 年 7 月には、「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」「緩和ケア科部」「血液・腫瘍内科部」「消化器外科部」「乳腺外科部」「がん統合治療科部」を院内標榜し、患者により分かりやすい診療体制をめざしました。同時に、院長直属の機関として「医療安全推進室」を設置、専任リスクマネージャーを配置し、複雑化する医療への安全

管理と患者への安心の提供のために専門に取り組む体制を強化しました。平成19年2月には、患者・家族のがんに関する不安や悩みの相談に応え、各種の要望に迅速かつ適切に対応するために、『がん相談支援センター』を設置しました。

この目まぐるしい病院運営の中でありながら、平成18年11月には、全国の赤十字病院が集う『第42回日本赤十字社医学会総会』を「地域の人々が感動し、誇りにする病院」をメインテーマに、当院の主催で国立京都国際会館にて開催し、全国から様々な職種が集い、1,000名余りの参加を得て大成功を収めることができました。

近年急性期病院としての必須の機能であり、長年の懸案であったICUについて、施設基準としての特定集中治療室管理料は届出しないものの、その機能を十分に持った6床を平成19年10月に3病棟の一画に開設することができました。

また、看護師確保対策として“看護職員が働きやすい職場を作り上げる”を主軸とした、院内保育所(高槻日赤保育園『すくすく』)と病児保育室を院内に開設するなどの対策を施し、看護師の採用を積極的に行うことで平成20年2月には念願の7対1入院基本料を算定できるようになりました。

更に同年7月にはDPC対象病院として承認されました。厚生労働省では平成15年4月より大学病院などを中心とした「特定機能病院」で診断群分類包括支払(DPC)と呼ばれる診療報酬の包括評価制度を導入し、以後徐々にその対象を広げ、当院でも導入の必要性を認めた事から、平成17年1月、事務部内に「診療情報管理課」を設置し、平成18年より“DPC準備病院”として調査データの提出を厚生労働省に対して行ってまいりました。

平成20年度より導入を進めてきた「放射線治療装置リニアック」も平成22年度4月には文部科学省の認可が下り、同年10月には厚生労働省“高エネルギー放射線治療”の稼働が許可され放射線治療を開始。翌年2月には正式に施設基準として認可され、大阪府がん診療拠点病院として癌治療に対する近代医療を提供することが可能となりました。

平成23年11月25日、医療機能の役割分担と連携、自院の役割の明確化と地域医療への貢献を主旨とし、予ねてより計画していた「地域医療支援病院」を取得。救急、紹介、特殊な技術を要する高機能外来など、急性期を中心とした医療提供体制を構築することができました。

平成24年2月には、より高度な内視鏡検査・治療に対応するため、消化器内視鏡センターを開設。また平成24年8月には緩和ケア診療科を開設し、緩和サポートチームが入院・外来を問わず患者のさまざまな苦痛の緩和、ご家族の抱える負担や気がかりへの関わり、治療方針や治療の場の選択にかかる意思決定などの支援を行い、ホスピスを提供する緩和ケア病棟と合わせ、緩和ケアにおける診療機能を充実させました。

平成26年1月26日には高槻市制70周年記念事業高槻市全域大防災訓練が開催され、当院から救護班として25名が参加、消防や各機関と連携して災害救護活動を実施し、赤十字病院としての使命を果たしました。

病院機能評価としては平成16年において病院機能評価 Ver.3.1 の認定、平成21年において病院機能評価 Ver.5.0 の認定を受けてから5年が経過し、平成26年3月に機能種別版評価項目 3rd G : Ver.1.0 の医療機関として改めて認定されました。

平成26年度から新たに「医療の質の評価を継続的に向上させる事業」QIプロジェクトに参加を開始し、他の参加病院から医療の質改善の事例やノウハウを学ぶなど、病院経営や運営管理に生かす動きを行っています。

平成26年7月から患者支援センターを開設し、地域医療の中核病院としてかかりつけ医である開業医の先生方や回復期医療・福祉関連施設との連携を図り、地域における良質な医療を提供できる体制を確保し、紹介患者増加に努めています。

平成26年7月26日には医療の現場を知ってもらうことを目的として地域の中学生・高校生を対象にブラックジャックセミナー（手術体験セミナー）を開催し、地域社会への医療教育の貢献を行いました。

平成26年8月にはフェイスブック (SNS) を開設、11月には病院診療科案内の冊子を初めて発行するなど様々な病院情報を発信し、広報戦略を展開させました。

平成27年3月から新たに眼科二次救急当直を毎週木曜日に開始し、地域に必要とされる医療提供を行っています。

平成29年9月から病院へのアクセス改善のため、JR摂津富田～病院間にてシャトルバスの運行を開始しました。

今後も赤十字の使命として災害救護活動をもとに、災害医療対応も地域と共同して推進し「人道・博愛」の精神に基づいた、安全・安心な医療を提供するとともに、さらなる急性期医療提供体制の強化と“継続と変革”を高いレベルで補完し、永続的な発展を行える医療機関として日々邁進していきます。

## Ⅱ 病院の現況

# 1. 病院の特色

## 医療機能

- ◎ 大阪府より『地域医療支援病院』に承認され、地域医療連携室を通じ、登録医の先生方との連携を密にし、地域に根差した病院として尽力しています。また、地域の登録医からの入院用に『開放病床』を49床設置しています。
- ◎ 大阪府より『がん診療拠点病院』の指定を受けており、地域のがん診療の中心的役割を担っています。また、『がん相談支援センター』の設置、平成22年10月には『放射線治療装置リニアック』の導入を行い、医療機能充実に努めています。
- ◎ 『2次救急告示病院』として地域の救急医療に貢献しています。
- ◎ 三島地区における『大阪府災害医療協力病院』として災害発生時の医療体制の提供を担っており、大規模災害時や救急時に対応できるように、ヘリコプターが離発着できるヘリポート用グラウンドを有しています。
- ◎ DPC対象病院として、平成20年7月より包括請求を実施しています。
- ◎ 看護体制を整備し、『一般病棟入院基本料1(7対1)』を取得しています。
- ◎ 『光・水・緑』豊かな環境を生かした『緩和ケア病棟』を開設し、がん患者のケア施設として、身体的苦痛だけでなく、孤独感や不安を軽減し、患者さんがその人らしく尊厳を持って生きることのできる環境を提供しています。
- ◎ HCUを設置し、さらなる急性期医療の充実に努めています。
- ◎ 院長直属の組織として『医療安全推進室』を設置し、専任リスクマネージャーのもと、医療安全の推進に取り組んでいます。
- ◎ 一部の診療科はセンター化を行っており、より専門的な臓器別診療科や特殊外来の充実に努めています。
- ◎ 健診・人間ドックを推進するため、人間ドック・健診施設機能評価認定を受けています。
- ◎ 患者さんやそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が継続できるよう他職種による協同支援体制を目的とした患者支援センターを開設しています。

## その他

- ◎ 厚生労働省の臨床研修病院『基幹型臨床研修病院』として、また京都大学や大阪医科大学の臨床研修協力病院（施設）として、医師の初期研修の場として貢献しています。
- ◎ (財)日本医療機能評価機構の行っている病院機能評価(3rdG:Ver.1.0)の認定を受けています。
- ◎ 電子カルテシステムを運用しており、診療情報の共有、医療の質の向上に努めています。
- ◎ 看護職員等の労働環境改善のために、『院内保育所』や『病児保育所』を開設しています。
- ◎ 医師職員の労働環境改善のため『医師事務補助職員』の導入を行っています。

## 2. 施設の概要

### 病 院

所在地	高槻市阿武野一丁目1番1号
敷 地	58,841.39㎡
建物建築面積	11,242.47㎡
建物延床面積	30,154.96㎡

### 付属施設

訪問看護ステーション	
所在地	高槻市阿武野一丁目1番1号

## 3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認

保険医療取扱機関	臨床研修指定病院
国民健康保険療養取扱機関	大阪府災害医療協力病院
労災保険指定病院	母体保護法指定病院
人間ドック指定病院	生活保護法指定病院
救急告示病院	第二種感染症指定医療機関
大阪府肝炎専門医療機関	公害健康被害補償法公害医療機関
児童福祉法医療給付指定医療機関	原子爆弾被爆者医療指定機関
大阪府がん診療拠点病院	地域医療支援病院
難病指定医療機関	小児慢性特定疾病指定医療機関

#### 4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況

担当診療科	名 称
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
内 科	日本内科学会認定医制度教育病院
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本糖尿病学会認定教育施設
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本内分泌学会認定教育施設
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本老年医学会認定施設
緩和ケア科 緩和ケア診療科	日本緩和医療学会認定研修施設
血液・腫瘍内科	日本血液学会認定血液研修施設
循環器科	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
消化器科	日本消化器病学会専門医制度認定施設
消化器科	日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度基幹施設
呼吸器外科	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
呼吸器外科 呼吸器科	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
呼吸器科	日本呼吸器学会認定施設
呼吸器科	日本アレルギー学会認定教育施設
外 科	日本外科学会外科専門医制度修練施設
外 科	National Clinical Database 施設会員
消化器外科	日本食道学会全国登録認定施設
乳腺外科	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
乳腺外科 放射線科	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設
整形外科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
整形外科	日本リウマチ学会教育施設
整形外科	日本手外科学会研修施設
形成外科	日本形成外科学会教育関連施設
皮膚科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
皮膚科	日本アレルギー学会認定教育研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
産婦人科	日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設 (補完研修施設)
眼 科	日本眼科学会専門医制度研修施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
麻 酔 科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
病理診断科	日本病理学会研修認定施設 B
病理診断科	日本臨床細胞学会教育研修施設
病理診断科	日本臨床細胞学会認定施設
健 診 部	優良短期人間ドック施設
健 診 部	優良人間ドック・健診施設
健 診 部	人間ドック健診専門医研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
栄 養 課	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

## 5. 診療体系

診療科目 23科

内	科	(内科、緩和ケア科)			
糖尿病・内分泌	内科	(糖尿病・内分泌・生活習慣病科)	血液内科	(血液・腫瘍内科)	
神経内科	消化器科	循環器科	呼吸器科	呼吸器外科	
外科	(乳腺外科、血管外科)	消化器外科	脳神経外科		
整形外科	産婦人科	小児科	眼科	皮膚科	
形成外科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	泌尿器科	放射線科	
麻酔科	病理診断科				

### 専門外来

内	科	糖尿病・内分泌・生活習慣病科、緩和ケア科、血液・腫瘍内科 リウマチ・膠原病外来、フットケア外来、移植後外来（造血幹）
神経内科		
消化器科		
循環器科		循環器外来
呼吸器科		睡眠時無呼吸外来、ほっとひといき看護外来
呼吸器外科		禁煙外来
外科		消化器外科、乳腺外科、血管外科、ストマ外来
脳神経外科		
整形外科		脊椎外来、肩関節外来、膝関節外来、肘・手の外科外来 リウマチ外来
産婦人科		子宮癌検診
小児科		心臓外来、神経外来、乳児健診、1カ月健診、 アトピー性皮膚炎外来
眼科		黄斑外来、緑内障外来、涙道・眼形成外来、ロービジョン外来
皮膚科		美容皮膚科外来、褥瘡外来
形成外科		しみ・あざ外来（レーザー・ピーリング）
耳鼻咽喉科		補聴器外来
リハビリテーション科		身障診断
泌尿器科		前立腺外来、排尿ケア外来

## 病棟

	許可病床	
2 病棟	47 床	
3 病棟	34 床	
4 病棟	58 床	
5 病棟	58 床	
6 病棟	59 床	
7 病棟	49 床	
8 病棟	59 床	(8 病棟休床中)
9 病棟	56 床	
緩和ケア病棟	20 床	
HCU	6 床	
計	446 床	

## 施設基準

### 基本診療科

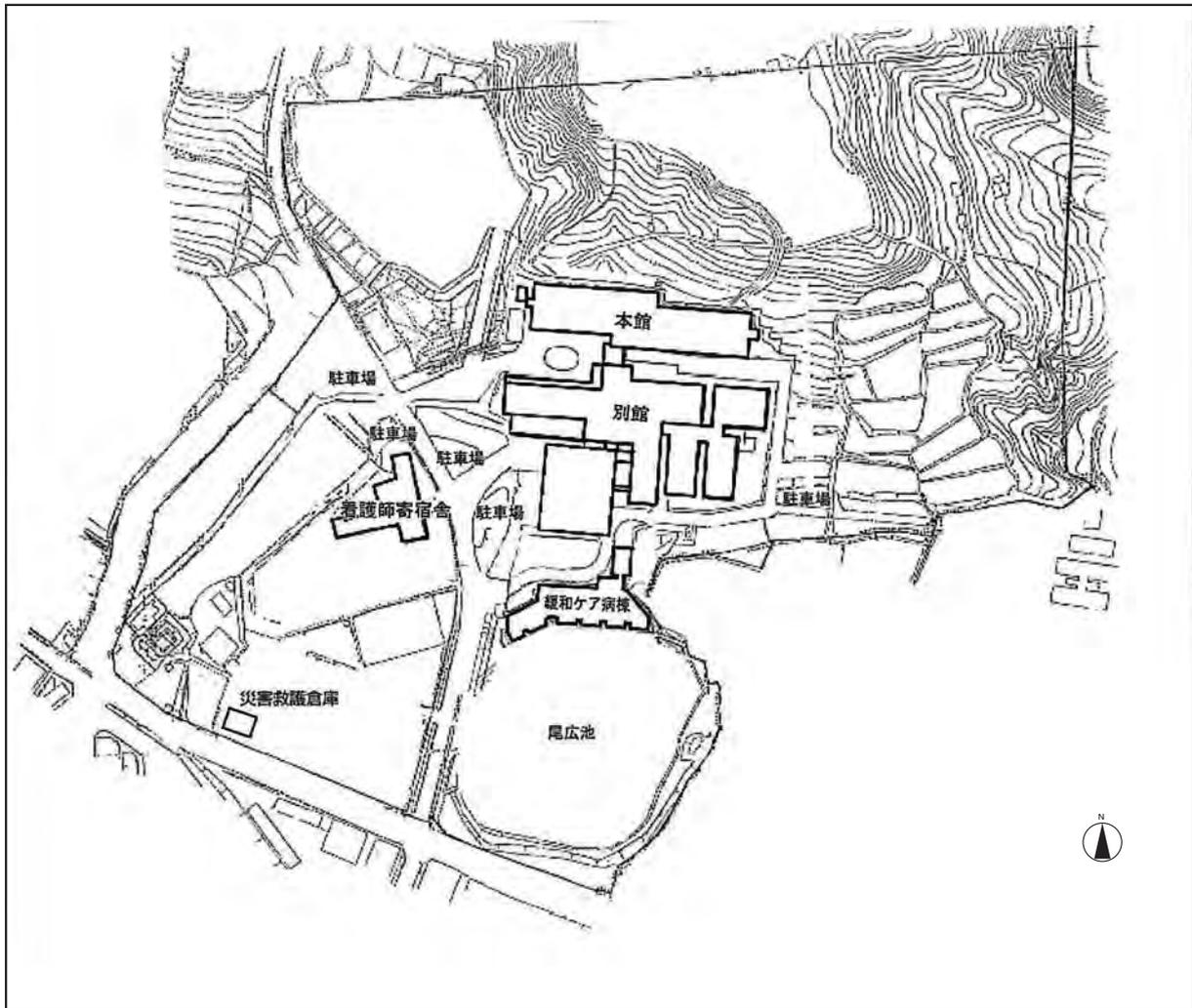
- 一般病棟入院基本料 (7 対 1)
- 診療録管理体制加算 1
- 医師事務作業補助体制加算 (2.5 対 1)
- 急性期看護補助体制加算 (5.0 対 1)
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算 1
- 緩和ケア診療加算
- 栄養サポートチーム加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染防止対策加算 1
- 患者サポート体制充実加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 退院支援加算
- 病棟薬剤業務実施加算
- データ提出加算 2 イ
- ハイケアユニット入院医療管理料 1
- 小児入院医療管理料 4
- 緩和ケア病棟入院料
- 総合評価加算
- 精神疾患診療体制加算
- 認知症ケア加算 1
- 総合入院体制加算 3

## 特掲診療料

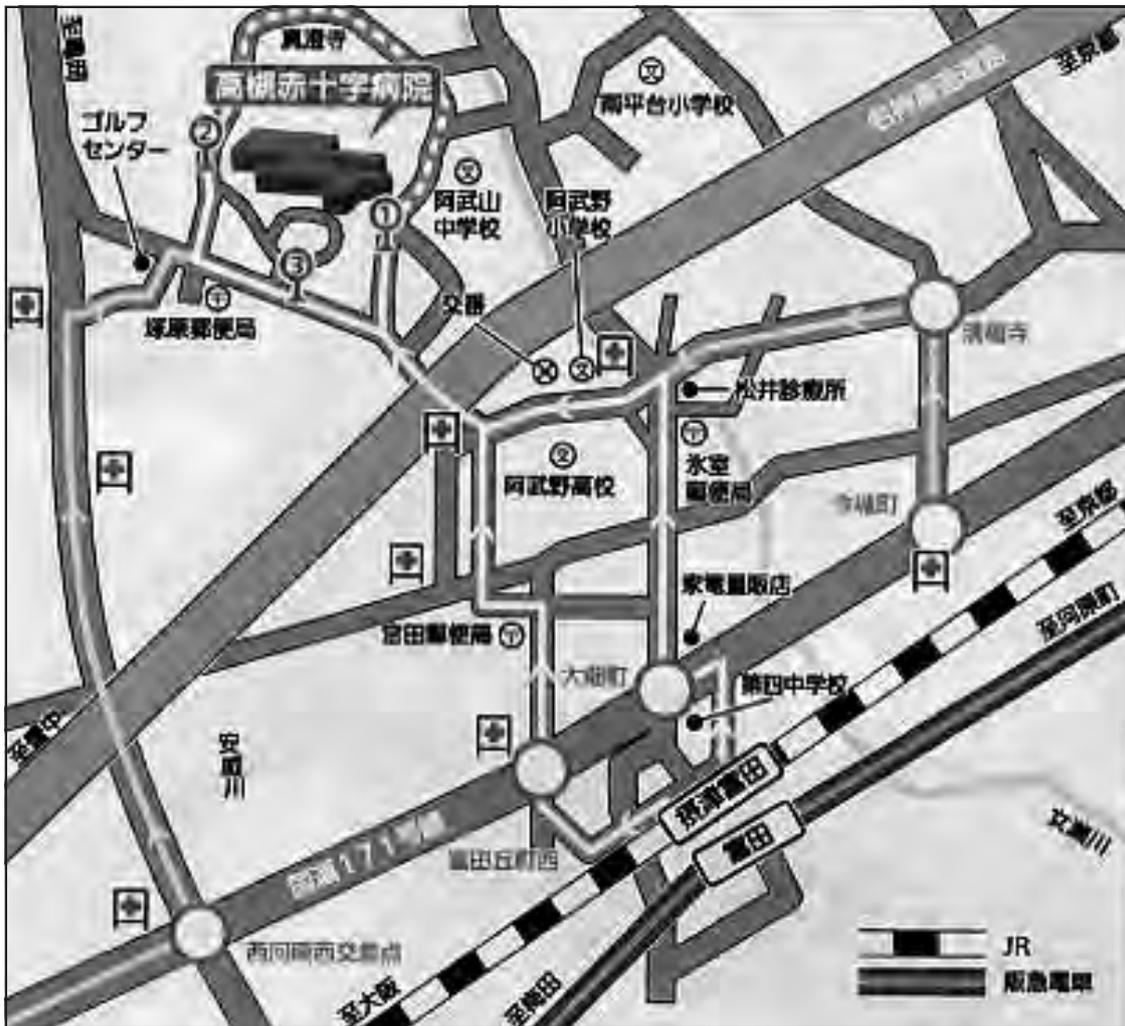
高度難聴指導管理料  
糖尿病合併症管理料  
がん性疼痛緩和指導管理料  
がん患者指導管理料  
外来緩和ケア管理料  
移植後患者指導管理料  
糖尿病透析予防指導管理料  
院内トリアージ実施料  
ニコチン依存症管理料  
開放型病院共同指導料  
がん治療連携計画策定料  
肝炎インターフェロン治療計画料  
薬剤管理指導料  
医療機器安全管理料 1  
在宅患者訪問看護・指導料  
持続血糖測定器加算  
HPV 核酸検出  
検体検査管理加算 ( I )  
検体検査管理加算 ( II )  
時間内歩行試験  
ヘッドアップティルト試験  
小児食物アレルギー負荷検査  
画像診断管理加算 2  
CT 撮影及びMRI 撮影  
冠動脈CT 撮影加算  
心臓MRI 撮影加算  
乳房MRI 撮影加算  
抗悪性腫瘍剤処方管理加算  
外来化学療法加算 1  
無菌製剤処理料  
心大血管疾患リハビリテーション料 ( I )  
脳血管疾患等リハビリテーション料 ( I )  
運動器リハビリテーション料 ( I )  
呼吸器リハビリテーション料 ( I )  
がん患者リハビリテーション料  
集団コミュニケーション療法料  
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術  
乳がんセンチネルリンパ節加算 2  
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術  
大動脈バルーンパンピング法 ( I A B P 法 )  
体外衝撃波胆石破碎術

腹腔鏡下肝切除術  
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術  
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術  
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術  
人工尿道括約筋植込・置換術  
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術  
胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）  
輸血管理料 I  
輸血適正使用加算  
自己生体組織接着剤作成術  
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算  
胃瘻増設時嚥下機能評価加算  
麻酔管理料（I）  
高エネルギー放射線治療  
病理診断管理加算  
（平成 30 年 3 月 31 日現在）

## 6. 配置図



## 7. 付近見取図



- |   |         |   |            |
|---|---------|---|------------|
| + | 印は当院の看板 | ← | は病院への市バス路線 |
| ○ | 印は当院の看板 | ← | は病院への自動車道路 |

## 8. 主な施設・機器

ウエイトバランスアナライザー  
サイベックス  
SKY 手術用無影灯  
電動内診台  
ハンドフットクロスモニター  
X線撮影装置  
114自動洗浄機  
アネスピレーター  
ニューロマティック  
ニスタモグラフ  
患者監視装置  
前立腺切除装置（TUR）  
回診用 X線装置（ポータブル）  
4人用不整脈監視装置  
視運動性刺激装置  
全自動錠剤分包機  
オートウエルガンマーシステム  
視野計  
分離式電動手術台  
オステオドリルシステム  
解析機能付心電図計  
耳鼻科用手術顕微鏡  
スリットランプ  
DSAシネシステム  
カセット式シマビジョン  
ウロデイン  
腹腔鏡下胆のう摘出システム  
全自動予製専用分包機  
眼科用手術顕微鏡  
自動視野計  
超音波診断装置  
関節鏡視下電動手術器  
超音波ネフロレテロレノスコープ  
内視鏡ビデオ情報システム  
心電図モニター  
人工呼吸器 サーボベンチレーター  
イメージングプリファイア  
個人用透析装置  
産婦人科検診台セット  
電子内視鏡  
イメージングテンファイヤー  
蒸気滅菌オートクレーブ  
全自動散薬分包機  
ティッシュ・テック  
ビデオシステム  
大腸ビデオスコープ  
上部消化管汎用ビデオスコープ  
ニューポートベンチレーター  
超音波内視鏡プローブシステム  
分娩台  
全自動染色器  
下部尿路内視鏡下手術システム  
気管支ビデオスコープ  
ファイリング機能付き脳波計  
落射蛍光顕微鏡写真撮影装置  
エンドビジョンテレカム  
スカイルックスアウトースペース  
自動化学分析装置  
超音波内視鏡  
デジタルX線 TV システム  
人工呼吸器  
ベッドサイドモニター  
医用半導体レーザー装置セット  
電気メス  
無散瞳眼底カメラ  
大腸ビデオスコープ  
スペクトラ血液成分分離装置  
オージオメーター  
スカイルックスアウトースペースカスタム  
内視鏡洗浄消毒装置  
耳鼻科外来用内視鏡セット  
ハイスピードドリルシステム  
生体情報モニタ 8人用セントラルモニタ  
生体情報モニタ 4人用テレメーター  
生体情報モニター（ベッドサイドモニター）  
電子超音波内視鏡システム

電子内視鏡システム	マイクロサージャリー手術台
脳外科手術顕微鏡	スペースラブリブラTVカメラシステム
スライドインバスⅡ	スカイルックス ゼニスA型
半導体レーザー光凝固装置	電気メス5000
医用テレメータ 2人用	ステリキープ手洗いユニット
上部消化管汎用ビデオスコープ	分離式電動手術台 整形用
膀胱ファイバースコープ	高圧蒸気滅菌装置
検診台 3台	個人用HDF装置
血液脈波検査装置フォルム	外科用X線装置
多機能X線乳房撮影ステレオバイオプシー可能装置	終夜睡眠ポリグラフ検査装置
臨床用ポリグラフシステム	フルデジタル超音波診断装置
血液浄化用装置	経食道用オムニプレーンⅢセクター型トランスデューサー
高周波手術アルゴンセット	注射薬自動払出機
錠剤分包機	呼気凝縮液採取装置 エコスクリーン
生体情報モニターシステム	マルチスライスCT Aquilion64&8
ステラッド100S低温プラズマ滅菌装置	内視鏡外科手術システム
十二指腸ビデオスコープ	乳癌診断システム ハンディマンモトーム
ハートストリームXL	システム生物顕微鏡
3CCDデジタルカメラシステム	回診用X線撮影装置
METRX手術システム	内視鏡ビデオシステム
TVモニターシステム	眼底カメラ接続取込端末
988 3チップカメラシステム	内視鏡システム
誘発電位・筋電図検査装置	IABP駆動装置
ホルミウム レーザー装置	ICUにかかる医療用機器
スリットランプ用3CCDカメラシステム	AutoVue
クールチップ ジェネレーター	気管支ビデオスコープ
内視鏡システム	ホルタ心電図解析システム
超音波診断装置ポータブル	診断用X線撮影システム
肺機能検査システム	回診用X線撮影装置
気管支ビデオスコープ	バイフェージック型除細動器ハートスタートXL
洗浄滅菌装置	トレッドミル
MRI装置	外科用X線装置
ハンフリーフィールドアナライザー	レフケラト/トノメーター
ベンタナXTシステム	医用テレメーター
眼科用冷凍手術システム	心電計
全身麻酔システム カトーエディション	CD/DVD/BDディスク発行システム
肩関節手術システム	炭酸ガスレーザー手術装置 レーザリー
体外衝撃波結石波砕装置	デジタル超音波診断装置 H I V I S I O N

Preirus 超音波診断装置	インバータ式コードレス移動型X線装置
臨床用ポリグラフ	I C G付眼底カメラ+無散瞳システム
X線アンギオグラフィシステム	超低温フリーザー
エアウェイマネジメントモバイルスコープビデオスコープ	P i l l C a m カプセル内視鏡画像診断システム
輸液ポンプ・シリンジポンプ	据置型デジタル式汎用X線透視診断装置
単票式薬袋プリンター	電動油圧手術台
医療用リニアック	X線撮影システム
補助循環装置システム バイオコンソール	超音波画像診断装置
除細動器	成人用人工呼吸器
パワープロ・システム スモールハンドピース	モニタリングシステム
C U S A Excel	ウォッシャーディスインフェクター ダブル
全身麻酔器	体成分分析装置
トンプソン リトラクタ (開創器)	内臓脂肪測定装置
バーサパルスセレクト 30 W (ホルミウムレーザー)	血液浄化装置
インフィニティモニタリングシステム デルタ XL	マルチカラー स्क্যানレーザー光凝固装置
泌尿器科用X線テレビ装置	吸収補正用C T付き 核医学診断撮影装置
携帯型超音波診断装置	核医学ワークステーション
5 3 2 レーザー眼科光凝固装置 ピュアポイント	眼科用 ヤグレーザー手術装置
大腸細径ビデオスコープ	超音波診断装置
リトクラスト2	超音波画像診断装置
電子スパイロメータ	回診用X線撮影装置
シラス HD-OCT	超音波診断装置
C V 5 0 3 0 カバーガラス自動封入装置	セントラルモニタ
内視鏡ファイリングシステム	ベッドサイドモニタ 6台
喘息診断測定システム	ソノサージジェネレーター (超音波切開装置)
セントラルモニター	感染防止機能付 クリオスタット
ハイビジョンカメラシステム	V I O 3 5 ソケットモデル (超音波切開装置)
ビジランスヘモダイナミックモニター (心拍出量測定装置)	移動型手術台
SonoSite MicroMax (携帯型超音波診断装置)	ウォッシャーディスインフェクターダブル
Qスイッチルビーレーザー	逆浸透水処理装置
網膜硝子体手術器械コンステレーションビジョンシステム	個人用透析装置 2台
白内障手術装置インフィニティビジョンシステム	スペクトラオプティア血液成分分離装置
眼底観察システム	
全身麻酔装置	
多目的デジタルX線TVシステム	
ハイスピードドリル プリマド2	
視覚誘発反応測定装置	

## 9. 年 表 (沿革)

昭和15年	6月8日	療養所起工式並びに地鎮祭
昭和16年	11月2日	日本赤十字社大阪支部病院分院「阿武野勝景園」竣工
昭和17年	5月20日	「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として軍患者を収容。
昭和18年	1月1日	日本赤十字社支部病院管理規則により「大阪赤十字病院阿武野分院」に改称。
昭和20年	6月6日	「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍属となる。
	11月30日	軍病院を解除。
	12月1日	大阪赤十字病院分院阿武野勝景園として一般診療開始。
昭和22年	9月1日	分院より昇格(独立)大阪阿武野赤十字病院と称す。
昭和23年	6月9日	大阪阿武山赤十字病院と改称。
昭和26年	11月1日	完全看護制度実施。
昭和27年	5月6日	医療社会事業部を新設。
	10月15日	勝景園神社を阿武山神社と改称。
	11月20日	中央材料室開設。
昭和34年	4月10日	病院機関紙として「阿武山ニュース」(現:日赤たかつき)創刊号発行。
	11月5日	手術棟(鉄筋コンクリート平屋建)竣工。
昭和35年	1月18日	北朝鮮帰還列車添乗派遣を開始。
昭和44年	12月5日	病院第一次増改築工事竣工式。
昭和45年	1月1日	高槻赤十字病院と改称。
	2月2日	新館開設、一般外来及び入院診療開始。 (一般99床、結核559床)
昭和45年	9月1日	大阪府労災指定病院に承認。
	11月3日	大阪府救急指定病院に指定。
昭和47年	2月1日	一般病棟(新館)「特類看護」の承認。
昭和49年	12月3日	看護婦寄宿舎(鉄筋コンクリート4階建)竣工式。
昭和52年	7月1日	耳鼻咽喉科の診療開始、総合病院となる。
	10月31日	病院第二次増改築工事竣工式。医療法による許可病床を421床とする。(一般224床、結核197床)
	12月1日	理学診療科部(現:リハビリテーション科部)新設。
昭和54年	1月	放射線科部にR I検査を新設。
昭和55年	4月16日	1病棟開設、定床37床。医療法による許可病床458床。 (一般261床、結核197床)
	4月16日	全身用東芝CT-60A型スキャナー導入。
昭和58年	8月17日	障害等級2・3級の小児転地療養事業(健康回復キャンプ)実施。
昭和61年	2月24日	8病棟(結核病棟)を閉鎖、一般科病棟に転換、実働病床375床(一般310床、結核65床)。
昭和62年	5月11日	上の池(溜池)を埋立て、駐車場用地とする。
昭和63年	4月1日	理学診療科(現:リハビリテーション科)に作業療法室を開設。
平成	3年11月5日	創立50周年記念祝賀会開催。
平成	4年10月1日	麻酔科部の設置

	12月18日	外来増改築工事完成。
平成5年	9月1日	総合リハビリテーション承認施設。
平成6年	10月21日	許可病床数、519床より511床へ変更。
平成7年	1月17日	兵庫県南部地震（阪神・淡路大地震）による被災者救護活動開始。
	8月1日	高槻赤十字訪問看護ステーション開所式。
平成8年	9月2日	「MRI棟」増改築工事完成。病院構造設備使用許可。
平成9年	3月31日	結核病棟廃止。（一般病床446床、結核0床）
平成10年	10月1日	開放型病院の指定。（12床） （平成11年6月～40床、平成13年10月～49床）
	11月26日	剖検慰霊祭を以後毎年実施。
平成11年	4月1日	厚生省臨床研修病院の指定。
	8月31日	指定居宅介護支援事業者となる。
平成12年	1月1日	院外処方箋の実施。
	8月21日	アレルギー科の診療を開始する。
	10月1日	病診連携係（現：地域医療連携課）設置。
平成13年	3月1日	産婦人科病棟全面改修。
	4月1日	脳神経外科開設。
	7月9日	7病棟全面改修。48床（血液内科、透析、外科、化学療法）運用開始。
平成14年	5月7日	緩和ケア病棟開設。（全室20床）
	10月1日	業務委託による診療材料の定数管理（SPD）実施。
	10月15日	駐車ゲートシステム導入、外来患者以外の駐車有料化実施。
	12月9日	地域がん診療拠点病院の指定を得る。
平成15年	1月	業務委託による検査室共同運営（FMS）実施。
	7月1日	一般病棟1群入院基本料1許可。（2対1看護）
平成16年	2月16日	病院機能評価 Ver.3.1（一般病院種別B）認定。
	4月1日	形成外科、呼吸器外科の開設。（アレルギー科の廃止）
	12月7日	4・5・6・8・9病棟の改修終了 MRI装置入れ替え実施。
平成17年	1月1日	診療情報管理課設置 事務部総務課に医療安全係設置。
	1月4日	亜急性期病床開設（20床）
	3月1日	救急部設置。
	10月27日	NST運用開始。
	11月1日	電子カルテ稼動。
平成18年	3月27日	新手術棟完成 竣工式。 （1階外科外来・生理検査部門／2階手術室・中央材料室）
平成18年	6月1日	ガスコージェネレーションシステム運用開始
平成18年	7月1日	「医療安全推進室」設置、「癌統合治療科部」設置。 「第一内科」を「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」と「緩和ケア科部」に分科。「第二内科部」を「血液・腫瘍内科部」に名称変更、「第一外科部」を「消化器外科部」に名称変更、「第二外科部」を「乳腺外科部」に名称変更。

平成18年10月	全手術部門及び外来改造工事、病院建物（本館・別館）の耐震工事、並びに3病棟改修工事完了。
平成18年10月20日	マルチスライスCT64列の導入。
平成18年11月16日	第42回日本赤十字社医学会総会主催（於国立京都国際会館）。
平成18年12月16日	日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」認定。
平成19年1月4日	院内保育所高槻日赤保育園『すくすく』開園。
平成19年2月1日	がん相談支援センター室設置。 病児保育室を委託開設。
平成19年4月1日	「医療技術部」を新設（臨床工学技術課、栄養課を設置）。 医療社会事業部地域医療連携課内に「がん相談支援センター室係」を新設。
平成19年7月1日	教育研修推進室設置。
平成19年10月1日	ICU（院内基準）開設。
平成20年2月1日	一般病棟7対1入院基本料施設基準届出受理。
平成20年2月8日	地域がん診療連携拠点病院の指定更新。
平成20年6月1日	週休二日制実施。
平成20年7月1日	DPC対象病院として請求開始。 放射線画像等フィルムレス運用開始。
平成21年2月16日	病院機能評価 Ver.5.0 認定
平成21年8月15日	兵庫県佐用町の台風9号水害による被災者救援活動のため、 医療救援班を派遣。
平成22年3月15日	X線アンギオ装置（血管造影装置）の入れ替え実施。
平成22年3月	災害救護倉庫の整備。
平成22年4月1日	事務部医療安全課設置
平成22年6月	エコロジーガーデン設置
平成22年10月	患者・家族向け図書コーナー設置
平成22年10月1日	放射線治療システム「リニアック」導入完了・治療開始
平成23年3月15日	東日本大震災により、宮城県庁前・岩手県山田町へ医療救護班を派遣 (3/15～5/26)
平成23年3月30日	震災により石巻赤十字病院支援派遣(3/30～4/4・5/9～5/14)
平成23年4月1日	神経内科開設。
平成23年11月25日	地域医療支援病院に承認される。
平成24年2月1日	消化器内視鏡センター開設。
平成24年8月1日	緩和ケア診療科開設
平成24年12月1日	医療社会事業部地域連携推進課設置
平成25年4月1日	事務部研修課設置
平成26年3月7日	機能種別版日評価項目3rdG: Ver.1.0 認定
平成26年7月	患者支援センター開設
平成26年9月	病理診断科標榜
平成28年3月	消化器外科標榜
平成29年9月1日	病院～JR摂津富田駅間でシャトルバス運行開始
平成30年1月	糖尿病・内分泌内科、血液内科標榜

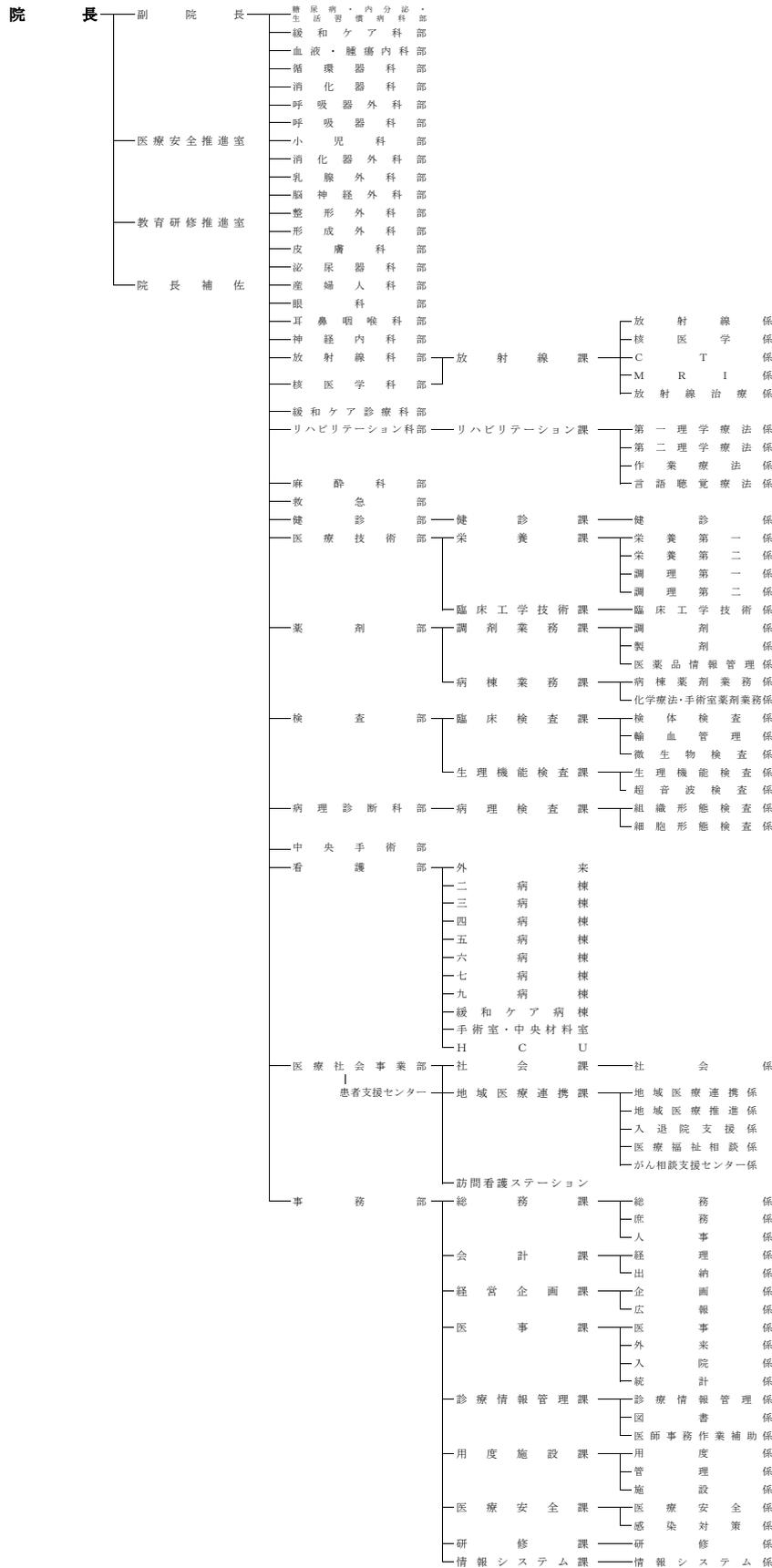
## 10. 整備医療器械備品

メーカー名	固定資産名	規格型式
シーメンス	超音波診断装置 SONOVISTA FX premium edition	10786566
スタープロダクト(株)	MRI 室用パルスオキシメータ	7500FO
パナソニックヘルスケア(株)	血液保冷庫	MBR-107T4-PJ
アムコ	VIO3 5 ソケットモデル (超音波切開装置)	E12-3300
テルモ	スペクトラオプティア血液成分分離装置	61000
(株) A & D	バリアフリースケール	AD-6105NP
東レ・メディカル	逆浸透水処理 (RO) 装置	TW-900R
東レ・メディカル	個人用透析装置 2 台	TR-3300S typeB
オリンパス	ソノサージジェネレーター (超音波切開装置)	SonoSurg-G2
夏目製作所	電動解剖鋸	J-4BD040
ライカ	感染防止機能付クリオスタット	CM1950
オリンパス	OES ヒステロファイバースコープ	HYF-XP
オリンパス	喉頭ファイバースコープ	LF-DP
ニコン	ニコン顕微鏡用デジタルカメラ	DS-Fi3-L4
ゲティング・ジャパン(株)	移動型手術台 MEERA	
リオン	新生児用聴力検査装置	リオン OAE スクリーナー ER-60
(株)富士フイルム ソノサイト・ジャパン	超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo	P0941-63
日本光電工業	デフィブリレータ (除細動器) TEC-5631	TEC-5631
日本光電工業	日本光電 送信機	ZS-630P
ファイバーテック(株)	涙道ファイバースコープ 0.9mm	MD10
久保田製作所(株)	フロア型冷却遠心機	S700FR
ゲティング・ジャパン(株)	ウォッシャーディスインフェクターダブル	GETTINGE 46T-5EW 60Hz
フクダ電子(株)	フクダ電子 睡眠評価装置パルスリープ LS-140 一式 2 台	LS-140
(株)島津製作所	回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution MX7 version	スタンダード MX7 version
ドレーゲル	ドレーゲル 人工呼吸器 Savina	savina
日立製作所	超音波診断装置 ARIETTA70	SSD-ARIETTA70-S
日本光電工業	セントラルモニタ	本体 PU-621R モニタ CNS-6201
日本光電工業	ベッドサイドモニタ 6 台	本体 BSM-6301 モニタ MU-631R

## Ⅲ 組織及び職員

# 1. 高槻赤十字病院組織図

2018.1.1



## 2. 幹部職員

(平成 29 年度末現在)

院 長	古 川 福 実
副 院 長	千 葉 渉
副 院 長	玉 田 尚 子
副 院 長	平 松 昌 子
副 院 長 兼 看 護 部 長	松 井 和 世
事 務 部 長	河 野 龍 一
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科 部 長	金 子 至 寿 佳
緩 和 ケ ア 科 部 長	木 元 道 雄
血 液 ・ 腫 瘍 内 科 部 長	安 齋 尚 之 彦
循 環 器 科 部 長	大 中 玄 直 樹
消 化 器 科 部 長	神 田 直 理 晴
呼 吸 器 外 科 部 長	菅 英 夫
呼 吸 器 科 部 長	北 川 福 実
小 児 科 部 長 (兼)	古 川 稔 弘
消 化 器 外 科 部 長 (兼)	小 林 稔 弘
乳 腺 外 科 部 長	小 林 稔 弘
脳 神 經 外 科 部 長 (兼)	千 葉 渉 作 子
整 形 外 科 部 長	小 田 辺 敦 子
形 成 外 科 部 長	田 川 福 実
皮 膚 科 部 長 (兼)	古 川 葉 渉 子
泌 尿 器 科 部 長 (兼)	千 葉 昌 子
産 婦 人 科 部 長 (兼)	平 松 昌 子
眼 科 部 長 (兼)	平 松 昌 子
耳 鼻 咽 喉 科 部 長	藤 田 修 治 佳
神 經 内 科 部 長 (兼)	金 子 至 寿 佳
放 射 線 科 部 長	後 藤 公 男
核 医 学 科 部 長	山 室 正 樹
緩 和 ケ ア 診 療 科 部 長	岸 本 寛 史
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科 部 長	馬 止 裕
麻 酔 科 部 長	辻 井 英 治
救 急 部 長	岡 本 文 雄
健 診 部 長	河 北 誠 三 郎
医 療 技 術 部 長 (兼)	千 葉 渉
薬 剤 部 長	小 島 一 晃
検 査 部 長 (兼)	千 葉 渉 千 尋
病 理 診 断 科 部 長	渡 邊 千 尋
医 療 社 会 事 業 部 長	欠 田 健 司
社 会 課 長	濱 田 健 司
地 域 医 療 連 携 課 長	渡 部 悟
総 務 課 長	浦 川 悟
総 務 課 長 代 理 (兼)	日 高 利 明
会 計 課 長	片 岡 幹 夫
経 営 企 画 課 長	三 上 貴 政
医 事 課 長 (職 務 代 理) (兼)	浦 手 悟 矢
診 療 情 報 管 理 課 長	杉 山 乙 大 介
用 度 施 設 課 長	萩 原 大 美
医 療 安 全 課 長	酒 井 哲 子
研 修 課 長 (兼)	阿 部 利 明
情 報 シ ス テ ム 課 長	日 高 利 明
健 診 課 長	木 野 村 亨

### 3. 職員現況表

会計決算書より（平成30年3月31日現在）

区分	① 病院																	
	医師	薬剤師	放射線技師	検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床工学技師	視能訓練士	管理栄養士	助産師	看護師	准看護師	看護助手	医療技術補助者	事務職員	その他職員	小計
常勤	79.0	23.0	17.0	20.0	14.0	4.0	2.0	7.0	4.0	9.0	10.0	282.0	0.0	28.0	0.0	64.0	14.0	577.0
非常勤	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	22.4	0.4	5.8	0.9	6.7	4.9	53.1
計	88.2	23.0	17.0	20.0	14.0	4.0	2.0	7.0	4.0	9.0	12.8	304.4	0.4	33.8	0.9	70.7	18.9	630.1

② 病院（医療社会事業）					
区分	看護師	管理栄養士	事務職員	医療社会事業司	小計
常勤	0.0	0.0	8.0	3.0	11.0
非常勤	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9
計	0.0	0.0	8.9	3.0	11.9

③ 訪問看護ステーション			
区分	事務職員	看護師	小計
常勤	1.0	5.0	6.0
非常勤	0.0	0.8	0.8
計	1.0	5.8	6.8

総合計	
区分	① + ② + ③
常勤	594.0
非常勤	54.8
計	648.8

### 4. 職種別・年齢別・職員構成表

		30才未満	30才～40才未満	40才～50才未満	50才～55才未満	55才～60才未満	60才～62才未満	62才～65才未満	65才以上	計
一般職(一)	男	2	8	14	2	6			1	33
	女	8	17	19	2	5	1		1	53
一般職(二)	男		1	2	1	5		1		10
	女	1	1	15	12	9	2	4	1	45
医療職(一)	男	8	17	11	7	7	2	4	3	59
	女	2	11	4	3		1			21
医療職(二)	男	15	15	13	3	2				48
	女	20	17	9	6	2				54
医療職(三)	男	4	4	6	2					16
	女	57	89	113	34	21	4	1	1	320
計	男	29	45	46	15	20	2	5	4	166
	女	88	135	160	57	37	8	5	3	493
										659

## 5. 会議及び委員会

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

### ◎ 会 議

4 役会議

病院連絡会議

### ◎ 委 員 会

DPC 診療記録管理委員会

ICT 委員会

SPD・診療材料購入審査委員会

がん診療関連機能充実委員会

クリニカルパス委員会

医師・看護師業務改善委員会

医療ガス安全管理委員会

医療安全管理委員会

院内感染防止対策委員会

化学療法委員会

給食委員会

救急委員会

健診事業運用委員会

研修運営委員会

研修管理委員会

個人情報管理委員会

購買委員会

手術室運営委員会

地域医療連携支援病院運営委員会

認知症ケアサポートチーム委員会

病床管理運営委員会

放射線安全委員会

薬事委員会

倫理委員会

労働安全衛生委員会

電子カルテ委員会

患者サービス向上委員会

HCU 運営委員会

NST 委員会

がん診療関連機能充実委員会

クリニカルパス委員会

医師・看護師業務改善委員会

医療ガス安全管理委員会

医療事故調査委員会

化学療法委員会

給食委員会

研修運営委員会

個人情報管理委員会

購買委員会

手術室運営委員会

地域医療連携支援病院運営委員会

認知症ケアサポートチーム委員会

病床管理運営委員会

放射線安全委員会

薬事委員会

倫理委員会

労働安全衛生委員会

電子カルテ委員会

# IV 統計

# 1. 平成29年度実績表

	入 院				外 来				合 計		
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1日平均	通院日数		診療稼働額	診療単価
内科	14,679	40.2	21.2	1,066,575,374	72,659.9	22,481	92.5	20.2	661,048,252	29,404.8	1,727,623,626
消化器科	17,124	46.9	7.3	790,800,999	46,180.9	19,026	78.3	15.4	283,897,661	14,921.6	1,074,698,660
循環器科	14,420	39.5	13.8	875,411,125	60,708.1	13,021	53.6	35.5	137,299,614	10,544.5	1,012,710,739
神経内科	0	0.0	0.0	0	0.0	2,253	9.3	25.3	12,047,286	5,347.2	12,047,286
呼吸器科	19,778	54.2	14.2	861,958,311	43,581.7	16,966	69.8	21.0	416,235,387	24,533.5	1,278,193,698
呼吸器外科	2,619	7.2	11.1	241,081,803	92,051.1	3,191	13.1	265.9	156,700,000	49,106.9	397,781,803
外科	7,431	20.4	13.1	530,178,262	71,346.8	10,641	43.8	26.0	239,926,884	22,547.4	770,105,146
脳神経外科	0	0.0	0.0	0	0.0	1,152	4.7	9.3	12,396,857	10,761.2	12,396,857
整形外科	13,091	35.9	19.8	716,469,886	54,730.0	14,751	60.7	13.3	190,658,769	12,925.1	907,128,655
産婦人科	901	2.5	7.4	58,398,126	64,814.8	4,243	17.5	23.7	28,549,171	6,728.5	86,947,297
小児科	464	1.3	2.6	22,823,066	49,187.6	3,574	14.7	5.4	18,744,664	5,244.7	41,567,730
眼科	1,059	2.9	0.9	140,628,666	132,793.8	9,197	37.8	14.4	122,179,712	13,284.7	262,808,378
皮膚科	766	2.1	7.5	30,135,539	39,341.4	8,686	35.7	24.5	40,334,545	4,643.6	70,470,084
形成外科	2,332	6.4	16.7	104,548,882	44,832.3	3,942	16.2	12.5	29,379,511	7,452.9	133,928,393
耳鼻咽喉科	599	1.6	6.0	48,386,224	80,778.3	4,211	17.3	14.5	27,553,548	6,543.2	75,939,772
リハビリテーション科	0	0.0	0.0	0	0.0	5,809	23.9	0.0	25,884,741	4,456.0	25,884,741
泌尿器科	2,930	8.0	7.6	170,041,144	58,034.5	8,909	36.7	25.8	132,955,888	14,923.8	302,997,032
緩和ケア	5,567	15.3	34.5	311,262,577	55,912.1	662	2.7	10.5	2,738,524	4,136.7	314,001,101
放射線	0	0.0	0.0	0	0.0	553	2.3	1.9	14,120,266	25,533.9	14,120,266
その他	0	0.0	0.0	0	0.0	30	0.1	0.0	16,713	557.1	16,713
合計	103,760	284.3	12.0	5,968,699,984	57,524.1	153,298	630.9	18.2	2,552,667,993	16,651.7	8,521,367,977
前年度	95,577	261.9	11.7	5,593,360,025	58,522.0	154,846	637.2	17.1	2,373,549,999	15,328.5	7,966,910,024
増減率	8.6%	8.6%	3.2%	6.7%	-1.7%	-1.0%	-1.0%	6.4%	7.5%	8.6%	7.0%

## 2. 入院患者数

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	14,679	998	927	1,069	1,232	1,447	1,287	1,324	1,280	1,347	1,181	1,242	1,345
消化器科	17,124	1,319	1,044	1,415	1,571	1,398	1,452	1,437	1,299	1,474	1,495	1,599	1,621
循環器科	14,420	1,466	1,236	1,273	1,220	1,165	931	1,095	1,031	1,314	1,280	1,235	1,174
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	19,778	1,241	1,406	1,404	1,675	1,646	1,692	1,744	1,643	1,729	1,826	1,919	1,853
呼吸器外科	2,619	158	234	194	249	266	266	282	281	187	147	134	221
外科	7,431	692	665	567	534	673	588	499	604	698	624	566	721
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	13,091	1,218	958	1,297	1,095	1,114	1,032	947	877	1,055	962	1,144	1,392
産婦人科	901	89	58	90	117	134	123	81	46	42	56	20	45
小児科	464	52	22	37	44	61	36	23	47	59	15	27	41
眼科	1,059	115	89	86	82	56	70	86	102	82	111	95	85
皮膚科	766	53	48	78	37	82	94	52	48	67	86	57	64
形成外科	2,332	257	225	176	161	147	192	217	223	203	169	126	236
耳鼻咽喉科	599	67	44	32	51	67	26	44	85	47	36	57	43
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	2,930	191	229	219	170	177	209	305	312	278	322	239	279
緩和ケア	5,567	548	457	390	445	420	388	419	516	548	450	492	494
合計	103,760	8,464	7,642	8,327	8,683	8,853	8,386	8,555	8,394	9,130	8,760	8,952	9,614
1日平均	284.3	282.1	246.5	277.6	280.1	285.6	279.5	276.0	279.8	294.5	282.6	319.7	310.1

前年度	95,577	8,629	7,846	8,323	7,921	7,657	7,785	8,109	7,355	7,878	8,069	7,396	8,609
1日平均	261.9	287.6	253.1	277.4	255.5	247.0	259.5	261.6	245.2	254.1	260.3	264.1	277.7
増減率	8.6%	-1.9%	-2.6%	0.0%	9.6%	15.6%	7.7%	5.5%	14.1%	15.9%	8.6%	21.0%	11.7%

### 3. 入院稼働額

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	1,066,575,374	74,730,754	68,540,440	86,370,818	85,477,786	102,679,138	101,497,494	90,854,032	93,939,929	101,927,591	90,373,593	85,591,318	84,592,481
消化器科	790,800,999	64,592,754	47,403,746	64,663,315	69,392,003	68,017,856	62,736,102	66,889,607	60,326,604	69,627,862	70,265,692	73,170,200	73,715,258
循環器科	875,411,125	91,242,026	73,851,634	84,632,094	76,265,575	71,997,383	56,606,976	73,321,921	63,611,210	76,268,629	66,108,351	71,087,801	70,417,525
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	861,958,311	55,919,391	59,902,360	61,197,848	77,437,508	70,250,840	77,638,549	72,166,674	67,993,624	74,826,881	80,545,123	85,526,938	78,552,575
呼吸器外科	241,081,803	16,518,764	20,599,932	18,609,724	20,639,121	26,553,176	22,609,408	25,015,590	23,671,294	14,220,448	17,190,624	16,019,462	19,434,260
外科	530,178,262	48,641,676	48,484,554	36,630,813	37,352,075	54,652,628	39,280,051	32,734,908	45,742,455	47,864,195	43,167,992	44,359,127	51,267,788
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	716,469,886	60,365,505	51,211,298	74,562,830	57,740,217	62,506,695	61,050,779	52,160,852	49,671,297	58,885,107	55,028,643	59,967,809	73,318,854
産婦人科	58,398,126	5,091,789	3,221,937	5,142,338	7,637,268	8,577,664	7,573,779	5,110,540	3,209,488	3,187,489	4,510,540	1,637,748	3,497,546
小児科	22,823,066	2,390,062	1,091,584	1,826,078	2,143,648	3,067,896	1,833,988	1,121,158	2,187,872	3,054,550	752,900	1,328,696	2,024,634
眼科	140,628,666	14,360,990	11,036,608	10,989,212	10,992,860	10,476,448	8,797,424	12,043,700	13,505,066	10,342,934	14,228,166	12,787,230	11,068,028
皮膚科	30,135,539	1,899,678	2,084,327	2,639,822	1,650,702	3,267,404	3,647,996	2,648,458	1,628,460	2,994,190	3,494,788	1,932,734	2,246,980
形成外科	104,548,882	11,114,102	8,543,028	8,567,399	9,043,072	7,788,296	8,274,805	9,176,774	9,163,557	8,920,388	6,959,410	5,405,395	11,592,656
耳鼻咽喉科	48,386,224	5,835,166	3,050,190	3,038,254	3,336,470	5,293,810	1,965,240	4,117,140	7,075,432	2,936,286	3,544,126	4,736,624	3,457,486
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	170,041,144	12,927,782	12,823,184	13,551,073	8,062,682	10,208,906	12,383,650	17,288,472	17,582,226	15,730,990	18,946,102	14,603,050	15,933,027
緩和ケア	311,262,577	29,127,136	24,428,354	21,177,492	25,448,444	23,985,554	21,592,516	23,970,414	30,211,141	31,193,932	25,046,004	27,919,024	27,162,566
合計	5,968,699,984	494,757,575	436,273,176	493,599,110	492,619,431	529,323,694	487,488,757	488,620,240	489,519,655	521,981,472	500,162,054	506,073,156	528,281,664
前年度	5,593,360,025	494,949,604	451,039,004	478,908,366	455,463,697	461,038,056	470,614,299	466,887,198	485,804,173	456,715,250	456,230,343	423,298,973	492,411,062
増減率	6.7%	0.0%	-3.3%	3.1%	8.2%	14.8%	3.6%	4.7%	0.8%	14.3%	9.6%	19.6%	7.3%

#### 4. 入院単価

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	72,659.9	74,880.5	73,937.9	80,795.9	69,381.3	70,960.0	78,863.6	68,620.9	73,390.6	75,670.1	76,522.9	68,914.1	62,894.0
消化器科	46,180.9	48,971.0	45,405.9	45,698.5	44,170.6	48,653.7	43,206.7	46,548.1	46,440.8	47,237.4	47,000.5	45,760.0	45,475.2
循環器科	60,708.1	62,238.8	59,750.5	66,482.4	62,512.8	61,800.3	60,802.3	66,960.7	61,698.6	58,043.1	51,647.1	57,561.0	59,980.9
神経内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器科	43,581.7	45,059.9	42,604.8	43,588.2	46,231.3	42,679.7	45,885.7	41,380.0	41,383.8	43,277.5	44,110.1	44,568.5	42,392.1
呼吸器外科	92,051.1	104,549.1	88,033.9	95,926.4	82,888.0	99,824.0	84,997.8	88,707.8	84,239.5	76,045.2	116,943.0	119,548.2	87,937.8
外科	71,346.8	70,291.4	72,909.1	64,604.6	69,947.7	81,207.5	66,802.8	65,601.0	75,732.5	68,573.3	69,179.5	78,373.0	71,106.5
脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科	54,730.0	49,561.2	53,456.5	57,488.7	52,730.8	56,110.1	59,157.7	55,080.1	56,637.7	55,815.3	57,202.3	52,419.4	52,671.6
産婦人科	64,814.8	57,211.1	55,550.6	57,137.1	65,275.8	64,012.4	61,575.4	63,093.1	69,771.5	75,892.6	80,545.4	81,887.4	77,723.2
小児科	49,187.6	45,962.7	49,617.5	49,353.5	48,719.3	50,293.4	50,944.1	48,746.0	46,550.5	51,772.0	50,193.3	49,211.0	49,381.3
眼科	132,793.8	124,878.2	124,006.8	127,781.5	134,059.3	187,079.4	125,677.5	140,043.0	132,402.6	126,133.3	128,181.7	134,602.4	130,212.1
皮膚科	39,341.4	35,843.0	43,423.5	33,843.9	44,613.6	39,846.4	38,808.5	50,931.9	33,926.3	44,689.4	40,637.1	33,907.6	35,109.1
形成外科	44,832.3	43,245.5	37,969.0	48,678.4	56,168.1	52,981.6	43,097.9	42,289.3	41,092.2	43,942.8	41,179.9	42,900.0	49,121.4
耳鼻咽喉科	80,778.3	87,092.0	69,322.5	94,945.4	65,421.0	79,012.1	75,586.2	93,571.4	83,240.4	62,474.2	98,447.9	83,098.7	80,406.7
リハビリテーション科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	58,034.5	67,684.7	55,996.4	61,877.0	47,427.5	57,677.4	59,251.9	56,683.5	56,353.3	56,586.3	58,838.8	61,100.6	57,107.6
緩和ケア	55,912.1	53,151.7	53,453.7	54,301.3	57,187.5	57,108.5	55,650.8	57,208.6	58,548.7	56,923.2	55,657.8	56,746.0	54,985.0
合計	57,524.1	58,454.3	57,088.9	59,276.9	56,733.8	59,790.3	58,131.3	57,115.2	58,317.8	57,172.1	57,096.1	56,531.9	54,949.2

前年度	58,522.0	57,358.9	57,486.5	57,540.4	57,500.8	60,211.3	60,451.4	57,576.4	66,050.9	57,973.5	56,541.1	57,233.5	57,197.2
増減率	-1.7%	1.9%	-0.7%	3.0%	-1.3%	-0.7%	-3.8%	-0.8%	-11.7%	-1.4%	1.0%	-1.2%	-3.9%

## 5. 外来患者数

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	22,481	1,752	1,805	1,757	1,812	2,002	1,834	1,863	1,907	1,946	2,102	1,846	1,855
消化器科	19,026	1,544	1,491	1,678	1,580	1,564	1,646	1,669	1,621	1,562	1,569	1,439	1,663
循環器科	13,021	1,145	1,064	1,092	1,131	1,065	1,054	1,118	1,097	1,029	1,077	985	1,164
神経内科	2,253	216	223	205	195	182	176	171	160	194	163	167	201
呼吸器科	16,966	1,418	1,446	1,490	1,484	1,459	1,377	1,434	1,485	1,421	1,362	1,232	1,358
呼吸器外科	3,191	306	251	291	188	285	290	282	274	274	209	242	299
外科	10,641	815	844	1,019	859	922	872	958	854	855	796	856	991
脳神経外科	1,152	89	90	103	72	106	92	100	115	109	85	84	107
整形外科	14,751	1,147	1,280	1,351	1,244	1,282	1,156	1,253	1,190	1,222	1,154	1,128	1,344
産婦人科	4,243	306	363	418	383	392	383	346	341	327	311	305	368
小児科	3,574	276	291	309	341	317	304	265	254	281	324	323	289
眼科	9,197	793	717	775	743	812	766	748	810	749	728	696	860
皮膚科	8,686	670	675	771	796	887	754	765	728	661	650	612	717
形成外科	3,942	319	357	314	292	300	299	365	378	387	265	282	384
耳鼻咽喉科	4,211	396	337	390	314	328	345	332	326	351	355	349	388
リハビリテーション科	5,809	541	499	539	565	556	515	504	501	468	373	367	381
泌尿器科	8,909	720	646	796	767	628	839	792	716	879	738	627	761
緩和ケア	662	53	66	55	48	67	57	58	55	53	46	48	56
放射線	553	0	0	0	0	0	0	107	106	76	84	77	103
その他	30	0	0	0	0	0	0	4	1	5	12	5	3
合計	153,298	12,506	12,445	13,353	12,814	13,154	12,759	13,134	12,919	12,849	12,403	11,670	13,292
1日平均	630.9	625.3	655.0	607.0	640.7	597.9	638.0	625.4	646.0	642.5	652.8	614.2	633.0

前年度	154,846	12,732	12,546	13,574	13,033	13,075	13,220	12,751	12,694	12,735	12,506	12,116	13,864
1日平均	637.2	636.6	660.3	617.0	651.7	594.3	661.0	637.6	634.7	670.3	658.2	605.8	630.2
増減率	-1.0%	-1.8%	-0.8%	-1.6%	-1.7%	0.6%	-3.5%	3.0%	1.8%	0.9%	-0.8%	-3.7%	-4.1%

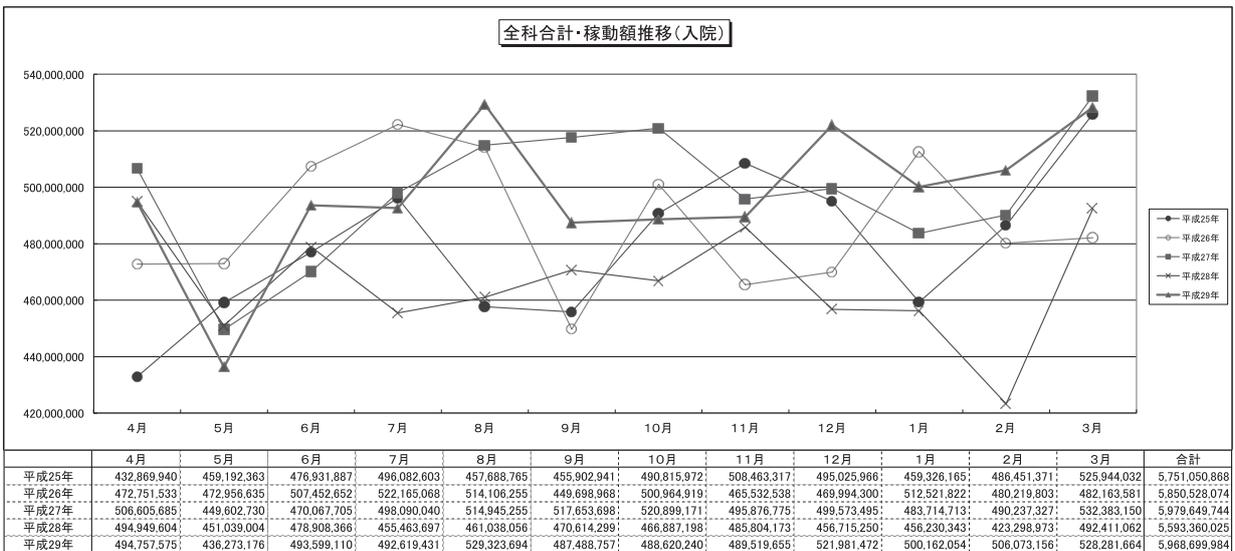
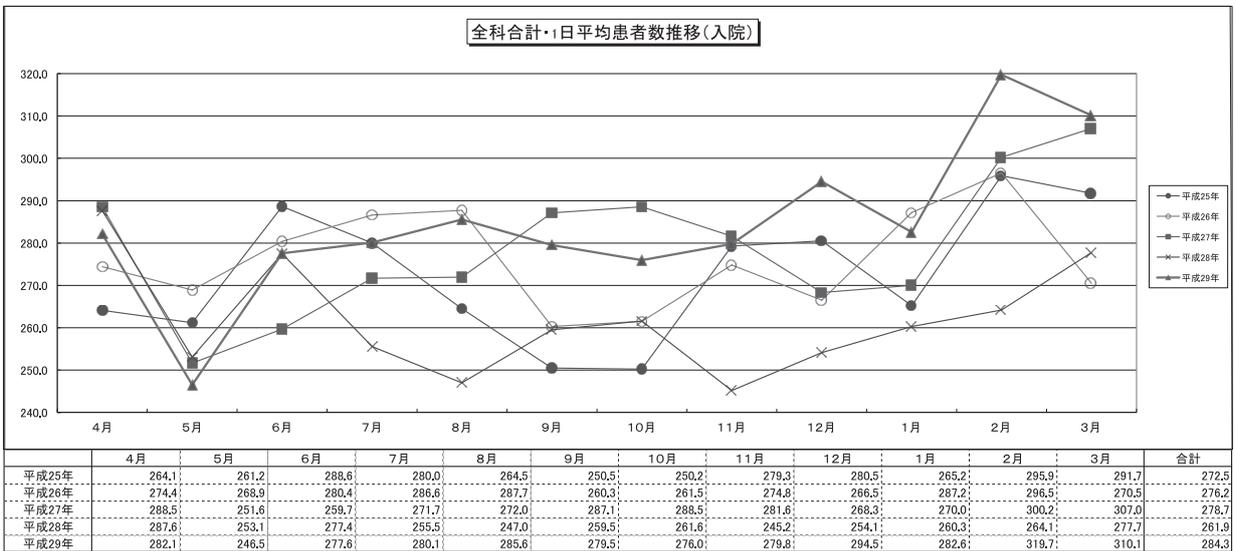
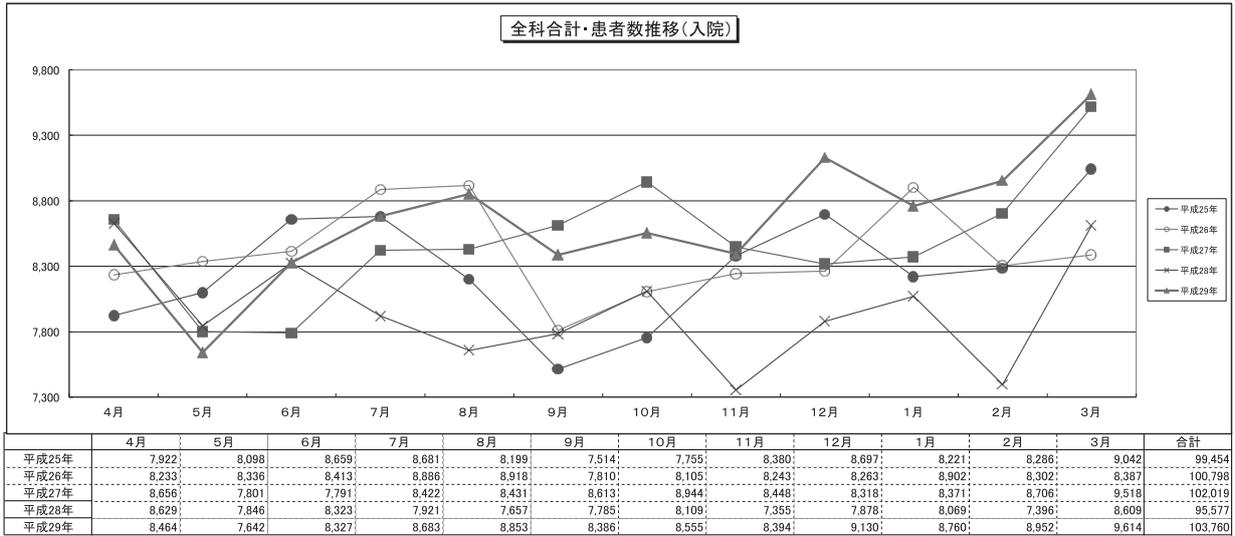
## 6. 外来稼働額

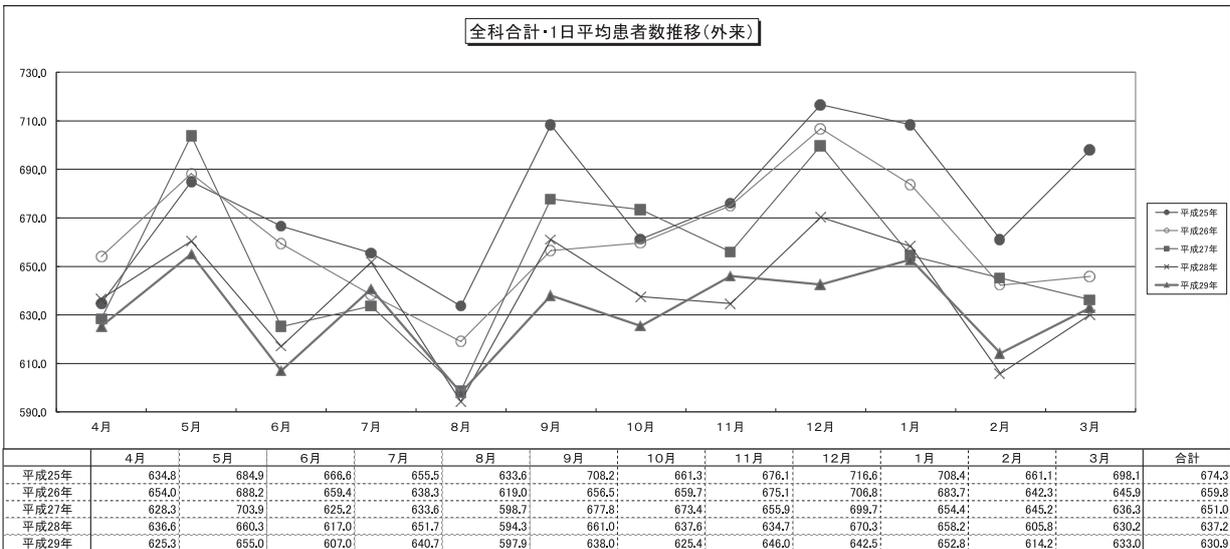
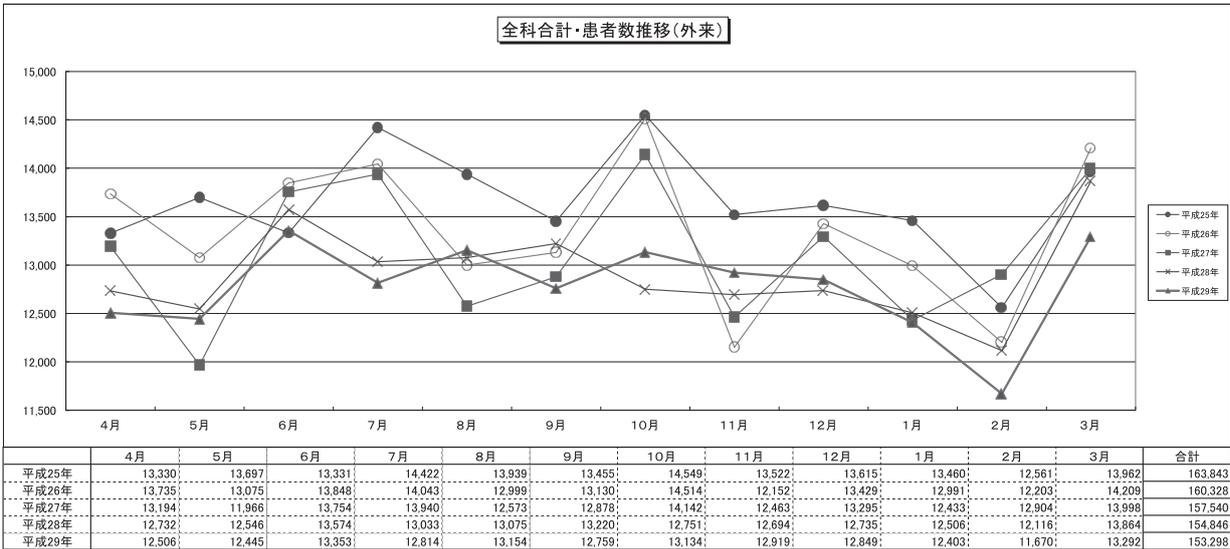
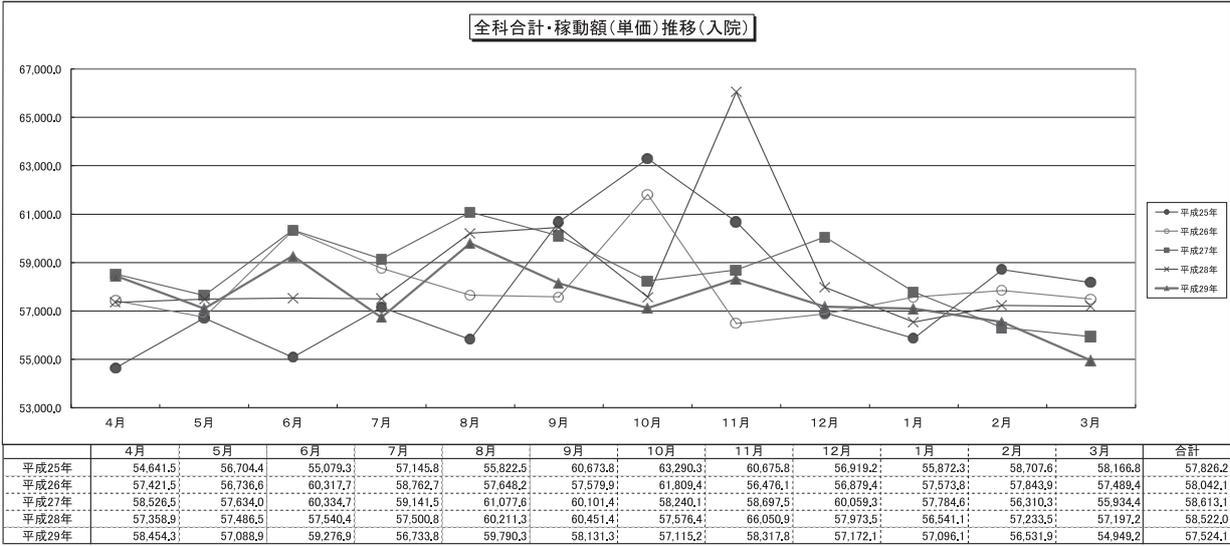
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	661,048,252	49,671,488	52,051,617	51,631,082	54,541,379	57,027,363	54,148,535	57,511,008	54,291,554	52,935,047	58,797,220	54,057,608	64,384,351
消化器科	283,897,661	22,719,790	22,555,858	23,409,074	25,028,480	23,793,356	24,002,651	24,613,096	23,492,361	23,082,880	23,561,962	22,288,337	25,349,816
循環器科	137,299,614	12,475,294	11,320,014	12,497,872	11,552,789	10,637,506	10,769,980	12,367,040	12,156,018	9,904,392	10,821,876	10,213,424	12,583,409
神経内科	12,047,286	1,086,127	1,253,233	1,121,360	1,122,460	1,250,850	847,260	910,560	773,696	797,800	872,450	883,910	1,127,580
呼吸器科	416,235,387	38,646,636	37,462,826	38,157,477	34,831,142	40,550,117	33,664,811	32,635,833	34,596,635	30,790,685	32,094,872	29,524,029	33,280,324
呼吸器外科	156,700,000	14,142,218	13,159,640	13,840,018	8,891,386	13,397,488	12,072,617	14,174,245	13,038,922	13,398,146	11,299,084	14,743,996	14,542,240
外科	239,926,884	20,515,335	18,466,258	20,146,940	18,117,740	20,923,125	19,484,477	22,845,456	21,019,966	18,595,968	20,041,943	19,569,880	20,199,796
脳神経外科	12,396,857	888,695	1,133,421	1,111,727	762,155	1,092,655	875,827	1,066,291	1,268,466	1,243,265	990,125	867,070	1,097,160
整形外科	190,658,769	16,041,620	17,670,221	16,772,001	16,073,485	16,373,871	15,919,865	15,670,432	16,295,364	15,163,980	14,369,856	14,024,637	16,283,437
産婦人科	28,549,171	2,206,648	2,428,580	2,849,807	2,586,836	2,850,940	2,250,757	2,096,354	2,332,253	2,107,401	2,189,666	2,239,589	2,409,340
小児科	18,744,664	2,188,621	1,479,426	1,445,135	1,683,292	1,698,045	1,438,183	1,210,072	1,257,191	1,368,068	1,623,270	1,729,184	1,624,177
眼科	122,179,712	10,370,294	9,370,134	10,830,730	9,841,306	10,754,055	11,254,860	10,505,653	9,945,417	12,380,432	9,018,514	8,921,520	8,986,797
皮膚科	40,334,545	3,800,771	2,680,970	4,074,291	3,990,274	3,507,779	3,534,370	3,778,883	2,686,434	2,833,250	3,950,767	2,522,634	2,974,122
形成外科	29,379,511	1,947,853	2,958,050	2,547,501	1,906,249	2,315,811	2,416,567	2,620,151	2,822,622	2,707,759	1,994,702	2,027,985	3,114,261
耳鼻咽喉科	27,553,548	2,348,120	2,002,900	2,701,000	1,792,180	2,250,176	2,266,645	2,255,280	2,020,314	2,153,690	2,199,234	2,739,584	2,824,425
リハビリテーション科	25,884,741	2,497,186	2,244,287	2,330,082	2,406,162	2,408,745	2,259,620	2,302,497	2,255,723	2,088,680	1,690,932	1,680,979	1,719,848
泌尿器科	132,955,888	10,608,894	9,385,700	11,529,575	10,818,150	10,636,003	12,091,315	11,977,312	12,057,866	12,883,839	11,781,475	9,141,247	10,044,512
緩和ケア	2,738,524	278,764	289,046	209,502	199,500	228,170	206,124	262,530	233,040	199,492	214,480	235,224	182,652
放射線	14,120,266	0	0	0	0	0	0	2,143,855	2,217,095	2,097,941	2,145,340	2,477,910	3,038,125
その他	16,713	0	0	0	0	0	0	4,622	0	3,661	0	8,430	0
合計	2,552,667,993	212,434,354	207,912,181	217,205,174	206,144,965	221,696,055	209,504,464	220,951,170	214,761,937	206,736,376	209,657,768	199,897,177	225,766,372

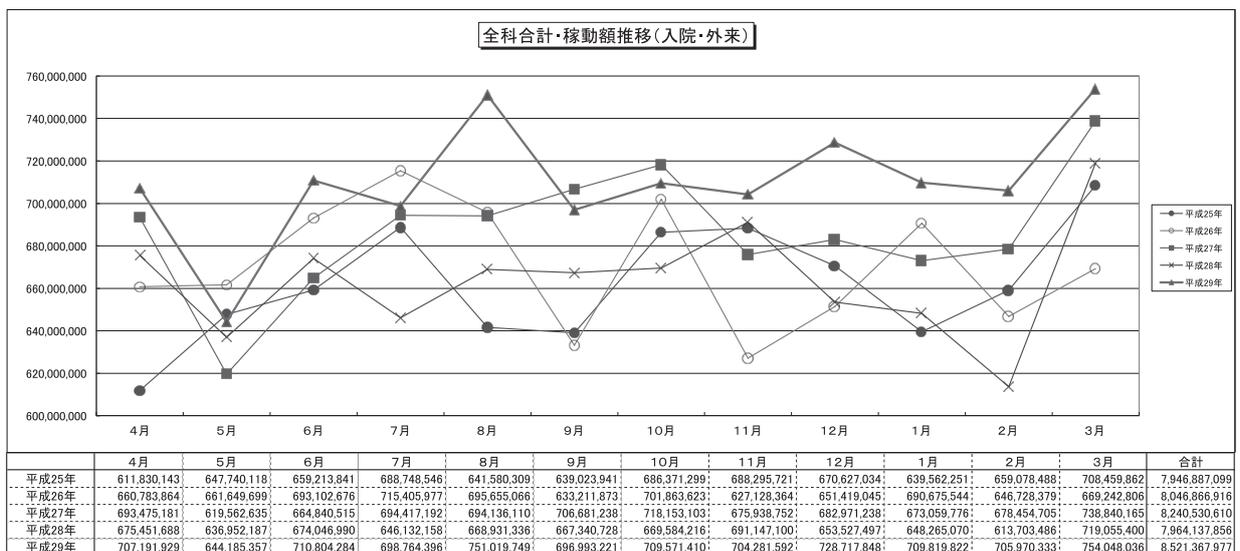
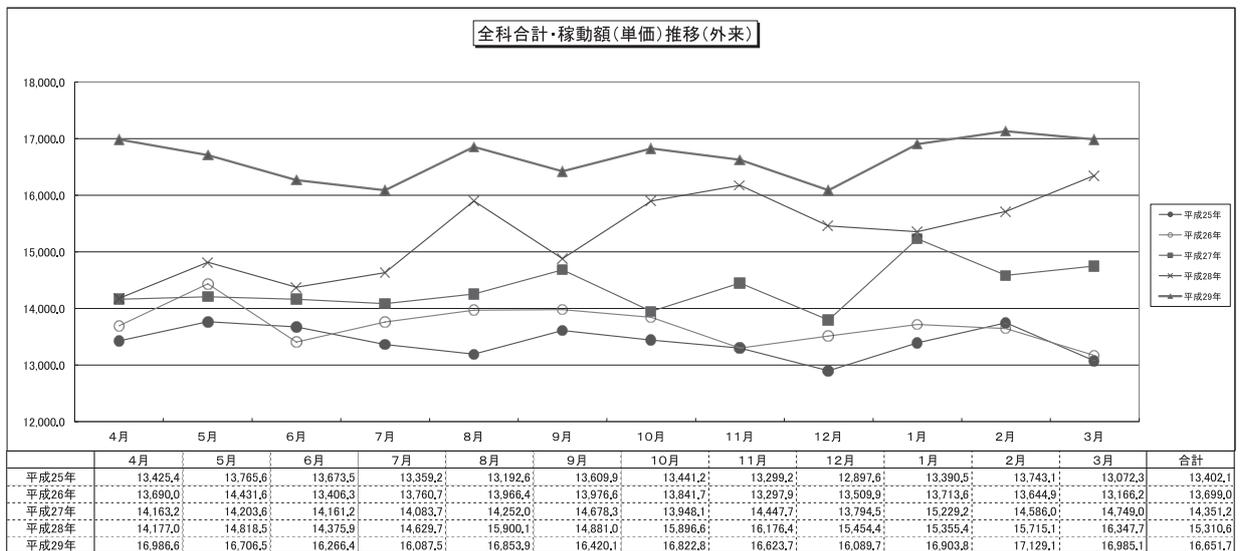
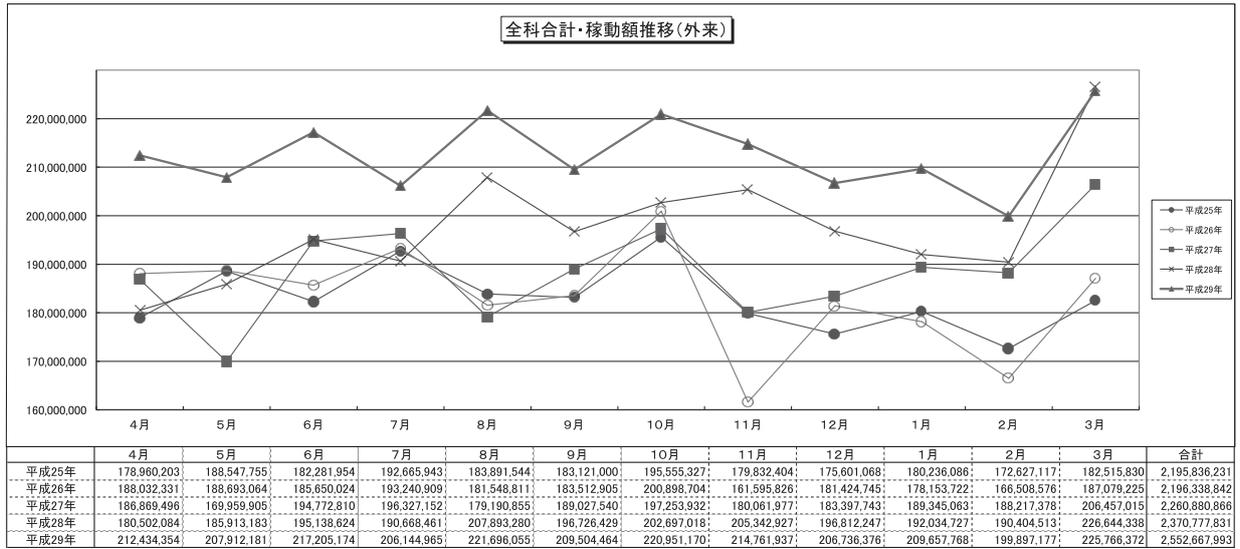
前年度	2,373,549,999	183,274,252	185,913,183	195,138,624	190,668,461	207,893,280	196,726,429	202,697,018	205,342,927	196,812,247	192,034,727	190,404,513	226,644,338
増減率	7.5%	15.9%	11.8%	11.3%	8.1%	6.6%	6.5%	9.0%	4.6%	5.0%	9.2%	5.0%	-0.4%

## 7. 外来単価

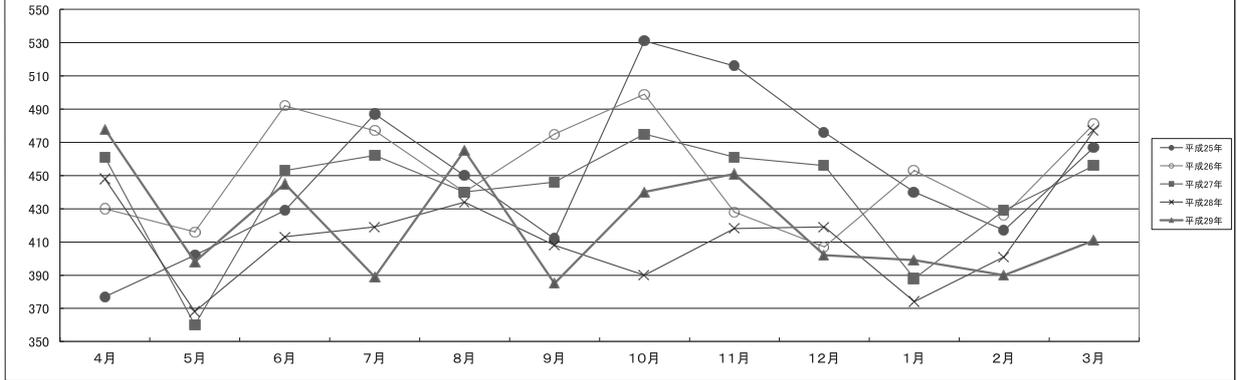
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	29,404.8	28,351.3	28,837.5	29,385.9	30,100.1	28,485.2	29,524.8	30,870.1	28,469.6	27,202.0	27,972.0	29,283.6	34,708.5
消化器科	14,921.6	14,714.9	15,128.0	13,950.6	15,840.8	15,213.1	14,582.4	14,747.2	14,492.5	14,777.8	15,017.2	15,488.8	15,243.4
循環器科	10,544.5	10,895.5	10,639.1	11,444.9	10,214.7	9,988.3	10,218.2	11,061.8	11,081.1	9,625.3	10,048.2	10,369.0	10,810.5
神経内科	5,347.2	5,028.4	5,619.9	5,470.0	5,756.2	6,872.8	4,814.0	5,324.9	4,835.6	4,112.4	5,352.5	5,292.9	5,609.9
呼吸器科	24,533.5	27,254.3	25,907.9	25,609.0	23,471.1	27,793.1	24,447.9	22,758.6	23,297.4	21,668.3	23,564.5	23,964.3	24,506.9
呼吸器外科	49,106.9	46,216.4	52,428.8	47,560.2	47,294.6	47,008.7	41,629.7	50,263.3	47,587.3	48,898.3	54,062.6	60,925.6	48,636.3
外科	22,547.4	25,172.2	21,879.5	19,771.3	21,091.7	22,693.2	22,344.6	23,847.0	24,613.5	21,749.7	25,178.3	22,862.0	20,383.2
脳神経外科	10,761.2	9,985.3	12,593.6	10,793.5	10,585.5	10,308.1	9,519.9	10,662.9	11,030.1	11,406.1	11,648.5	10,322.3	10,253.8
整形外科	12,925.1	13,985.7	13,804.9	12,414.5	12,920.8	12,772.1	13,771.5	12,506.3	13,693.6	12,409.1	12,452.2	12,433.2	12,115.7
産婦人科	6,728.5	7,211.3	6,690.3	6,817.7	6,754.1	7,272.8	5,876.7	6,058.8	6,842.4	6,444.7	7,040.7	7,342.9	6,547.1
小児科	5,244.7	7,929.8	5,083.9	4,676.8	4,936.3	5,356.6	4,730.9	4,566.3	4,949.6	4,868.6	5,010.1	5,353.5	5,620.0
眼科	13,284.7	13,077.3	13,068.5	13,975.1	13,245.4	13,243.9	14,693.0	14,045.0	12,278.3	16,529.3	12,388.1	12,818.3	10,449.8
皮膚科	4,643.6	5,672.8	3,971.8	5,284.4	5,012.9	3,954.7	4,687.5	4,939.7	3,690.2	4,286.3	6,078.1	4,122.0	4,148.0
形成外科	7,452.9	6,106.1	8,285.9	8,113.1	6,528.3	7,719.4	8,082.2	7,178.5	7,467.3	6,996.8	7,527.2	7,191.4	8,110.1
耳鼻咽喉科	6,543.2	5,929.6	5,943.3	6,925.6	5,707.6	6,860.3	6,570.0	6,793.0	6,197.3	6,135.9	6,195.0	7,849.8	7,279.4
リハビリテーション科	4,456.0	4,615.9	4,497.6	4,323.0	4,258.7	4,332.3	4,387.6	4,568.4	4,502.4	4,463.0	4,533.3	4,580.3	4,514.0
泌尿器科	14,923.8	14,734.6	14,528.9	14,484.4	14,104.5	16,936.3	14,411.6	15,122.9	16,840.6	14,657.4	15,964.1	14,579.3	13,199.1
緩和ケア	557.1	5,259.7	4,379.5	3,809.1	4,156.3	3,405.5	3,616.2	4,526.4	4,237.1	3,764.0	4,662.6	4,900.5	3,261.6
合計	16,651.7	16,986.6	16,706.5	16,266.4	16,087.5	16,853.9	16,420.1	16,822.8	16,623.7	16,089.7	16,903.8	17,129.1	16,985.1
前年度	15,328.5	14,394.8	14,818.5	14,375.9	14,629.7	15,900.1	14,881.0	15,896.6	16,176.4	15,454.4	15,355.4	15,715.1	16,347.7
増減率	8.6%	18.0%	12.7%	13.2%	10.0%	6.0%	10.3%	5.8%	2.8%	4.1%	10.1%	9.0%	3.9%





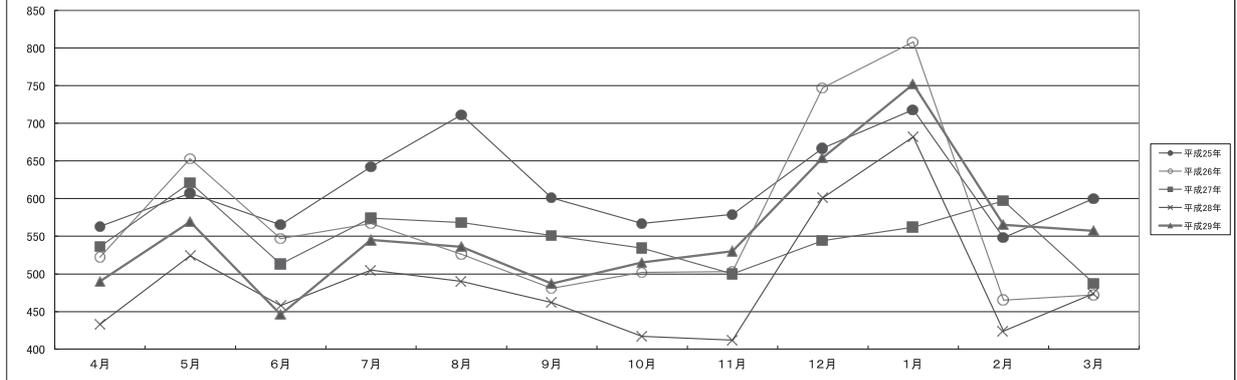


全科合計・手術件数推移



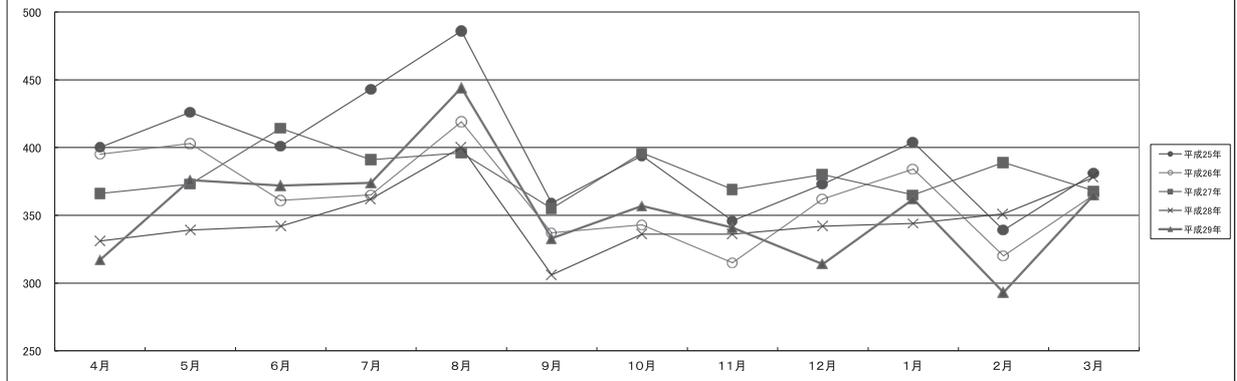
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年	377	402	429	487	450	412	531	516	476	440	417	467	5,404
平成26年	430	416	492	477	440	475	499	428	407	453	426	481	5,424
平成27年	461	360	453	462	440	446	475	461	456	388	429	456	5,287
平成28年	448	368	413	419	434	408	390	418	419	374	401	477	4,969
平成29年	478	398	445	389	465	385	440	451	402	399	390	411	5,053

全科合計・救急外来推移



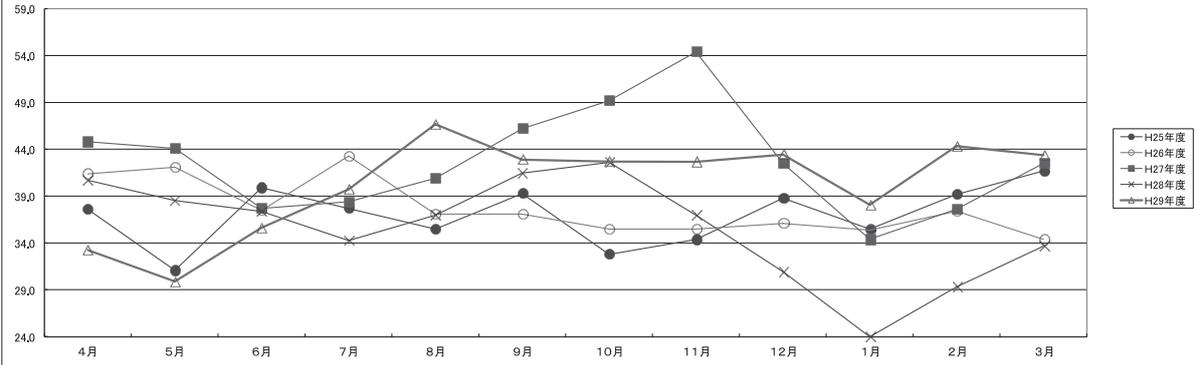
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年	563	607	565	642	711	601	567	579	667	718	548	600	7,368
平成26年	522	653	547	567	526	481	502	503	747	808	465	472	6,793
平成27年	536	621	513	574	568	551	534	500	544	562	597	487	6,587
平成28年	433	524	458	505	490	462	417	412	601	682	424	474	5,882
平成29年	490	569	446	545	536	487	515	530	654	752	565	557	6,646

全科合計・新規外来患者数推移



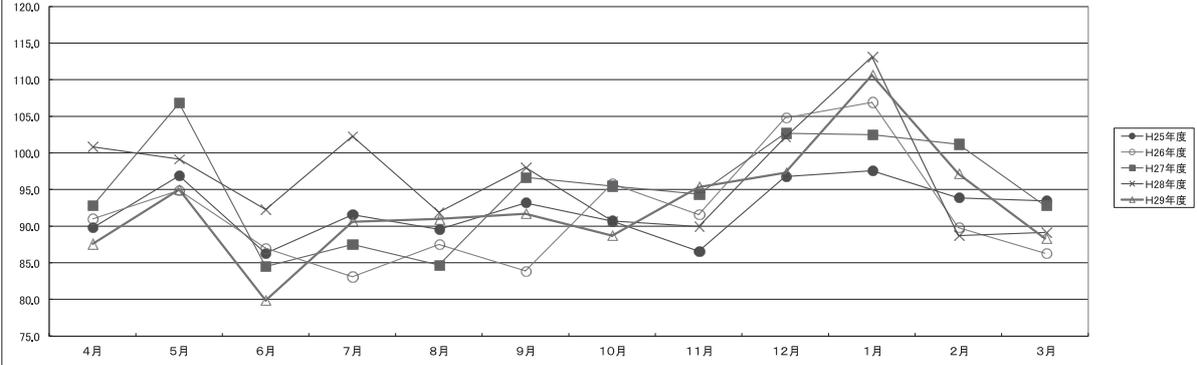
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年	400	426	401	443	486	359	394	346	373	404	339	381	4,752
平成26年	395	403	361	365	419	337	343	315	362	384	320	365	4,369
平成27年	366	373	414	391	396	355	396	369	380	365	389	368	4,562
平成28年	331	339	342	362	400	306	336	336	342	344	351	378	4,167
平成29年	317	376	372	374	444	333	357	341	314	362	293	365	4,248

内科・1日平均入院患者数



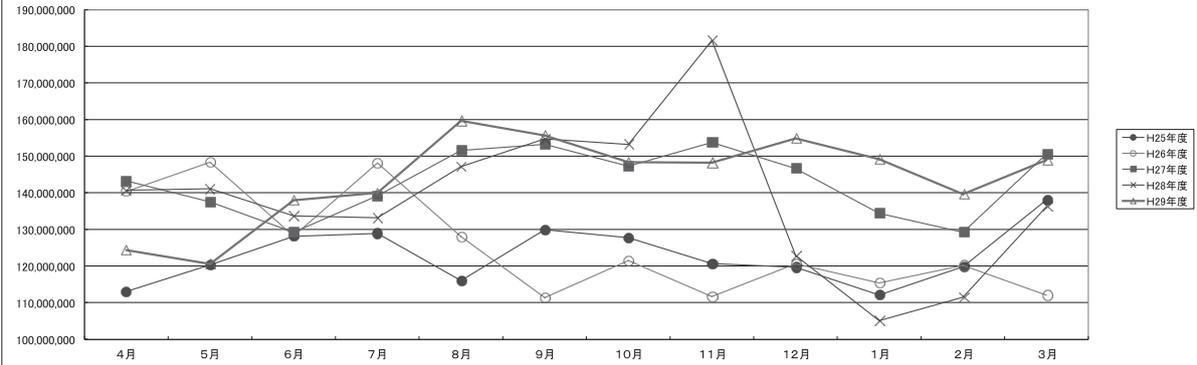
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	37.6	31.1	39.9	37.7	35.5	39.3	32.8	34.4	38.8	35.5	39.2	41.7	36.9
H26年度	41.4	42.1	37.5	43.3	37.1	37.1	35.5	35.5	36.1	35.4	37.4	34.4	37.7
H27年度	44.8	44.1	37.7	38.4	40.9	46.2	49.2	54.4	42.5	34.4	37.6	42.5	42.5
H28年度	40.7	38.5	37.4	34.3	37.0	41.5	42.6	37.0	30.9	24.0	29.3	33.7	35.6
H29年度	33.3	29.9	35.6	39.7	46.7	42.9	42.7	42.7	43.5	38.1	44.4	43.4	40.2

内科・1日平均外来患者数



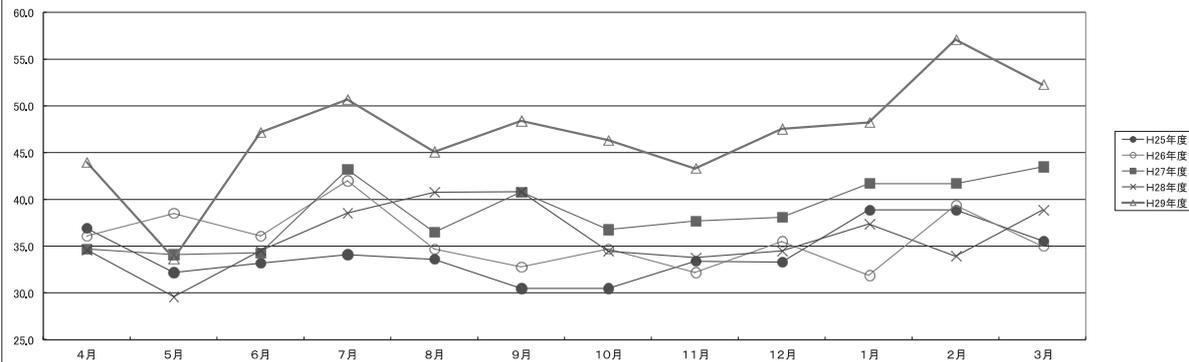
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	89.8	96.9	86.3	91.6	89.6	93.2	90.7	86.6	96.8	97.6	93.9	93.5	92.1
H26年度	91.0	94.9	87.0	83.1	87.5	83.9	95.8	91.6	104.8	106.9	89.8	86.3	91.6
H27年度	92.8	106.8	84.5	87.5	84.7	96.7	95.5	94.4	102.7	102.5	101.2	92.8	94.7
H28年度	100.9	99.2	92.3	102.3	91.9	98.1	90.7	90.0	102.2	113.2	88.7	89.1	96.3
H29年度	87.6	95.0	79.9	90.6	91.0	91.7	88.7	95.4	97.3	110.6	97.2	88.3	92.5

内科・合計稼働額



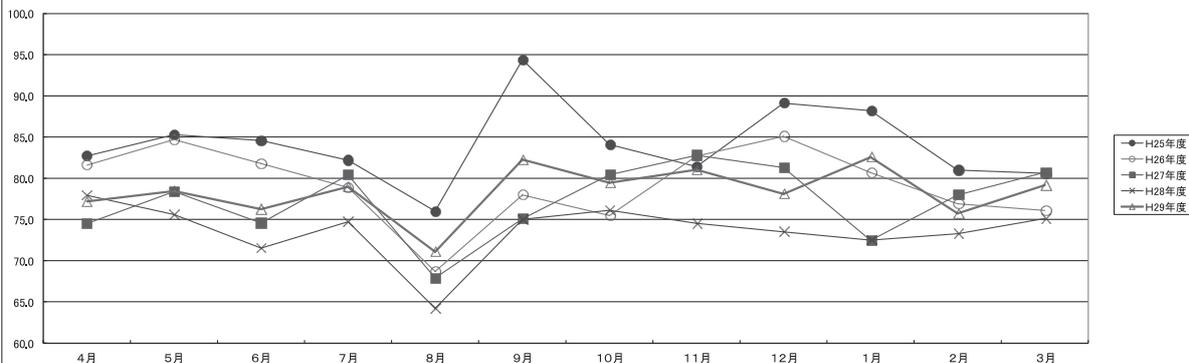
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
H25年度	入院	67,420,643	74,791,470	85,918,775	82,936,853	75,675,626	89,688,451	81,435,477	83,030,285	77,480,178	73,767,896	82,069,620	96,979,542	971,194,816	
	外来	45,653,705	45,601,011	42,251,512	46,001,048	40,369,785	40,297,774	46,353,760	37,696,469	42,263,566	38,341,125	37,758,983	41,158,462	503,747,200	
	合計	113,074,348	120,392,481	128,170,287	128,937,901	116,045,411	129,986,225	127,789,237	120,726,754	119,743,744	112,109,021	119,828,603	138,138,004	1,474,942,016	
H26年度	入院	95,289,392	100,632,690	88,402,728	104,944,289	81,746,690	71,408,961	74,178,832	73,136,539	76,801,542	72,596,966	79,150,566	75,988,374	994,277,569	
	外来	45,066,969	47,755,491	39,834,767	43,220,223	46,368,422	40,002,490	47,377,624	38,571,295	43,868,549	42,841,163	41,093,562	36,095,112	512,085,657	
	合計	140,356,361	148,388,181	128,237,495	148,164,512	128,115,112	111,411,451	121,556,456	111,707,834	120,660,091	115,438,129	120,244,118	112,083,488	1,506,363,226	
H27年度	入院	95,924,746	96,080,770	83,352,107	91,878,937	106,734,908	109,149,678	99,310,750	109,330,478	102,061,720	83,757,298	78,480,352	99,805,662	1,155,867,406	
	外来	47,379,513	41,482,771	45,931,609	47,356,685	44,835,037	44,108,706	48,006,537	44,489,922	44,577,649	50,647,493	50,739,852	50,843,304	560,399,078	
	合計	143,304,259	137,563,541	129,283,716	139,235,622	151,569,945	153,258,384	147,317,287	153,820,400	146,639,369	134,404,791	129,220,204	150,648,966	1,716,266,484	
H28年度	入院	140,715,393	141,094,690	133,686,213	133,155,502	147,147,540	154,726,940	153,206,798	153,212,708	132,127,152	76,400,874	57,253,011	64,251,431	77,879,312	1,064,619,499
	外来	50,555,720	48,961,660	49,875,906	46,986,928	54,051,250	48,559,802	48,934,090	49,459,029	46,470,162	47,792,999	47,249,811	58,395,173	596,392,530	
	合計	191,271,113	190,056,350	183,562,119	180,142,430	201,198,790	203,286,742	202,146,888	202,671,797	178,878,036	124,193,873	104,502,810	122,546,604	1,361,012,029	
H29年度	入院	74,730,754	68,540,440	86,370,818	85,477,786	102,679,138	101,497,494	90,854,032	93,939,929	101,927,591	90,373,593	85,591,318	84,592,481	1,066,575,374	
	外来	49,671,488	52,051,617	51,631,082	54,541,379	57,027,363	54,148,535	57,511,008	54,291,554	52,935,047	58,797,220	54,057,608	64,384,351	661,048,252	
	合計	124,402,242	120,592,057	138,001,900	140,019,165	159,706,501	155,646,029	148,365,040	148,231,483	154,862,638	149,170,813	139,648,926	148,976,832	1,727,623,626	

消化器科・1日平均入院患者数



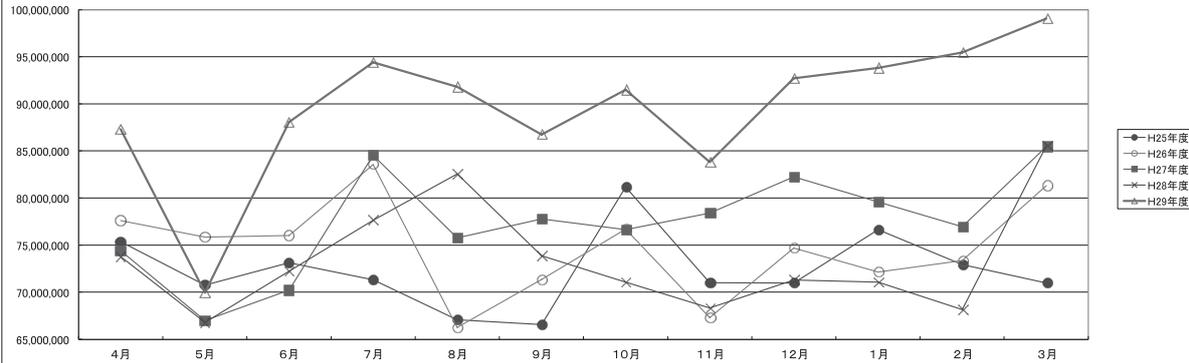
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	36.9	32.2	33.2	34.1	33.6	30.5	30.5	33.4	33.3	38.9	38.9	35.6	34.2
H26年度	36.1	38.5	36.1	42.0	34.7	32.8	34.7	32.2	35.5	31.9	39.4	35.0	35.7
H27年度	34.7	34.1	34.3	43.2	36.5	40.8	36.8	37.7	38.1	41.7	41.7	43.5	38.6
H28年度	34.6	29.6	34.5	38.5	40.8	40.8	34.5	33.8	34.5	37.4	33.9	38.9	36.0
H29年度	44.0	33.7	47.2	50.7	45.1	48.4	46.4	43.3	47.5	48.2	57.1	52.3	46.9

消化器科・1日平均外来患者数



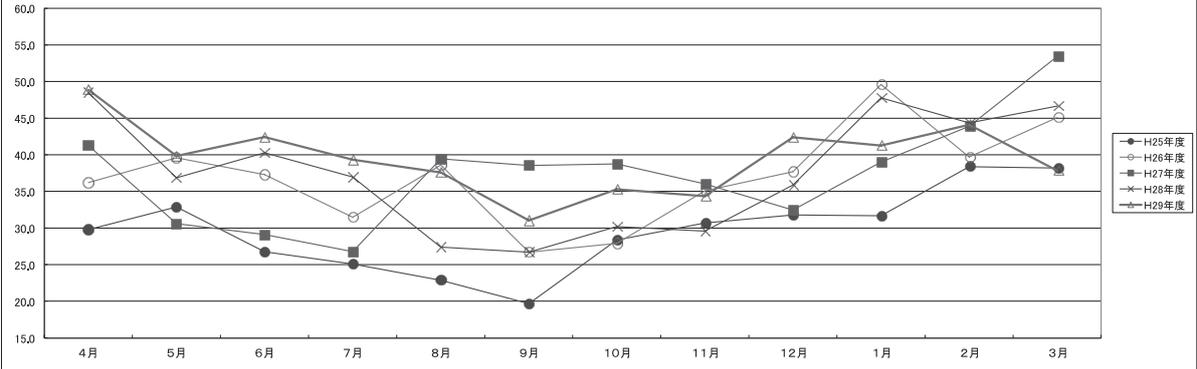
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	82.7	85.3	84.6	82.2	76.0	94.4	84.1	81.4	88.1	88.2	81.0	80.6	84.0
H26年度	81.6	84.7	81.8	78.9	68.7	78.0	75.5	82.7	85.1	80.7	76.9	76.1	79.1
H27年度	74.5	78.4	74.6	80.4	67.9	75.1	80.4	82.8	81.3	72.5	78.0	80.7	77.2
H28年度	78.0	75.6	71.5	74.8	64.2	75.1	76.2	74.6	73.5	72.5	73.3	75.1	73.6
H29年度	77.2	78.5	76.3	79.0	71.1	82.3	79.5	81.1	78.1	82.6	75.7	79.2	78.3

消化器科・合計稼働額



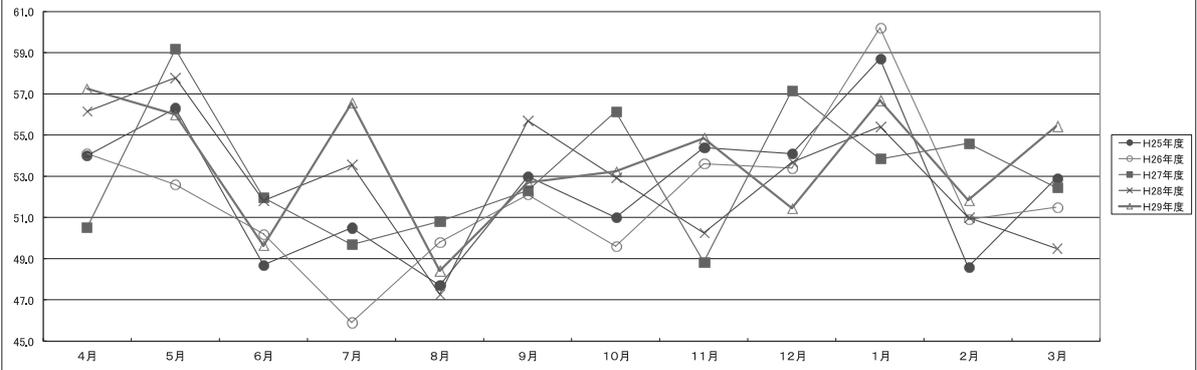
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	53,418,649	48,895,688	50,122,102	49,615,145	45,563,405	43,887,092	58,309,878	50,578,176	52,171,292	56,724,256	53,263,547	50,062,223	612,611,453
	外来	21,955,648	21,882,648	23,034,556	21,728,558	21,516,204	22,681,744	22,879,688	20,453,549	18,836,577	19,943,071	19,675,944	20,921,542	255,509,729
H26年度	入院	53,172,119	53,334,358	53,156,637	59,229,914	48,254,218	51,018,314	55,909,123	49,339,263	53,313,218	52,122,918	53,301,550	58,365,054	640,516,686
	外来	24,446,246	22,541,443	22,890,094	24,334,961	18,014,773	20,356,520	20,814,195	17,975,327	21,399,531	20,044,974	20,086,394	22,973,023	255,877,481
H27年度	入院	51,401,008	49,406,406	47,014,830	62,938,097	56,647,490	57,228,382	55,002,761	56,423,023	60,486,759	57,704,899	52,672,986	59,656,757	666,583,398
	外来	23,034,468	17,583,193	23,212,937	21,606,511	19,138,146	20,557,445	21,656,215	21,980,149	21,772,196	21,893,080	24,289,449	25,799,030	262,522,811
H28年度	入院	49,304,826	45,369,024	49,837,186	56,109,647	61,631,542	52,577,225	49,374,279	47,087,892	52,996,238	50,727,607	46,893,283	59,951,115	621,859,864
	外来	24,494,882	21,429,103	22,393,839	21,547,516	20,938,362	21,306,603	21,706,686	21,244,171	18,311,948	20,341,522	21,282,798	25,585,809	260,583,239
H29年度	入院	64,592,754	47,403,746	64,663,315	69,392,003	68,017,856	62,736,102	66,869,607	60,326,604	69,627,862	70,265,692	73,170,200	73,715,258	790,900,999
	外来	22,719,790	22,555,858	23,409,074	25,028,480	23,793,356	24,002,651	24,613,096	23,492,361	23,082,880	23,561,962	22,288,337	25,349,816	283,897,661
合計	87,312,544	69,959,604	88,072,389	94,420,483	91,811,212	86,738,753	91,502,703	83,818,965	92,710,742	93,827,654	95,458,537	99,065,074	1,074,698,660	

循環器科・1日平均入院患者数



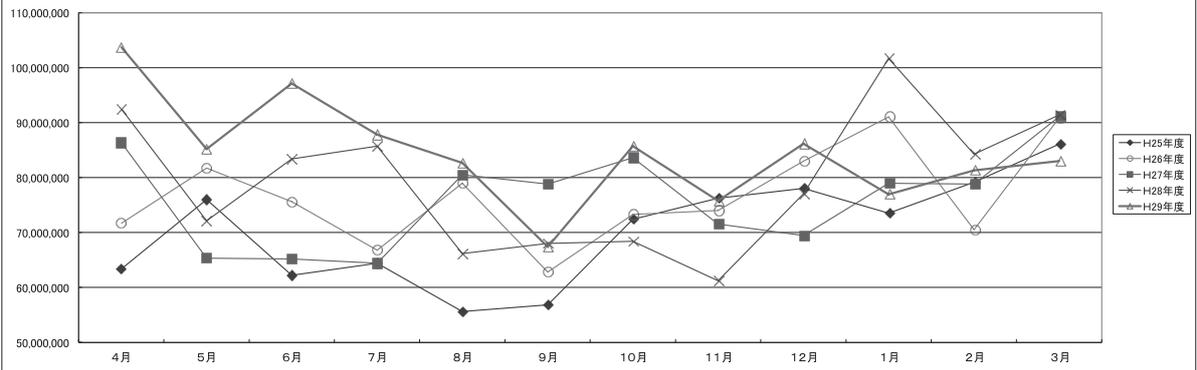
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	29.8	32.9	26.8	25.1	22.9	19.7	28.4	30.7	31.8	31.7	38.4	38.2	29.7
H26年度	36.2	39.6	37.3	31.5	38.6	26.7	27.9	35.1	37.7	49.6	39.7	45.1	37.1
H27年度	41.3	30.6	29.1	26.8	39.5	38.5	38.8	36.0	32.5	39.0	43.9	53.4	37.4
H28年度	48.5	36.9	40.3	37.0	27.4	26.7	30.2	29.6	35.9	47.8	44.4	46.8	37.6
H29年度	48.9	39.9	42.4	39.4	37.6	31.0	35.3	34.4	42.4	41.3	44.1	37.9	39.5

循環器科・1日平均外来患者数



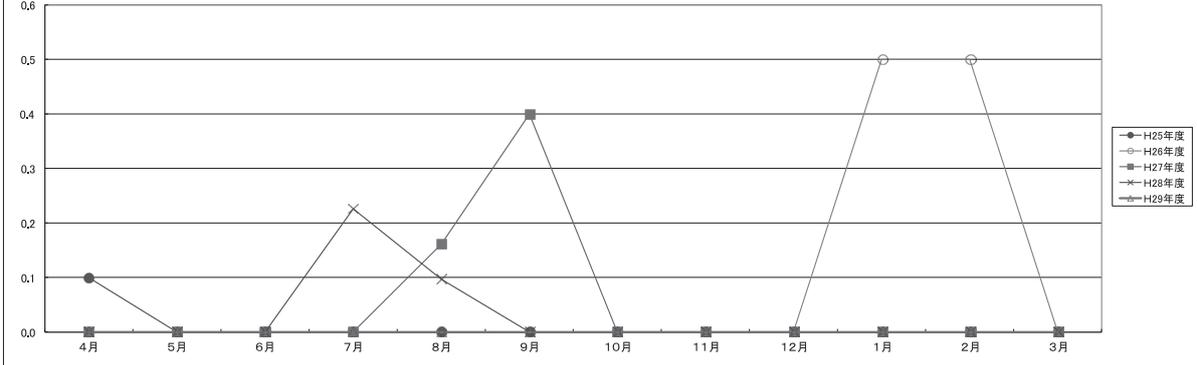
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	54.0	56.3	48.7	50.5	47.7	53.0	51.0	54.4	54.1	58.7	48.6	52.9	52.4
H26年度	54.1	52.6	50.2	45.9	49.8	52.1	49.6	53.6	53.4	60.2	50.9	51.5	51.9
H27年度	50.5	59.2	52.0	49.7	50.8	52.3	56.1	48.8	57.2	53.8	54.6	52.5	53.0
H28年度	56.2	57.8	51.8	53.6	47.3	55.7	53.0	50.3	53.7	55.4	51.0	49.5	52.8
H29年度	57.3	56.0	49.6	56.6	48.4	52.7	53.2	54.9	51.5	56.7	51.8	55.4	53.6

循環器科・合計稼働額



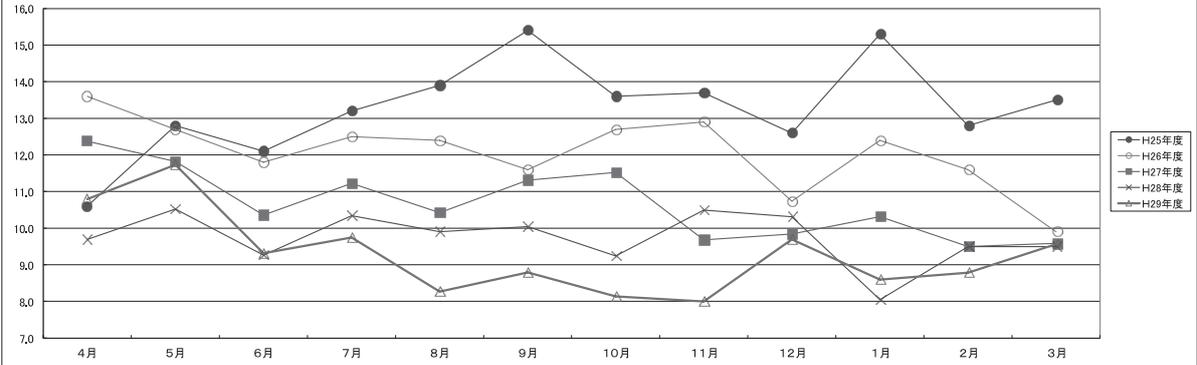
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	51,759,183	63,881,046	52,094,050	52,199,183	44,459,455	46,295,378	60,395,314	64,751,436	67,764,352	61,934,613	70,100,079	74,934,072	710,568,161
	外来	11,622,578	12,119,790	10,147,618	12,183,240	11,140,157	10,537,876	12,000,809	11,483,987	10,265,054	11,576,590	9,043,868	11,177,698	133,299,265
	合計	63,381,761	76,000,836	62,241,668	64,382,423	55,599,612	56,833,254	72,396,123	76,235,423	78,029,406	73,511,203	79,143,947	86,111,770	843,867,426
H26年度	入院	59,788,996	70,593,142	64,426,711	55,903,804	67,775,714	51,686,759	61,470,208	64,347,528	72,389,072	79,609,740	60,346,079	78,315,933	786,653,686
	外来	11,874,687	11,144,092	11,178,275	10,881,725	11,205,460	11,095,023	11,807,098	9,665,328	10,585,575	11,439,843	10,170,458	12,555,870	133,603,434
	合計	71,663,683	81,737,234	75,604,986	66,785,529	78,981,174	62,781,782	73,277,306	74,012,856	82,974,647	91,049,583	70,516,537	90,871,803	920,257,120
H27年度	入院	75,706,065	54,203,586	51,870,622	51,723,186	69,433,402	68,535,161	71,841,051	60,801,931	57,958,984	67,672,640	67,505,476	78,631,027	775,883,131
	外来	10,617,576	11,123,069	13,315,741	12,689,365	11,061,911	10,271,142	11,779,844	10,727,818	11,480,298	11,308,156	11,338,935	12,473,660	138,187,515
	合計	86,323,641	65,326,655	65,186,363	64,412,551	80,495,313	78,806,303	83,620,895	71,529,749	69,439,282	78,980,796	78,844,411	91,104,687	914,070,646
H28年度	入院	81,136,168	60,459,730	70,442,957	75,068,055	54,881,080	56,640,480	56,872,930	50,145,223	65,761,164	90,476,227	73,867,723	80,533,014	816,284,751
	外来	11,343,815	11,680,056	12,949,882	10,652,076	11,263,795	11,385,408	11,515,737	11,031,450	11,278,144	11,189,792	10,378,958	10,835,462	135,484,575
	合計	92,479,983	72,139,786	83,392,839	85,720,131	66,144,875	68,005,888	68,388,667	61,176,673	77,039,308	101,666,019	84,246,681	91,368,476	951,769,326
H29年度	入院	91,242,026	73,851,634	84,632,094	76,265,579	71,997,383	56,606,976	73,321,921	63,611,210	76,268,629	66,108,351	71,087,801	70,417,525	875,411,125
	外来	12,475,294	11,320,014	12,497,872	11,552,789	10,637,506	10,789,980	12,367,040	12,156,018	9,904,392	10,821,876	10,213,424	12,583,409	137,299,614
	合計	103,717,320	85,171,648	97,129,966	87,818,364	82,634,889	67,376,956	85,688,961	75,767,228	86,173,021	76,930,227	81,301,225	83,000,934	1,012,710,739

神経内科・1日平均入院患者数



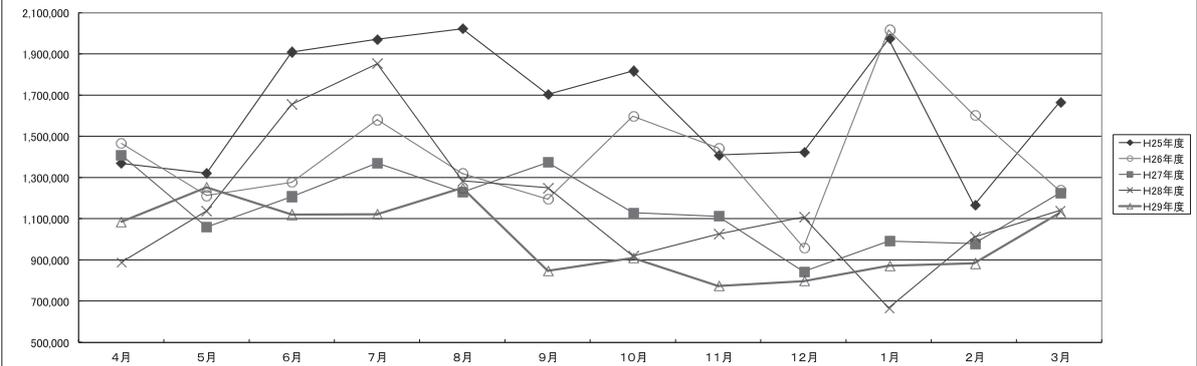
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H26年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0
H27年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H28年度	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H29年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

神経内科・1日平均外来患者数

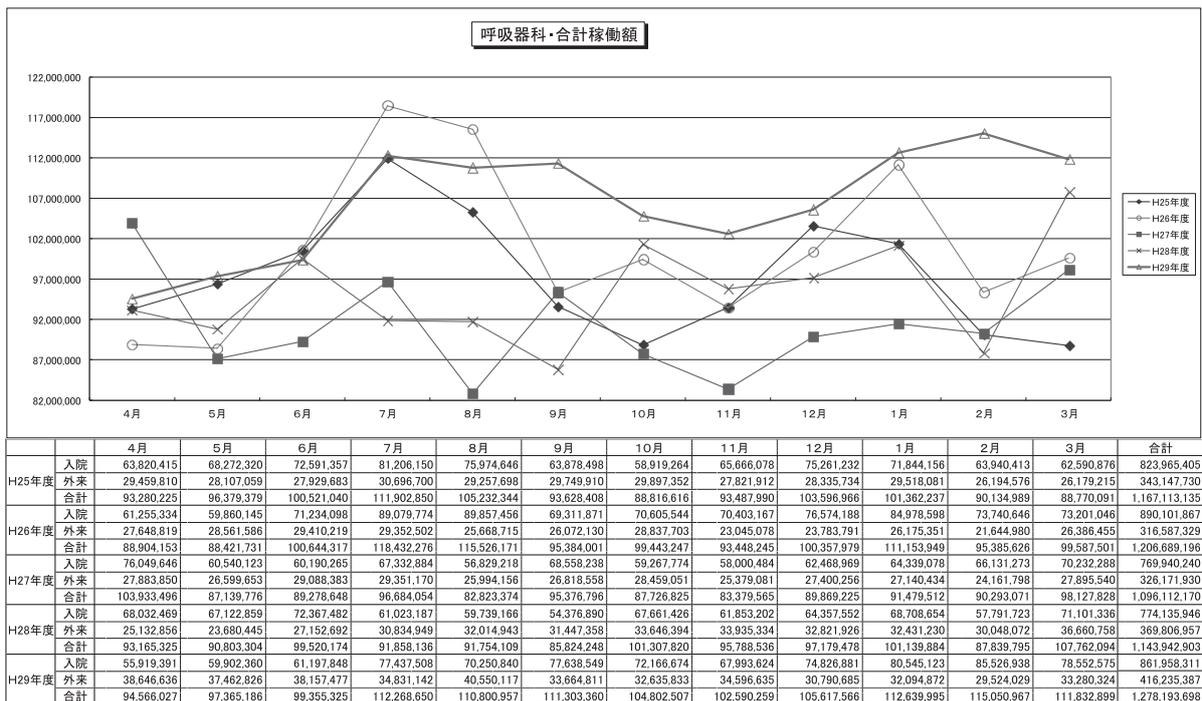
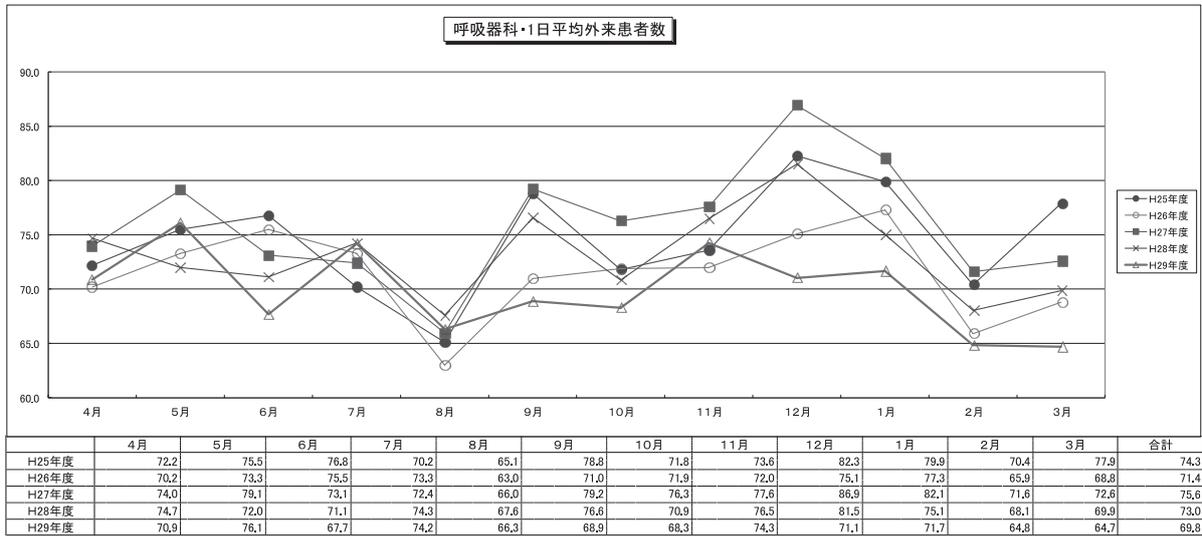
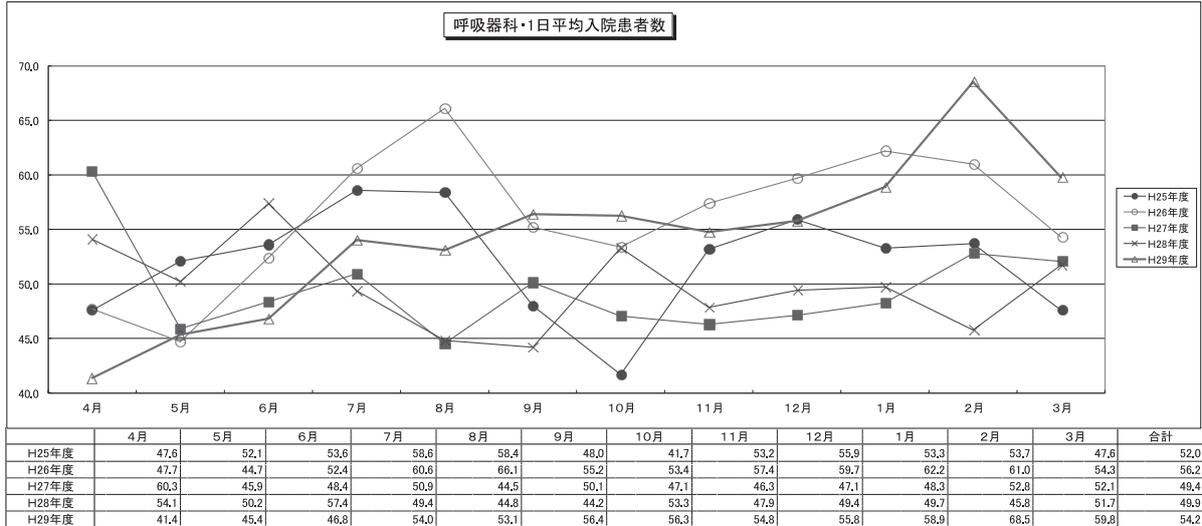


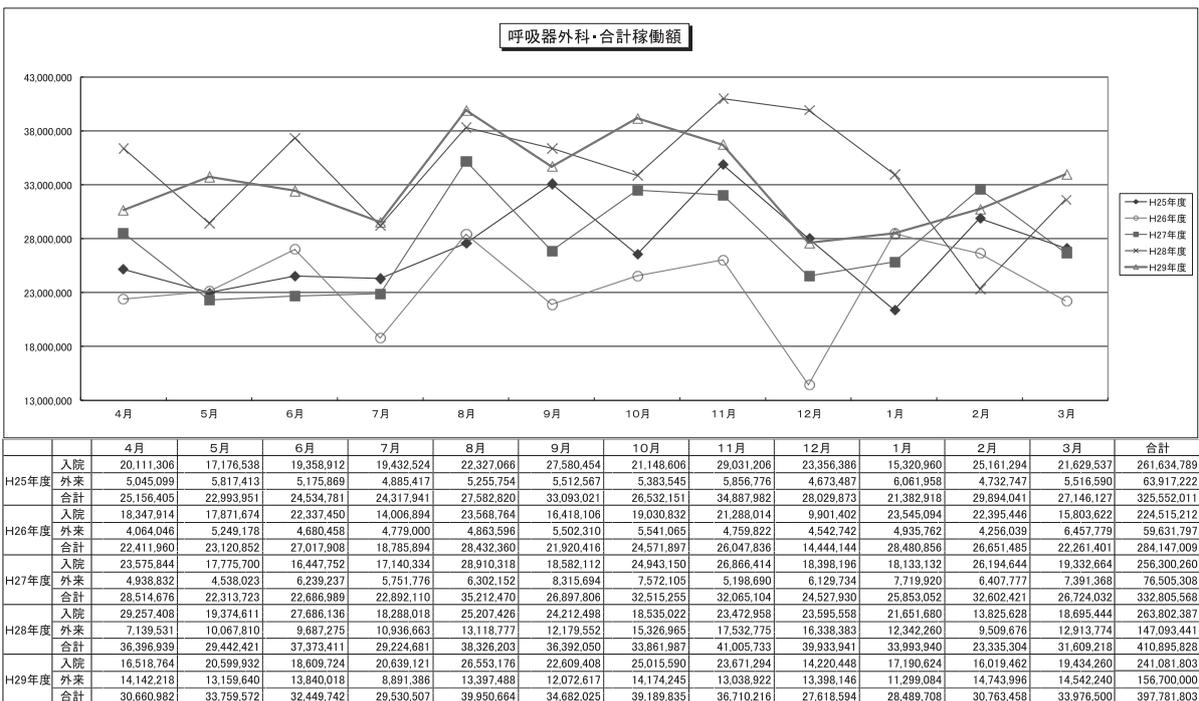
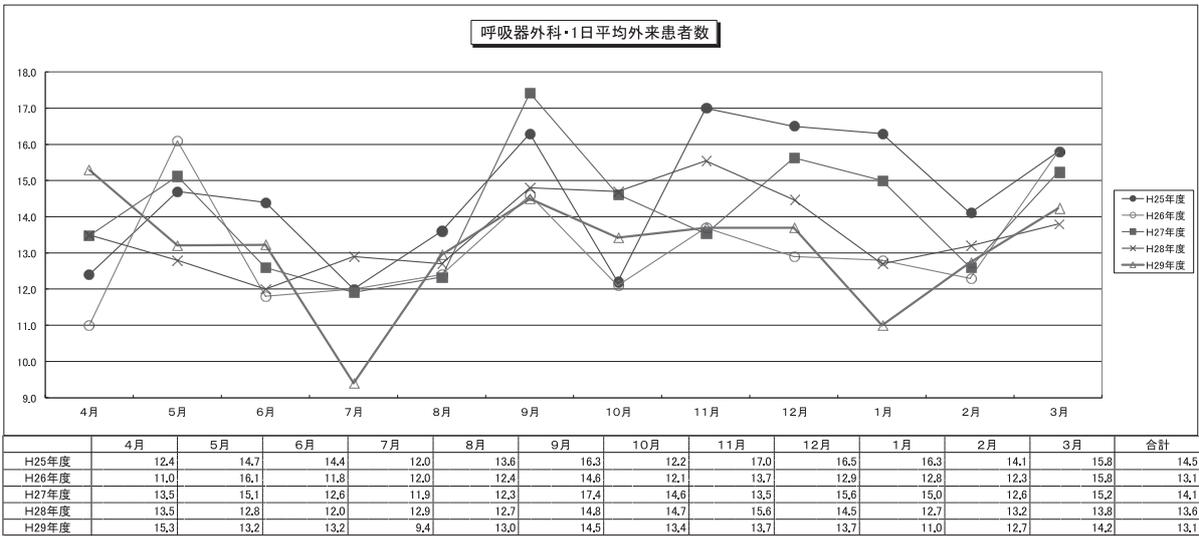
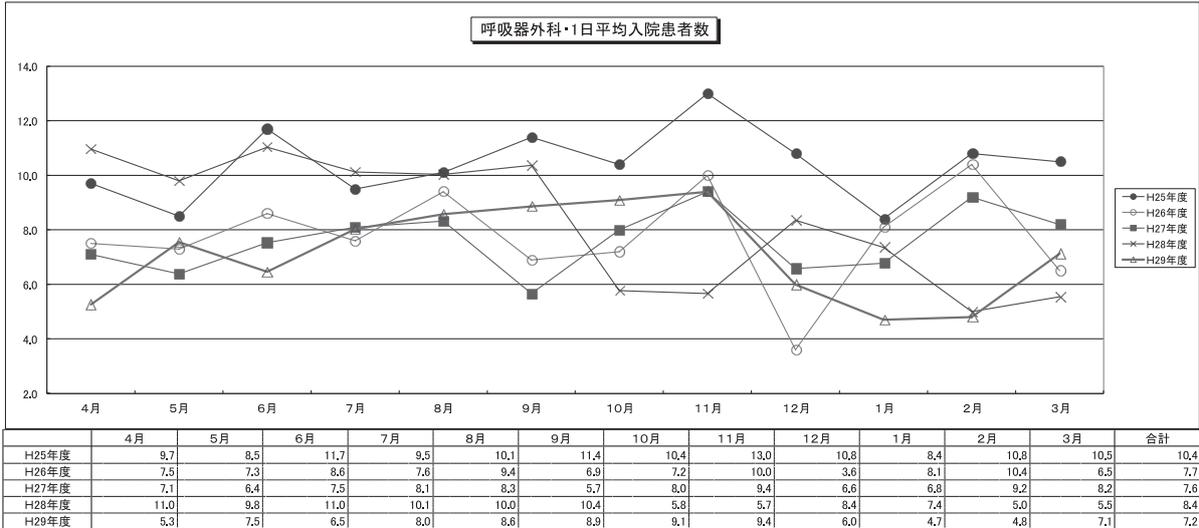
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	10.6	12.8	12.1	13.2	13.9	15.4	13.6	13.7	12.6	15.3	12.8	13.5	13.3
H26年度	13.6	12.7	11.8	12.5	12.4	11.6	12.7	12.9	10.7	12.4	11.6	9.9	12.1
H27年度	12.4	11.8	10.4	11.2	10.4	11.3	11.5	9.7	9.8	10.3	9.5	9.6	10.7
H28年度	9.7	10.5	9.3	10.4	9.9	10.1	9.3	10.5	10.3	8.1	9.5	9.5	9.7
H29年度	10.8	11.7	9.3	9.8	8.3	8.8	8.1	8.0	9.7	8.6	8.8	9.6	9.3

神経内科・合計稼働額

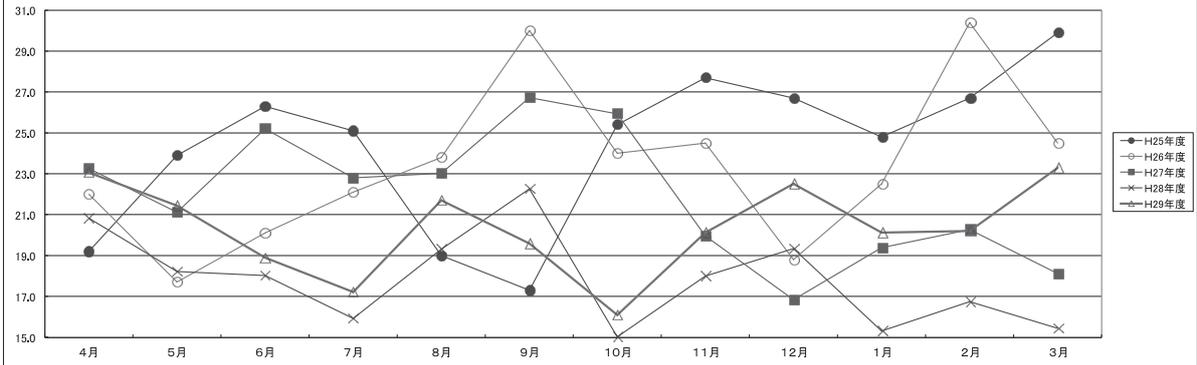


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	入院 115,862	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115,862
H25年度	外来 1,252,400	1,319,860	1,908,624	1,970,834	2,021,690	1,703,134	1,817,050	1,409,180	1,423,910	1,973,244	1,164,814	1,663,520	19,628,260
H25年度	合計 1,368,262	1,319,860	1,908,624	1,970,834	2,021,690	1,703,134	1,817,050	1,409,180	1,423,910	1,973,244	1,164,814	1,663,520	19,744,122
H26年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	604,690	393,930	0	998,620
H26年度	外来 1,465,810	1,213,414	1,275,946	1,580,494	1,319,120	1,195,090	1,596,970	1,443,184	960,420	1,410,820	1,209,040	1,236,950	15,907,258
H26年度	合計 1,465,810	1,213,414	1,275,946	1,580,494	1,319,120	1,195,090	1,596,970	1,443,184	960,420	2,015,510	1,602,970	1,236,950	16,905,878
H27年度	入院 0	0	0	0	192,178	371,924	0	0	0	0	0	0	564,102
H27年度	外来 1,410,100	1,060,280	1,207,712	1,371,000	1,037,170	1,001,310	1,130,030	1,111,284	843,720	991,410	979,411	1,223,470	13,366,897
H27年度	合計 1,410,100	1,060,280	1,207,712	1,371,000	1,229,348	1,373,234	1,130,030	1,111,284	843,720	991,410	979,411	1,223,470	13,930,999
H28年度	入院 0	0	280,940	0	0	0	0	0	0	0	0	0	280,940
H28年度	外来 889,580	1,137,510	1,655,118	1,571,422	1,283,646	1,250,370	919,685	1,024,710	1,108,080	666,300	1,010,546	1,138,470	13,655,437
H28年度	合計 889,580	1,137,510	1,655,118	1,571,422	1,283,646	1,250,370	919,685	1,024,710	1,108,080	666,300	1,010,546	1,138,470	13,936,377
H29年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H29年度	外来 1,086,127	1,253,233	1,121,360	1,122,460	1,250,850	847,260	910,560	773,696	797,800	872,450	883,910	1,127,580	12,047,286
H29年度	合計 1,086,127	1,253,233	1,121,360	1,122,460	1,250,850	847,260	910,560	773,696	797,800	872,450	883,910	1,127,580	12,047,286



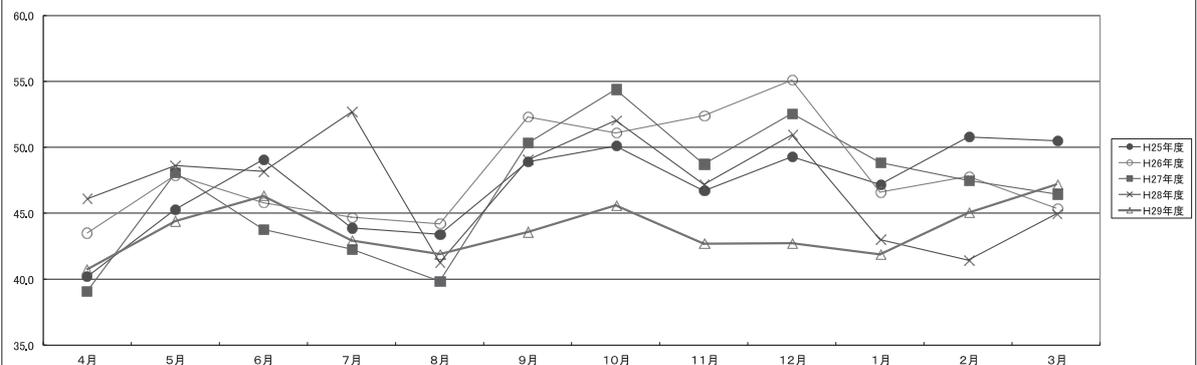


外科・1日平均入院患者数



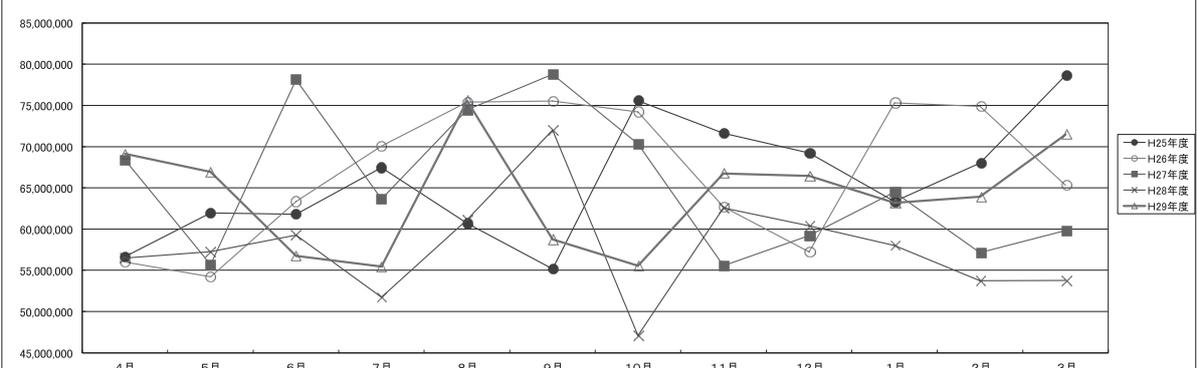
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	19.2	23.9	26.3	25.1	19.0	17.3	25.4	27.7	26.7	24.8	26.7	29.9	24.3
H26年度	22.0	17.7	20.1	22.1	23.8	30.0	24.0	24.5	18.8	22.5	30.4	24.5	23.3
H27年度	23.3	21.1	25.2	22.8	23.0	26.7	25.9	20.0	16.8	19.4	20.3	18.1	21.9
H28年度	20.8	18.2	18.0	15.9	19.3	22.3	15.0	18.0	19.4	15.3	16.8	15.5	17.9
H29年度	23.1	21.5	18.9	17.2	21.7	19.8	16.1	20.1	22.5	20.1	20.2	23.3	20.4

外科・1日平均外来患者数



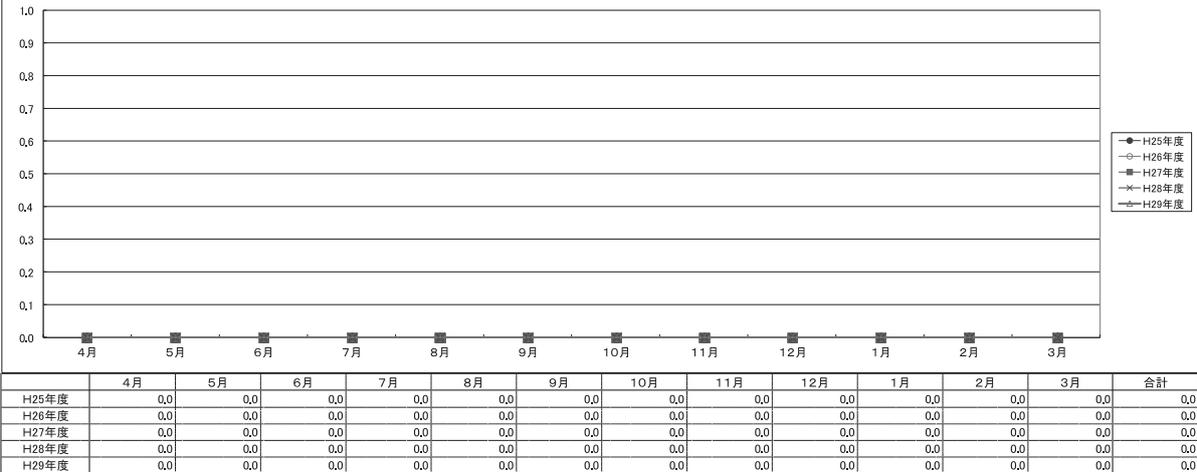
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	40.2	45.3	49.1	43.9	43.4	48.9	50.1	46.7	49.3	47.2	50.8	50.5	47.0
H26年度	43.5	47.9	45.8	44.7	44.2	52.3	51.1	52.4	55.1	46.2	47.8	45.4	47.9
H27年度	39.1	48.1	43.8	42.3	39.9	50.3	54.4	48.7	52.6	48.8	47.5	46.5	46.7
H28年度	46.1	48.6	48.2	52.7	41.3	49.1	52.1	47.2	50.9	43.0	41.5	45.0	47.1
H29年度	40.8	44.4	46.3	43.0	41.9	43.6	45.6	42.7	42.8	41.9	45.1	47.2	43.8

外科・合計稼働額

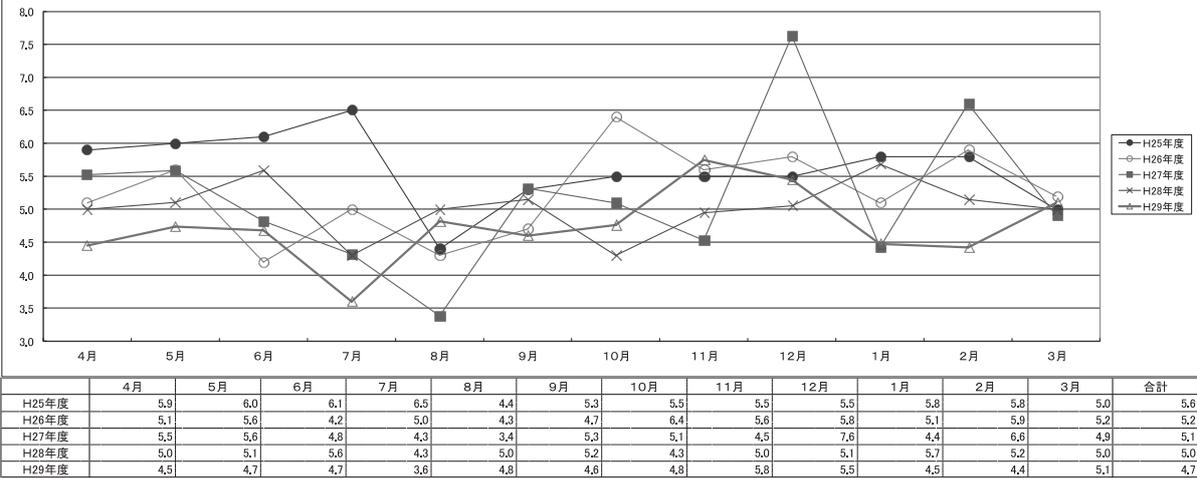


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	40,677,643	45,035,923	44,268,752	49,655,684	42,537,225	36,396,814	53,850,770	53,832,606	51,656,450	44,879,394	46,694,345	59,026,973	568,512,579
	外来	16,000,659	16,919,304	17,523,762	17,807,345	18,180,089	18,780,943	21,746,267	17,816,219	17,581,103	18,480,741	21,317,880	19,630,493	221,784,805
H26年度	入院	38,212,340	36,425,765	43,296,228	50,736,106	56,189,200	52,306,160	50,574,428	41,988,806	35,585,838	52,724,196	55,310,556	43,308,446	556,658,069
	外来	17,797,062	17,796,731	20,049,055	19,340,258	19,229,317	23,247,790	23,660,812	20,714,614	21,660,371	22,598,824	19,596,020	22,035,149	247,726,003
H27年度	入院	47,510,526	37,503,426	56,647,832	43,508,962	53,688,554	57,615,920	46,611,796	37,468,508	40,902,172	44,780,742	37,197,754	37,533,760	540,969,952
	外来	20,902,459	18,196,377	21,502,833	20,153,478	20,799,216	21,172,560	23,734,910	18,090,262	18,328,548	19,721,277	19,965,561	22,309,511	244,876,992
H28年度	入院	39,030,774	38,681,729	38,287,806	32,223,031	39,999,857	50,483,018	26,704,541	41,034,073	40,051,676	38,679,943	34,025,802	31,058,289	450,260,539
	外来	17,477,062	18,591,911	20,987,332	19,522,762	21,175,644	21,535,119	20,399,427	21,536,026	20,358,635	19,348,651	19,712,285	22,724,108	243,368,962
H29年度	入院	56,507,836	57,273,640	59,275,138	51,745,793	61,175,501	72,018,137	47,103,968	62,570,099	60,410,311	58,028,594	53,738,087	53,782,397	693,629,501
	外来	48,641,676	48,484,554	36,630,813	37,352,075	54,652,628	39,280,051	32,734,908	45,742,455	47,864,195	43,167,992	44,359,127	51,267,788	530,178,262
合計	69,157,011	66,950,812	56,777,753	55,469,815	75,575,753	58,764,528	55,880,364	66,762,421	66,460,163	63,209,935	63,929,007	71,467,584	770,105,146	

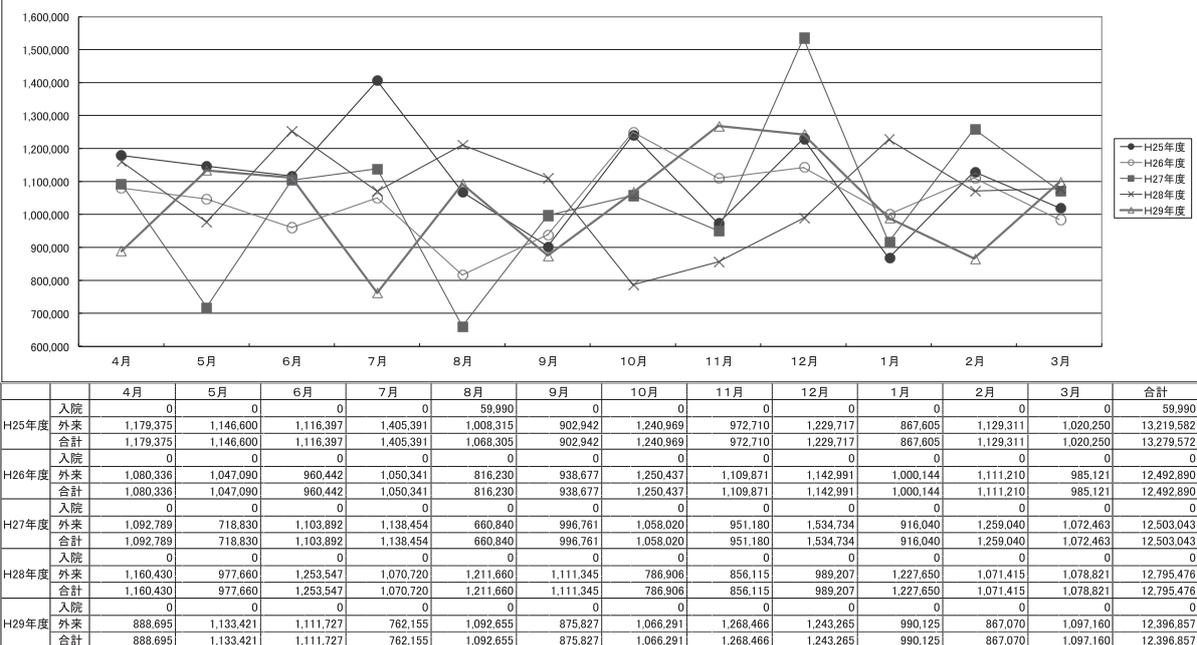
脳神経外科・1日平均入院患者数



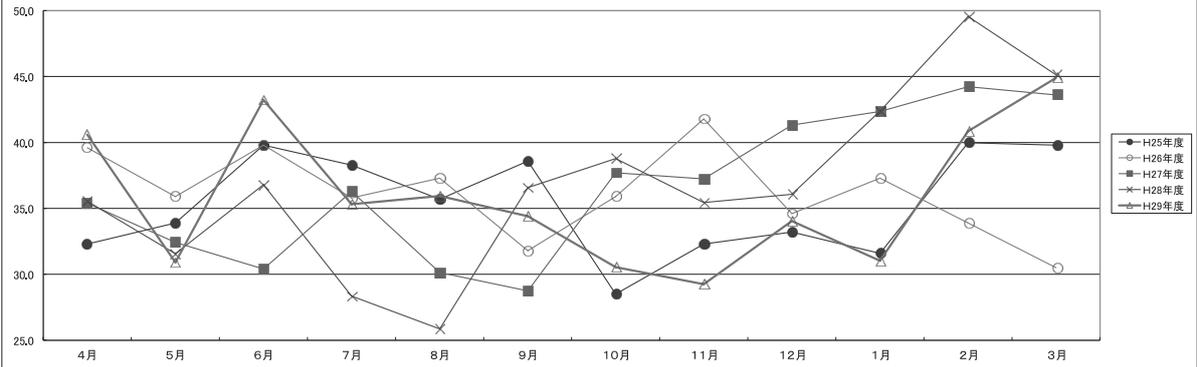
脳神経外科・1日平均外来患者数



脳神経外科・合計稼働額

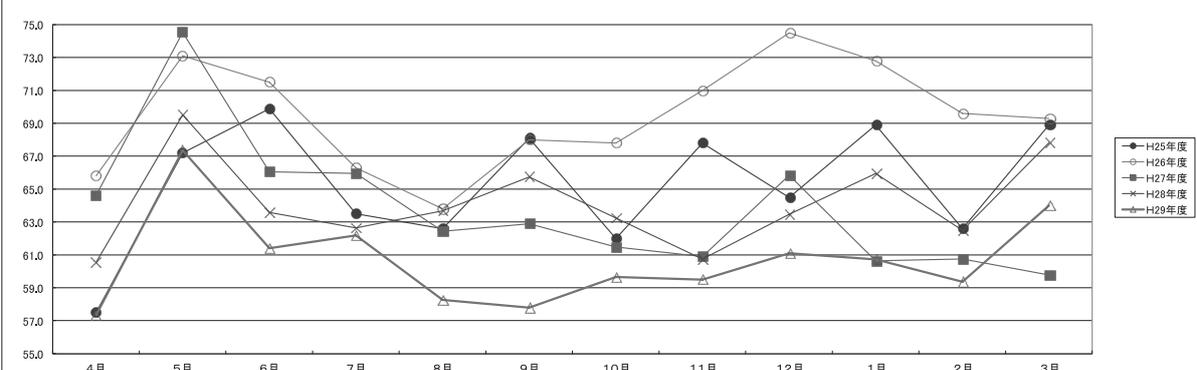


整形外科・1日平均入院患者数



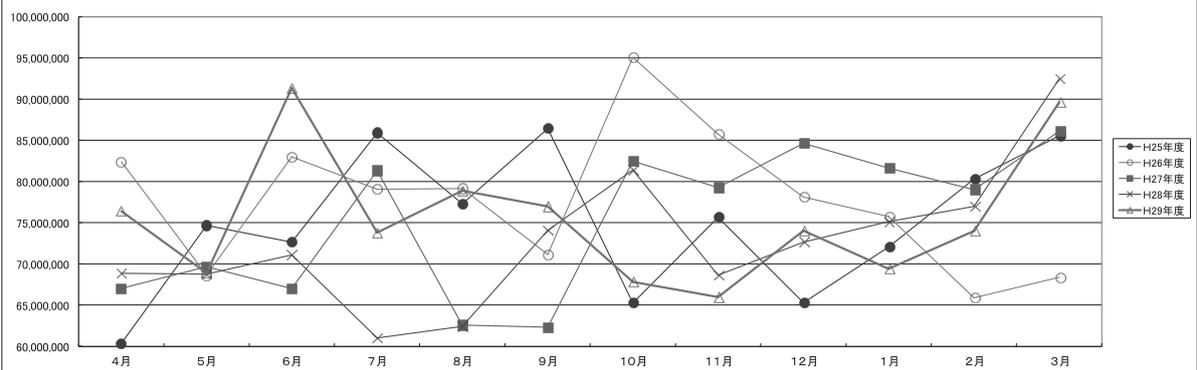
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	32.3	33.9	39.8	38.3	35.7	38.6	28.5	32.3	33.2	31.6	40.0	39.8	35.3
H26年度	39.6	35.9	39.8	35.8	37.3	31.8	35.9	41.8	34.6	37.3	33.9	30.5	36.2
H27年度	35.4	32.4	30.4	36.3	30.1	28.7	37.7	37.2	41.3	42.4	44.2	43.8	36.7
H28年度	35.5	31.5	36.8	28.3	25.8	36.8	38.8	35.4	36.1	42.4	49.6	45.1	36.7
H29年度	40.6	30.9	43.2	35.3	35.9	34.4	30.5	29.2	34.0	31.0	40.9	44.9	35.9

整形外科・1日平均外来患者数



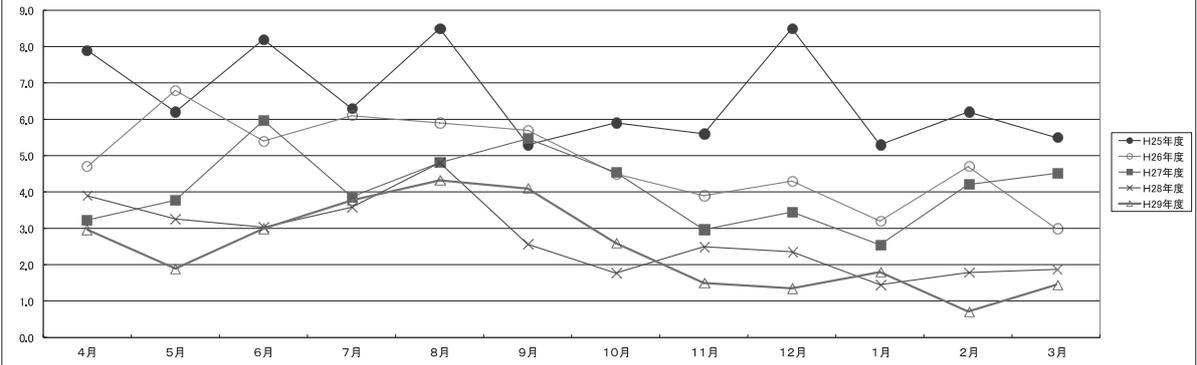
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	57.5	67.2	69.9	63.5	62.6	68.1	62.0	67.8	64.5	68.9	62.6	68.9	65.2
H26年度	65.8	73.1	71.5	66.3	63.8	68.0	67.8	71.0	74.5	72.8	69.6	69.3	69.3
H27年度	64.6	74.5	66.0	66.0	62.4	62.9	61.5	60.9	65.8	60.6	60.8	59.8	63.7
H28年度	60.6	69.5	63.6	62.7	63.7	65.8	63.3	60.8	63.5	65.9	62.5	67.8	64.1
H29年度	57.4	67.4	61.4	62.2	58.3	57.8	59.7	59.5	61.1	60.7	59.4	64.0	60.7

整形外科・合計稼働額



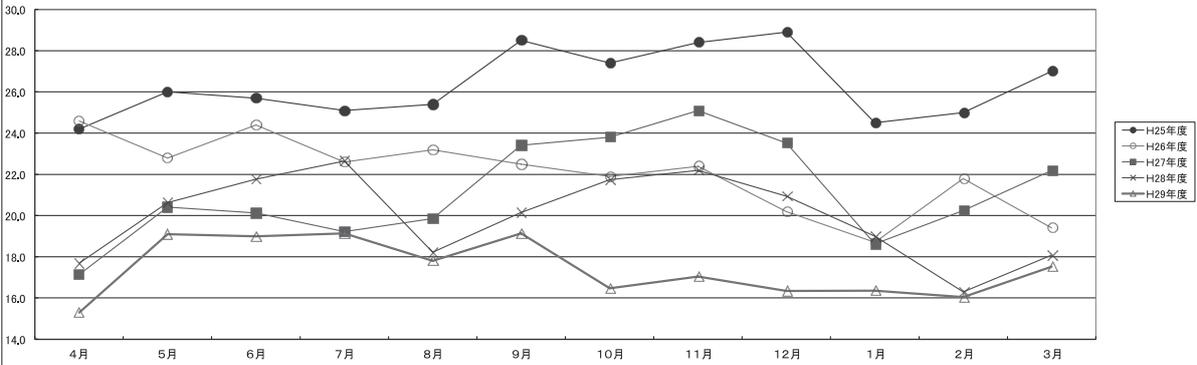
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	44,682,860	56,342,260	55,589,632	66,225,212	60,847,059	68,725,145	48,473,169	56,763,887	50,557,289	55,218,153	64,430,726	68,459,933	696,315,325
	外来	15,687,003	18,332,045	17,056,426	19,671,506	16,469,174	17,706,489	16,794,040	18,882,252	14,738,642	16,849,099	15,893,749	17,090,389	205,170,814
H26年度	入院	64,127,032	51,478,596	63,553,922	58,374,828	62,858,266	54,051,959	76,083,961	72,688,548	61,408,815	60,827,443	51,672,244	50,740,304	727,865,918
	外来	18,267,205	17,162,335	19,449,494	20,664,930	16,291,576	17,119,129	18,977,160	13,066,963	16,708,902	14,927,002	14,205,136	17,639,510	204,479,342
H27年度	入院	52,386,061	52,955,519	51,326,417	62,846,365	47,371,976	45,770,792	67,595,146	64,105,830	69,930,902	67,817,476	65,324,259	68,330,765	715,761,506
	外来	14,648,715	16,705,945	15,686,906	18,466,194	15,208,209	16,554,688	14,898,868	15,187,269	14,708,475	13,823,300	13,679,659	17,774,021	187,342,249
H28年度	入院	68,871,225	68,752,574	71,098,157	61,006,581	62,405,972	74,057,083	81,406,547	68,644,859	72,631,389	75,144,986	76,996,634	92,451,737	873,667,744
	外来	13,414,946	15,558,294	16,384,453	14,773,514	16,488,785	13,875,106	15,855,303	15,361,431	15,414,457	15,448,253	14,598,774	18,568,147	185,741,463
H29年度	入院	60,365,505	51,211,298	74,562,830	57,740,217	62,506,695	61,050,779	52,160,852	49,671,297	58,885,107	55,028,643	59,967,809	73,318,854	716,469,886
	外来	16,041,620	17,670,221	16,772,001	16,073,485	16,373,871	15,919,865	15,670,432	16,295,364	15,163,980	14,369,856	14,024,637	16,283,437	190,658,769
合計	76,407,125	68,881,519	91,334,331	73,813,702	78,880,566	76,970,644	67,831,284	65,966,661	74,049,087	69,398,499	73,992,446	89,602,291	907,128,655	

産婦人科・1日平均入院患者数



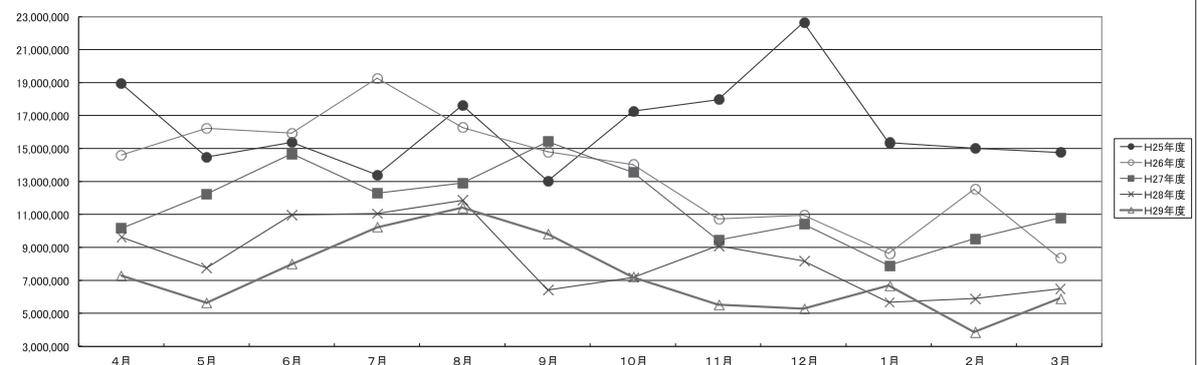
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	7.9	6.2	8.2	6.3	8.5	5.3	5.9	5.6	8.5	5.3	6.2	5.5	6.6
H26年度	4.7	6.8	5.4	6.1	5.9	5.7	4.5	3.9	4.3	3.2	4.7	3.0	4.9
H27年度	3.2	3.8	6.0	3.9	4.8	5.5	4.5	3.0	3.5	2.5	4.2	4.5	4.1
H28年度	3.9	3.3	3.0	3.6	4.8	2.6	1.8	2.5	2.4	1.5	1.8	1.9	2.7
H29年度	3.0	1.9	3.0	3.8	4.3	4.1	2.6	1.5	1.4	1.8	0.7	1.5	2.5

産婦人科・1日平均外来患者数



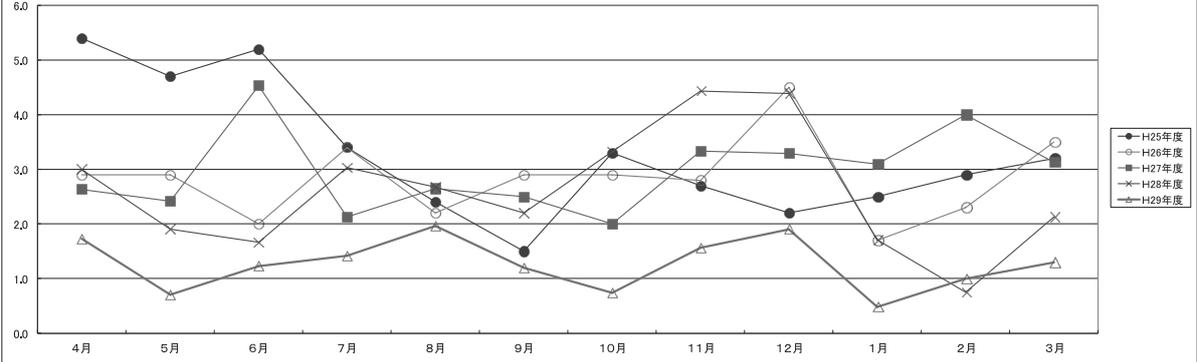
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	24.2	26.0	25.7	25.1	25.4	28.5	27.4	28.4	28.9	24.5	25.0	27.0	26.3
H26年度	24.6	22.8	24.4	22.6	23.2	22.5	21.9	22.4	20.2	18.7	21.8	19.4	22.1
H27年度	17.1	20.4	20.1	19.2	19.9	23.4	23.8	25.1	23.5	18.6	20.3	22.2	21.1
H28年度	17.7	20.6	21.8	22.7	18.2	20.2	21.8	22.2	20.9	19.0	16.3	18.1	19.9
H29年度	15.3	19.1	19.0	19.2	17.8	19.2	16.5	17.1	16.4	16.4	16.1	17.5	17.5

産婦人科・合計稼働額



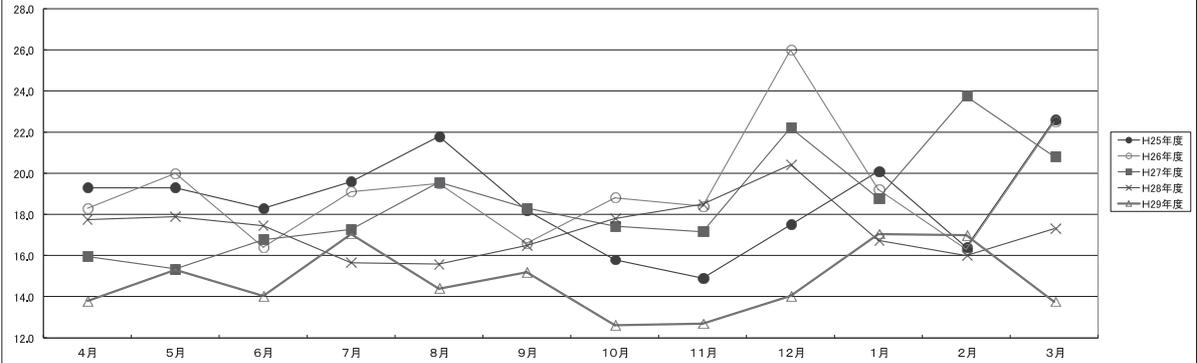
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	15,423,153	10,564,367	11,762,155	9,370,715	13,852,526	9,476,139	12,820,673	13,934,172	18,451,627	11,357,902	10,689,858	10,266,092	147,969,379
	外来	3,511,355	3,919,218	3,613,481	4,025,321	3,765,468	3,544,936	4,445,812	4,036,239	4,208,062	4,006,327	4,331,005	4,498,781	47,906,005
	合計	18,934,508	14,483,585	15,375,636	13,396,036	17,617,994	13,021,075	17,266,485	17,970,411	22,659,689	15,364,229	15,020,863	14,764,873	195,875,384
H26年度	入院	9,464,115	12,407,238	11,822,021	15,178,616	11,888,240	11,909,001	10,437,342	7,655,680	8,429,822	5,979,262	9,406,956	5,662,102	120,240,395
	外来	5,144,818	3,828,462	4,110,635	4,088,760	4,390,732	2,899,969	3,598,714	3,082,312	2,521,400	2,658,128	3,120,296	2,703,296	42,147,522
	合計	14,608,933	16,235,700	15,932,656	19,267,376	16,278,972	14,808,970	14,036,056	10,737,992	10,951,222	8,637,390	12,527,252	8,369,398	162,387,917
H27年度	入院	7,782,891	10,012,017	11,884,556	9,630,097	10,101,872	12,179,558	10,354,073	6,137,751	7,967,506	5,326,146	6,666,081	7,644,630	105,687,178
	外来	2,387,787	2,242,863	2,805,968	2,664,673	2,811,775	3,240,123	3,205,173	3,321,008	2,451,516	2,587,030	2,872,346	3,154,585	33,744,847
	合計	10,170,678	12,254,880	14,690,524	12,294,770	12,913,647	15,419,681	13,559,246	9,458,759	10,419,022	7,913,176	9,538,427	10,799,215	139,432,025
H28年度	入院	7,728,557	5,419,551	7,761,581	8,073,813	9,227,682	3,722,893	4,054,006	6,029,887	5,576,966	3,343,055	3,615,321	3,886,255	67,989,567
	外来	2,352,854	2,350,048	3,229,177	2,996,344	2,637,527	2,696,072	3,139,038	3,086,784	2,606,698	2,337,501	2,297,141	2,609,602	32,338,786
	合計	9,631,411	7,769,599	10,990,758	11,070,157	11,865,209	6,418,965	7,193,044	9,116,671	8,183,664	5,680,556	5,912,462	6,495,857	100,328,353
H29年度	入院	5,091,789	3,221,937	5,142,338	7,637,268	8,577,684	7,573,779	5,110,540	3,209,488	3,187,489	4,510,540	1,637,748	3,497,548	58,398,126
	外来	2,206,648	2,428,580	2,849,807	2,586,836	2,850,940	2,250,757	2,096,354	2,333,253	2,107,401	2,189,666	2,239,589	2,409,340	28,549,171
	合計	7,298,437	5,650,517	7,992,145	10,224,104	11,428,604	9,824,536	7,206,894	5,542,741	5,294,890	6,700,206	3,877,337	5,906,886	86,947,297

小児科・1日平均入院患者数



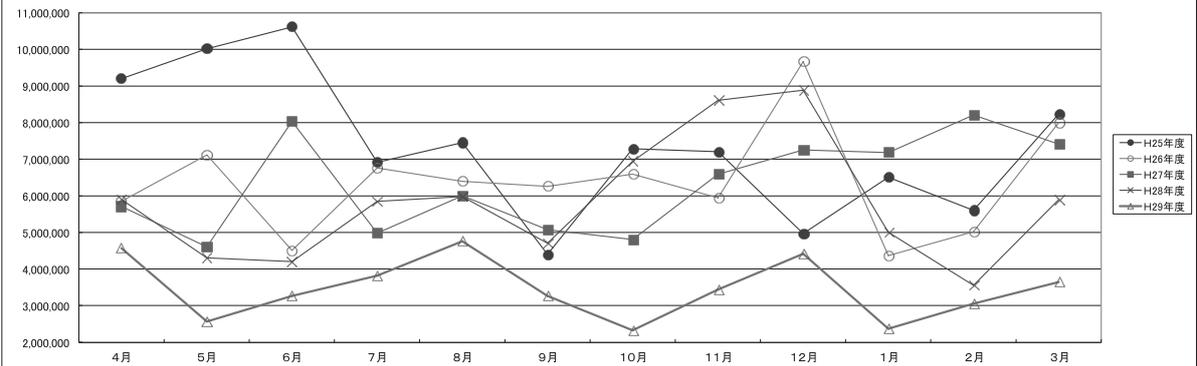
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	5.4	4.7	5.2	3.4	2.4	1.5	3.3	2.7	2.2	2.5	2.9	3.2	3.3
H26年度	2.9	2.9	2.0	3.4	2.2	2.9	2.9	2.8	4.5	1.7	2.3	3.5	2.8
H27年度	2.6	2.4	4.5	2.1	2.6	2.5	2.0	3.3	3.3	3.1	4.0	3.1	3.0
H28年度	3.0	1.9	1.7	3.0	2.7	2.2	3.3	4.4	4.4	1.7	0.8	2.1	2.6
H29年度	1.7	0.7	1.2	1.4	2.0	1.2	0.7	1.6	1.9	0.5	1.0	1.3	1.3

小児科・1日平均外来患者数

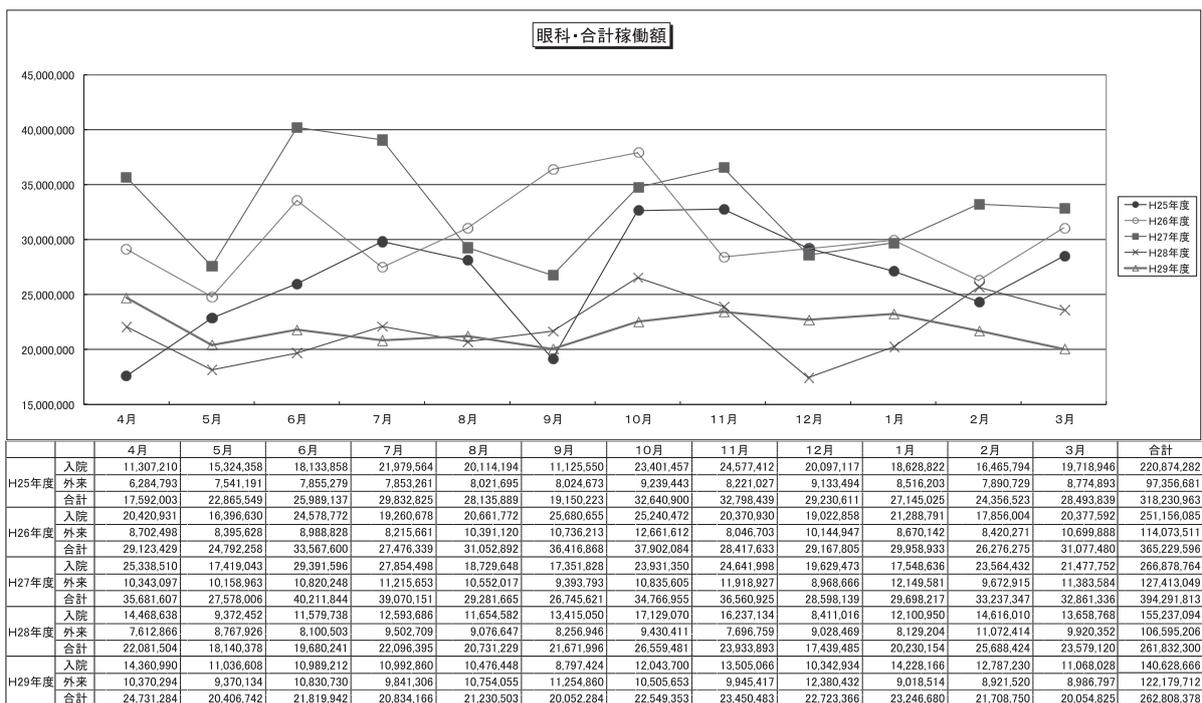
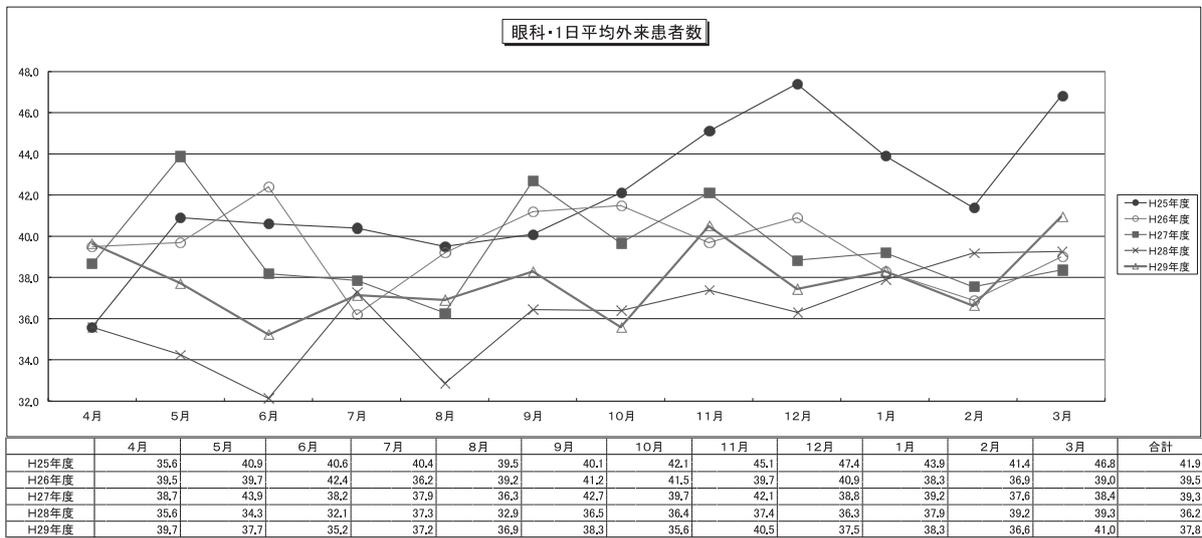
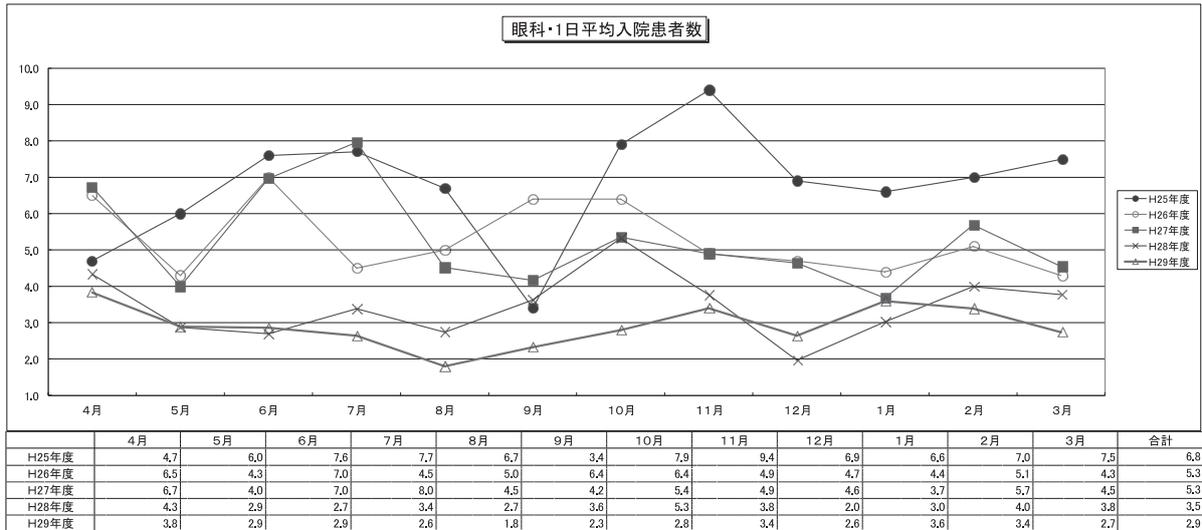


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	19.3	19.3	18.3	19.6	21.8	18.2	15.8	14.9	17.5	20.1	16.4	22.6	18.7
H26年度	18.3	20.0	16.4	19.1	19.5	16.6	18.8	18.4	26.0	19.2	16.3	22.5	19.3
H27年度	16.0	15.4	16.8	17.3	19.6	18.3	17.4	17.2	22.2	18.8	23.8	20.8	18.6
H28年度	17.8	17.9	17.5	15.7	15.6	16.5	17.8	18.5	20.4	16.7	16.0	17.3	17.3
H29年度	13.8	15.3	14.0	17.1	14.4	15.2	12.6	12.7	14.1	17.1	17.0	13.8	14.7

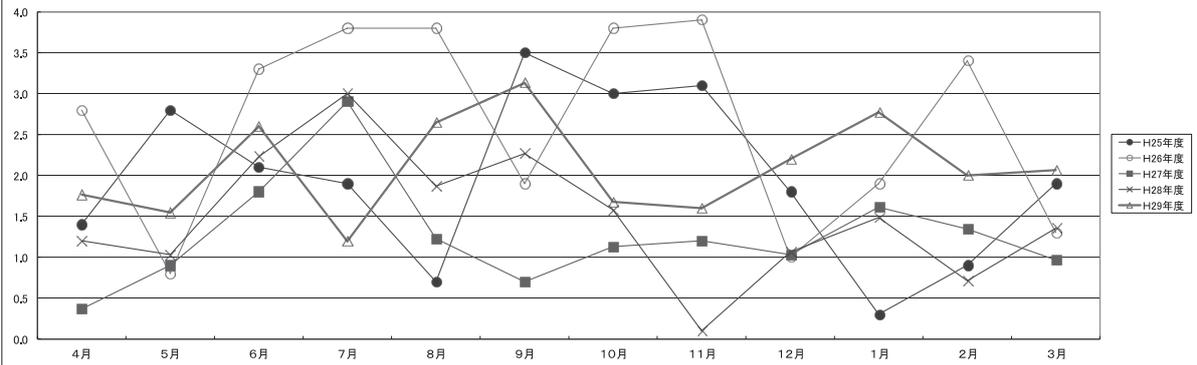
小児科・合計稼働額



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	6,702,945	7,607,360	7,220,125	4,532,790	3,656,130	2,132,290	4,878,220	3,650,640	3,254,136	3,353,615	4,170,095	4,781,610	55,939,956
	外来	2,498,327	2,413,062	3,392,744	2,380,306	3,794,806	2,266,459	2,406,222	3,554,227	1,714,683	3,153,667	1,436,310	3,453,338	32,464,151
H26年度	入院	4,228,484	4,212,538	2,990,338	4,791,924	3,227,386	4,233,006	4,612,298	3,918,188	6,497,436	2,342,874	3,125,282	5,142,028	49,321,782
	外来	1,823,707	2,909,208	1,521,971	1,968,361	3,169,267	2,023,447	1,981,552	2,031,432	3,173,305	2,024,114	1,892,263	2,858,921	27,177,548
H27年度	入院	5,852,191	7,121,746	4,512,309	6,760,285	6,396,653	6,256,453	6,593,850	5,949,620	9,670,741	4,366,988	5,017,545	8,000,949	76,499,330
	外来	3,730,758	3,459,006	6,555,204	3,509,150	4,480,918	3,679,768	3,054,184	4,740,550	5,011,280	5,045,040	5,694,098	4,720,856	53,680,812
H28年度	入院	4,312,646	2,777,974	2,476,480	4,470,920	4,179,906	3,164,156	4,950,492	6,344,112	6,583,471	2,590,670	1,051,992	3,020,919	45,923,738
	外来	1,591,962	1,526,941	1,731,966	1,381,936	1,801,262	1,542,622	1,991,995	2,267,486	2,306,664	2,414,380	2,503,099	2,876,476	23,936,789
H29年度	入院	2,390,062	1,091,584	1,826,078	2,143,648	3,067,896	1,833,988	1,121,158	2,187,872	3,054,550	752,900	1,328,696	2,024,634	22,823,066
	外来	2,188,621	1,479,426	1,445,135	1,683,292	1,698,045	1,438,183	1,210,072	1,257,191	1,388,068	1,623,270	1,729,184	1,624,177	18,744,664
合計	4,578,683	2,571,010	3,271,213	3,826,940	4,765,941	3,272,171	2,331,230	3,445,063	4,422,618	2,376,170	3,057,880	3,648,811	41,567,730	

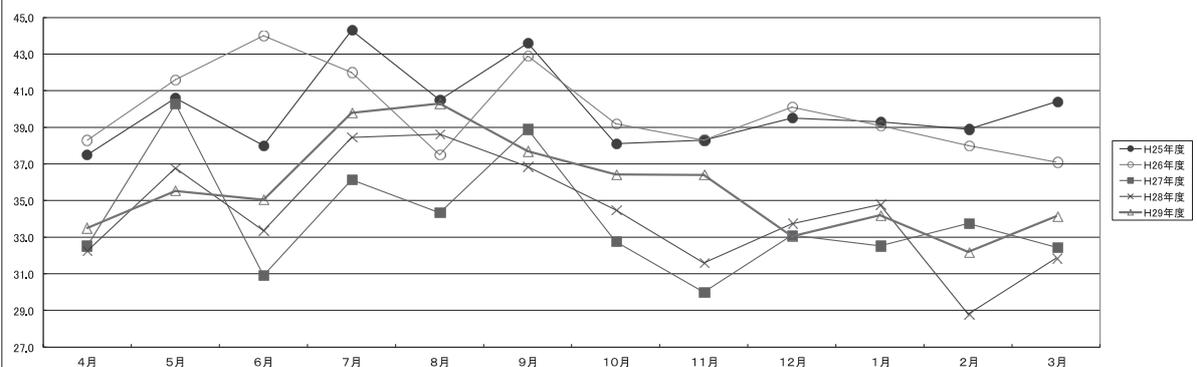


皮膚科・1日平均入院患者数



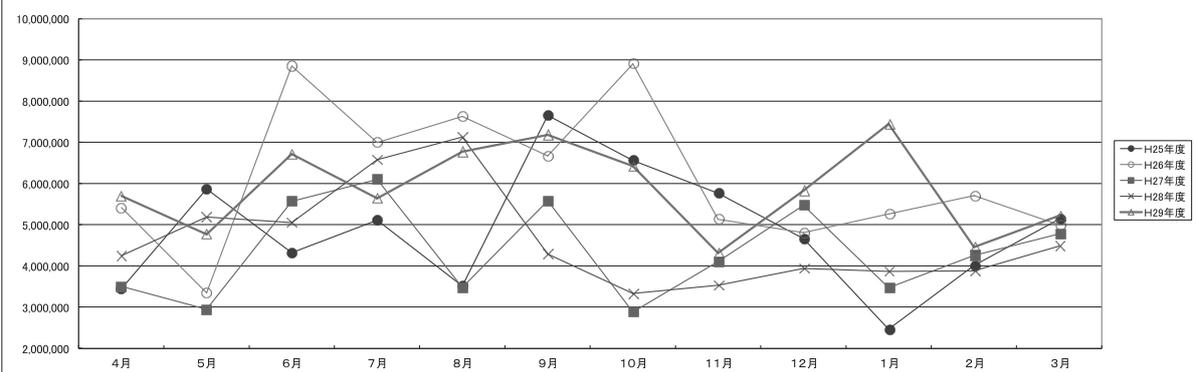
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	1.4	2.8	2.1	1.9	0.7	3.5	3.0	3.1	1.8	0.3	0.9	1.9	2.0
H26年度	2.8	0.8	3.3	3.8	3.8	1.9	3.8	3.9	1.0	1.9	3.4	1.3	2.6
H27年度	0.4	0.9	1.8	2.9	1.2	0.7	1.1	1.2	1.0	1.6	1.3	1.0	1.3
H28年度	1.2	1.0	2.2	3.0	1.9	2.3	1.6	0.1	1.1	1.5	0.7	1.4	1.5
H29年度	1.8	1.5	2.6	1.2	2.6	3.1	1.7	1.6	2.2	2.8	2.0	2.1	2.1

皮膚科・1日平均外来患者数



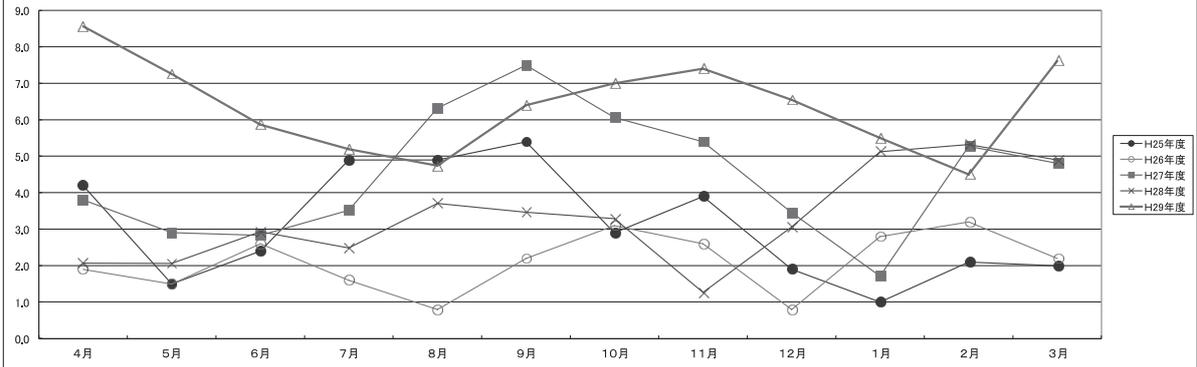
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	37.5	40.6	38.0	44.3	40.5	43.8	38.1	38.3	39.5	39.3	38.9	40.4	39.9
H26年度	38.3	41.6	44.0	42.0	37.5	42.9	39.2	38.3	40.1	39.1	38.0	37.1	39.8
H27年度	32.5	40.3	30.9	36.1	34.3	38.9	32.8	30.0	33.1	32.5	33.8	32.5	33.9
H28年度	32.3	36.8	33.4	38.5	38.6	36.9	34.5	31.6	33.7	34.8	28.8	31.9	34.3
H29年度	33.5	35.5	35.0	39.8	40.3	37.7	36.4	36.4	33.1	34.2	32.2	34.1	35.7

皮膚科・合計稼働額



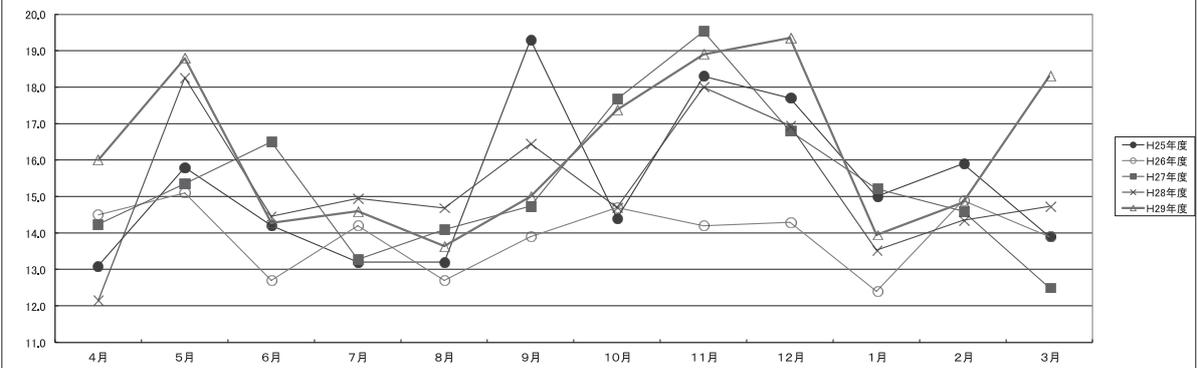
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	入院 953,610	2,969,824	1,907,510	1,985,360	587,530	4,404,966	3,967,636	3,671,418	1,759,974	544,940	1,079,064	1,873,522	25,705,354
H25年度	外来 2,494,777	2,897,648	2,411,317	3,125,726	2,923,370	3,251,350	2,594,103	2,093,111	2,905,749	1,920,204	2,930,651	3,263,736	32,811,742
H25年度	合計 3,448,387	5,867,472	4,318,827	5,111,086	3,510,900	7,656,316	6,561,739	5,764,529	4,665,723	2,465,144	4,009,715	5,137,258	58,517,096
H26年度	入院 2,722,054	950,480	4,867,542	3,347,830	4,940,878	2,131,926	6,672,646	4,709,984	3,274,610	1,373,400	2,239,742	2,818,600	14,088,794
H26年度	外来 2,694,041	2,393,860	3,987,240	3,848,847	2,690,504	4,540,720	4,191,778	1,859,369	3,434,920	3,022,380	2,890,260	3,587,020	38,940,939
H26年度	合計 5,416,095	3,344,340	8,854,782	6,996,677	7,631,382	6,672,646	8,901,762	5,133,979	4,808,320	5,262,122	5,708,860	4,995,814	73,726,779
H27年度	入院 366,590	961,160	1,823,906	2,954,740	948,430	733,510	1,000,130	1,466,530	1,168,396	1,693,932	1,007,034	886,522	15,012,880
H27年度	外来 3,137,717	1,989,017	3,745,764	3,149,976	2,531,421	4,851,870	1,883,478	2,639,930	4,307,448	1,776,900	3,247,133	3,897,400	37,158,054
H27年度	合計 3,504,307	2,950,177	5,569,670	6,104,716	3,479,851	5,585,380	2,883,608	4,106,460	5,475,844	3,470,832	4,254,167	4,783,922	52,170,934
H28年度	入院 1,143,630	1,130,840	2,263,430	4,036,104	2,057,514	1,929,756	806,330	94,730	1,148,580	1,677,430	472,850	1,286,710	18,047,904
H28年度	外来 3,106,274	4,057,810	2,788,910	2,546,210	5,071,508	2,362,590	2,526,528	3,436,173	2,793,889	2,188,418	3,408,919	3,198,659	37,485,888
H28年度	合計 4,249,904	5,188,650	5,052,340	6,582,314	7,129,022	4,292,346	3,332,858	3,530,903	3,942,469	3,865,848	3,881,769	4,485,369	55,533,792
H29年度	入院 1,899,678	2,084,327	2,639,822	1,650,702	3,267,404	3,647,996	2,648,458	1,628,460	2,994,190	3,494,788	1,932,734	2,246,980	30,135,539
H29年度	外来 3,800,771	2,680,970	4,074,291	3,990,274	3,507,779	3,534,370	3,778,883	2,686,434	2,833,250	3,950,767	2,522,634	2,974,122	40,334,545
H29年度	合計 5,700,449	4,765,297	6,714,113	5,640,976	6,775,183	7,182,366	6,427,341	4,314,894	5,827,440	7,445,555	4,455,368	5,221,102	70,470,084

形成外科・1日平均入院患者数



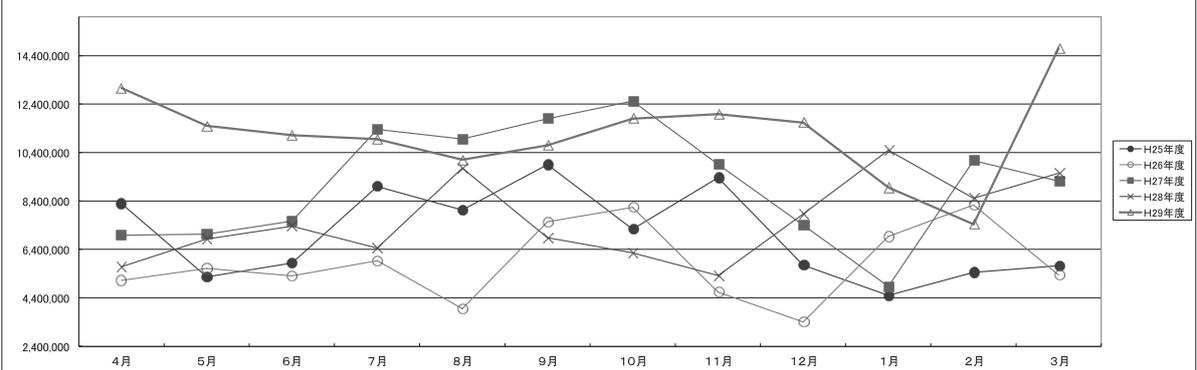
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	4.2	1.5	2.4	4.9	4.9	5.4	2.9	3.9	1.9	1.0	2.1	2.0	3.1
H26年度	1.9	1.5	2.6	1.6	0.8	2.2	3.1	2.6	0.8	2.8	3.2	2.2	2.1
H27年度	3.8	2.9	2.8	3.5	6.3	7.5	6.1	5.4	3.5	1.7	5.3	4.8	4.5
H28年度	2.1	2.1	2.9	2.5	3.7	3.5	3.3	1.3	3.1	5.1	5.3	4.9	3.3
H29年度	8.6	7.3	5.9	5.2	4.7	6.4	7.0	7.4	6.5	5.5	4.5	7.8	6.4

形成外科・1日平均外来患者数

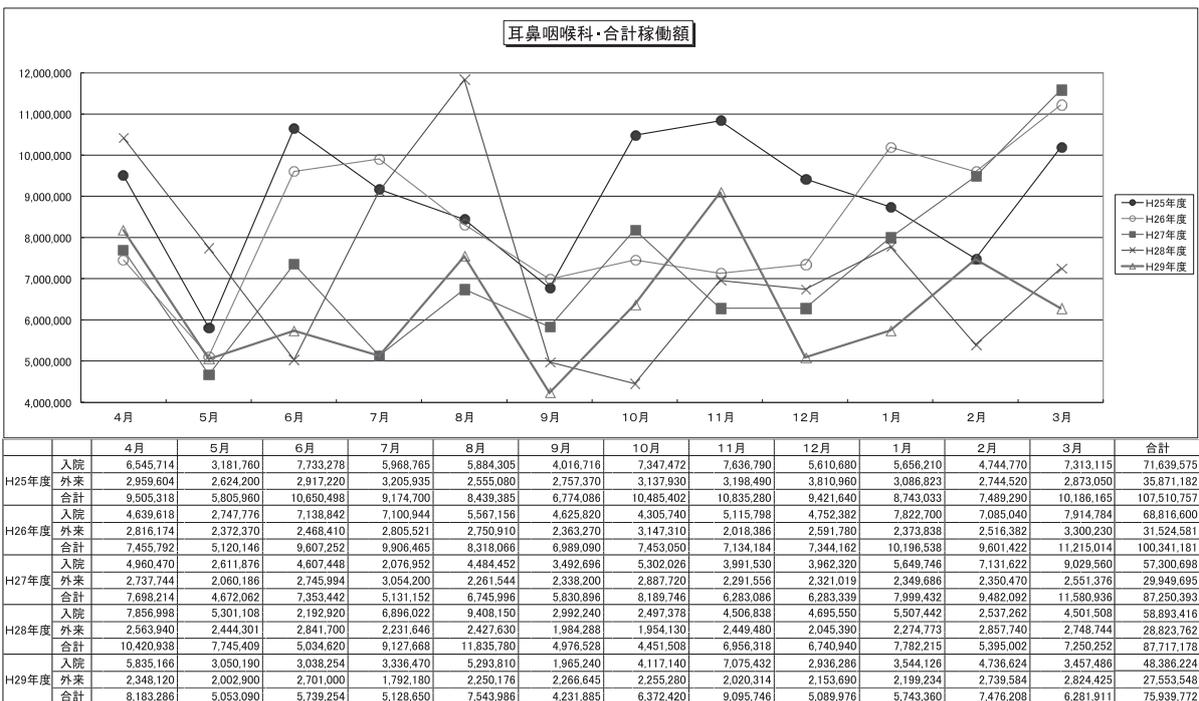
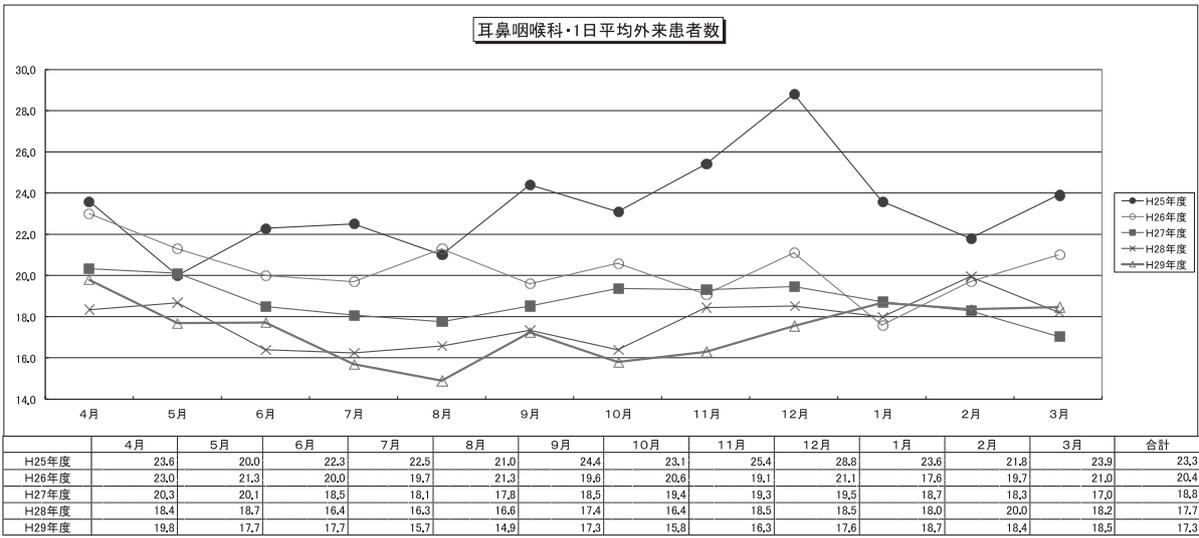
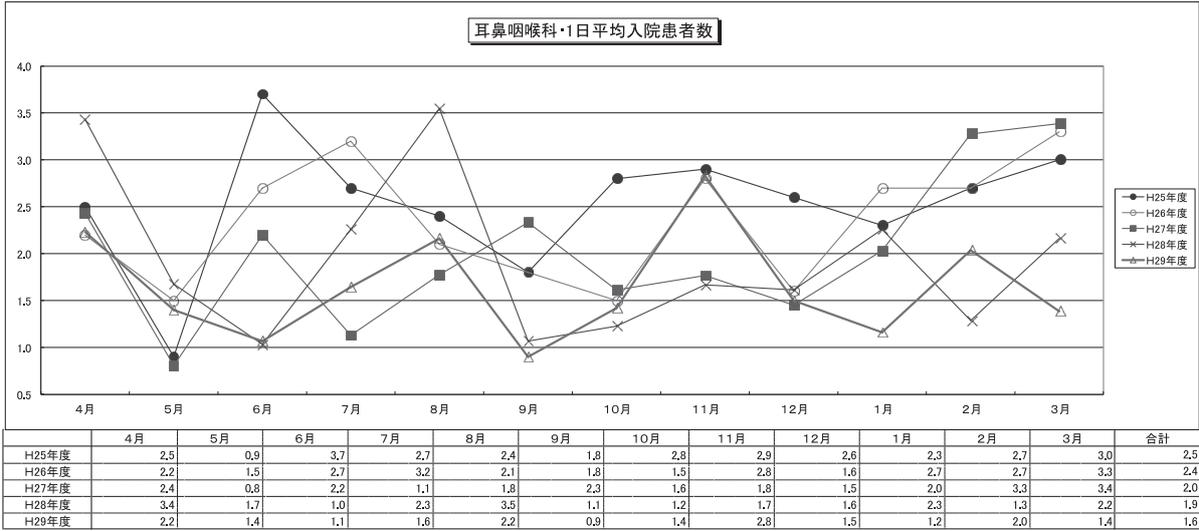


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	13.1	15.8	14.2	13.2	13.2	19.3	14.4	18.3	17.7	15.0	15.9	13.9	15.3
H26年度	14.5	15.1	12.7	14.2	12.7	13.9	14.7	14.2	14.3	12.4	14.9	13.9	14.0
H27年度	14.2	15.4	16.5	13.3	14.1	14.7	17.7	19.5	16.8	15.2	14.6	12.5	15.3
H28年度	12.2	18.3	14.5	15.0	14.7	16.5	14.7	18.0	16.9	13.5	14.4	14.7	15.2
H29年度	16.0	18.8	14.3	14.6	13.6	15.0	17.4	18.9	19.4	13.9	14.8	18.3	16.2

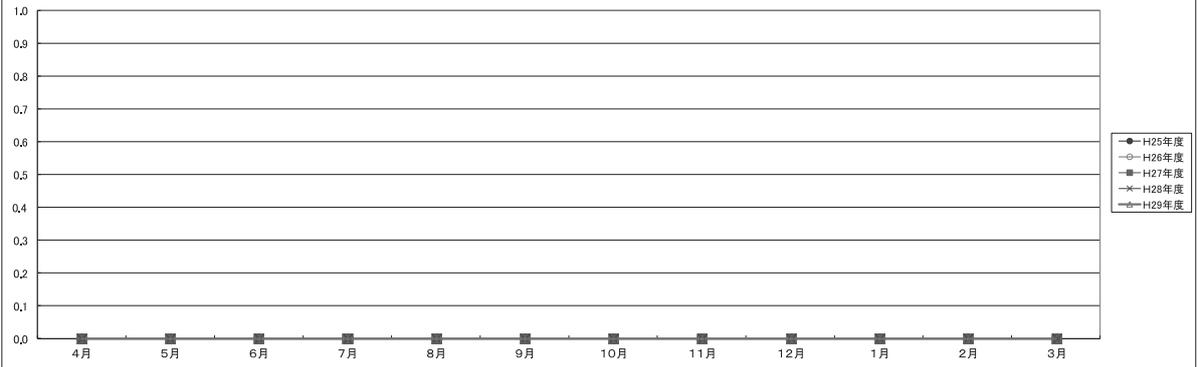
形成外科・合計稼働額



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	6,706,615	2,754,045	4,052,565	6,939,587	5,945,406	7,342,898	5,177,669	6,547,411	3,822,550	2,450,020	3,169,736	3,826,744	58,735,246
	外来	1,594,883	2,514,105	1,790,705	2,059,145	2,081,802	2,556,191	2,066,570	2,820,442	1,931,323	2,054,182	2,284,897	1,904,735	25,658,980
	合計	8,301,498	5,268,150	5,843,270	8,998,732	8,027,208	9,899,089	7,244,239	9,367,853	5,753,873	4,504,202	5,454,633	5,731,479	84,394,226
H26年度	入院	2,254,323	3,130,779	3,580,440	3,681,818	1,922,740	5,184,782	5,870,338	3,093,458	1,676,066	4,889,740	5,953,600	3,344,366	44,582,430
	外来	2,870,760	2,496,096	1,733,823	2,262,756	2,033,137	2,368,184	2,267,182	1,545,370	1,734,511	2,053,455	2,288,354	1,997,085	25,650,513
	合計	5,125,083	5,626,875	5,314,263	5,944,574	3,955,877	7,552,966	8,137,520	4,638,828	3,410,577	6,943,195	8,241,954	5,341,451	70,232,943
H27年度	入院	5,130,982	5,033,592	4,981,904	9,197,733	8,906,365	8,930,773	9,424,118	7,142,288	5,094,964	2,650,126	7,970,504	7,294,304	81,757,653
	外来	1,851,933	1,999,207	2,588,326	2,157,827	2,051,803	2,869,476	3,102,509	2,774,761	2,315,361	2,221,844	2,096,762	1,927,068	27,956,877
	合計	6,982,915	7,032,799	7,570,230	11,355,560	10,958,168	11,800,249	12,526,627	9,917,049	7,410,325	4,871,970	10,067,266	9,221,372	109,714,530
H28年度	入院	3,909,064	4,247,024	4,978,295	3,945,748	7,403,718	4,303,458	4,130,260	2,670,964	5,748,827	8,517,784	6,384,060	7,305,608	63,544,810
	外来	1,777,508	2,590,588	2,388,362	2,513,975	2,354,185	2,579,593	2,130,778	2,652,321	2,121,923	1,985,584	2,127,498	2,248,473	27,470,788
	合計	5,686,572	6,837,612	7,366,657	6,459,723	9,757,903	6,883,051	6,261,038	5,323,285	7,870,750	10,503,368	8,511,558	9,554,081	91,015,598
H29年度	入院	11,114,102	8,543,028	8,567,399	9,043,072	7,788,296	8,274,805	9,176,774	9,163,557	8,920,388	6,959,410	5,405,395	11,592,656	104,548,882
	外来	1,947,853	2,958,050	2,547,501	1,906,249	2,315,811	2,416,567	2,620,151	2,822,622	2,707,759	1,994,702	2,027,985	3,114,261	29,379,511
	合計	13,061,955	11,501,078	11,114,900	10,949,321	10,104,107	10,691,372	11,796,925	11,986,179	11,628,147	8,954,112	7,433,380	14,706,917	133,928,393

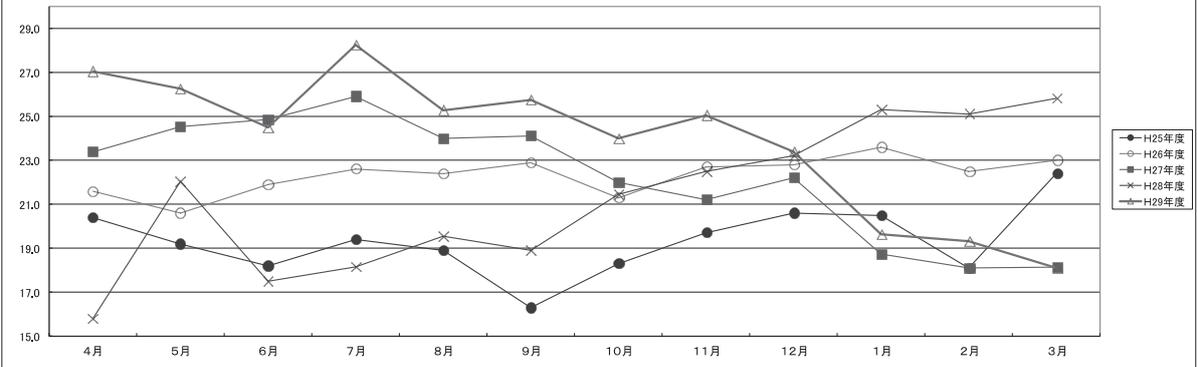


リハビリテーション科・1日平均入院患者数



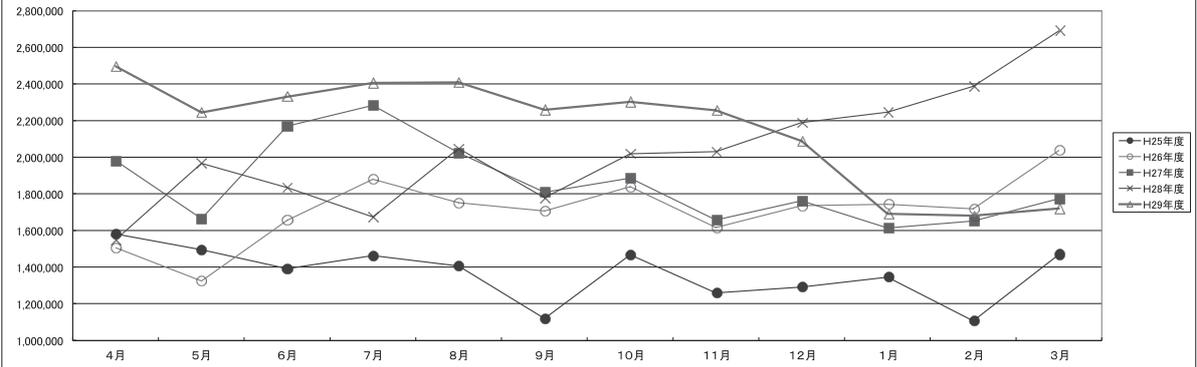
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H26年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H27年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H28年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H29年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

リハビリテーション科・1日平均外来患者数



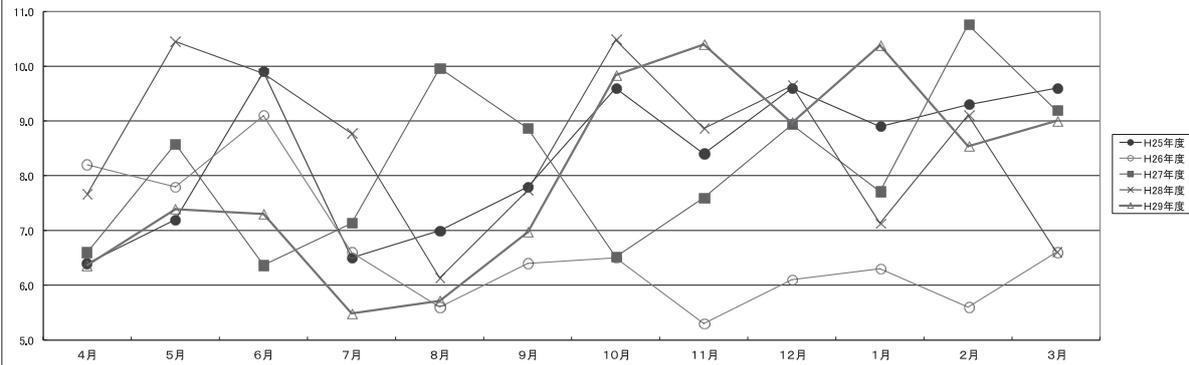
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	20.4	19.2	18.2	19.4	18.9	16.3	18.3	19.7	20.6	20.5	18.1	22.4	19.3
H26年度	21.6	20.6	21.9	22.6	22.4	22.9	21.3	22.7	22.8	23.6	22.5	23.0	22.3
H27年度	23.4	24.5	24.9	25.9	24.0	24.1	22.0	21.2	22.2	18.7	18.1	18.1	22.3
H28年度	15.8	22.1	17.5	18.2	19.5	18.9	21.5	22.5	23.2	25.3	25.1	25.8	21.2
H29年度	27.1	26.3	24.5	28.3	25.3	25.8	24.0	25.1	23.4	19.6	19.3	18.1	23.9

リハビリテーション科・合計稼働額



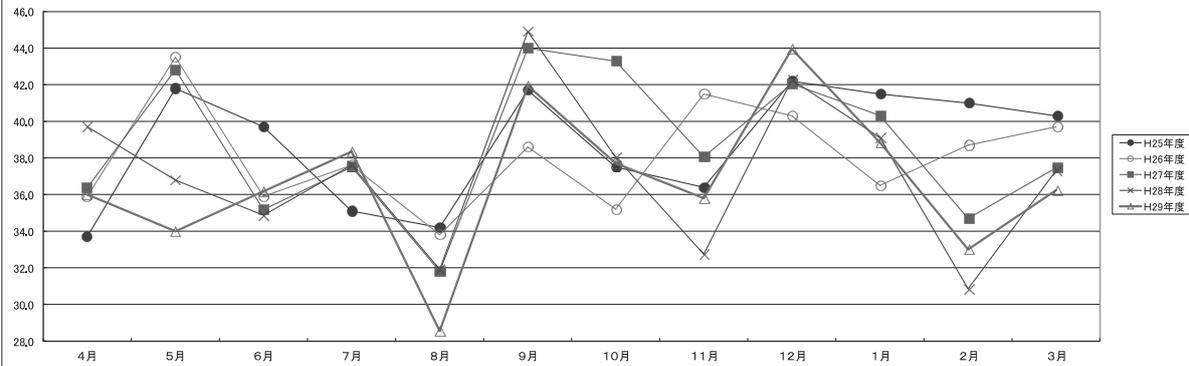
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外來	1,581,698	1,495,574	1,392,387	1,464,099	1,407,803	1,120,904	1,468,804	1,260,715	1,293,010	1,345,925	1,107,486	1,470,668
H26年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外來	1,506,913	1,324,959	1,655,912	1,880,319	1,752,449	1,707,742	1,840,091	1,616,561	1,737,158	1,743,901	1,718,576	2,037,316
H27年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外來	1,980,431	1,665,180	2,169,696	2,283,630	2,024,579	1,808,826	1,885,874	1,658,015	1,761,996	1,613,438	1,652,479	1,774,253
H28年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外來	1,549,415	1,967,204	1,834,471	1,674,227	2,047,489	1,779,224	2,018,247	2,030,771	2,189,163	2,245,615	2,387,405	2,690,691
H29年度	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外來	2,497,186	2,244,287	2,330,082	2,406,162	2,408,745	2,259,620	2,302,497	2,255,723	2,088,680	1,690,932	1,680,979	1,719,848

泌尿器科・1日平均入院患者数



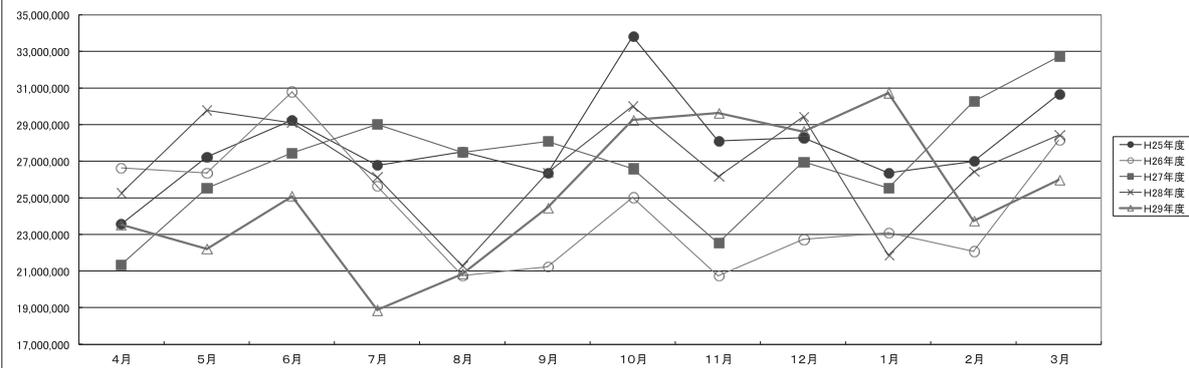
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	6.4	7.2	9.9	6.5	7.0	7.8	9.6	8.4	9.6	8.9	9.3	9.6	8.3
H26年度	8.2	7.8	9.1	6.6	5.6	6.4	6.5	5.3	6.1	6.3	5.6	6.6	6.7
H27年度	6.6	8.6	6.4	7.1	10.0	8.9	6.5	7.6	6.9	7.7	10.8	9.2	8.2
H28年度	7.7	10.5	9.9	8.8	6.1	7.7	10.5	8.9	9.6	7.1	9.1	6.6	8.5
H29年度	6.4	7.4	7.3	5.5	5.7	7.0	9.8	10.4	9.0	10.4	8.5	9.0	8.0

泌尿器科・1日平均外来患者数



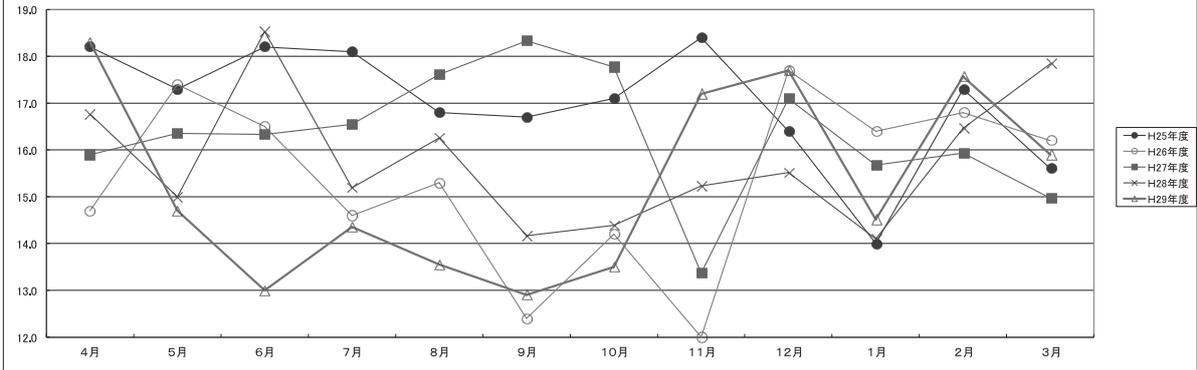
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	33.7	41.8	39.7	35.1	34.2	41.7	37.5	36.4	42.2	41.5	41.0	40.3	38.6
H26年度	35.9	43.5	35.9	37.6	33.8	38.6	35.2	41.5	40.3	36.5	38.7	39.7	38.0
H27年度	36.4	42.8	35.2	37.5	31.8	44.0	43.3	38.1	42.1	40.3	34.7	37.5	38.5
H28年度	39.7	36.8	34.9	37.6	31.9	44.9	38.1	32.8	42.3	39.1	30.9	37.3	37.1
H29年度	36.0	34.0	36.2	38.4	28.5	42.0	37.7	35.8	44.0	38.8	33.0	36.2	36.7

泌尿器科・合計稼働額



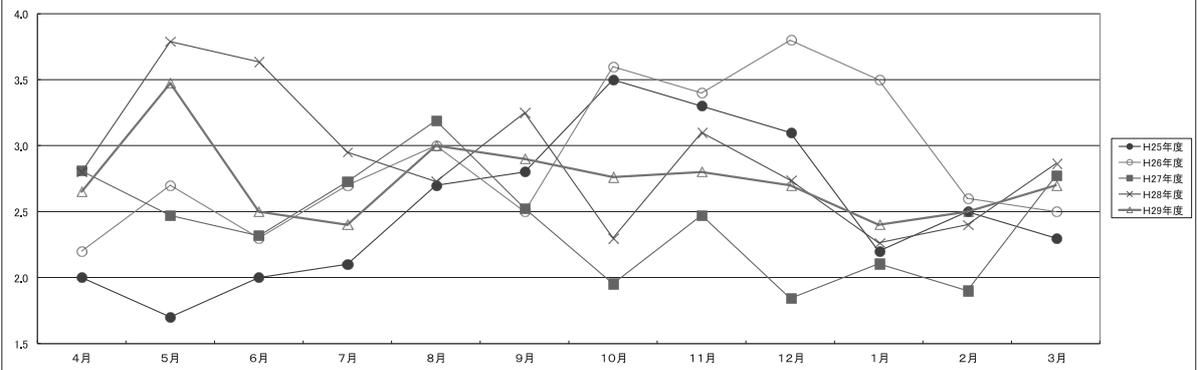
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	13,701,148	13,604,682	16,804,713	14,837,604	13,713,382	14,882,728	22,145,897	16,121,760	17,352,758	14,132,446	14,327,043	19,066,286	190,690,447
	外来	9,871,929	13,639,357	12,443,611	11,932,621	13,807,294	11,448,454	11,672,187	11,992,759	10,940,717	12,233,121	12,665,877	11,596,700	144,244,627
H26年度	入院	15,989,087	14,109,598	19,599,709	12,748,028	10,480,580	10,187,448	13,978,957	10,112,547	11,670,599	13,165,088	12,044,930	14,896,548	158,983,119
	外来	10,653,190	12,258,439	11,195,001	12,890,388	10,278,961	11,043,831	11,037,581	10,626,651	11,066,782	9,935,271	10,033,605	13,255,050	134,274,750
H27年度	入院	11,124,062	15,089,882	16,520,832	16,851,932	17,351,604	15,109,660	13,361,010	12,252,254	14,871,176	15,359,974	19,458,740	20,777,363	188,128,509
	外来	10,241,851	10,447,809	10,928,163	12,159,277	10,127,062	12,973,259	13,232,430	10,276,310	12,106,413	10,179,540	10,801,980	11,942,095	135,416,189
H28年度	入院	14,458,344	19,931,232	18,579,996	16,415,444	10,566,406	13,728,216	19,826,450	16,729,748	19,036,188	12,419,186	17,777,420	16,247,102	195,715,732
	外来	10,812,829	9,848,456	10,526,941	9,713,754	10,718,180	12,645,331	10,200,038	9,430,022	10,401,369	9,435,880	8,659,370	12,179,751	124,571,921
H29年度	入院	12,927,782	12,823,184	13,551,073	8,062,682	10,208,906	12,383,650	17,288,472	17,582,226	15,730,990	18,946,102	14,603,050	15,933,027	170,041,144
	外来	10,608,894	9,385,700	11,529,575	10,818,150	10,636,003	12,091,315	11,977,312	12,057,866	12,883,839	11,781,475	9,141,247	10,044,512	132,955,888
合計	23,536,676	22,208,894	25,080,648	18,880,832	20,844,909	24,474,965	29,265,784	29,640,092	28,614,829	30,727,577	23,744,297	25,977,539	302,997,032	

緩和ケア科・1日平均入院患者数



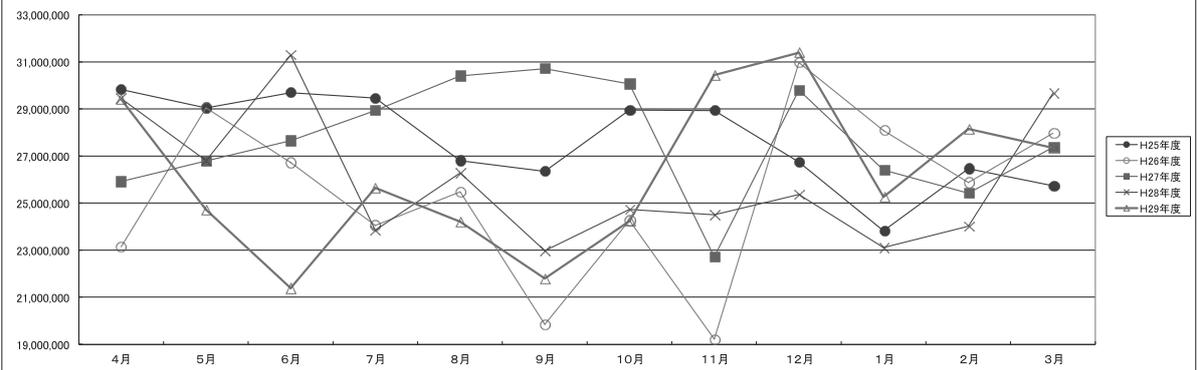
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	18.2	17.3	18.2	18.1	16.8	16.7	17.1	18.4	16.4	14.0	17.3	15.6	17.0
H26年度	14.7	17.4	16.5	14.6	15.3	12.4	14.2	12.0	17.7	16.4	16.8	16.2	15.4
H27年度	15.9	16.4	16.3	16.5	17.6	18.3	17.8	13.4	17.1	15.7	15.9	15.0	16.3
H28年度	16.8	15.0	16.5	15.2	16.3	14.2	14.4	15.2	15.5	14.1	16.5	17.8	15.6
H29年度	18.3	14.7	13.0	14.4	13.5	12.9	13.5	17.2	17.7	14.5	17.6	15.9	15.3

緩和ケア科・1日平均外来患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25年度	2.0	1.7	2.0	2.1	2.7	2.8	3.5	3.3	3.1	2.2	2.5	2.3	2.5
H26年度	2.2	2.7	2.3	2.7	3.0	2.5	3.6	3.4	3.8	3.5	2.6	2.5	2.9
H27年度	2.8	2.5	2.3	2.7	3.2	2.5	2.0	2.5	1.8	2.1	1.9	2.8	2.4
H28年度	2.8	3.8	3.6	3.0	2.7	3.3	2.3	3.1	2.7	2.3	2.4	2.9	2.9
H29年度	2.7	3.5	2.5	2.4	3.0	2.9	2.8	2.8	2.7	2.4	2.5	2.7	2.7

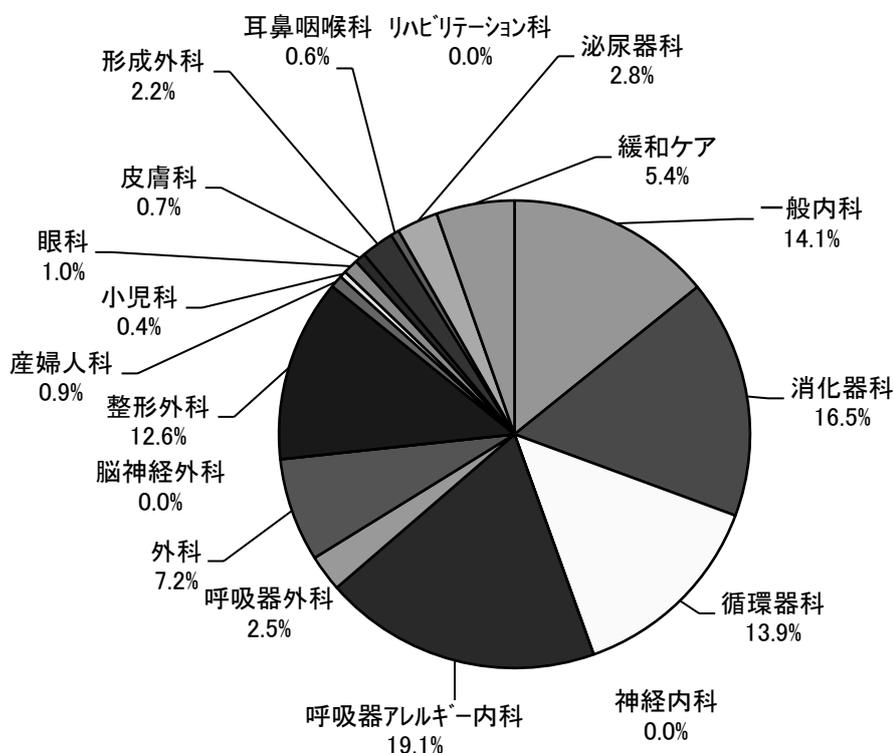
緩和ケア科・合計稼働額



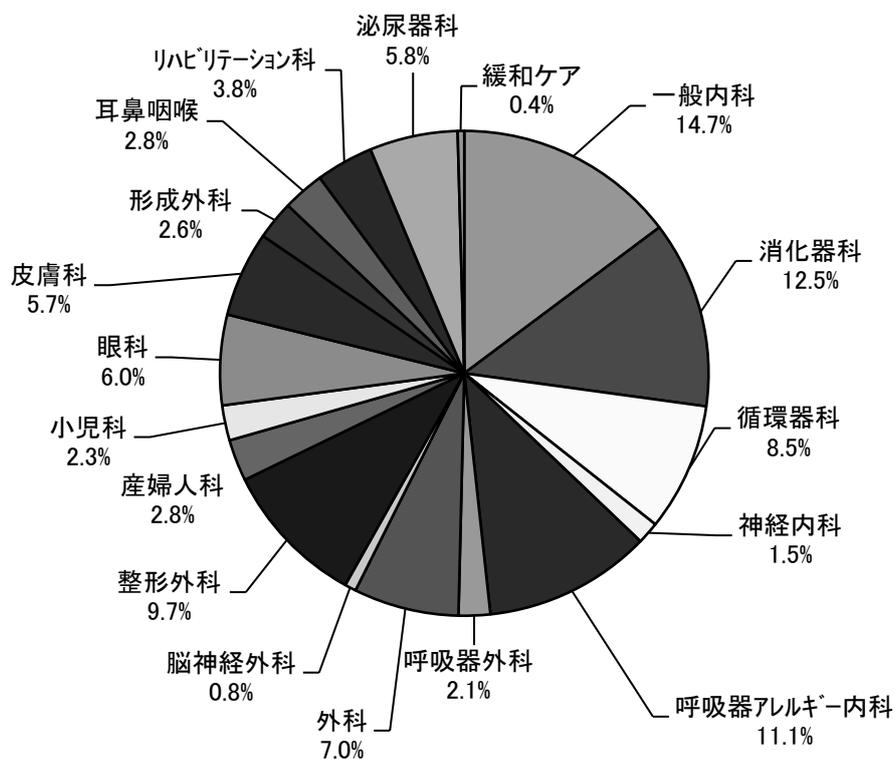
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H25年度	入院	29,522,984	28,790,722	29,374,103	29,197,467	26,490,820	26,069,822	28,544,470	28,670,040	26,429,945	23,512,782	26,144,987	25,414,561	328,162,703
	外来	306,560	257,670	320,763	269,490	315,360	277,284	410,776	262,340	315,280	308,120	323,770	321,770	3,689,183
	合計	29,829,544	29,048,392	29,694,866	29,466,957	26,806,180	26,347,106	28,955,246	28,932,380	26,745,225	23,820,902	26,468,757	25,736,331	331,851,886
H26年度	入院	22,839,794	28,805,226	26,467,214	23,779,621	25,167,195	19,544,220	23,956,860	18,799,462	30,597,662	27,783,980	25,618,374	27,694,588	301,054,196
	外来	309,050	242,682	259,654	275,862	314,522	300,370	309,820	417,560	377,070	298,610	255,740	275,450	3,636,390
	合計	23,148,844	29,047,908	26,726,868	24,055,483	25,481,717	19,844,590	24,266,680	19,217,022	30,974,732	28,082,590	25,874,114	27,970,038	304,690,586
H27年度	入院	25,617,506	26,550,624	27,452,434	28,646,173	30,133,922	30,363,698	29,899,852	22,505,206	29,660,678	26,235,848	25,238,072	27,029,240	329,333,253
	外来	299,382	239,232	197,552	284,580	270,570	354,484	168,440	212,072	144,038	169,582	182,342	344,960	2,867,234
	合計	25,916,888	26,789,856	27,649,986	28,930,753	30,404,492	30,718,182	30,068,292	22,717,278	29,804,716	26,405,430	25,420,414	27,374,200	332,200,487
H28年度	入院	29,144,130	26,523,560	31,030,348	23,637,441	26,067,550	22,719,304	24,521,062	24,186,832	25,134,658	22,879,972	23,790,608	29,402,092	309,037,557
	外来	297,782	275,460	256,550	211,110	211,990	249,100	214,660	312,090	227,740	234,715	228,592	271,068	2,990,857
	合計	29,441,912	26,799,020	31,286,898	23,848,551	26,279,540	22,968,404	24,735,722	24,498,922	25,362,398	23,114,687	24,019,200	29,673,160	312,028,414
H29年度	入院	29,127,136	24,428,354	21,177,492	25,448,444	23,985,554	21,592,516	23,970,414	30,211,141	31,193,932	25,046,004	27,919,024	27,162,566	311,262,577
	外来	278,764	289,046	209,502	199,500	228,170	206,124	262,530	233,040	199,492	214,480	235,224	182,652	2,738,524
	合計	29,405,900	24,717,400	21,386,994	25,647,944	24,213,724	21,798,640	24,232,944	30,444,181	31,393,424	25,260,484	28,154,248	27,345,218	314,001,101

## 8. 科別患者構成比

### 入院患者数



### 外来患者数



## 9. 診療科年齢別構成表

診療科	0	'1-4	'5-9	'10-14	'15-19	'20-24	'25-29	'30-34	'35-39	'40-44	'45-49	'50-54	'55-59	'60-64	'65-69	'70-74	'75-79	'80-84	'85-	合計
小児科	109	171	112	47	6	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	464
耳鼻咽喉科	0	59	90	23	16	32	10	0	25	30	48	23	46	25	62	66	22	0	19	596
眼科	0	0	0	0	0	3	32	0	3	6	26	52	16	39	177	298	226	118	96	1,092
整形外科	0	0	30	76	256	182	63	134	183	173	322	483	553	485	1,475	1,320	2,027	2,246	3,126	13,134
外科	0	0	6	21	10	14	11	17	71	119	349	254	466	359	1,451	1,346	1,371	942	774	7,581
内科	0	0	0	0	4	72	194	259	412	187	382	384	578	1,765	3,877	2,936	3,677	2,888	3,100	20,715
呼吸器科	0	0	0	0	16	24	23	244	114	155	98	200	509	1,266	2,257	3,199	4,281	3,324	3,746	19,456
泌尿器科	0	0	0	0	24	8	8	0	36	19	18	84	75	193	377	535	803	319	378	2,877
皮膚科	0	0	0	0	6	25	8	0	4	61	70	50	6	26	85	92	153	102	77	765
産婦人科	0	0	0	0	56	38	86	128	131	26	65	32	6	8	41	41	93	35	144	930
脳外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器科	0	0	0	0	66	100	97	32	159	213	314	467	385	663	2,139	2,475	2,484	2,927	4,138	16,659
循環器科	0	0	0	0	32	14	21	8	36	102	132	138	286	441	1,204	1,428	2,032	2,900	5,620	14,394
形成外科	0	4	9	10	29	41	11	5	46	318	305	38	28	119	265	297	331	194	271	2,321
呼吸器外科	0	0	0	0	36	26	0	14	21	19	18	89	50	176	364	716	613	340	174	2,656
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	109	234	247	177	557	579	564	841	1,260	1,428	2,147	2,294	3,004	5,565	13,774	14,749	18,113	16,335	21,663	103,640
構成率	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.5%	0.6%	0.5%	0.8%	1.2%	1.4%	2.1%	2.2%	2.9%	5.4%	13.3%	14.2%	17.5%	15.8%	20.9%	100.0%

## 10. 救急患者数

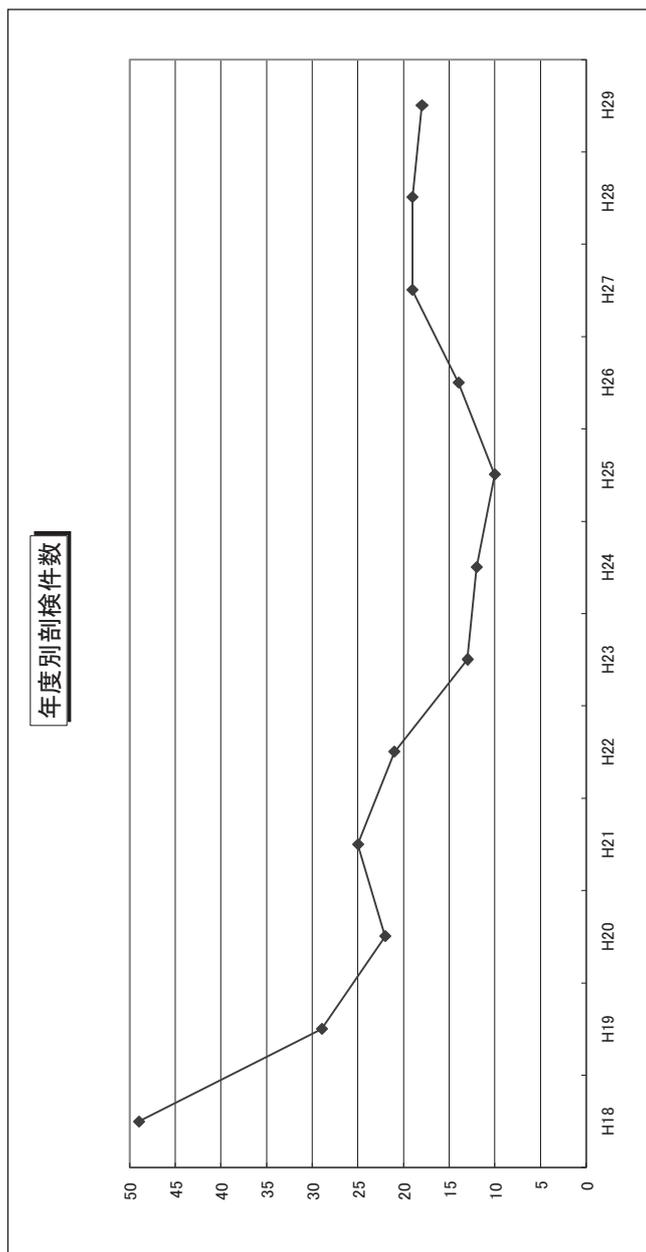
### 平成29年度月別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	H28年度	98	131	138	115	104	115	100	108	132	143	139	1,444
	H29年度	127	140	130	138	145	119	117	139	167	192	189	1,759
時間外	H28年度	251	306	222	323	291	271	245	238	376	435	221	3,444
	H29年度	274	340	233	316	289	294	309	304	394	463	334	3,858
深夜	H28年度	84	87	98	67	95	76	72	66	93	104	64	994
	H29年度	89	89	83	91	102	74	89	87	93	97	42	1,029
合計	H28年度	433	524	458	505	490	462	417	412	601	682	424	5,882
	H29年度	490	569	446	545	536	487	515	530	654	752	565	6,646
1日平均	H28年度	14.4	16.9	15.3	16.3	15.8	15.4	13.5	13.7	19.4	22.0	15.1	16.1
	H29年度	16.3	18.4	14.9	17.6	17.3	16.2	16.6	17.7	21.1	24.3	19.5	18.2

### 平成29年度診療科別件数

	内科	消化器	循環器	神経内	呼吸内	呼外	外科	脳神経	整形	産婦人	小児科	眼科	皮膚科	形成	耳鼻咽喉	泌尿科	緩和	合計
時間内	H28年度	382	191	235	12	157	10	52	28	235	39	6	8	24	20	35	5	1,444
	H29年度	494	262	213	14	208	9	57	43	277	11	25	26	41	24	41	3	1,759
時間外	H28年度	1,309	370	141	7	240	12	267	23	530	92	81	74	68	65	133	3	3,444
	H29年度	1,258	772	169	13	278	7	232	26	519	22	65	120	83	68	125	6	3,858
深夜	H28年度	334	147	58	1	79	0	59	3	102	9	61	12	10	13	60	0	994
	H29年度	309	238	68	1	78	2	38	6	89	15	55	21	11	16	49	1	1,029
合計	H28年度	2,025	708	434	20	476	22	378	54	867	43	148	94	102	98	228	8	5,882
	H29年度	2,061	1,272	450	28	564	18	327	75	885	48	131	167	135	108	215	10	6,646
1日平均	H28年度	5.5	1.9	1.2	0.1	1.3	0.1	1.0	0.1	2.4	0.1	0.4	0.3	0.3	0.3	0.6	0.0	16.1
	H29年度	5.6	3.5	1.2	0.1	1.5	0.0	0.9	0.2	2.4	0.1	0.4	0.5	0.4	0.3	0.6	0.0	18.2

# 11. 剖検件数



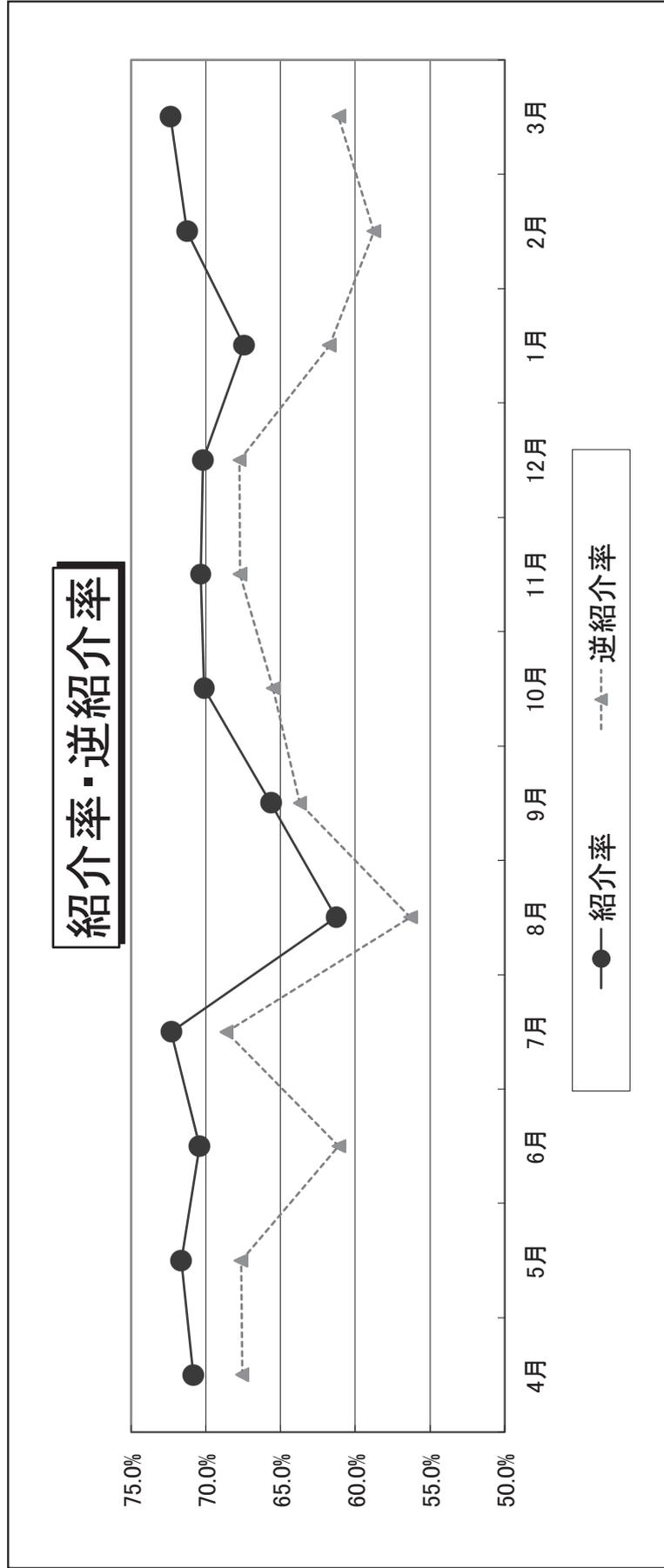
年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	49	29	22	25	21	13	12	10	14	19	19	18

## 平成29年度科別剖検数

	血内	消化器	循環器	神経内	呼内	呼外	外科	脳神経	整形	産婦	小児	眼	皮膚	形成	耳鼻	リハビリ テーション	泌尿器	緩和	合計
剖検数	9	3	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
死亡数	36	63	43	0	75	7	20	0	2	1	0	0	0	2	0	0	2	176	427
剖検率	25.0%	4.8%	9.3%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%

## 12. 紹介率・逆紹介率

平成 29 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
初診患者数	549	522	612	593	682	617	626	573	574	627	553	651	7,179
紹介患者数	389	374	431	429	418	405	439	403	403	423	394	471	4,979
逆紹介患者	371	353	374	407	384	393	410	388	389	387	325	398	4,579
紹介率	70.9%	71.6%	70.4%	72.3%	61.3%	65.6%	70.1%	70.3%	70.2%	67.5%	71.2%	72.4%	69.4%
逆紹介率	67.6%	67.6%	61.1%	68.6%	56.3%	63.7%	65.5%	67.7%	67.8%	61.7%	58.8%	61.1%	63.8%



### 13. 食事別給食数

#### 食事別給食数

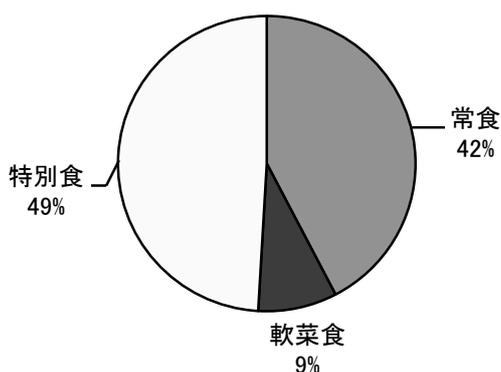
	常食	軟菜食	特別食	合計
延食数	96,731	19,584	112,098	228,413
一日平均	265	54	307	626

#### 特別食内訳

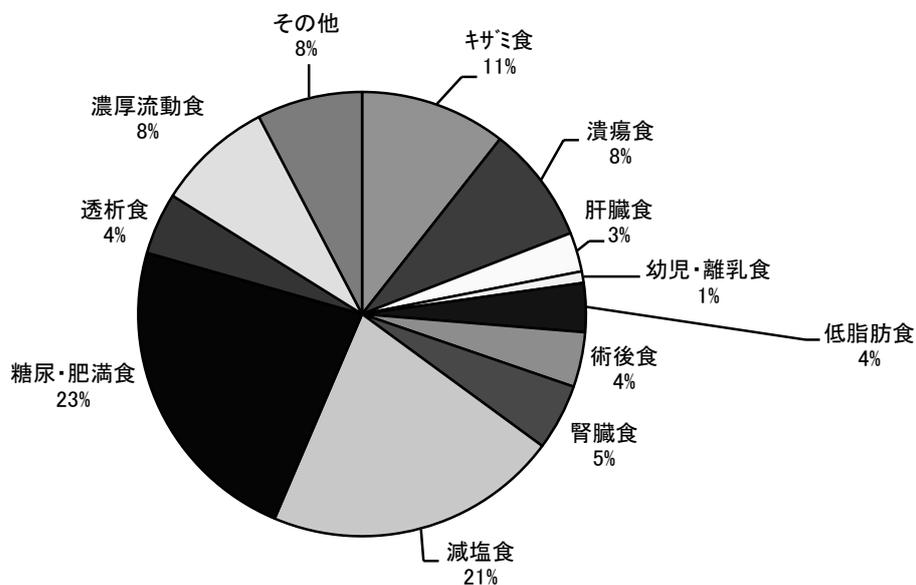
	キザミ食	潰瘍食	肝臓食	幼児・離乳食	低脂肪食	術後食	腎臓食	減塩食
延食数	11,838	9,532	3,197	935	3,992	4,473	5,400	23,843
一日平均	32	26	9	3	11	12	15	65

	糖尿・肥満食	透析食	濃厚流動食	その他	合計
延食数	25,856	5,033	9,459	8,540	112,098
一日平均	71	14	26	23	307

食事別給食数



特別食内訳

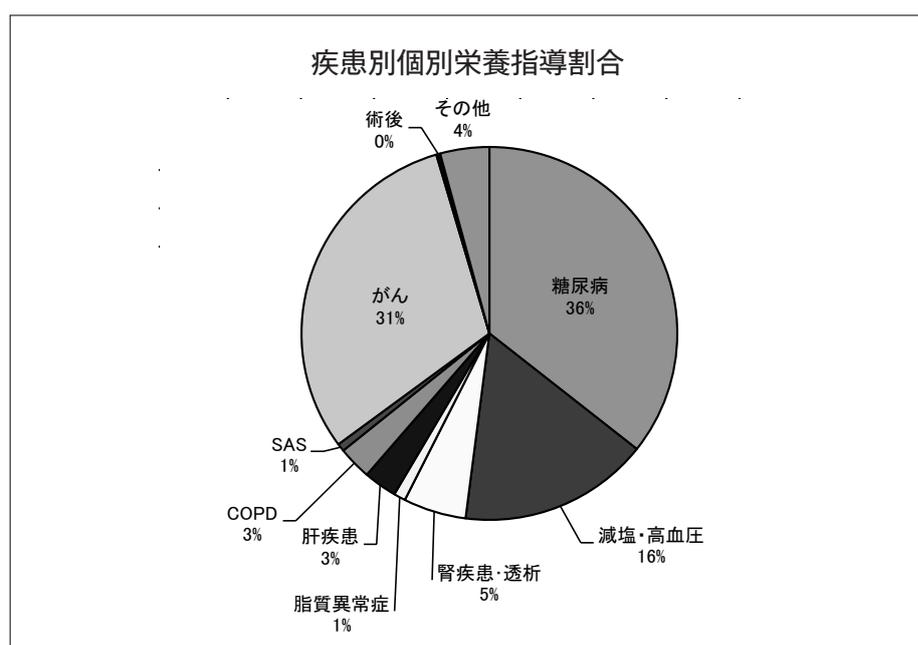


## 14. 栄養指導件数

指導月	入院						外来				指導		カンファレンス	
	指導		ベット訪問		カンファレンス		個別		集団		合計		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	37	37	55	55	11	6	12	12	1	8	49	49	11	6
5月	30	30	65	65	9	4	15	15	1	11	45	45	9	4
6月	36	36	61	61	16	11	14	14	1	11	50	60	16	11
7月	33	33	69	69	18	9	13	13	1	7	46	46	18	9
8月	56	56	62	62	33	23	10	10	1	7	66	66	33	23
9月	39	39	43	43	14	7	12	12	1	8	51	51	14	7
10月	28	28	73	73	28	13	11	11	1	11	39	39	28	13
11月	34	34	52	52	16	9	13	13	1	10	47	47	16	9
12月	41	39	52	52	21	12	12	12	1	10	53	51	21	12
1月	38	33	61	61	15	12	13	13	1	11	51	46	15	12
2月	33	33	58	58	15	11	11	11	1	16	44	44	15	11
3月	38	34	44	44	19	13	13	13	1	15	51	47	19	13
合計	443	432	695	695	215	130	149	149	12	125	592	591	215	130
月平均	36.9	36.0	57.9	57.9	17.9	10.8	12.4	12.4	1.0	10.4	49.3	49.3	17.9	10.8

疾患別個別栄養指導件数（複数の制限の指示は主指示事項をカウントする）

	糖尿病	減塩・ 高血圧	腎疾患 ・透析	脂質異 常症	肝疾患	COPD	SAS	がん	術後	その他	合計
延数	211	97	32	6	17	17	4	181	2	25	592
月平均	17.6	8.08	2.67	0.5	1.42	1.42	0.33	15.1	0.17	2.08	54.1



## 15. 手術件数

	内科	消化器科	循環器科	呼吸器科	呼吸器外科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	眼科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	その他	合計
平成25年度	49	827	302	4	106	657	9	673	297	1,141	66	509	435	284	45	5,404
平成26年度	43	827	259	9	106	691	10	824	214	1,127	49	487	409	281	88	5,424
平成27年度	70	774	344	9	149	622	7	681	183	1,193	31	571	325	301	27	5,287
平成28年度	76	786	396	4	113	567	9	690	173	872	61	602	303	295	22	4,969
平成29年度	58	964	336	3	121	592	16	690	130	923	39	617	273	265	26	5,053

## 16. 分娩件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
分娩件数	5	3	4	8	5	6	2	2	4	4	1	3	47

## 17. 特定保健指導

平成 29 年度

特定保健指導 実施報告

年度内指導回数 88 回（平成 24 年度 56 回、平成 25 年度 140 回、平成 26 年度 196 回、平成 27 年度 100 回、平成 28 年度 131 回）

動機付け支援 指導回数 64 回  
積極的支援 指導回数 24 回

高槻国保

動機付け支援 結果説明 8 名  
利用券持参 0 名  
積極的支援 結果説明 2 名  
利用券持参 0 名

高槻国保以外

動機付け支援 利用券持参 0 名  
積極的支援 利用券持参 2 名  
合計 12 名

2 日ドック栄養指導 実施報告

平成 29 年度指導人数 2 名

## 18. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について

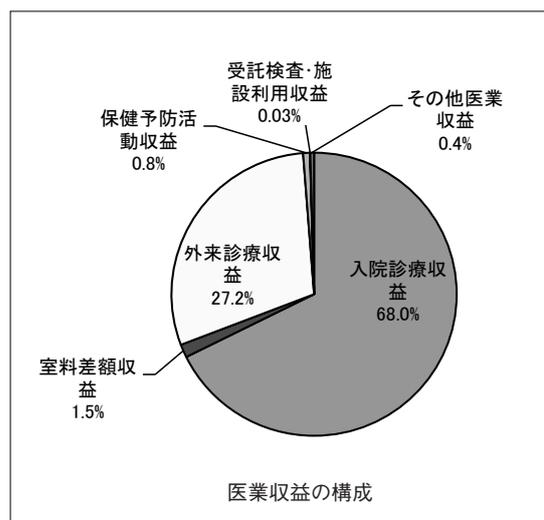
（平成 29 年度医療施設特別会計決算額より）

医業収益の構成

損益計算書収益の部より、医業収益科目の構成比率

（単位：円）

項目	金額	構成比率
入院診療収益	5,830,141,354	68.0%
室料差額収益	128,711,848	1.5%
外来診療収益	2,548,211,218	29.7%
保健予防活動収益	66,531,777	0.8%
受託検査・施設利用収益	2,972,160	0.03%
その他の医業収益	36,838,018	0.4%
保険等査定減（※入院＋外来診療収益比）	-34,933,288	(-0.4% ※)
合計	8,578,473,087	

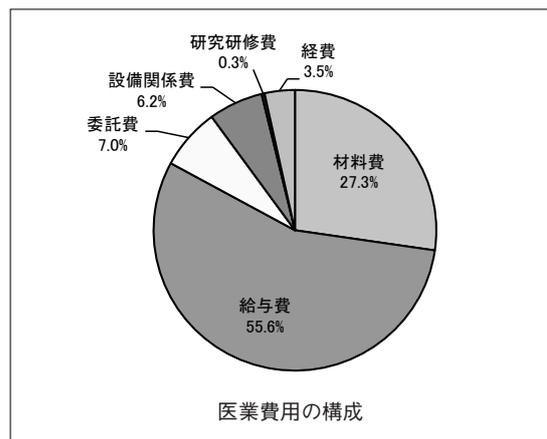


### 医業費用の構成

損益計算書費用の部より、医業費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
材料費	2,503,744,787	27.3%
給与費	5,103,231,711	55.6%
委託費	646,564,449	7.0%
設備関係費	571,172,812	6.2%
研究研修費	30,735,125	0.3%
経費	317,299,632	3.5%
合計	9,172,748,516	

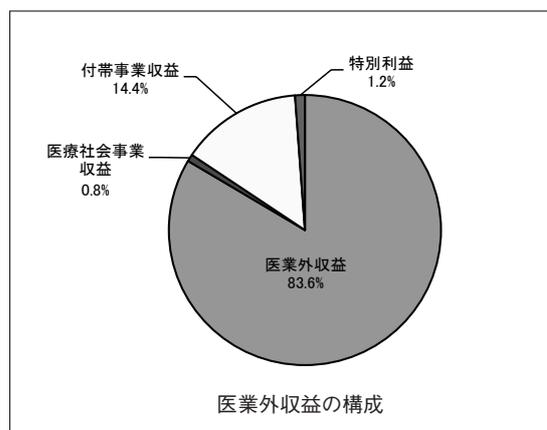


### 医業外収益の構成

損益計算書収益の部より、医業外収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外収益	298,578,627	83.6%
医療社会事業収益	3,022,186	0.8%
付帯事業収益	51,594,299	14.4%
特別利益	4,162,754	1.2%
合計	357,357,866	

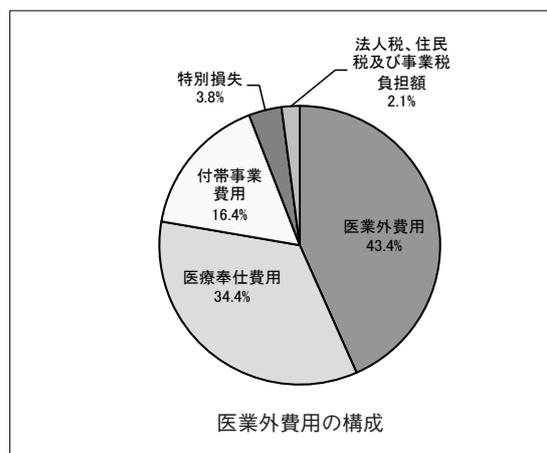


### 医業外費用の構成

損益計算書費用の部より、医業外費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外費用	147,153,455	43.4%
医療奉仕費用	116,605,029	34.4%
付帯事業費用	55,657,543	16.4%
特別損失	12,851,649	3.8%
法人税、住民税及び事業税負担額	7,061,394	2.1%
合計	339,329,070	



## 19. 病院利益（損失）

(単位：円)

総利益	8,935,830,953
総費用	9,512,077,586
病院利益（損失）	-576,246,633

## 20. 平成 29 年度 年間購入雑誌一覧

洋 雑 誌	
(冊子)	
1	Journal of Orthopaedic Science
2	LARYNGOSCOPE
(電子ジャーナル)	
3	Advances in anatomic pathology
4	Anesthesiology
5	Annals of Thoracic Surgery
6	American Journal of Surgical Pathology
7	American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine
8	American Journal of Roentgenology
9	Anesthesia and Analgesia
10	Annals of Surgery
11	Blood
12	CHEST
13	Circulation
14	Critical Care Medicine
15	Diseases of the Colon and Rectum
16	Journal of the American College of Cardiology
17	Journal of Arthroplasty
18	Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume)
19	Journal of Bone and Joint Surgery (British Volume)
20	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
21	Journal of Urology
22	Medline
23	New England Journal Medicine
24	Radiographics
25	Radiology
26	RETINA
27	Urology

和 雑 誌	
(冊子)	
1	Clinical Research Professionals
2	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION
3	Lisa
4	新しい眼科
5	アレルギー・免疫
6	医事業務
7	胃と腸
8	医薬ジャーナル
9	エキスパートナース
10	看護研究
11	看護実践の科学
12	看護展望
13	作業療法ジャーナル
14	呼吸器ケア
15	呼吸と循環
16	消化器内視鏡
17	総合リハビリテーション
18	ナーシングビジネス
19	保険診療
20	薬局
21	理学療法ジャーナル
22	臨床消化器内科

### 文献検索・データベース

MEDLINE with Full Text (EBSCO)
CINAHL with Full Text (EBSCO)
The Cochrane Library
Dyna Med
医学中央雑誌 web 版
メディカルオンライン

## 21. 医療社会事業年報（平成 29 年度）

### 1. ケース件数

《年度実人数》

	入院 / 外来	人数
年度実人数	入院	1,163 人
	外来	379 人
	計	1,542 人

終了ケース	入院	370 人
	外来	33 人
合計		403 人

### 2. 延べ人数

延人数	7,443 人
-----	---------

### 3. 新ケースの紹介経路

区分	件数
医師	408 件
看護職	706 件
リハビリ職	1 件
その他院内職員	13 件
本人	83 件
家族・親戚縁者	119 件
院外関係機関（者）	176 件
近隣者・知人	1 件
ソーシャルワーカー	14 件
その他	3 件
合計	1,524 件

### 4. 問題

区分	件数
家族関係の問題	41 件
介護・療養生活上の問題	1,063 件
経済に関する問題	80 件
日常生活上の問題	103 件
就労・職場の問題	1 件
教育の問題	1 件
医療の確保に関する問題	593 件
人権に関わる問題	4 件
心理・情緒的問題	11 件
制度活用に関する問題	185 件
その他	83 件
合計	2,165 件

### 5. 援助方法

方法		回数
面接	本人	1,605 回
	家族	2,300 回
電話	本人	46 回
	家族	1,262 回
訪問	家庭	5 回
	その他	2 回
同行・同伴・代行		1 回
文章・FAX		1,041 回
情報収集		243 回
院内協議・院内カンファレンス		5,205 回
院外協議・院外カンファレンス		5,425 回
合同カンファレンス		125 回
合計		17,260 回

### 6. 相談援助内容

内容	件数
1、家族関係に関する事	117 件
2、在宅介護・地域生活に関する事	2,364 件
3、療養生活に関する事	379 件
4、経済的問題に関する事	93 件
5、就労・職場環境に関する事	2 件
6、就学・教育環境に関する事	0 件
7、虐待・暴力・人権に関わる事	7 件
8、受診・受療に関する事	334 件
9、転院に関する事	3,127 件
10、他施設利用に関する事	1,029 件
11、心理・情緒的問題に関する事	5 件
12、他福祉関係法利用に関する事	441 件
13、その他	150 件
合計	8,048 件

### 7. 介入の時期

区分	人数
1、受診	40 人
2、外来継続	238 人
3、入院時	75 人
4、入院継続	718 人
5、退院期	232 人
6、その他	65 人
合計	1,368 人

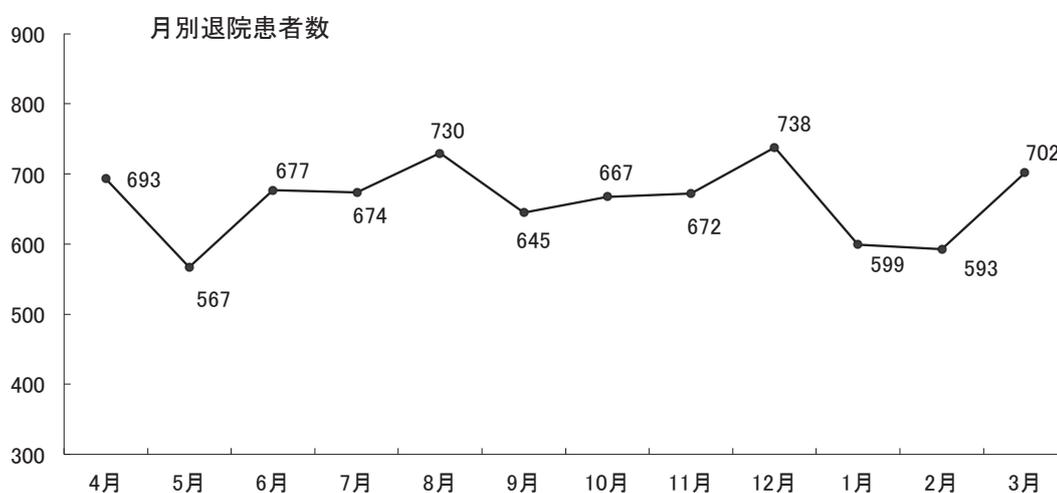
## **V 退院患者疾病統計**

# 1. 月別退院患者数

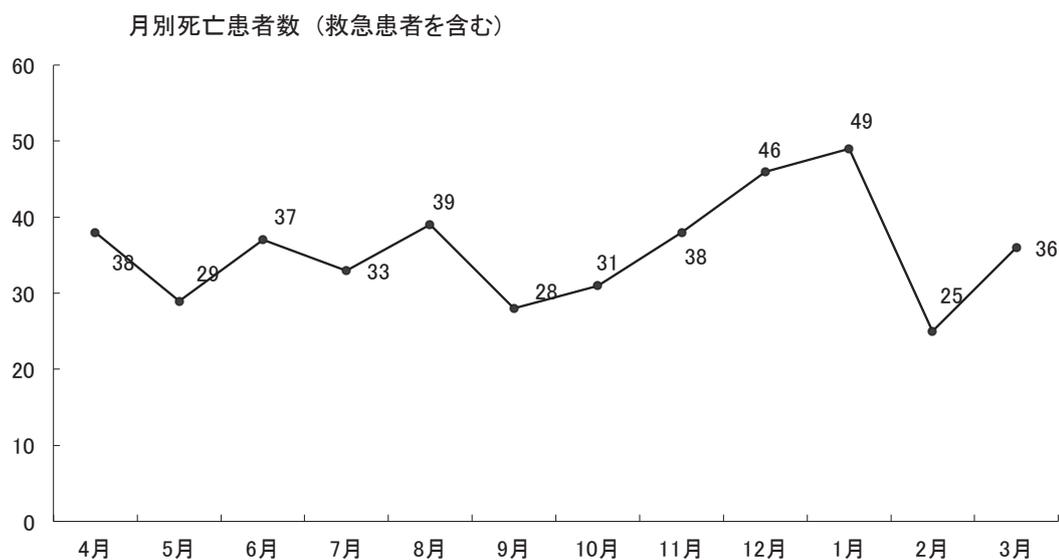
(人)

性別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	391	312	399	375	435	363	398	380	431	335	353	402	4,574
女	302	255	278	299	295	282	269	292	307	264	240	300	3,383
合計	693	567	677	674	730	645	667	672	738	599	593	702	7,957

(人)



(人)



## 2. 科別・月別退院患者数

(人)

診療科名 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	40	32	53	48	61	50	47	60	53	39	37	50	570
緩和科	18	18	17	16	20	13	12	20	18	13	11	20	196
消化器科	174	137	189	189	170	178	188	180	183	141	161	171	2,061
循環器科	90	76	92	93	80	73	93	68	91	67	78	95	996
呼吸器科	112	104	110	107	119	103	99	108	115	104	96	111	1,288
呼吸器外科	18	14	14	22	28	23	19	23	20	16	9	18	224
外科	53	42	45	32	48	44	36	37	55	49	42	56	539
整形外科	61	43	43	54	65	54	53	44	65	40	50	62	634
産婦人科	10	6	7	10	18	12	11	7	9	9	2	8	109
小児科	16	9	12	11	21	11	7	8	15	3	7	12	132
眼科	54	43	42	45	42	32	50	53	43	54	52	46	556
皮膚科	8	3	11	6	11	11	8	5	6	9	6	8	92
形成外科	7	10	12	11	12	10	8	12	20	9	5	15	131
耳鼻咽喉科	10	6	4	7	10	4	4	14	8	5	9	5	86
泌尿器科	22	24	26	23	25	27	32	33	37	41	28	25	343
合計	693	567	677	674	730	645	667	672	738	599	593	702	7,957

### 3. 科別・転帰別退院患者数

(人)

診療科名 \ 転帰	治癒	軽快	不変	悪化	死亡	検査	転医	その他	合計
内科	15	478	4		38	18	15	2	570
緩和科		15	3	1	176		1		196
消化器科	223	1599	11	1	63	133	31		2061
循環器科	89	791			43	27	46		996
呼吸器科	31	864	8	1	75	286	23		1288
呼吸器外科	1	210			7	6			224
外科	11	488	8	2	20	3	7		539
整形外科		563	2		2	2	64	1	634
産婦人科	1	63			1		4	40	109
小児科	51	79				1	1		132
眼科		554					2		556
皮膚科	1	90					1		92
形成外科		129			2				131
耳鼻咽喉科		84				1	1		86
泌尿器科	6	239			2	96			343
合計	429	6,246	36	5	429	573	196	43	7,957

#### 4. 疾病大分類別・性別退院患者数

疾病大分類		性別		患者数(人)			比率(%)	平均在院日数(日)
		男	女	合計				
I	感染症および寄生虫症	140	168	308	3.9%	12.2		
II	新生物	1,642	993	2,635	33.1%	12.6		
III	血液および造血器並びに免疫障害	23	30	53	0.7%	20.8		
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	123	107	230	2.9%	14.3		
V	精神および行動の障害	2	6	8	0.1%	2.6		
VI	神経系の疾患	108	59	167	2.1%	5.0		
VII	眼および付属器の疾患	281	278	559	7.0%	1.9		
VIII	耳および乳様突起の疾患	18	33	51	0.6%	4.6		
IX	循環器系の疾患	531	355	886	11.1%	12.9		
X	呼吸器系の疾患	614	353	967	12.2%	16.5		
XI	消化器系の疾患	513	342	855	10.7%	8.4		
XII	皮膚および皮下組織の疾患	50	45	95	1.2%	19.3		
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	105	133	238	3.0%	27.3		
XIV	尿路性器系の疾患	150	114	264	3.3%	13.1		
XV	妊娠、分娩および産褥		54	54	0.7%	7.1		
XVI	周産期に発生した病態	4	2	6	0.1%	5.3		
XVII	先天奇形、変形および染色体異常	1	5	6	0.1%	17.6		
XVIII	症状、徴候および異常所見	16	8	24	0.3%	4.2		
XIX	損傷および中毒	252	297	549	6.9%	17.7		
XXI	保健サービス	1	1	2	0.0%	4.5		
合計		4,574	3,383	7,957	100.0%	12.6		

## 5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数

(人)

疾病大分類	科名	内科	緩和	消化	循環	呼吸	呼・外	外科	整形	産婦	小児	眼科	皮膚	形成	耳鼻	泌尿	合計
I	感染症および寄生虫症	21	1	115	15	67	2	1	2	3	35		43	1	2		308
II	新生物	258	190	964	5	443	166	294	5	32				51	7	220	2,635
III	血液および造血器並びに免疫障害	27		15	3	1	1	3			2					1	53
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	175		24	15	4	1	1			8	1		1			230
V	精神および行動の障害	2		3	2						1						8
VI	神経系の疾患	4		19	12	121			6		1				4		167
VII	眼および付属器の疾患										1	546		12			559
VIII	耳および乳様突起の疾患	6		20	15		1				1				7	1	51
IX	循環器系の疾患	17	1	95	741	11		18	1	1					1		886
X	呼吸器系の疾患	33	2	85	66	604	42	1	3		67		1		61	2	967
XI	消化器系の疾患	4	1	634	5	1		204		2				2	1	1	855
XII	皮膚および皮下組織の疾患	1		10	3	1	1	5	2		1		45	26			95
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	4		9	8	11		1	200		1			4			238
XIV	尿路器系の疾患	6		44	64	5	1	9		16	3		1			115	264
XV	妊娠、分娩および産褥									54							54
XVI	周産期に発生した病態										6						6
XVII	先天奇形、変形および染色体異常				1			1						2	2		6
XVIII	症状、徴候および異常所見			1	2	18					2				1		24
XIX	損傷および中毒	10	1	23	39	1	9	1	415	1	3	9	2	32		3	549
XXI	保健サービス	2															2
	合計	570	196	2,061	996	1,288	224	539	634	109	132	556	92	131	86	343	7,957

## 6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数

疾病大分類	転帰		治癒		軽快		不変		悪化		死亡		検査		転医		その他		合計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
I 感染症および寄生虫症	53	17.2%	207	67.2%		0.0%		0.0%		0.0%	13	4.2%	23	7.5%	12	3.9%		0.0%	308
II 新生物	82	3.1%	1,910	72.5%	32	1.2%	4	0.2%	269	10.2%	8	15.1%	317	12.0%	21	0.8%		0.0%	2,635
III 血液および造血器並びに免疫障害	2	3.8%	40	75.5%		0.0%		0.0%		0.0%			1	1.9%	2	3.8%		0.0%	53
IV 内分泌、栄養および代謝疾患	9	3.9%	202	87.8%	1	0.4%		0.0%		0.0%		0.0%	12	5.2%	6	2.6%		0.0%	230
V 精神および行動の障害	2	25.0%	6	75.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	8
VI 神経系の疾患	5	3.0%	44	26.3%		0.0%		0.0%		0.0%	1	0.6%	114	68.3%	3	1.8%		0.0%	167
VII 眼および付属器の疾患		0.0%	558	99.8%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	0.2%		0.0%	559
VIII 耳および乳様突起の疾患	8	15.7%	43	84.3%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	51
IX 循環器系の疾患	69	7.8%	720	81.3%		0.0%		0.0%		0.0%	27	3.0%	38	4.3%	32	3.6%		0.0%	886
X 呼吸器系の疾患	71	7.3%	780	80.7%		0.0%		0.0%		0.0%	85	8.8%	9	0.9%	22	2.3%		0.0%	967
XI 消化器系の疾患	82	9.6%	702	82.1%	1	0.1%	1	0.1%		0.1%	17	2.0%	40	4.7%	12	1.4%		0.0%	855
XII 皮膚および皮下組織の疾患	2	2.1%	92	96.8%		0.0%		0.0%		0.0%	1	1.1%		0.0%		0.0%		0.0%	95
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患	1	0.4%	219	92.0%	1	0.4%		0.0%		0.0%		0.0%	2	0.8%	14	5.9%	1	0.4%	238
XIV 尿路生殖器系の疾患	14	5.3%	227	86.0%		0.0%		0.0%		0.0%	4	1.5%	11	4.2%	8	3.0%		0.0%	264
XV 妊娠、分娩および産褥		0.0%	12	22.2%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2	3.7%	40	74.1%	54
XVI 周産期に発生した病態	2	33.3%	3	50.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	16.7%		0.0%	6
XVII 先天奇形、変形および染色体異常		0.0%	5	83.3%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	16.7%		0.0%	6
XVIII 症状、徴候および異常所見	1	4.2%	16	66.7%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	5	20.8%	2	8.3%		0.0%	24
XIX 損傷および中毒	26	4.7%	460	83.8%	1	0.2%		0.0%		0.0%	4	0.7%	1	0.2%	57	10.4%		0.0%	549
XXI 保健サービス		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2	100.0%	2
合計	429	5.4%	6,246	78.5%	36	0.5%	5	0.1%	429	5.4%	429	5.4%	573	7.2%	196	2.5%	43	0.5%	7,957

## 7. 科別死亡数および剖検数

科名	死亡数(人)	剖検数(人)	剖検率(%)
内科	38	9	23.7
緩和科	176	2	1.1
消化器科	63	4	6.3
循環器科	43	3	7.0
呼吸器科	75	3	4.0
呼吸器外科	7		0.0
外科	20		0.0
整形外科	2		0.0
産婦人科	1		0.0
小児科			0.0
眼科			0.0
皮膚科			0.0
形成外科	2		0.0
耳鼻咽喉科			0.0
泌尿器科	2		0.0
救急外来			0.0
合計	429	21	4.9

\* 救急外来患者を含む為、退院患者死亡数（転帰）とは異なる

## **VI 診療科・部門別活動実績**

# 糖尿病・内分泌・生活習慣病科

## <スタッフ>

常 勤	金子至寿佳 (部 長)
非 常 勤	田原裕美子 (医 師)
	植田 洋平 (医 師)
	辻 英輝 (医 師)
	大杉 友顕 (医 師)
	佐藤 雄一 (医 師)

## <平成 29 年度活動実績>

### 1. 糖尿・代謝疾患

地域の基幹病院として高槻医師会の糖尿病地域連携パス委員会の委員長をつとめ、教育講演を通じ、糖尿病診療を専門的に先導する役割を担っている。1 型糖尿病、2 型糖尿病、肝性糖尿病、膵性糖尿病、ステロイド性糖尿病や特殊な糖尿病（妊娠糖尿病、MODY、内分泌疾患に伴う 2 次性糖尿病ミトコンドリア異常症、Werner 症候群など）の治療を行っている。糖尿病に伴う血管病変を初診でスクリーニングし当該科の診療につないでいる。また糖尿病があると癌罹患率も上昇するため、担当状態ではないかをスクリーニングし当該科の治療につないでいる。糖尿病腎症の治療、透析の導入、重症足潰瘍や糖尿病患者における術前全身評価および術前血糖コントロール、周術期コントロールを専門医の視点から行っている。チーム医療としても専任看護師・専任栄養士による糖尿病腎症透析予防指導が定着しその成果を得ることができている。また各地域において医師、薬剤師、看護師そして栄養士ほか医療関係者を対象に、糖尿病専門講演の依頼に応じて講演を行っている。

#### 治療内容（平成 29 年度）

・糖尿病患者に対する外来栄養指導	56 件
・フットケア外来	47 件
・透析予防指導	93 件
・糖尿病患者に対する自己注射外来導入	227 件 (延べ導入件数 3,266 件)
・教育入院実施件数	116 件 (およそ 13 泊 14 日で施行)
・インスリン等自己注射実施患者数	391 人
・インスリンポンプ療法 (C S I I) 使用者	8 人

### 2. 内分泌疾患

地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っている。甲状腺疾患（バセドウ病・橋本病など）、脳下垂体（いろいろなホルモンの司令塔）、副腎（腎臓の上であり電解質を調整するホルモンやストレスホルモンを出す）の疾患を診療している。血液検査、画像検査（レントゲン、CT、MRI、アイソトープ検査や甲状腺エコー）、各ホルモンのカテーテルによる静脈サンプリング、当該診療科とともに細胞診・組織診を行い、専門的に臨床診断を行っている。甲状腺疾患など頻度の多い疾患以外にも、頻度は希で見過ごされがちな内分泌疾患を見つけ出し適切に診断し専門的治療を提供している。

最近では高Ca血症精査の依頼が増え、副甲状腺腫瘍を診断。また、Cushing症候群、原発性アルドステロン症なども臨床診断し泌尿器科にて腹腔鏡下手術を行っている。

#### 教 育：

日本内科学会認定医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医、  
日本糖尿病学会認定専門医・指導医、日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医・指導医、  
日本老年病学会認定専門医・指導医、日本人間ドック学会認定医  
日本内科学会認定医制度教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、  
日本老年医学会認定教育施設

研修医教育では一般内科をしっかり見につけ、そのうえに専門性の教育を行っている。また日常的に覚えることではなく、考える力を身につけることを主眼として教育を行っている。1、2年目研修医には学会発表を通じて症例をまとめることと発表の重要性を学んでいただいている。国内だけにとどまることなく積極的に行い当院での臨床を国際学会で報告、また情報収集を行い最新の診療を心がけている。

---

## 緩和ケア科

---

### <スタッフ>

木元 道雄（緩和ケア科部長）  
橋本 典夫（緩和ケア科副部長）  
金村 誠哲（緩和ケア診療科副部長）

### <移動>

木元 道雄（部長）平成 30 年 4 月北見赤十字病院へ転出

### <平成 29 年度活動実績>

日本ホスピス緩和ケア協会が昨年度より開始した「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度」に認定され継続的に施設評価されるようになった。

ここ数年三島医療圏や隣接する医療圏に複数の緩和ケア病棟が新規に稼働した関係で外部からの紹介患者数はかなり減少していたが、複数同日入院など待機日数を減らす努力をした結果、前年度の 110 名に対して 122 名を確保することができた。

当院の研修医の緩和ケア研修希望者 1 名であったが、医学生は、大阪医科大学 6 回生の臨床実習（2 週間）の数名のほか、京都大学医学部 5 回生の当院呼吸器科の臨床実習中の数名を受け入れた。ほか、学会・研究会活動としては、地域の緩和ケアのネットワークの勉強会として、平成 25 年 3 月に発足した「緩和ケアを語る会」の世話人として参加して、地域での「顔の見える関係づくり」に努めた。また、大阪府指定のがん診療連携拠点病院の関連では今年度は緩和ケア研修会を院内開催しなかったが複数の大阪府内の病院主催の緩和ケア研修会に各スタッフが講師として参加した。

### <平成 30 年度活動目標>

できるだけ多くの患者に良質な緩和ケアを提供するため、

1. 緩和ケア病棟の病床稼働率を維持する
2. 待機患者、待機日数を短縮する
3. 地域の医師と連携を図り、バックアップの役割を担う
4. 学会・研究活動の充実
5. 緩和ケア研修会の開催

---

## 緩和ケア診療科

---

### <スタッフ>

岸本寛史（緩和ケア診療科部長）  
金村誠哲（緩和ケア診療科副部長）

緩和サポートチーム（上記医師に加え）

藤原和子（緩和ケア認定看護師）  
原武麻里（がん看護専門看護師） 楠岡京（がん看護専門看護師）  
亀井由美（日本アロマセラピー学会認定看護師，IFPA 正会員アロマセラピスト）  
北村弥生（IFPA 正会員アロマセラピスト）  
岩井真里絵（薬剤師）  
小島一晃（日本医療薬学会がん指導薬剤師・がん専門薬剤師）  
岡村宏美（臨床心理士）

### <平成 29 年活動実績>

#### 1) 緩和サポートチームにおける診療

平成 24 年 8 月から厚生労働省の要件を満たした緩和ケアチームの稼働が始まった。

**新規依頼件数**：539 件（入院 389 件、外来 150 件）

※全国のがん拠点病院 533 施設の緩和ケアチームの平成 28 年度の入院患者の新規依頼数  
平均 164 件、中央値 122 件

**依頼内容**（重複回答あり）

身体症状

疼痛 180 件、腹満・腹水 32 件、食欲低下 113 件、便秘 10 件、嘔気・嘔吐 30 件、  
呼吸困難・咳痰 59 件、浮腫・リンパ浮腫 21 件、倦怠感 100 件、眠気 4 件  
現在の症状緩和法の評価 57 件、オピオイドの投与経路の相談 35 件、その他 65 件

精神症状

不安 159 件、せん妄 15 件、スピリチュアル 18 件、その他 23 件

療養場所

緩和ケア病棟申し込み 86 件、在宅 37 件、その他 19 件

その他

診断・治療に関すること 58 件、今後に備えた関係づくり 184 件、倫理的問題 3 件  
社会的問題 20 件、家族のこと 56 件、その他 18 件

**依頼時の PS**：PS0（23%）、PS1（29%）、PS2（17%）、PS3（16%）、PS4（15%）

**依頼時の状態**：治療初期 76 件（20%）、抗がん治療中 177 件（46%）、BSC126 件（33%）

**入院患者の転帰**

退院前終了 9 件（2%）、緩和ケア病棟へ転棟 75 件（19%）、その他転院 17 件（4%）  
自宅退院 199 件（51%）、死亡退院 80 件（21%）、継続中 9 件（2%）

### 診療科別依頼件数

消化器内科 124 件、呼吸器内科 153 件、外科 80 件、乳腺外科 16 件、泌尿器科 28 件、呼吸器外科 27 件、血液内科 101 件、婦人科 4 件、整形外科 1 件、循環器内科 4 件、形成外科 1 件

### 緩和ケア診療加算（400 点 / 件） 算定対象件数：9,324 件

（2013 年度 4,969 件、2014 年度 6,371 件、2015 年度 6,247 件、2016 年度 8,175 件）

### 臨床心理士による面談

新規依頼 がん 84 件 非がん 25 件 面談総件数 2,991 件（内 148 件は職員自身の面談）  
依頼内容 情緒不安定、白血病移植サポート、状況受入困難、家族サポート、暴力行為、自律訓練法導入、意思疎通困難、希死念慮

### その他の活動

#### ※アロマセラピーマッサージの提供

安全性をよりたかめるべく、倫理委員会の承認を得て、パッチテストも実施して施行することになった。

※ 2016 年度から臨床心理士が着任し、造血幹細胞移植の全例に心理フォローを行なっている。チームの活動は、臨床心理士による活動が上乘せされ、全体としての依頼件数は増加となった。チームの医師は、本館では緩和ケアチーム、緩和ケア病棟では主治医として診療を行った。

## 2) 緩和ケア病棟における診療

2017 年度に緩和ケア病棟に入院された患者数は 193 名（2013 年度 186 名、2014 年度 194 名、2015 年度 191 名、2016 年度 179 名）であった。そのうち院外から直接紹介（緩和ケア科外来）経由での入院 108 名（2013 年度 100 名、2014 年度 86 名、2015 年度 104 名、2016 年度 104 名）に対し、院内の各診療科から当科（緩和ケアチーム）経由での入院が 85 名（2013 年度 86 名、2014 年度 108 名、2015 年度 87 名、2016 年度 75 名）であった。2017 年度の院内の患者数の増加と比例して、院内で緩和ケア病棟に移る患者も昨年度よりは増加した。

## 3) 教育・研修

2012 年 10 月から緩和医療学会の研修施設に認定されている。

岸本は精神腫瘍学の基本教育に関する指導者研修会を修了、金村は緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会を修了し、教育体制の充実も図った。

緩和ケア研修会（2017 年 5 月 20,21 日など）の開催、講師・ファシリテーター

京都文教大学大学院の実習生 2 名（各週 1 回、半年間）

第 59 回三島地区緩和ケア研究会の開催（2017 年 7 月 21 日）

非常勤講師（岸本）

大阪市立大学医学部、関西医科大学、大阪薬科大学、同志社女子大薬学部

常葉大学大学院、仁愛大学大学院

## <平成 30 年度活動目標>

2018 年 3 月より緩和ケア医が 1 名減となったが可及的に現在の活動レベルを維持する。

三島圏域のがん拠点病院間の緩和ケアのネットワークを充実する。

各診療科や部署とのスムーズな連携により、患者の意を汲みながら症状緩和に努める。

チームの活動をまとめ、関連学会等に発表していく。

---

## 血液腫瘍内科

---

### <スタッフ>

田嶋 政郎（名誉院長）：血液内科  
安齋 尚之（部長）：血液内科  
岡田 睦実（副部長）：血液内科  
坂本 宗一郎（副部長）：血液内科  
恩田 佳幸（非常勤医師）：血液内科

### <移 動>

なし

### <平成 28 年度活動実績>

病床数	30 床
入院症例数	152 例（新患 89 例）
悪性リンパ腫	47 例（新患 23 例）
急性白血病	33 例（新患 22 例）
多発性骨髄腫	22 例（新患 9 例）
骨髄異形成症候群	21 例（新患 10 例）
再生不良性貧血など	13 例（新患 9 例）
特発性血小板減少性紫斑病	4 例（新患 4 例）
造血幹細胞移植件数	22 件
自家移植	3 件
同種移植	19 件

当科では、白血病・リンパ腫・骨髄腫などの造血器腫瘍の他、貧血・血小板減少症などの診療を行っており、血液内科医に加え、がん化学療法認定看護師をはじめとした看護師スタッフ、がん専門薬剤師、臨床工学技士、理学療法士等がチームとなり安心して治療に専念できる環境を整えている。同種造血幹細胞移植は HLA が完全一致した血縁者からの移植がスタンダードですが、血縁に一致ドナーが見つからなければ、非血縁者間移植を行ないます。原疾患のコントロールがうまくいかない場合には、強力な GVL 効果を期待して敢えて HLA が半分だけ一致した血縁の半合致移植を行うことが良くあり、このような HLA の異なった移植は、最近ではかなり安全に行えるようになってきています。当科では、同種移植は血縁と臍帯血を行っています。血縁は一致同胞と病状によっては、半合致移植を選択しています。非血縁に関しては、臍帯血を用いていますが、これは少人数のスタッフでも行いやすいこともありますが、臍帯血は他の移植ソースと比べて少なくとも同等以上の効果が得られ、今後の可能性も大きいと信じて取り組んでいます。当院の血液疾患は、高齢に偏り同種移植に関しても、年齢は 75 歳までなら可能性を追求しています。積極的な治療となりにくい患者さんには、個々の症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めてきめ細やかな対応を心掛けていきたいと考えています。

---

## 循環器科

---

### <スタッフ>

大中 玄彦 (部長) : 循環器内科 (認定内科医、循環器専門医、心臓リハビリ指導士)  
岡本 文雄 (医師) : 救急部部長 (認定内科医、循環器専門医)  
木澤 隼 (医師) : 循環器内科 (認定内科医)  
土居 裕幸 (医師) : 循環器内科 (認定内科医)  
平野 玄起 (医師) : 循環器内科  
李 剛至 (医師) : 循環器内科 (認定内科医)  
森 京子 (医師) : 循環器内科  
大塚 宏治 (非常勤医師) : 循環器内科 (内科専門医、循環器専門医)  
片桐 直子 (非常勤医師) : 循環器内科 (認定内科医)  
頭司 良助 (非常勤医師) : 循環器内科 (認定内科医、救急専門医)

循環器疾患全体を扱い、高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病から急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈疾患、心筋炎などの急性疾患まで幅広い疾患を診療し、一般的な生理検査機器や造影検査はもちろんのこと非侵襲的に冠動脈疾患や心筋疾患の評価が可能な RI 検査、64 列 CT 検査、MRI 検査機器を揃えている。さらに心筋梗塞や急性心不全などの緊急を要する患者の治療に対してはコメディカルスタッフの協力のもと 24 時間・365 日体制で診療にあたっている。また、大阪医科大学泌尿器科の協力のもと、合併症を持つ重症透析患者の診療にも積極的に参加を始めている。外科領域においても大阪医科大学心臓血管外科との合同カンファレンスを行い重症患者の治療方針につき検討し、外科手術が必要な場合には最適な治療を提供している。

### <平成 29 年度活動実績>

外来患者延数 13,021 人 入院患者延数 14,420 人

心臓カテーテル検査・処置総数	: 391 件
冠動脈インターベンション治療	: 203 件
ペースメーカー植込み術	: 28 件
末梢血管形成術 (含む透析シャント P T A)	: 135 件
I A B P 施行件数	: 18 件
P C P S	: 3 件

---

## 消化器科・消化器内視鏡センター

---

### <部長>

神田 直樹 (消化器内科部長・消化器内視鏡センター長)

### <スタッフ>

玉田 尚 (副院長)  
山中 雄介 (副部長)  
吉岡 拓人 (副部長)  
今田 祐子 (健診部兼任)  
吉見 宏平 (救急部副部長兼任)  
松島 優介  
池田 宗弘  
濱田 達雄  
熊澤 佑介  
松村 大志郎

### <異動>

平成 30 年 3 月 松島 勇介 (退任)  
平成 30 年 3 月 熊澤 佑介 (退任)  
平成 30 年 4 月 中森 翔平 (当院初期研修医より着任)

### <29 年度活動実績>

当院消化器科は日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の認定指導施設で、2017 年度は下記の通りの検査・治療数を施行している。高度な検査・治療に対応するために開設した消化器内視鏡センターでは、指導医 3 人、専門医 4 人 (指導医含む)、内視鏡技師資格をもつ看護師 2 人を有し、年間約 5500 件の内視鏡検査を行い、早期癌治療・胆道系処置・止血処置などの治療内視鏡も年間 500 件を越えている。

消化管の内視鏡治療では、早期胃癌の ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術) は 29 年度 61 例、これまでに 589 例を施行、大腸腫瘍に対する ESD も、先進医療の時から施設認可を取得し、29 年度 44 例、これまでに 247 例と、いずれも北摂屈指の施行数となっている。これに加え、患者様が苦痛なく検査・処置を受けて頂けるよう最新鋭の経鼻内視鏡 Olympus 290N を導入し、大腸内視鏡では積極的に鎮静下内視鏡を行うことで「痛くない大腸内視鏡」が可能となり、さらに挿入が困難な患者様にはカプセル内視鏡検査も実施可能な体制を整えている。

胆膵系の内視鏡検査・処置では、超音波内視鏡ガイド下穿刺 (EUS-FNA) システムを導入し、超音波内視鏡検査だけでなく、EUS-FNA による細胞診が可能となっている。

また、数年来、緊急内視鏡が増加し、2016 年度には、内視鏡的止血術は 93 例、緊急施行の多い内視鏡的逆行性胆膵管造影 (ERCP) も 105 例となっている。

さらに、外科と共同し胃粘膜下腫瘍の低侵襲治療である LECS (Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery = 腹腔鏡・内視鏡合同手術) も施行するなど、最先端の医療に取り組んでいる。

肝臓領域では、TACE(Transcatheter Arterial Chemo-Embolization= 肝動脈化学塞栓術)、RFA(radiofrequency ablation= ラジオ波焼灼術)、抗がん剤治療を症例に応じて適切に施行し、C型肝炎に対するインターフェロンを使わない内服治療も積極的に行っている。

消化器癌の化学療法は、日進月歩で、様々な薬剤、レジメンが開発されており、切除不能消化器癌の平均生存期間も飛躍的に延長している。当科では、消化器癌の化学療法も、外来化学療法室と協力し積極的かつ安全に施行している。

近年増加している消化器疾患として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）があり、生物学製剤の使用が急増するなど治療法が著しく発展している分野だが、この領域についても専門医が安全かつ効果的に治療を行っている。

また、学会活動も、医師・医療従事者が研鑽するために必要だが、当科では、日本内科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の総会や地方会シンポジウム、日本超音波医学会などで積極的に発表を行っている。

#### <平成 29 年度患者数>

新規入院患者数 2,053 人、入院患者延数 17,124 人、外来患者延数 19,026 人

#### <平成 29 年度検査・処置症例数>

上部消化管内視鏡検査	3,936
下部消化管内視鏡検査	2,043
胃の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	60 (開始から 544)
大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	37 (開始から 247)
食道の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	8 (開始から 52)
大腸ポリープ切除 (polypectomy/EMR)	492
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP) / 内視鏡的総胆管結石除去 / 内視鏡的胆管ドレナージ・ステント留置	110
超音波内視鏡	153 (EUS-FNA 8)
内視鏡的止血術	88
小腸カプセル内視鏡	22
小腸ダブルバルーン内視鏡	17

### <30 年度活動目標>

新規入院患者数・検査・処置数・化学療法数の増加を図り、それぞれの領域について質の高い医療を目標とする。当院は ESD を積極的に行っており、特に実施施設基準の必要な大腸 ESD も施行可能基準を満たしており、ますます症例数の増加を図っていく。また、消化管では、最先端の Olympus Lucera Elite シリーズ内視鏡により、精緻な診断・治療を行い、胆道系処置についても、超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診 (EUS-FNA) が施行可能となり、症例数の増加を図っていく。また、導入が決まった最新の経鼻内視鏡 290N により「楽にうけられる上部消化管内視鏡」をアピールし、健診など含め上部消化管内視鏡の症例数も増加させるよう努める。一方、最近導入したカプセル内視鏡・バルーン小腸内視鏡の症例数の充実も図っていく。さらに、近年ニーズが高く、昨年開始した、下部消化管内視鏡検査のオープン検査を増やしていく予定である。

また、消化器癌の化学療法の分野でも、様々な薬剤、レジメンが開発されており、それらを積極的かつ安全に施行していく。肝臓の分野においても、26 年度には genotype 1 型に対し、C 型肝炎のインターフェロンを使わない治療が保険適応になったが、27 年度には genotype 2 型に対する薬剤も保険適応となり、これらも積極的に施行していく。肝臓癌治療においても、TACE だけでなく RFA 症例の増加も目標としており、また新規抗癌剤のレンバチニブの使用も開始するなど、放射線科や超音波検査室と連携して肝臓癌の早期発見に努めていく。

---

## 神 経 内 科

---

### <スタッフ>

金子至寿佳（部 長）  
中村 正孝（非常勤医師）  
廣瀬 昂彦（非常勤医師）  
古川 公嗣（非常勤医師）  
坂本 光弘（非常勤医師）  
中谷 光良（非常勤医師）  
小松 研一（非常勤医師）  
井上 学（非常勤医師）  
井上 穰（非常勤医師）

### <臨 床>

脳梗塞症例については緊急の血栓溶解療法の適応でない症例について入院加療を行った。また地域連携パスの一環として、脳梗塞パスも行い地域医療にもたずさわり、地域医療に貢献している。

### <研 修>

騎馬戦型高齢化社会に向けて、近い将来脳梗塞は神経内科専門医のみならず内科系一般医も診療にあたる必要が出てくるため研修の一環として若手医師に担当としていただくシステムをとっている。

---

# 呼吸器外科

---

## <スタッフ>

千葉 渉（副院長）：京都大学臨床教授、呼吸器外科専門医、呼吸器外科学会指導医  
胸部外科学会指導医、呼吸器学会指導医、外科専門医  
臨床細胞学会細胞診専門医

菅 理晴（呼吸器外科部長）：呼吸器外科専門医、胸部外科学会指導医  
気管支鏡指導医、外科専門医、がん治療暫定教育医、  
日本医師会認定産業医

山本 恭通（医師）：呼吸器外科専門医、気管支鏡専門医、外科専門医

康 あんよん（医師）：

## <異 動>

山本 恭通（医師） 平成 29 年 9 月退任

## <特 色>

呼吸器センターとして、呼吸器内科と協力しながら診断から治療までを包括的に行っています。手術症例ではクリニカルパスを導入し、医療安全の向上や業務の効率化を図っています。手術は肺癌症例を含め完全胸腔鏡下手術を基本としています。また手術時の縦隔鏡検査や胸腔洗浄細胞診により、正確な病期診断・適切な治療方針の決定に努めています。術前～術後にはリハビリ科に呼吸リハビリを行って頂き、呼吸機能の改善・術後合併症の予防に努めています。当院は呼吸器外科専門医制度の基幹施設、大阪府癌拠点病院であり、肺癌の手術はもとより術前導入化学放射線治療や術後補助化学療法、再発癌に対する集学的治療も積極的に行い、治療成績の向上に努めています。

## <平成 29 年度活動実績>

平成 29 年度は山本医師が島根から赴任され 3 人体制で手術が可能となったと喜んでおりましたが、9月に突然退職してしまいました。その後は康医師（2 児の育児中）と 2 名体制で手術・病棟・外来業務を行いました。手術は京大から大学院生にスコピストとして応援に来てもらい、何とか全体の 90%以上を完全胸腔鏡下で行うことが出来ました。全手術件数は 126 件、全麻が 114 件で前年度よりは若干増加しました。手術の内訳は肺癌 57 件、転移性肺腫瘍 2 件、縦隔腫瘍 6 件、気胸 20 件などでした。また入院化学療法は 77 件、外来化学療法は 167 件で外来化学療法件数が年々増加傾向にあります。

## <平成 30 年度の目標>

平成 30 年度は引き続き康医師との 2 人体制で診療を行っていきませんが、再び 3 名体制に戻れるように大学や病院にも働きかけ、呼吸器内科の協力も得ながら手術症例数が増加するよう頑張りたいと思います。手術は引き続き胸腔鏡下手術を積極的に行い、より低侵襲で安全な手術を追求します。病院経営状況が厳しい中ではありますが、新しいデバイスの導入や更なる術式の改良に取り組み、地域で一番の診療科を目指したいと思います。更に包括的診療にあたっては呼吸器内科と常に検討を行い、EBM を基本としながらも最新の知見を速やかに導入し、患者さんに最適な医療を提供していきます。一例一例を大切にしながら、QOL を考慮しながらも最大効果を期待できる治療を目指します。

---

## 呼吸器科

---

### <スタッフ>

- 北 英夫（部長）S62 卒 京都大学臨床教授。京都大学医学博士  
日本内科学会認定内科専門医・指導医・近畿支部評議員  
日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員  
日本アレルギー学会専門医・指導医  
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医  
日本癌治療認定機構がん治療認定医・  
日本呼吸ケアリハビリテーション学会評議員  
日本結核病学会 代議員
- 中村 保清（副部長）日本内科学会認定内科専門医 日本呼吸器学会専門医  
日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会指導医 ICD
- 田尻 智子（副部長）日本内科学会認定内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医  
日本アレルギー学会専門医
- 深田 寛子（医員）日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医  
日本癌治療認定機構がん治療認定医、ICD
- 後藤 健一（医員）日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医  
日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医、ICD
- 祖開 暁彦（医員）京都大学医学博士  
日本内科学会総合内科専門医指導医、日本呼吸器学会専門医  
日本呼吸器内視鏡学会専門医、日本癌治療認定機構がん治療認定医
- 鳳山 綾乃（医員）

### <異動>

- 田尻智子（副部長）平成 30 年 4 月 和歌山赤十字病院に転出  
長谷川浩一（医員）平成 30 年 4 月着任

### <平成 29 年度活動実績>

呼吸器外科とともに、呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたる。全員が専門領域にとらわれず、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるよう日々研鑽を積んでいる。

外来は月曜から金曜までで、気管支鏡検査は火曜日、金曜日の午後 2 時から行っており、CT ガイド下生検も月曜日の午後 3 時から行っている。月に 1 回、火曜日に近隣の医師と合同で公開カンファレンスを実施している。

### ・呼吸器科における外来患者数（前年）

1 日当たり平均 69.8 人/日 (73.0) ×外来診察日：週 5 日間

・呼吸器科入院病床数・患者数・平均在院日数（前年）

呼吸器科入院病床数（定数） 40 床

実際の入院患者数（平均） 54.2 人／日（49.9）

平均在院日数 14.2 日（14.6）

新入院 1,320 人（1,171）

・気管支鏡検査数（1ヶ月当りの件数） 20 件

呼吸器外科とともに呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたり、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるように研鑽を積んでいる。21 年度より CT ガイド下生検を開始し、年間 20 例前後の症例を得た。また、在宅酸素療法は 146 在宅人工呼吸療法 26 例（NPPV を含む）睡眠時無呼吸症候群の夜間睡眠ポリグラフ検査（PSG）年間 100 例、鼻 CPAP 年間 46 例程度導入しており、気管支喘息クリニカルパス入院 18 例、慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸トレーニングプログラム入院 11 例程度となっている。

肺癌診療については、大阪府がん診療拠点病院として他科や他職種と連携しながら治療効果と生活の質（QOL）の両立にも取り組んでいる。昨年、PD-1 阻害薬、第三世代 EGFR 阻害薬などの次々と新規薬剤が上市され、この分野の進歩は著しい。これらの薬剤を確実に安全に使用するため、副作用マネジメントを含めた院内クリニカルパスや薬剤師外来など他職種や他科とも連携して副作用対策にあたっている。また、希少な遺伝子変異を疑う肺癌については国立がんセンター東病院と連携し、新規分子標的薬の臨床治験に参加できる体制を確立している。気管・気管支の中心型肺癌に対しては、蛍光気管支鏡検査を施行し、早期診断に活用している。その他、気道閉塞を生じた手術不能の肺癌や食道がんに対して半導体レーザー治療や金属ステントの留置により QOL の改善を図っている。また、高槻市の肺癌検診の読影会への参加や全国的な規模の抗がん剤の多施設共同臨床治験にも積極的に参加をしている。

肺癌治療において早期からの緩和ケアが必須のものとなっている。がん診療に携わる医師のため緩和ケアの教育プログラムは全国で実施され、当科スタッフも全員修得済みである。また、24 年度は癌治療認定医も、順次全スタッフが習得の予定である。また、診断時よりがん相談センター、院内緩和ケアチームと連携し、疼痛管理を中心とした支持療法のみならず、全人的苦痛に対応すべく取り組んでいる。また、患者さんのご希望に応じて、緩和ケア病棟の利用は言うまでもなく、社会ケースワーカーや退院調整看護師、地域医療連携室、訪問看護ステーション等と、地域の診療所と連携した在宅管理も行っており、終末期への体制も整備されてきている。

その他の多彩な呼吸器内科疾患についても確立された Up date な治療を心がけている。気管支喘息患者には吸入ステロイドを中心とした治療を行い、入院の必要な例にはクリニカルパスを用いた教育指導を行い、自己管理を目指している。外来では当院独自の外来喘息教育プログラムを作成し、看護師による吸入指導とピークフローメータを用いた自己管理の指導を行い、更に吸入指導については近隣の薬局とも連携して行っている。また、H 24 年度よりはアレルギー性気道炎症の指標としての呼気 NO 測定や特殊な肺機能検査であるモストグラフを用いて症状だけに頼らず、客観的指標による喘息コントロール状態の評価に努めている。また、従来の吸入薬でコントロール不良の重症喘息に対しては積極的に omalizumab や mepolizumab などの分子標的薬を使用している。今後は気管支鏡による温熱療法もすでに全国で臨床導入されており、当院でも導入を検討していきたい。

外来初診で多い遷延性咳そうには診断のアルゴリズムを作成し、咳喘息の他、逆流性食道炎、百日咳などの早期発見に留意している。

COPD を中心とした、慢性呼吸器疾患には肺機能検査や CT による早期発見と禁煙外来との連携による、禁煙指導、気管支拡張薬を中心とした治療を行っている。進展期にはリハビリテーション科、栄養科、薬剤部等とのチーム医療による、包括的リハビリテーションプログラム入院を行い、さらに、地域の診療所との連携による継続を図っている。また、H26 年 4 月より慢性疾患専門看護師による HOT 患者を中心とした看護外来、ほっとひといき外来を開始し、慢性呼吸器疾患患者に対する、より包括的できめ細かな対応が可能になった。睡眠時無呼吸症候群に対しては、個室使用による PSG 検査、簡易睡眠モニターを実施し CPAP 治療、口腔内装具による治療を行い、耳鼻咽喉科、糖尿病、生活習慣病科、栄養科とも協力し、合併症、肥満に対する治療を行っている。また、循環器科と協力して心不全に伴う睡眠呼吸障害に対し、ASV(assisted-servo ventilation) による最新の呼吸管理を行っている。

そのほか、あらゆる呼吸器感染症について対応している。肺結核についてはモデル病床(3床)により、陰圧隔離をおこなっている。また、近年著増している非結核性抗酸菌症については従来の薬物治療のみならず、適応のある症例については手術治療も併用している。

また、間質性肺炎については HRCT や気管支鏡検査により、原因検索に努め、膠原病内科とも連携して診断治療にあたっている。肺線維症を中心とした慢性線維性肺臓炎については pirfenidone や nintedanib などの抗線維化薬を積極的に使用している。

急性呼吸不全、急性肺障害、慢性呼吸不全の急性増悪等に対しては、HCU において集中的な呼吸管理を行っており、挿管人工呼吸管理においては肺保護を考慮した低換気量による人工呼吸管理やリクルートメント手技などを行っている。また、問題となっている VAP(人工呼吸関連肺炎)対策として NPPV (non-invasive positive pressure ventilation) による呼吸管理のみならず、陰圧式の人工呼吸器を用いての管理などを試みている。また、最新の酸素療法である Nasal High Flow therapy もいち早く導入し、QOL に留意した酸素化の改善が可能となった。また、敗血症などにもなう急性肺障害や肺線維症などの間質性肺炎の急性増悪にたいしては、従来の薬物治療のみならず、血液濾過によるエンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) や ECMO を行い、救命率の向上を目指している。

市中肺炎、院内肺炎については診療ガイドラインを踏まえながらも地域の病院として個々の症例に応じた診療と当院での薬剤感受性を考慮した適切な抗菌剤の使用に努めている。

また、当科は京都大学の学生臨床実習の協力科であり、年間数名の学生実習とその他希望により他大学からの実習を数名受け入れている。

当科は研修医にとっては非常に実践的な環境であると考えられる。豊富な症例に対応していただき、基本的な診療技術と基本的治療を経験してもらい、多彩な呼吸器疾患に対応しなくてはならない呼吸器内科医として成長できる環境を提供できると考えている。また、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本内科学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設として総会、地方会での症例報告、研究発表等を行っている。大阪府内、北摂地域を中心とした多くの研究会や講演会での世話人、座長、講演などを務めている。

### <平成 30 年度活動目標>

積極的に逆紹介を推進し、積極的に地域連携を推し進めていきたいと考えている。また、近隣病院との研究会、論文発表など学術活動もより活発に行い、若手医師の育成獲得にも引き続き努力していきたいと考えている。

---

## 小児科

---

### <スタッフ>

成田 努 (部長) 平成 29 年 9 月まで  
古川 福実 (院長兼部長) 平成 29 年 10 月から  
瀧北 彰一 (副部長)  
大関 ゆか (医師)  
越智 純子 (非常勤医師)  
岸 勘太 (非常勤医師)

### <異 動>

成田 努 (部長) 平成 29 年 9 月退職  
古川 福実 (院長兼部長) 平成 29 年 10 月着任

### <平成 29 年度活動実績>

子どもたちが健やかな身体と心を保つことの出来る診療をモットーに北摂三島地域の基幹病院として、地域の開業医および他病院と連携を保ちながら小児科領域全般の診療に当たっています。また三島地区広域小児救急医療機関として積極的に救急車の受け入れを行っており、毎週水曜日には二次救急輪番病院として 24 時間小児科医が待機しています。

外来は月曜日から金曜日まで小児科領域の発達、疾病全般を幅広く行っています。特殊外来として心臓外来は毎月、第 2,4 週の火曜日午後に行っており、神経外来は毎月、第 1 週の火曜日午後に行っています。

乳児検診は毎週月曜日の午後から 1 カ月検診、乳児健診を行っています。

予防接種は毎週、月曜日、水曜日、木曜日の午後から行っています。

また救急は原則、全例、積極的に受け入れています。

外来患者数 3,574 人 (1 日平均 14.7 人)

入院患者数 464 人 (新入院：128 人、退院：132 人) 在院日数：2.6 日

#### ◆特殊外来

◇心臓外来 (毎月 第 2・4 週 火曜日 午後より)

◇神経外来 (毎月 第 1 週 火曜日 午後より)

#### ◆健診等

◇1 ヶ月健診 (毎週 月曜日)

◇乳児健診 (毎週 月曜日)

◇予防接種 (毎週 月曜日：午後 3 時、水曜日・木曜日：午後 2 時より)

#### ◆救急

患者数 152 人 (時間内：25 人、時間外：95 人、深夜：32 人)

---

# 外科

---

## 消化器外科

### <スタッフ>

平松 昌子（副院長）大阪医科大学臨床教育教授・非常勤講師  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医  
日本臨床外科学会幹事・評議員  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本食道学会食道外科専門医・食道科認定医・評議員  
日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医  
日本腹部救急医学会評議員・暫定教育医 他

小林 稔弘（消化器外科部長・乳腺外科部長）  
日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、日本消化器病専門医  
検診マンモグラフィ読影認定医

恒松 一郎（消化器外科副部長） 日本外科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医  
日本外傷診療研究機構 JATEC 修了

河野 恵美子（医師） 日本外科学会専門医、指導医、日本がん治療認定医機構認定医  
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

今井 義朗（医師） 日本外科学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医  
日本外傷診療研究機構 JATEC 修了

鈴木 悠介（医師）

### <異動>

鈴木 悠介 平成 29 年 4 月着任

今井 義朗 平成 30 年 3 月退任

### <平成 29 年度活動実績>

上部・下部消化管の悪性疾患に対してその大半を腹腔鏡下手術によって行い、胆石症や単径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患では単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としている。食道癌に対しては北摂地域で数少ない食道外科専門医による腹臥位による完全胸腔鏡・腹腔鏡下の食道切除再建術を行い、食道胃接合部の癌に対しても低侵襲かつ根治性の高い手術を可能にした。cStage I の胃癌に対しては幽門測胃切除・噴内側胃切除・胃全摘を問わず、切除・郭清から再建までの完全腹腔鏡下手術を行い、高度進行胃癌に対しては積極的な拡大手術や術前補助療法を併用して、根治性の向上を目指す。大腸癌に対してはそのほとんどを腹腔鏡下手術で行い入院期間の短縮につなげた。ストマ外来では専門の医師と皮膚・排泄ケア認定看護師がケアに当たっている。肝癌に対しても腹腔鏡下手術を導入し、症例によって単孔式での手術も行った。胆石症では単孔式腹腔鏡手術と内視鏡手術の併用によりほとんど傷のない治療を可能にした。膵癌に対しても腹腔鏡手術を含む積極的な外科切除を行い、高度な専門性を必要とする疾患も質の高い外科治療を提供す

ることが可能となった。当院では単孔式手術や3D内視鏡のような新しい技術を取り入れることで患者さまに質の高い医療を提供している。また、化学療法の分野においても最新のデータに基づいた治療の提供を外来化学療法室と連携して行っている。

当院は大阪府がん診療拠点病院であり、治療法の決定に際してはガイドラインに沿った標準的治療法を提示することはもちろんのこと、個々の患者さまの背景やニーズにも配慮したオーダーメイドの治療も提供している。手術後・退院後も、担当医がかかりつけ医と密に連携をとりながらフォローアップを行い、抗癌剤治療はできるだけ外来通院で行えるように専門看護師を配置した外来化学療法室を完備しており、さらには緩和ケア科による終末期医療まで、様々な職種がチームとなって、ひとりひとりの心に寄り添った治療を行っていくよう心がけている。

(主な手術件数)

食道切除再建術	1件	(うち鏡視下手術	0件)
胃切除	17件	(うち鏡視下手術	9件)
胃全摘	11件	(うち鏡視下手術	5件)
結腸切除	12件	(うち鏡視下手術	2件)
直腸切除	25件	(うち鏡視下手術	22件)
肝切除	5件	(うち鏡視下手術	0件)
膵切除	13件	(うち鏡視下手術	0件)
胆のう摘出術	72件	(うち鏡視下手術	0件)
虫垂切除	21件	(うち鏡視下手術	21件)
鼠径ヘルニア	59件	(うち鏡視下手術	49件)

<平成30年度活動目標>

それぞれの患者さまのニーズや病態を理解しながら、これまで導入してきた新しい手技や最新の知見をもって質の高い外科治療を提供していく。また、他科や他職種を含めた勉強会やカンファレンスを通してチーム全体のスキルアップを図っていく。学会や研究会活動も積極的に行い、当院からも新たな情報発信を目指す。

## 乳腺外科

### <スタッフ>

小林 稔弘（乳腺外科部長兼消化器外科部長）

坂根（松田） 純奈（医師）：乳腺外科、消化器外科兼務

### <平成 29 年度活動実績>

乳房に関する良性（腫瘍、乳腺炎、女性化乳房症など）から悪性（癌、肉腫）までの各種疾患に対して検査、治療を行っている。

標準的な検査手段は全て備えており、MMG,US,CT,MRI などの画像診断を可能としている。特に MMG は最近話題の高濃度乳腺においても有効性が高いとされるトモシンセシス付きの最新鋭の機材を導入し、通常の画像に加え、デジタル断層像を撮影できる体制を構築している。

さらに検診発見の多い微小石灰化に対しても、この最新 MMG 利用のステレオガイド装置を使用した吸引式針生検装置も更新した。

乳腺手術は 40 例を行い、6 割に温存手術を選択し、乳房切除術を選択する場合も、形成外科との乳房再建術のオプションも提示している。良性疾患の手術も摘出術から血性乳汁分泌に対する乳管腺葉区域切除の様な特殊手術も手掛けている。

化学療法、ホルモン療法、分子標的療法などの薬物治療も、本邦で適応のある薬剤は全て導入している。さらに多施設共同試験などにも参加しての治験も行っている。

当院は、外来化学療法室を有し、化学療法専門看護師、薬剤師とのチームで患者さまを支えている。加えて乳房温存手術に欠かせない放射線治療も放射線治療専門医や専任放射線技師、看護師とも連携して行うことを可能としている。常勤病理専門医の協力で、術中迅速病理検査でリンパ節転移の有無、断端診断を素早く行える体制も整っている。

また癌と診断されたその日からでも、緩和ケア診療科との連携により、癌相談、緩和治療などでのサポートが受けられるように配慮している。

### <平成 30 年度活動目標>

地域がん拠点病院にふさわしい診断、治療体制を確立、維持する。さらには単科での努力ばかりではなく、院内各科が横断的に協力しあえる組織作りを目指していきたい。外来化学療法室、薬剤部、放射線科などを含めた多職種が、臨床治療のみならず学会活動や公開講座にも参加し、活動を内外に告知するべく努力していく。

受診者の満足度を追及し、喜ばれ、安心してもらえる医療を提供していきたいと考えている。

---

## 脳 神 経 外 科

---

### <スタッフ>

千葉 渉（副院長兼脳神経外科部長）

青山 育弘（非常勤医師）

池田 直廉（非常勤医師）

### <平成 29 年度活動実績>

週 4 回（月・火・水・金曜日）一般外来診療、救急患者受け入れ、入院患者のコンサルトなどを行った。

外来患者延べ数 1,152 人 / 年

---

## 整形外科

---

<スタッフ> \*：日本整形外科専門医 #：日本リウマチ学会専門医

小田 幸作\* # (部長)：関節リウマチ、股・膝関節外科、外傷および整形外科一般

市場 厚志\* (副部長)：膝関節外科、スポーツ整形、外傷および整形外科一般

徳山 文人\* (副部長)：脊椎外科、外傷および整形外科一般

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

池田 邦明 (医師)：整形外科一般

石谷 貴 (医師)：整形外科一般

阿部 宗昭\* (非常勤医師)：大阪医科大学名誉教授、手の外科 (日本手外科専門医)

岸本 郁男\* # (非常勤医師)：大阪医科大学非常勤講師、股・膝関節外科、関節リウマチ

<異 動>

池田 邦明 平成 29 年 4 月着任、平成 30 年 3 月退任

石谷 貴 平成 29 年 4 月着任、平成 30 年 4 月退任

<専門外来>

膝関節外来、リウマチ外来、脊椎外来、エコー外来、肘 / 手の外科

<平成 29 年度活動実績>

29 年度入院患者延べ数 13,091 人 (1 日平均 35.9 人)

29 年度外来患者延べ数 14,751 人 (1 日平均 60.7 人)

平成 29 年度の手術手技件数 計 690 件

当科の特徴としては subspecialty として関節・脊椎・関節リウマチを、generality として外傷・整形外科一般の治療を、急性期治療の地域基幹施設として救急や開業医からのご紹介を頂いて行っている。各スタッフ Dr は高い専門性を保ち、それぞれの疾患の中心となって治療にあたっている。人工関節外科の手術において膝ではより高い QOL をめざした人工関節の導入、股関節では低侵襲人工股関節置換術 (MIS-THA) を適応症例に施行し、筋肉腱の切離が少ないこと、あるいは全く行わないことで患者の術後の疼痛コントロールや運動回復が早くなり、また術後のリハビリを短くできることで早期の社会復帰と退院を可能にしている。

膝靭帯、半月板損傷などのスポーツ整形外科治療では、靭帯の解剖学的再建を行い、トッパスリートの膝損傷のスポーツ復帰を可能にしている。

脊椎手術では、頸・胸・腰椎の各種の疾患に対する疼痛や、神経障害による運動機能障害などを改善させる治療を行っており良好な成績をあげている。腰椎椎間板ヘルニアは内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術 (MED) で対応しており、2 cm 弱の皮切で数日～1 週間程度の短期間で退院を可能にしている。脊椎固定術も安定した成績を出しており、悪性腫瘍脊椎手術も手掛けている。又、腰部脊椎管狭窄症も症例によっては内視鏡下椎弓切除術を行っている。その他様々な脊椎疾患に対し症例毎に検査、評価を行い硬膜外ブロック、神経根ブロックなどを含めた保存治療、あるいは手術治療を選択している。

骨粗鬆症や関節リウマチに対しては、患者さまの症状に合わせ様々な治療を行っている。関節リウマチの治療は treat to target (T2T) の概念を取り入れ MTX をアンカードラッグとして biologics を導入し、他科と院内連携および病診連携をはかり、安全で確実な治療を目指している。

三島地区の場合は超高齢者の人口比率が高く、救急患者の多くを占める大腿骨頸部骨折・転子部骨折の患者に対しては他科との密な院内連携をはかり、術後はチーム医療によりクリニカルパスの導入、移行を行っている。

手の外科手術も引き続き、阿部名誉教授（大阪医科大学）の指導の下、高い水準の手術が出来ている。

当科は急性期病院への特化として新患患者や救急患者、開業医からの紹介患者を中心に診察するよう心がけ、開業医先生のご協力のもとに地域連携を強化して開業医先生への逆紹介とかつ手術対象になる患者の紹介を増やしていくように努力している。

---

## 形成外科

---

### <スタッフ・専門分野>

田辺 敦子 (部長) : 日本形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導医専門医、  
日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本美容外科専門医、  
日本形成外科学会小児形成外科分野指導専門医、日本抗加齢医学会専門医、  
日本医師会認定産業医、臨床研修指導医

引網 梨奈 (医員) : 形成外科一般

鈴木 健司 (非常勤) : 日本形成外科学会専門医、日本熱傷楽器専門医、日本創傷外科学会専門医、  
皮膚腫瘍外科指導医専門医

光井 俊人 (非常勤) : 日本形成外科専門医

### <異 動>

畔 熱行 平成 29 年 9 月退任

引網 梨奈 平成 30 年 3 月退任

櫛田 哲史 平成 30 年 4 月着任

### <平成 29 年度活動実績>

平成 29 年度 形成外科新患者数 約 684 名

平成 29 年度 手術件数 約 537 件 (入院手術件数 127 件)

### <学会発表>

小関梨奈、田辺敦子 : 臀部フルニエ壊疽の 1 例

学会名 : 第 117 回 関西形成外科学会学術集会

開催日 : 2017 年 11 月 26 日、開催場所 : 大阪

田辺敦子 : ミュンヒハウゼン症候群の 1 例

学会名 : 第 58 回 KC 会

開催日 : 2017 年 12 月 16 日、開催場所 : 大阪

### <論文>

田辺敦子 : シリコンによると考えられる隆鼻術から 40 年以上経過後に外鼻変形をきたした  
2 症例の検討

日本美容外科学会会報 : 第 40 巻、第 1 号、9-17、2018 年 3 月 25 日

### <平成 30 年度活動目標>

当院形成外科は、日本形成外科学会教育関連施設です。

よく行われる手術として、皮膚・皮下腫瘍摘出術、顔面外傷・顔面骨骨折、眼瞼下垂症、傷跡の治療、  
悪性腫瘍切除後再建などがあります。また、シミのレーザー治療などの自費診療も行っています。  
今後も更に良質の形成外科診療を行うように努めます。

---

## 皮膚科

---

### <スタッフ>

- 古川 福実（部長）
- 奥野 愛香（副部長）
- 平川 結賀（常勤医師）

### <平成 29 年度活動実績>

- 29 年度入院患者延べ数 766 人
- 29 年度外来患者延べ数 8,686 人

- ・アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、類法制類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、蜂窩織炎、帯状疱疹、白癬などの感染性皮膚疾患、円形脱毛症、陥入爪などの皮膚付属器疾患、褥瘡、下腿潰瘍、皮膚腫瘍、化学療法による皮膚障害、薬疹などの診療を行っています。
- ・水曜日には古川院長による院長外来を行っております。他県からの紹介もあり、SLE や強皮症などの膠原病、難治性アトピー性皮膚炎、難治性蕁麻疹の方などの診療をしています。
- ・2018 年 4 月より美容皮膚科外来を開設し、肌画像カウンセリングシステム「re-Beau2」を使用し、治療前後や経過を比較しながら、治療を行っています。老人性色素斑、母斑などレーザー治療が必要な場合は当院形成外科と連携し治療をしています。
- ・乾癬に対して、生物学的製剤治療の認証施設となっているため、難治症例に対して、レミケード、ステラーラ、ヒュミラ、コセンティクスなどを使用しています。
- ・本年度より紫外線治療の機器（ナローバンド UVB）も新しく導入し、尋常性乾癬、菌状息肉症などの方に治療をしています。
- ・皮膚腫瘍に関しましては、ダーモスコピー、組織検査を併用して、早期に診断し、治療に手術を要する場合は、当院形成外科にお願いしています。
- ・褥瘡に対しては、毎週月曜日午後に病棟の褥瘡回診と褥瘡外来を行っています。在宅かかりつけ医や施設からのご紹介が多く、皮膚・排泄ケア認定看護師と皮膚科医、形成外科医で症例それぞれに合った治療、予防ケアができるように努めています。

---

## 泌尿器科

---

### <スタッフ>

武縄 淳（部長）平成 29 年 6 月まで

千葉 渉（副院長兼部長）平成 29 年 7 月から

徳地 弘（副部長）

金谷 勲（副部長）

### <異動>

武縄 淳（部長）平成 29 年 6 月退任

千葉 渉（副院長兼部長）平成 29 年 7 月着任 平成 30 年 3 月退任

六車 光英（部長）平成 30 年 4 月着任

### < 2017 年度活動実績 >

泌尿器科診療一般

2017 年度の手術件数は 314 件（前立腺生検 94 件、ESWL 49 件を含む）で、前年度の 332 件よりも減少している。これまでの泌尿器科医 3 人体制が 7 月より 1 人減員となって 2 人体制となり、しばらく外来診療が立ち回らず混乱を極めた。できる限りかかりつけ医への逆紹介を行い、診療時間が長くかかる場合は外来診療日以外の受診振り分けをするなどして乗り切っている。

主な手術件数は以下の通りである。全体的に昨年より大きな変動はないが、経尿道的前立腺切除術が昨年より 10 件減少しており、人員減のため手術せず内服治療を継続していると考えられる。また、膀胱全摘除術はマンパワー的に困難なため他院に紹介せざるを得なかった。

経尿道的膀胱腫瘍切除術	59 件
前立腺全摘除術	29 件（腹腔鏡手術 13 件）
経尿道的前立腺切除術	24 件
経尿道的結石除去術	13 件
腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍手術	10 件
陰嚢水腫根治術	4 件
精巣腫瘍手術	3 件

### < 2018 年度活動目標 >

徳地弘医師が 3 月で退職し、4 月より新たに六車光英医師を部長として迎える。これまで通りの診療体制を維持しつつ標準的で安全な医療の提供を行い、特に地域連携にも力を入れて症例数の増加につなげたい。

---

## 産婦人科

---

### <スタッフ>

平松 昌子（副院長兼部長）

中村 路彦（副部長）

渡辺 綾子（医師）

### <異 動>

渡辺 綾子 平成 30 年 3 月退任

### <特 色>

産婦人科の全般にわたり、総合的に診療を行っている。

### <産 科>

妊娠初期から分娩、産褥期まで全妊娠期間に渡り診療を行っている。妊娠経過が順調な妊婦さんには助産師外来での妊婦健診が可能で、何か異常が疑われた場合にはすぐに医師への報告があり、迅速な対応をとっているので安心して妊婦生活を送ってもらっている。また糖尿病、甲状腺疾患、自己免疫疾患を合併している場合は当院の内科医に紹介し、一緒に妊娠・分娩経過を行っている。当科では妊婦さんが安心して分娩できるようにスタッフ一同心がけている。

分娩件数：56 人（平成 29 年度）

### <婦 人 科>

子宮筋腫・卵巣腫瘍等の良性疾患から子宮癌・卵巣癌等の悪性疾患、更年期障害に渡るまで幅広く診療を行っている。手術において良性疾患の場合は術式を患者と相談しながら決定している。希望があれば腹腔鏡での手術も行っている。また子宮鏡検査は外来で行っており日帰りでの処置を可能にしている。

また終末期医療においては当院の緩和医療チームと共同での管理を施行し、一人一人の患者の要望に応じながらの診療を心がけている。

---

# 眼 科

---

## <スタッフ>

平松 昌子（副院長兼部長）  
木村 大作（副部長）：網膜硝子体、白内障  
藤田 恭史（医師）：涙道・眼形成、白内障  
根元栄美佳（医師）：緑内障、白内障、眼科一般  
奥村 峻大（医師）：角膜、白内障、眼科一般

## <異 動>

根元栄美佳（医師）：平成 30 年 3 月退任  
平松 昌子（部長兼副院長）：平成 30 年 3 月退任  
植木 麻理（部長）：平成 30 年 4 月着任

## <特 色>

これまでも眼科疾患全般の治療に対応しており、白内障や網膜硝子体疾患、眼形成、涙道疾患に対する手術治療に力を入れていたが、平成 30 年 4 月に植木部長が着任し、さらに緑内障手術も行えるようになった。白内障手術に関しては、日帰りから入院まで患者様のニーズに幅広く対応し、乱視矯正眼内レンズや多焦点眼内レンズなどのプレミアムレンズを用いた白内障手術も行っている。硝子体手術については最新の手術機器を用いた小切開硝子体手術を行い、眼瞼下垂の手術や涙道内視鏡を用いた涙道閉塞に対する治療も積極的に行っている。網膜硝子体疾患では加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬硝子体注射も行っている。毎週木曜日の夜間帯には眼科救急を担当している。

## <専門外来>

黄斑外来、緑内障外来、ロービジョン外来

## <平成 29 年度活動実績>

統計 863 件  
(内訳：白内障 530 件、網膜硝子体 37 件、外眼部手術 144 件、レーザー 152 件)

## <平成 30 年度の活動目標>

病診連携を上手く活用し、紹介患者数の増加と手術件数の増加を目標とする。また眼科の救急当直を積極的に行うことで、地域医療への貢献を目指す。

---

## 耳鼻咽喉科

---

### <スタッフ>

藤田 修治（部長）：鼻副鼻腔内視鏡下手術、小児睡眠時無呼吸

### <異 動>

なし

### <特 色>

常勤医一人体制であるのかかわらず、多くの手術をこなしていることが一番の特徴です。当院の特色は喘息合併の副鼻腔内視鏡手術の件数が多いこと、小児の睡眠時無呼吸の手術件数が多いこと、内視鏡手術の割合が大きいことです。最近は呼吸器内科経由での喘息合併慢性副鼻腔炎の手術症例も増えています。

### <平成 29 年度の活動実績>

長いもので、当院勤務も 16 年を超えました。最近の手術は慢性副鼻腔炎、扁桃アデノイド手術が大半です。8 月に特殊な副鼻腔疾患を茨木の研究会、9 月に日本耳科学会にて発表しました。

### <平成 30 年度の活動目標>

少しでも長く、今の診療を続けることが目標です。

---

## 放射線科 + 核医学科

---

### <スタッフ>

#### ◆医師

後藤 公男（部長）：画像診断  
山室 正樹（部長）：核医学診断 + 画像診断  
的場 直樹（副部長）：画像診断  
今井 雅夫（非常勤）：画像診断  
坂中 克行（非常勤）：放射線治療  
芦田 良（非常勤）：放射線治療

#### ◆診療放射線技師

松原 健夫（課長兼核医学係長）  
大嶋 浩嗣（MRI 係長）  
中村 義隆（放射線係長）  
関本 淑徳（CT 係長）  
涌田 哲成（放射線治療係長）  
西村 大樹、林 恵理子、松山 佳央、渡邊 良彦、石寄 伸也、松下 あゆみ、在津 幸香里、  
柳田 泰祐、原 祥太郎、木戸口 堯史、梅原 笑、村上 慎哉

#### ◆事務員

植松 恵美子

### <施設認定、資格>

◆マンモグラフィ（乳房エックス線写真）検診施設画像認定

◆検診マンモグラフィ撮影技術認定

林 恵理子・松下 あゆみ・在津 幸香里・梅原 笑

◆第1種放射線取扱主任者

西村 大樹・木戸口 堯史

◆肺がん CT 検診認定技師

関本 淑徳

◆X線 CT 認定技師

関本 淑徳・松山 佳央

◆放射線管理士、放射線機器管理士、医療画像情報精度管理士、

放射線治療品質管理士、臨床実習指導教員

渡邊 良彦

◆放射線治療専門放射線技師

涌田 哲成・渡邊 良彦・石寄 伸也

◆平成29年度取得資格

放射線治療品質管理士

涌田 哲成・石寄 伸也

## <平成 29 年度活動実績>

### ◆研究発表、研修会開催実績

#### 【院外】

※第 26 回日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会及び  
施設代表者会議を開催

高槻赤十字病院 全放射線課員

※第 26 回日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会会員発表  
「放射線治療用 CT における存在所見レポートの作成」

木戸口 堯史

※第 28 回近畿日本赤十字社リハビリテーション研修会

特別講演 3 「メディカルスタッフが知っておくべき放射線療法」

涌田 哲成

※日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック委員

松原 健夫

#### 【院内】

※リハビリテーション課、放射線治療見学と紹介

案内 涌田 哲成

※「骨転移に対する放射線治療」

坂中 克行

### ◆研修会・講習会・学会等への参加

※ 58 人 / 37 会（診療放射線技師のみ）

### ◆その他活動

※オープン検査紹介活動 近隣施設訪問

松原 健夫

大嶋 浩嗣

涌田 哲成

### ◆機器整備更新

※ポケット線量計

※回診用 X 線撮影装置

※リマージュパブリッシャー

◆放射線科 + 核医学科 検査件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
一般撮影	44,953	45,289	44,134
造影検査	1,437	1,278	1,156
マンモ	1,827	1,486	1,443
CT	9,656	9,652	10,155
MRI	3,562	3,574	3,706
RI	888	792	890
血管造影	555	567	551
放射線治療	2,112	2,376	2,446
骨密度	921	913	970
コピー	4,323	4,388	4,758

◆放射線科 + 核医学科 紹介検査件数

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
CT	155	191	197	227
MRI	187	236	262	360
RI	45	82	104	133

<平成 30 年度活動目標、計画>

◆放射線科 + 核医学科

- ※教育訓練の開催及び内容の改定
- ※放射線予防規定の改定
- ※紹介患者の獲得
- ※品質管理、機器管理、モニタ管理、画像管理、感染管理の強化
- ※医療安全への意識強化
- ※撮影待ち時間の短縮につながる業務改善
- ※被ばく管理強化

---

# リハビリテーション科

---

## <スタッフ>

医師：馬止 裕（部長）  
服部 智（非常勤）  
理学療法士：野村 省二（リハビリテーション科課長）  
新地 史章（第一理学療法係長 2017 年 4 月昇任）  
倉繁 浩一（第二理学療法係長）  
内田 美菜子（2017 年 4 月入社）  
住友 優理子（2017 年 4 月入社） 他 8 名  
作業療法士：八木 紀子  
山崎 孝子  
石塚 威  
大下 綾華  
言語聴覚士：椎葉 佳子  
大路 かほる

## <特色>

当科は、1993 年 9 月にリハビリテーション（以後リハと略す）総合承認施設（理学療法Ⅰ・作業療法Ⅰ）を、2002 年 8 月に言語聴覚療法Ⅱの認可を受け、包括的なりハ活動を展開してきた。2016 年 4 月の診療報酬改定に対応して、全ての施設基準（運動器Ⅰ・脳血管疾患等Ⅰ・廃用症候群Ⅰ・呼吸器Ⅰ・心大血管疾患Ⅰ・がんのリハ）の認可を受けた。急性期病院としてのりハ機能を遂行するために、りハ対象疾患患者に対して早期に介入し、早期退院を図っている。以前から着手している、緩和ケア病棟における緩和医療にも力を注いでいる。

理学療法部門において、運動器りハでは人工関節置換術・関節損傷・脊椎外科・大腿骨頸部骨折（地域連携パス使用）等の整形外科疾患、脳血管疾患等りハの件数は少ないが脳血管疾患・パーキンソン病等の中枢神経系疾患、廃用症候群では外科術後の方や多種多様な運動器廃用の方を対象に早期の日常生活動作の自立と QOL の向上を目差したアプローチを進めている。

呼吸器りハでは、1972 年に着手した呼吸理学療法を発展させ、今日では呼吸器外科は勿論、一般外科患者に対し HCU から理学療法を行っている。慢性呼吸不全患者に対しても、包括的呼吸りハプロジェクトを組み患者の早期社会復帰への働きかけを行っている。

2014 年 7 月に施設基準を取得した心大血管疾患りハでは、心不全・狭心症・心筋梗塞等の入院患者を中心に多職種による包括的アプローチ実施している。可能な範囲で外来も開始している。

がんのリハビリについては、施設基準取得以前からりハ介入しており、緩和ケアまで一貫した多職種での取り組みを図っている。

作業療法部門では、理学療法部門と同様に多様な患者様を対象に、入院中より家庭復帰、職場復帰を想定したアプローチを行っている。手の外科手術後のハンドセラピーには積極的に取り組んでおり、装具も開発している。

言語聴覚療法部門では、NST 専門療法士として NST 委員会メンバーに加わり摂食嚥下障害（栄養障害含む）の治療やケアに効果を上げている。がん患者においても 2017 年 1 月より算定資格

を得て緩和まで介入させている。それ以外に失語症・構音障害・言語発達遅延へのアプローチも実施可能である。

また、2017年11月より認知症ケア専門士として認知症ケアサポートチームの活動に加わっている。

### <診療実績>

理学療法患者延件数：37,859件（前年度+4,571）

	外 来	入 院
運動器	3,265	10,692
脳血管疾患	0	625
廃用症候群	6	2,417
呼吸器	6	7,657
心大血管	128	4,198
が ん		4,785
その他	155	3,925
小 計	3,560：前年度+529	34,299：前年度+4,042

作業療法患者延件数：11,331件（前年度+2,974）

	外 来	入 院
運動器	2,152	2,253
脳血管疾患	25	466
廃用症候群	0	753
呼吸器	1	3,697
心大血管	0	140
が ん		796
その他	72	954
小 計	2,282：前年度+63	9,049：前年度+2,911

言語聴覚療法患者延件数：4,316件（前年度+568）

	外 来	入 院
脳血管疾患	25	211
廃用症候群	0	3,243
集団コミュニケーション療法	0	0
が ん		282
その他	0	555
小 計	25：前年度+10	4,291：前年度+558

### <平成29年度の活動実績・成果>

部門別行動計画を立て、それに則って業務改善や業務の効率化向上を図ることとなった。重点目標「リハビリ対象者を確保し、リハビリ専門職1人あたりの月平均単位数を増加させる。」ために以下の通り行動目標と実践内容を企画した。

- I. リハビリ対象患者数の増加：①病棟カンファレンス・回診での検討及び対象患者の選出②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及び対象患者の選出③院内広報：病院の活動を知る会・広報誌の利用④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保⑤看護師と共同での摂食機能療法の算定⑥外来患者数の確保：心リハ患者数の増加  
→⑤の施設基準取得が延期されたが、ほぼリハビリ対象者の選出がされ患者数は大きく増加し、延件数及び実施率も比例して増加した。

- II. リハビリ専門職 1 人あたりの月平均単位数を増加：①理学療法士（新卒 2 名）の補充による業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③がんのリハビリテーション研修会受講（がんのリハビリテーション算定資格 4 名追加）④手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格 1 名追加）⑤科員休暇時における代行での患者数及び単位数確保  
→患者数の増加においてリハビリ月平均単位数も増加する。がんリハ 4 名及び知覚機能テスト 1 名が予定通り算定資格を得ることで、増収に繋がる。
- III. 時間外勤務時間の削減：①補充理学療法士（新卒 2 名）の新人教育（業務指導：治療内容含む）②業務内容の見直しによる作業効率向上（業務マニュアル更新含む）③事務作業員への業務移管あるいはリハ管理システム導入  
→患者数の予想以上の増加で理学療法士をはじめ他の療法士に関しても時間外は増加した。病院の稼働率に倣って、再度、適切なリハ専門職の人数を配置することを検討する必要がある。
- IV. 材料費の削減：医療消耗器具備品費などの節約（故障不可能の際に原則購入）  
→修理不能な物の購入、施設基準に必要な物に関してのみ購入して、予算の半分のみを費やした。
- V. 教育研修及び医療の質向上：①当院担当での第 28 回近畿ブロック赤十字リハビリテーション研修会開催②専門職の資格獲得援助（心臓リハビリテーション指導士）③卒前教育の実習施設として多校の臨床実習生（PT4 名・OT1 名）を受け入れ予定。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として三島ブロック大阪理学療法士会呼吸勉強会を年 2 回開催予定。  
→予定通り全ての教育活動を修了した。
- VI. その他：①病院機能評価受審対策②平成 30 年度診療報酬改定に伴う施設基準及び算定基準への対応③救護員の育成及び救護活動の参加を励行する。  
→①は受審せず除外、②はリハ管理システムがなければ事務作業が業務過多になり、医療事務員の配置が妥当な状態となっている。③社会課の依頼でスタッフ 1 名が従事する。

### <平成 30 年度の活動目標>

前年度の部門別行動計画で未完または遅延した事業を継続し、業務改善や業務の効率化向上を図る。これにより、重点目標『全てのリハビリ対象者を選出し、リハビリ専門職 1 人あたりの月平均延件数及び延単位数を増加させる。』を達成させるために以下の通り行動目標と実践内容を遂行する。

- I. リハビリ対象患者数の増加：①病棟カンファレンス・回診での検討及び対象患者の選出②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及び対象患者の選出③院内広報：病院の活動を知る会・広報誌の利用④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保⑤がん及び心リハ患者数の確保（増加）⑥看護師と共同での摂食機能療法の算定
- II. リハビリ専門職 1 人あたりの月平均単位数を増加：①理学療法士（新卒 2 名）の補充による業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格 1 名追加）⑤科員休暇時における代行患者数及び単位数確保
- III. 時間外勤務時間の削減：①若年理学療法士（2 年目）の教育（業務指導：治療内容含む）②業務内容の見直しによる作業効率向上（業務マニュアル更新含む）③事務作業員への業務移管あるいはリハ管理システム導入（電子カルテ更新含む）

IV. 材料費の削減：医療消耗器具備品費などの節約（老朽した物から順次購入）

V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助（心臓リハビリテーション指導士）③卒業前教育の実習施設として多校の臨床実習生（PT4名・OT1名）を受け入れ予定。また、理学療法士の生涯学習（卒業後教育）として三島ブロック大阪理学療法士会呼吸勉強会を年2回開催予定。

VI. その他：①平成30年度診療報酬改定に伴う施設基準及び算定基準への対応③救護員の育成及び救護活動の参加（1名選出）。

以上、関連職種と共に共同作業を行えるように進めていきたいと存じます。

---

## 麻 酔 科

---

### <スタッフ>

常勤：辻井 英治（部長）  
芳野 かほり（医師）

### <異 動>

芳野 かほり 平成 30 年 3 月退任

---

## 救 急 部

---

当院の位置づけは「二次救急医療機関」であり、高槻市及び茨木市からの救急搬送およびウォークイン患者さんの対応に勤しんでいます。今年度から吉見宏平先生（副部長へ昇進）が加わって救急専門医2名が常勤する、病院規模に比して充実した体制となりました。

H29年度の実績は、救急搬送件数はH28年度2362台→H29年度2537台で175台増（前年比+7.4%）、ウォークインを含めた受診患者総数ではH28年度5882人→H29年度6646人で764人増（前年比+13.0%）でした。概ね高槻市内の救急患者さんの約10%前後を、茨木市内の7.6%を受け入れる構図は例年とほとんど変わらないようです。

本年度に新たに取り組んだことは、『RRT (rapid response team)』の立ち上げです。RRTの目的は、重症化する前に介入することで、予後の改善を目指す院内システムです。大規模病院ほど充実した体制では臨みませんが、各種ショックの前兆、気管挿管困難例への補助介入、マイナー科の重症患者さんの全身管理サポートなどを中心に相談を受けて介入、少しずつ定着しています。”死亡する必要がない院内死亡”の防止のため、今後も継続していきたいと考えています。

その他は概ね例年どおりの活動内容でした。昨年のも年報でも触れましたが、大阪府が運用する救急災害情報システム「オリオン」の普及やアップデートが加速しており、配信される情報収集のみならず、直接的な「顔の見える関係作り」などの努力も欠かさないう、救急隊員向けの勉強会を定期開催しています。

診療の質や安全性の確保も、患者数と同様に最重要視すべき課題であり、研修課の協力を得て『北摂アカデミックフィールド』を継続、院内外からの講師による講演会を継続しています。高槻市は病院が非常に多い激戦地域で見通しは決して明るくありませんが患者数や稼働病床確保に少しでも寄与できるよう、同時に研修・教育・医療安全確保への努力も怠らないようにせねばと考えております。次年度もよろしく願い申し上げます。

### <学会発表>

特別講演 「エコノミークラス症候群の見極め」 第4回災害鍼灸コーディネーター研修オープン講座  
平成29年12月16日（京都）

### <院内講演会>

- ・ 吉見先生による救急講習会  
平成29年6月14日（水） 急変とは？
- ・ 救急隊員向け勉強会  
平成29年10月20日（金）
  - ① 木澤先生「症例検討（呼吸苦、胸部圧迫感）」
  - ② 田辺部長「Prastic & Reconstructiv Surgery Surgical Wound Care」

- ・ 北摂アカデミックフィールド  
第1回：平成29年5月26日(金)  
「不明熱の診療戦略」  
大阪医科大学附属病院 総合診療科 科長 鈴木 富雄 先生
- 第2回：平成29年7月20日(木)  
「痛みに対する漢方治療」  
しもむら内科クリニック 院長 下村 裕章 先生

### <救急委員会実績>

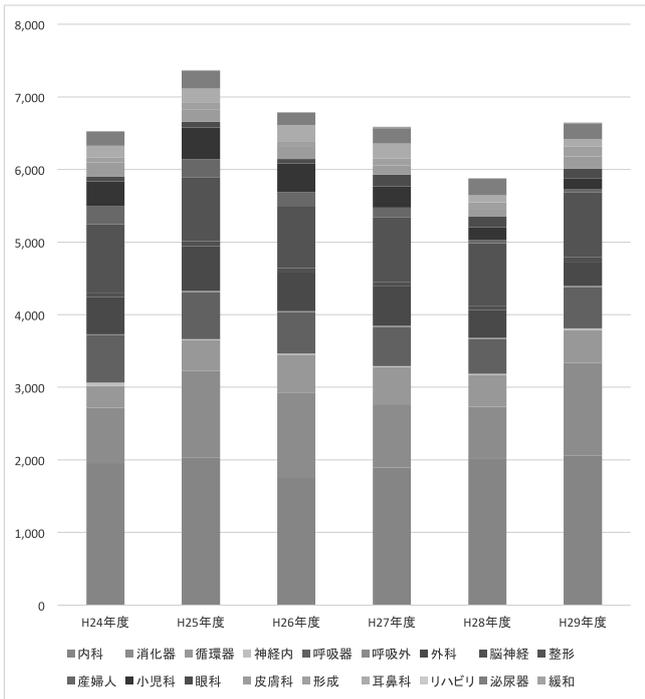
- ・ 月々の救急搬送件数や内容など統計データの共有や分析
- ・ 救急診療管理加算データの共有(特に「加算1」算定への取り組み)
- ・ 受入れ困難症例のデータ共有や分析
- ・ 救急隊員向けの勉強会や懇親会の企画・実行
- ・ 新企画 RRT (Rapid Response Team) の立ち上げや定着への努力

### 年度別救急患者数

		H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
救急患者数	時間内	1,425	1,651	1,549	1,432	1,444	1,759
	時間外	4,087	4,599	4,354	4,084	3,444	3,858
	深夜	1,020	1,118	890	1,072	994	1,029
	合計	6,532	7,368	6,793	6,588	5,882	6,646
(再掲) 救急患者数のうち 入院患者数	時間内	455	561	598	663	692	854
	時間外	855	969	889	874	787	987
	深夜	359	355	275	308	296	358
	合計	1,669	1,885	1,762	1,845	1,775	2,199
(再掲) 救急患者数のうち 救急搬送	時間内	777	888	909	979	944	1,019
	時間外	1,022	1,067	912	974	954	1,041
	深夜	488	498	388	473	464	477
	合計	2,287	2,453	2,209	2,426	2,362	2,537
(再掲②) 救急搬送のうち 入院患者	時間内	334	431	458	525	496	592
	時間外	446	505	463	408	442	544
	深夜	229	220	175	208	204	248
	合計	1,009	1,156	1,096	1,141	1,142	1,384

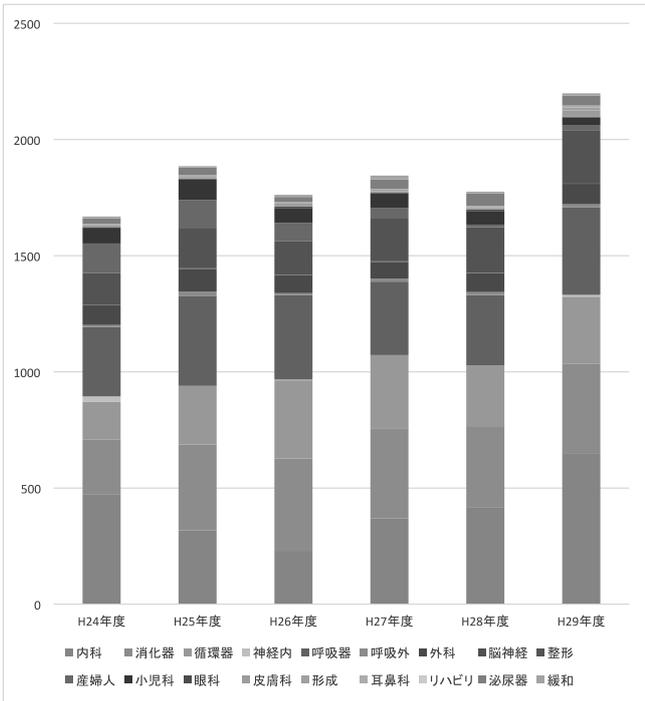
### 年度別救急患者数

救急患者	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
内科	1,957	2031	1765	1893	2025	2061
消化器	759	1194	1153	874	708	1272
循環器	303	429	535	515	434	450
神経内	47	10	12	11	20	28
呼吸器	651	643	569	533	476	564
呼吸外	15	28	13	24	22	18
外科	512	608	545	541	378	327
脳神経	62	68	50	62	54	75
整形	936	883	857	892	867	885
産婦人	257	244	187	129	43	48
小児科	337	439	394	295	177	152
眼科	62	79	64	158	148	131
皮膚科	201	175	177	131	94	167
形成	72	84	69	96	102	135
耳鼻科	157	198	220	203	98	108
リハビリ	1	0	0	0	0	0
泌尿器	194	247	171	213	228	215
緩和	9	8	12	18	8	10
合計	6532	7368	6793	6588	5882	6646



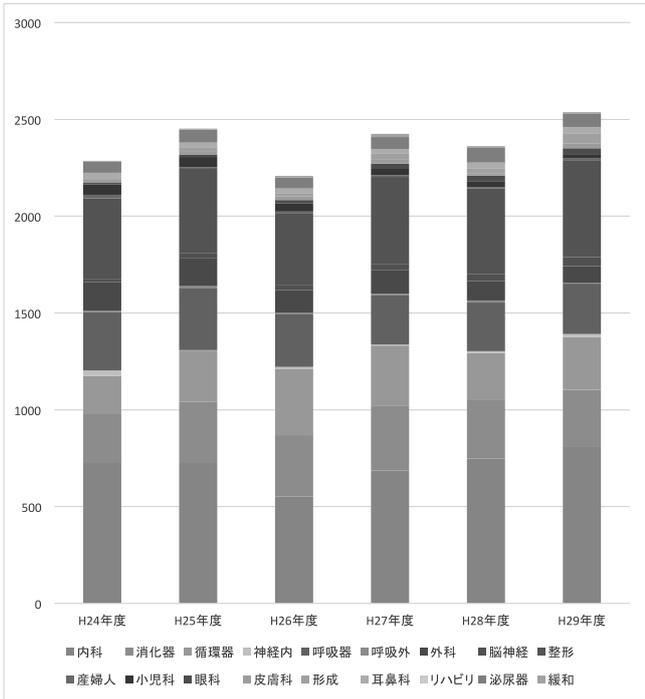
### 年度別救急患者うち入院数

救急患者入院	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
内科	474	317	230	369	419	650
消化器	234	370	397	389	348	386
循環器	162	252	336	314	261	287
神経内	25	0	3	0	1	8
呼吸器	297	386	364	316	302	378
呼吸外	9	21	9	12	12	12
外科	85	96	76	73	82	85
脳神経	2	3	2	3	1	4
整形	136	175	144	183	197	231
産婦人	129	120	81	48	11	20
小児科	68	88	61	62	59	34
眼科	2	5	9	2	6	4
皮膚科	10	3	12	6	7	26
形成	0	8	4	7	4	12
耳鼻科	4	3	2	3	6	9
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	24	32	23	41	52	43
緩和	8	6	9	17	7	10
合計	1669	1885	1762	1845	1775	2199



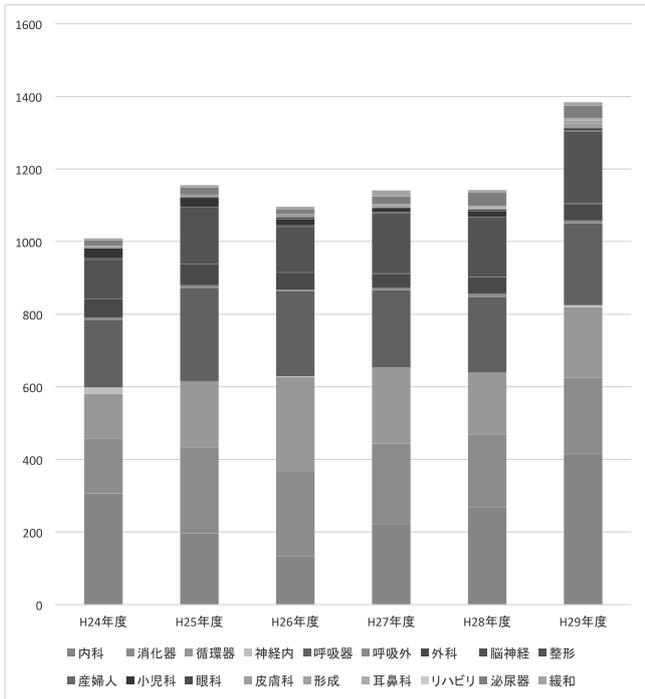
年度別救急搬送患者数 (再掲)

救急搬送	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
内科	730	730	553	687	748	808
消化器	247	311	316	335	301	296
循環器	197	265	344	310	244	271
神経内	30	3	8	6	9	17
呼吸器	300	318	276	256	252	259
呼吸外	7	12	4	6	11	7
外科	149	143	119	120	99	84
脳神経	17	29	22	32	38	47
整形	416	433	372	451	441	500
産婦人	17	9	11	9	5	11
小児科	55	53	42	32	33	17
眼科	8	11	17	28	30	34
皮膚科	15	20	19	19	12	24
形成	10	19	17	32	25	50
耳鼻科	26	24	24	25	30	34
リハビリ	1	0	0	0	0	0
泌尿器	57	67	56	62	76	69
緩和	5	6	9	16	8	9
合計	2287	2453	2209	2426	2362	2537



年度別救急搬送患者数うち入院数 (再掲)

救急搬送入院	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
内科	306	196	133	222	269	417
消化器	151	238	235	221	200	207
循環器	123	182	259	210	170	195
神経内	18	0	2	0	0	6
呼吸器	186	255	235	213	209	226
呼吸外	6	9	4	6	8	7
外科	52	58	47	39	46	45
脳神経	0	1	1	2	1	4
整形	108	155	125	165	165	197
産婦人	4	1	4	3	1	3
小児科	27	26	17	12	14	5
眼科	0	2	6	1	6	3
皮膚科	6	1	7	6	3	10
形成	0	6	2	5	2	9
耳鼻科	2	0	0	0	5	6
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	15	20	11	20	36	35
緩和	5	6	8	16	7	9
合計	1009	1156	1096	1141	1142	1384



---

## 健 診 部

---

平成 29 年 8 月 25 日 日本人間ドック学会総会（埼玉）にて、口頭発表「腹部超音波検査精度向上への当院の取り組み」を行なった。

### <スタッフ>

河北誠三郎（健診部長）：1 日ドック、2 日ドック  
今田 祐子（消化器科兼務）：金曜日ドック業務従事

### <診療実績>

平成 29 年度（1～12 月）

1 日ドック	698 名	2 日ドック	4 名	計	702 名
					(平成 28 年 686 名)
					(平成 27 年 675 名)
大腸がんドック（大腸カメラ）					7 名
低線量 CT 肺がんドック					6 名
				計	715 名
					(平成 28 年 707 名)
					(平成 27 年 691 名)

### <平成 29 年度活動実績>

#### 1) 広報活動

① 日本人間ドック学会が始めたネット上の、人間ドック機能評価認定施設限定のドック施設紹介サイト「e ドック」に掲載（無料）を開始し、当院のドックの特徴をアピールした。

#### 2) 学会発表

① 第 58 回日本人間ドック学会総会にて口頭発表「腹部超音波検査精度向上への当院の取り組み」を行なった。

#### 3) 委員会開催状況ならびに議事

① 第 1 回健診事業運用委員会 平成 29 年 1 月 13 日  
平成 28 年度人間ドック事業報告  
平成 29 年度人間ドック事業計画  
の討議および承認  
(平成 29 年 1 月 23 日 診療部門連絡会議にて報告した。)

② 第 2 回健診事業運用委員会 平成 29 年 5 月 25 日  
人間ドック運用マニュアル第 8 版の承認  
大腸ドックの推進と直腸診の平成 29 年度末廃止  
(平成 29 年 6 月 26 日 病院連絡会議にて報告した。)

#### 4) 学会、講習会、研修会の参加状況

平成 29 年 1 月 27 日 日本総合健診学会総会（東京）に出席  
人間ドック健診指導医講習会（東京）に出席  
河北誠三郎

平成 29 年 3 月 17 日 日本循環器学会総会（金沢）に出席

河北誠三郎

平成 29 年 4 月 15 日 日本内科学会総会（東京）に出席

河北誠三郎

平成 29 年 5 月 21 日 日本内科学会生涯教育講演会（大阪）に出席

河北誠三郎

平成 29 年 8 月 25 日 日本人間ドック学会総会（埼玉）にて口頭発表

「腹部超音波検査精度向上への当院の取り組み」

河北誠三郎

### <統計報告>

胸部 X-P にて要精査.	11.5 % (精査受診 62.5 %)
上部消化管検査にて要精査 (胃カメラ検査での生検を含む)	18.7 % (精査受診 97.5 %)
乳腺検査.(マンモ・エコー).	7.9 % (精査受診 87.5 %)
P.S.A 検査.	4.9 % (精査受診 85.7 %)
腹部エコー要精査	4.3 % (精査受診 80.0 %)
便潜血要精査 (要 CF)	5.4 % (精査受診 47.4 %)
	平均. 76.8 %

人間ドックで発見した癌症例 10 例

(がん発見率 1.4 %) (平成 28 年度 1.6 %) (平成 27 年度 1.0 %)

内訳	食道がん	2 例
	早期胃がん	3 例
	胃がん.	2 例
	大腸がん	1 例
	膵臓がん	1 例
	前立腺がん.	1 例

### <ドック運用改善活動実績>

- 1) 迅速なドック運用【①ドック受付開始時間は午前 7 時 30 分。(河北が対応) ②来院次第、更衣・採尿のご案内、身体計測を実施。(河北が対応) ③採血終了後、受診者を個別に最初の検査である生理検査室へ案内 (河北が対応)、④生理検査の終了した受診者を個別に 2 番目の検査である放射線科に案内。午前 8 時 30 分より放射線科検査開始。ドックの胃透視検査は午前 9 時より開始。】により、1 日ドック 5 名の場合ドック結果説明終了、食事開始が午前 11 時 30 分までに可能となった。
- 2) 人間ドックでの胃検査において、経鼻胃カメラを使用し、①胃カメラの細径化、②嘔気が無い事、③検査中会話が可能な事から、受診者より「楽になった。」との好評を得、平成 29 年度は胃検査では胃カメラが 90.2 % を占め、胃透視は 9.8 % に留まった。
- 3) 画像診断では可能なかぎりダブルチェック・トリプルチェックを行ない、また要精査該当者には結果説明時に紹介状を手渡すと共に当院外来受診予約を行ない、平成 29 年度のがん発見率 1.4 % を達成した。

---

## 医療技術部

---

医療技術部は栄養課と臨床工学技術課で構成され、どちらも病院機能を維持するために重要な役割を担っています。栄養課はNSTをはじめとするチーム医療に貢献するとともに栄養管理と調理技術の習得を行っています。臨床工学技術課は血液浄化療法、循環器領域の補助、内視鏡領域の補助、医療機器の管理、手術室での物品管理やメンテナンス、透析やCGMの管理などを行い、質の高い安心安全な医療の提供を目指して技術と知識の向上に努めています。医療技術部は今後も医師や看護師とのチーム医療を実施し、患者様に効率的、効果的な医療技術を提供するとともに、病院経営にも参画していきたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。

医療技術部長 千葉 渉

### 栄養課

#### <スタッフ>

##### ◆管理栄養士

桑田由起江（栄養課長職務代理栄養第1係長・NST専従管理栄養士・NST専門療法士）

廣田 眞希（栄養第2係長・糖尿病療養指導士）

南 美保子（糖尿病療養指導士・健康運動指導士・糖尿病透析予防指導専任管理栄養士）、

藤本 智子（糖尿病療養指導士）

西岡 美穂（糖尿病療養指導士）・平野 なつみ

##### ◆栄養士

中村やすこ・川端 彩加

##### ◆調理師

藤原 崇義（調理第一係長）、小坂 重敏（調理第二係長）

松田 国彦、堀 隆二、岡 務、野々下 武志、草地 敦、井上 秀子、

田中 智子、平山 光一、櫻井 葉子、小村 美雪

#### <異動>

（入職）平成29年4月入職 ⇒ 小村美雪（調理師）

（退職）平成29年7月退職 ⇒ 松田国彦（調理師）

平成29年10月退職 ⇒ 小村美雪（調理師）

（昇任）平成29年4月 廣田眞希（管理栄養士 ⇒ 栄養第2係長）

#### <平成29年活動実績>

給食管理においては、地産地消を心掛け安全で美味しい食事の提供を目標にしています。

入院患者様への食事の対応として、季節感を感じていただく行事食などを献立に取り入れ常食を提供している患者様へは週7回選択メニューを実施し、産後の患者様へは祝膳を提供しています。

3月より化学療法をされている患者支援として化学療法食なごみの提供開始。化学療法中の副作用により食事が苦痛と感じている患者様に少しでも気持ちが和んで頂きたい気持ちから付いた名前です。

栄養指導件数 593 件／年 給食数 231,980 食／年 糖尿病試食会 12 回／年  
糖尿病透析予防指導 182 件／年 NST 介入延べ患者数 999 名／年  
呼吸器科患者会 1 回／年 癌患者サロン 1 回／年  
心臓リハビリテーションカンファレンス参加件数 638 件／年  
入院ベッド訪問延べ患者数 695 名／年

<院外発表> 当院における嚥下食の取り組み・第 53 回日赤医学会総会（発表者 藤本）

### <平成 30 年度活動目標>

時代に応じた栄養管理と調理技術の習得を目指し、患者様の状態に応じた迅速な栄養管理が行えるように職種間の連携を行っていく。

なごみ食が名前負けしないよう患者様の入院中のストレス軽減になるように患者ニーズにあった食種に育てていく。

## 臨床工学技術課

### <スタッフ>

中田 祐二（臨床工学技術課 課長兼医療機器安全管理責任者）：臨床工学技士、透析技術認定士、3 学会合同呼吸療法認定士、MDIC 認定（日本医療機器学会）、小腸カプセル内視鏡読影支援技師

吉岡健太郎：臨床工学技士、3 学会合同呼吸療法認定士、第 2 種滅菌技士認定

久保慎太郎：臨床工学技士、小腸カプセル内視鏡読影支援技師

吉田 真希：臨床工学技士

市丸 陽司：臨床工学技士、第 1 種 ME 技術実力検定試験合格

成瀬 大輝：臨床工学技士

吉村 忠：臨床工学技士

伊東 伶芳：臨床工学技士

芦田 昇也：臨床工学技士

### <平成 29 年度活動実績>

#### 1. 血液浄化療法領域

- ✓ 血液透析…191 症例、3148 回
- ✓ 持続緩徐式血液透析濾過…40 症例、220 回
- ✓ 血漿交換療法…6 症例、63 回
- ✓ 選択的血漿交換…2 症例、5 回
- ✓ エンドトキシン吸着療法…2 症例、3 回
- ✓ GCAP…2 症例、12 回
- ✓ 腹水濾過濃縮再静注法…6 症例、9 回

今年度では、大きな患者数の上昇はないが、血液透析患者では若干の上昇がある。当院では 10 床の透析ベッドであり、常に 80% の稼働率である。このためその施行回数の限界も近い。このため、現状では患者数確保、もしくは収入の増加は現状で限界であると言わざるを得ない。

また入院患者メインの透析施設ではあるが、外来患者は必須であるためある程度の維持は必要と考えている。しかしながら送迎やアメニティ等の設備が不十分である。

これらを考慮すると、透析ベッドの増数、送迎やアメニティの整備を行う事を来年度の目標

として、現状以上の成果を目標としたい。

その他、昨今、透析の技術が進化し、モダリティーが増加し、選択の幅が広がっている。これは患者の臨床症状の改善を意味し、これらの選択制を取り入れていかなければ当院での透析も現社会からの評価が低くなる。

水の清浄化も含め、血液透析の選択制の幅を持たせた施設へのレベルアップを行っていく予定である。

## 2. 血液疾患領域

- ✓ 末梢血幹細胞採取…4 症例、9 回
- ✓ 白血球除去療法…3 症例、4 回
- ✓ 顆粒球 / リンパ球採取…0 回

年度により施行回数には増減があるが、29 年度が著名な件数とは言えない。

## 3. 循環器領域

- ✓ CAG…170 件
- ✓ PCI…229 件
- ✓ IVUS…132 件
- ✓ FFR…2 件
- ✓ EVT…8 件
- ✓ IVC フィルター…0 件
- ✓ IABP…12 件
- ✓ PCPS…3 件
- ✓ Permanent Pacemaker Implanted…21 件
- ✓ Permanent Pacemaker Exchange…5 件
- ✓ Temporary Pacemaker…4 件
- ✓ Pacemaker Implanted Pt (当院管理数) …240 名
- ✓ Pacemaker clinic (月 2 回) …延 214 回
- ✓ 遠隔モニタリング登録患者数…83 名

これまでも臨床工学技士は循環器領域の治療、及び検査に参加してきた。

循環器領域での多くのデバイス関連においてチーム医療の一端を担いながらも、IVUS,FFR で貢献している。

PCI 自体の件数は増加している。

当院では、PCI 件数に比して FFR 件数が非常に少ない。機能的評価を行う上で FFR は十分なツールであり、PCI を必要としない判断のツールになり得る。

今後、CAG,PCI に関して件数を増やしていけるよう、バックアップを行っていく。

ペースメーカー関連領域は、前年度と同様の新規患者を得ている。

当院管理下の患者総数は 240 名となり、条件付き MRI 対応ペースメーカーに関しての MRI 撮像、遠隔モニタリング患者の導入と管理においても当院では十分に行えている。

今後も継続的な管理を行い、患者の安全管理、安定した収益を目指していく。

## 4. 腎生検術補助

- ✓ 4 件

腎臓内科医師により腎生検が当院で行われ、これに使用される物品の管理、エコーの操作、医師の補助などに立ち合いを行っている。

## 5. 医療機器管理領域

- ✓ 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、AED、ポータブルエコー、フットポンプなどの医療機器管理台数…1023 台
- ✓ 医療機器修理業務 院内修理…314 件に対応  
院外修理…59 件に対応
- ✓ 医療機器、消耗品に関する研修会の開催…12 件
- ✓ 新規納品機器に関する研修会…14 件  
昨年度と比較し、件数の著大な変化は見られない。  
引き続き、機器の適正使用、安全使用の啓蒙に努めていく。

## 6. 手術室業務

当課では、平成 24 年度より新規業務として手術室機器、同室医療消耗品管理、中央材料室洗浄滅菌機器管理を目的に、臨床工学技士（専属 1 名、ローター 1 名）を配置している。様々な手術に立ち会い、医療機器の保守点検や立会いによる安全性の向上と、医療機器の修理、鋼製小物修理、トラブルの敏速な対応を実現。

また手術室内での医療機器、医療消耗品関連の更新、統一、運用に携わり、それぞれの科のニーズに合わせた運用方法を提案している。

## 7. 内視鏡関連業務

- ✓ カプセル内視鏡（小腸）…21 件
- ✓ カプセル内視鏡（大腸）…12 件

当課では平成 24 年度から部分的ではあるが気管支鏡検査に機器管理業務を目的に立ち会いを行ってきた。

平成 25 年度では、消化器科からの依頼もあり、消化器領域で行われる ERCP など内視鏡的検査、処置に機器準備、管理を目的に立ち会いを行い始めた。

平成 26 年度からは、EVUS、カプセル内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡検査の当院導入に伴い、立ち会い、及び機器、データ管理を臨床工学技士が行っている。

カプセル内視鏡においては、メディカルスタッフによる読影支援技士免許取得を目標として、更なる病院への貢献に努めている。

## 8. その他

- ✓ RFA…6 件
- ✓ CGM…8 件
- ✓ SAP…8 件

平成 26 年度より持続血糖測定（CGM）に関する、機器、物品管理、データ管理も行っている。

### <平成 30 年度活動目標>

血液浄化部門では、血液浄化療法室の透析用水及び透析液の清浄化を目指し、複雑な OnLinHDF 及び IHDF をも施行可能な施設へ成長させていく。

循環器部門では、新たな新人の育成を行い、循環器部門の業務を負える人材を増加させていく。

その他、経験年数の少ない課員の積極的な学会参加及び発表を推奨し、年間件数を設定し課として取り組んでいく。

---

## 薬 剤 部

---

<スタッフ> (役職・担当・資格は平成30年3月31日現在)

小島 一晃 (薬剤部長)：麻薬管理者・治験薬管理者・医薬品安全管理責任者・薬事委員会副委員長・  
治験審査委員会副委員長 【4月昇任】

- ・日本医療薬学会 指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 認定薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師

美和 孝之 (薬剤副部長・病棟業務課長)：病棟薬剤業務責任者・外来化学療法業務責任者・治験  
管理業務責任者・治験審査委員会幹事 【4月昇任】

- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

仲 忠士 (調剤業務課長・医薬品情報管理係長)：  
医薬品情報管理業務責任者・調剤業務責任者・実務実習指導責任者・薬事委員会幹事・  
部門リスクマネージャー

- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

松本 弘誠 (調剤係長・製剤係長)：実務実習指導担当・病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会書記

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

中西 輝 (病棟薬剤業務係長)：手術室業務責任者・病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会書記

- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

小西 史子 (化学療法・手術室薬剤業務係長)：調剤業務・外来化学療法業務・薬事委員会書記

- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
- ・日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト

山村裕佳子 (薬剤師)：調剤業務

梶 美里 (薬剤師)：病棟薬剤業務・調剤業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

森川 智子 (薬剤師)：調剤業務 【育児休暇中】

- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

濱武 清範（薬剤師）：調剤業務・外来化学療法業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

岩井真里絵（薬剤師）：病棟薬剤業務（4 病棟専任）

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

奥村 優介（薬剤師）：病棟薬剤業務（7 病棟専任）

足立那々緒（薬剤師）：病棟薬剤業務（9 病棟専任）

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

飯田 有香（薬剤師）：病棟薬剤業務（3 病棟専任）

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

酒井ちひろ（薬剤師）：調剤業務・外来化学療法業務・手術室業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

通山 由香（薬剤師）：病棟薬剤業務（2 病棟専任）

福井 美礼（薬剤師）：病棟薬剤業務（緩和ケア病棟専任）・調剤業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

後藤 仁美（薬剤師）：病棟薬剤業務（6 病棟専任）

宮西 將之（薬剤師）：調剤業務（注射調剤専任）・手術室業務

野間 敏也（薬剤師）：調剤業務・外来化学療法業務

廣岡 真理（薬剤師）：病棟薬剤業務（5 病棟専任）

橋本 浩明（薬剤師）：調剤業務・手術室業務 【4 月採用】

徳田 悦美（主 事）：治験管理業務・治験審査委員会幹事補 / 書記

松本 明子（主 事）：治験管理業務・治験審査委員会幹事補 / 書記

#### <薬剤関連施設認定>

日本医療薬学会 認定薬剤師制度研修施設  
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設  
 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設  
 薬学教育協議会 実習生実務実習受入施設

#### <平成 29 年度活動実績>

##### 【調剤室】

調剤室担当・病棟担当薬剤師間の時間外申請の偏りを是正することを目的に、昼休当番・居残当番を整理した。具体的には、病棟担当者は配薬曜日の昼休時間帯の調剤当番、および夕刻の居残調剤当番から外し、病棟業務時間の確保に努めた。

##### 【病 棟】

継続目標である指導率 75%・退院指導 100 件 / 月を今年度も達成できた。

リスク軽減を目的に 2 病棟 3 人体制への準備を進めてきたが、退職者が出たため完全には実施できず、ニーズが高かった午後の緊急入院の支援を優先して開始した。

## 【外 来】

外来化学療法の患者指導を充実させ、がん患者指導管理料3の算定数が増加した。免疫チェックポイント阻害剤の集約的クリニカルパス運用と薬剤師外来については、取材・講演依頼などを通して外部から一定の評価を得た。

薬剤師外来の充実を目的に、投薬窓口付近の空きスペースを活かし薬剤指導室を作る計画を立て、1月の四役会議にて承認を得た。

## 【医薬品情報】

ベンゾジアゼピン系薬剤・TPN製剤など、関連学会の指針やガイドラインの改定に合わせた採用薬の見直しを薬事委員会で順次実施した。

月1回ペースで症例報告会を継続。病棟担当者だけでなく調剤室担当者も業務を通じた臨床事例の発表をさせる試みを行い、病棟・調剤室の間で業務に対する理解が深まった。学会発表も担当係長による指導のもと、若手を中心に昨年度からのエントリー一件数増加を維持できた。

## 【薬品管理】

前年度に引き続き、DI室が中心となり後発品への切替に取り組んだ。特に先発品と同品質のオーソライズドジェネリックに注目し、積極的に導入した。

医療医薬品卸売業公正取引協議会より、納入薬の棚入・棚卸業務への関与などを軸とした便益労務提供の改善が提言された。大阪府病院薬剤師会の提言は妥当との見解に従い、当院でも全取引卸と協議の場を設け、一部現場運搬の運用を見直した。

## 【治験管理】

新規治験受託件数は昨年度より増加したが、地域医療支援病院としての役割分担上、一般薬の治験がクリニックに流れる傾向がみられ、結果的に診療科に偏りが生じるようになった。今後は、分子標的剤・生物学的製剤・抗癌剤など、難易度の高い治験の受託を積極的に検討する必要がある。

仕事量に応じたメディカル各部署への治験受託費用の分配を提案し、四役会議の承認のもと1月より実施。治験業務に対するモチベーション向上につながった。

## 【リスク管理】

昨年度から継続して、薬剤師の介入により患者の不利益が回避（プレアボイド）できた、もしくは患者の利益につながった事例を集積した。全体的に報告の質が向上し、処方提案型のプレアボイド報告が増加している印象。

機会があるごとに四役会議・病院連絡会議にて、実例を示しながら薬剤師の介入が薬のリスク軽減につながっている旨を啓蒙した。

## 【学生実習】

1期（3ヶ月）2～3人×4期（年間10人）の薬学実習生を受け入れ、調剤業務課長を中心に全部員総動員で指導に当たった。2019年度の新コアカリキュラム導入に向け、調剤係長を現場の指導薬剤師に据えて受け入れ体制を強化した。

大阪薬科大学体験学習・京都大学体験学習・中学生体験学習など、学校関係の体験学習も積極的に受け入れ、外部に対する病院薬剤師業務の啓蒙活動にも注力した。

【統計】平成 29 年度実績 / ( ) は平成 28 年度実績

1. 処方箋

<入院処方箋枚数>

入院投薬：通常処方 53,463 枚 (49,903 枚)

退院処方 5,943 枚 ( 5,554 枚)

異常時処方 22,812 枚 (22,865 枚)

入院注射：通常処方 91,315 枚 (95,937 枚)

化学療法 1,963 枚 ( 2,595 枚)

T P N処方 16,067 枚 (18,975 枚)

異常時処方 61,263 枚 (59,397 枚)

<外来処方箋枚数>

外来投薬：院内処方 5,591 枚 ( 5,560 枚)

院外処方 73,487 枚 (75,892 枚)

院外発行率 93.0% (93.2%)

外来注射：通常処方 13,414 枚 (11,997 枚)

化学療法 3,690 枚 ( 4,177 枚)

2. 注射薬無菌調製

<調製本数>

抗癌剤 : 5,956 本 ( 6,180 本)

TPN・移植・その他 : 4,225 本 ( 4,129 本)

合計 : 10,181 本 (10,582 本)

3. 薬剤管理指導業務

訪問件数 : 16,725 件・1,393.8 件 / 月 (16,425 件・1,368.8 件 / 月)

本体請求件数 : 8,820 件・735.0 件 / 月 ( 8,937 件・744.8 件 / 月)

退院指導請求件数 : 1,613 件・134.4 件 / 月 ( 1,594 件・132.8 件 / 月)

患者指導率 : 81.1% (80.6%)

4. 外来化学療法指導業務

訪問件数 : 1,032 件 (724 件)

請求件数 : 220 件 (142 件)

5. 持参薬鑑別

取扱件数 : 6,770 件 (6,257 件)

6. 疑義照会・プレアボイド報告

<疑義照会>

投薬処方 : 168 件・変更率 91.7% (106 件・変更率 87.7%)

注射処方 : 471 件・変更率 69.9% (504 件・変更率 70.0%)

<プレアボイド報告>

調剤担当者 : 137 件 (108 件)  
病棟担当者 : 53 件 (67 件)

7. 治験業務

<新規受託件数>

治験 : 7 件 (3 件)  
製造販売後調査 : 8 件 (15 件)  
副作用報告 : 6 件 (8 件)

<請求額>

治験 : 71,722,114 円 (46,414,795 円)  
製造販売後調査 : 1,045,980 円 (3,515,850 円)  
副作用報告 : 140,400 円 (224,640 円)  
合計 : 72,908,494 円 (50,155,285 円)

8. 薬品管理

<採用薬品数>

投薬・その他 : 588 品目・後発 35.5% (596 品目・後発 34.4%)  
注射薬 : 492 品目・後発 28.0% (487 品目・後発 27.7%)  
合計 : 1,080 品目・後発 32.1% (1,083 品目・後発 31.4%)

9. 薬剤関連DPC係数

病棟薬剤業務 : 0.0063 (0.0063)  
後発医薬品 : 0.00949 ※ (0.01058 ※) ※使用量ベース 70%超の最高値

10. 薬学生実務実習

実務実習 (11 週間) : 10 名 (8 名)  
早期体験学習 : 10 名 (10 名)

<平成 30 年度の主な活動目標>

- ・患者指導室を活用した薬剤師外来の充実
- ・病棟業務 2 病棟 3 名体制の確立
- ・抗菌剤の適正使用への取り組み
- ・将来目指すべき目標 (専門分野・資格等) に向けた計画の実行
- ・災害医療対応体制の充実
- ・研究発表・論文執筆・外部講演の充実
- ・モニタリング・監査費用を含めた治験受託費用の見直し

---

## 検査部

---

### <スタッフ>

医師

千葉 渉（副院長兼検査部長）

臨床検査技師

荒木 孝一郎（臨床検査課長 生理機能検査課長 微生物検査係長）

大西 美穂子（臨床検査課 検体検査係長）

中村 直実（臨床検査課 輸血管理係長）

佐藤 裕司（生理機能検査課 生理機能検査係長）

吉田 桂（生理機能検査課 超音波検査係長）

土井 美都子 坂野 絵美 村上 かおり 奥洞 智太 後呂 純平 森内 沙紀

亀山 雅貴 扇田 裕允 平岩 理雅 古川 理奈 今井 翔太郎

視能訓練士

福留 淳子 大保 敏子 小松 あゆみ 山名 裕子

眼科アシスタント

佐野 紀子

採血室看護師

宮地 真奈美 木野 洋子 赤石 美智子 黒田 美里

検査アシスタント、受付 洗浄

田辺 智美 富木 貴子 太田 和栄 久保田 孝子

### <異 動>

臨床検査技師 高橋 奈七 平成 29 年 5 月 31 日 退職

臨床検査技師 今井翔太郎 平成 29 年 9 月 11 日 入職

視能訓練士 小松あゆみ 平成 30 年 3 月 1 日 入職

視能訓練士 山名 裕子 平成 30 年 3 月 1 日 入職

視能訓練士 福留 淳子 平成 30 年 3 月 31 日 退職

眼科アシスタント 佐野 紀子 平成 30 年 3 月 31 日 退職

### <認定資格>

認定超音波検査士：佐藤 裕司 吉田 桂 坂野 絵美 村上 かおり  
亀山 雅貴 森内 沙紀 荒木孝一郎

認定血液検査技師：大西 美穂子

認定糖尿病療法指導士：土井 美都子

### <平成 29 年度活動実績>

- ・平成 30 年 1 月 早朝病棟採血検査報告時間を早めるため、勤務の早出シフト制を構築
- ・平成 30 年 1 月 臨床検査技師 亀山雅貴 認定超音波検査士（循環器）試験に合格
- ・平成 30 年 1 月 臨床検査技師 森内沙紀 認定超音波検査士（表在）試験に合格
- ・平成 29 年度 日臨技臨床検査精度管理調査 A+B 評価 100%
- ・平成 29 年度 日本医師会 臨床検査精度管理調査  
評価 98.7 A 評価 111 個 B 評価 7 個 C 評価 0 個 D 評価 0 個

### (学会発表・講演)

- 扇田 裕允 第 53 回 日本赤十字社医学会総会 平成 29 年 10 月 24 日  
「当院における MDRP の検出状況とカルバペネマーゼ産生菌検出方法の検討」
- 扇田 裕允 第 21 回 日赤検査学術大会 平成 29 年 11 月 12 日  
「血液培養陽性検体から質量分析装置にて迅速同定できた *Granulicatella adiacens* による感染性心内膜炎の一例」
- 奥洞 智太 第 21 回 日赤検査学術大会 平成 29 年 11 月 11 日  
「犬咬傷患者の *Capnocytophaga canimorsus* による敗血症の 1 例」

### (論文発表)

- 平岩 理雅 医学検査 2017 第 66 巻 691 ~ 695 頁 平成 29 年 11 月  
「血漿における PCR 法が早期確定診断に有用であった伝染性単核球症の一例」
- 扇田 裕允 医学検査 2018 第 67 巻 78 ~ 83 頁 平成 30 年 1 月  
「小児科における細菌性腸炎（腸管出血性大腸菌、サルモネラ腸炎、カンピロバクター腸炎）の糞便からの PCR 法による迅速診断法の構築」

### <平成 30 年度活動目標>

- ・臨床検査技師の適正な人員配置
- ・検査の適正化による検査委託費、試薬代の前年比 10% の削減
- ・採血院内測定項目は採血から 30 分以内に報告
- ・超音波検査を行う技師の育成
- ・電子カルテの更新に向けて部門システム導入の検討と準備
- ・部内ローテーションを行い、個々が検査できる範囲を拡大、部署間のサポート体制を強化
- ・各種、認定資格を各自の目標通りに取得
- ・勉強会や学会発表への積極的参加 検査部内で年間最低 2 題以上の発表
- ・精度管理向上、日臨技、日本医師会の外部サーベイの参加 医師会サーベイは目標オール A 評価
- ・検体検査マニュアルの更新 整備
- ・残業時間は 1 人月 10 時間以内 臨床検査技師残業時間 1 ヶ月平均 5 時間以下
- ・年最低 10 日の年休取得
- ・インシデントレポート提出率の向上

---

## 病理診断科部

---

### <スタッフ>

#### 医師

渡邊 千尋〔病理診断部長〕：病理専門医、細胞診専門医  
山田 義博〔非常勤〕 松城 尚憲〔非常勤〕  
白瀬 智之〔非常勤〕 奥野 知子〔非常勤〕

#### 臨床検査技師

荒木 孝一郎〔病理検査課長〕：細胞検査士、国際細胞検査士、  
超音波検査士（循環器、消化器）  
廣田 智美〔組織形態検査係長〕：細胞検査士  
村上 浩子：細胞検査士、超音波検査士（消化器）  
山本 翔  
山田 桂実

### <異動>

山田 桂実 平成 29 年 4 月 病理診断科 入職

### <平成 29 年度活動実績>

- ・統計：組織診件数 4,621 件 細胞診件数 4,202 件 剖検件数 18 件
- ・演題発表  
第 58 回日本臨床細胞学会総会 荒木孝一郎  
第 43 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会 荒木孝一郎  
第 32 回日本赤十字社臨床検査技師会近畿ブロック研修会 荒木孝一郎
- ・症例検討会（CPC）を 5 回行う
- ・月 2 回、細胞診症例検討会を行う
- ・日本臨床衛生検査技師会コントロールサーベイに参加

### <平成 30 年度活動目標>

- ・学会発表、研修会への参加
- ・病理検査マニュアルの整備
- ・病理標本の染色、質的向上
- ・細胞検査士認定資格取得技師の育成
- ・EUS-FNA、CT ガイド下穿刺施行時、現場での検体適正評価の強化
- ・検査部業務のサポート（検体検査、生理検査、治験業務）

---

## 看護部

---

### <スタッフ>

- 看護部長：松井 和世  
看護副部長：花田 季代子・岸 恵美（兼）・原田 かおる（兼）  
看護師長：原田 香織（2病棟）・門脇 寛子（3病棟）・岸 恵美（HCU）・  
石黒 早苗（4病棟）・高橋 晶子（5病棟）・青木 和美（6病棟）・  
高田 佳織（7病棟）・西 ひろみ（9病棟）・西浦 美香（緩和ケア病棟）・  
奥田 唱子（手術室／中央材料室）  
川上 伊津子（外来）  
川崎 知子（看護部／患者支援センター）  
阿部 哲子（看護部／研修課）
- 看護係長：病棟 11 名・手術室 2 名・外来 1 名  
藤原 和子（看護部／緩和ケア認定看護師／緩和ケアサポートチーム専従）  
松下 めぐみ（看護部／感染管理認定看護師／医療安全推進室／医療安全係長）  
福谷 裕美（看護部／専任リスクマネージャー／医療安全推進室／医療安全係長）
- 看護職員：北田 千世（看護部／皮膚・排泄ケア認定看護師／褥瘡管理者）  
工藤 ゆかり（看護部／退院調整看護師）  
原武 麻里（看護部／がん看護専門看護師／がん相談支援センター専任看護師）  
今戸 美奈子（看護部／慢性疾患看護専門看護師）  
楠岡 京（看護部／がん看護専門看護師／がん相談支援センター専任看護師）

### <平成 29 年度看護部活動実績>

- 学会参加
  - 日本看護系学会参加人数：48 名（うち発表者 3 名）
  - 日本看護協会主催看護学会
  - その他
- 認定看護管理者教育課程
  - ファーストレベル修了者：井本 麻紀 清田 絢子
  - セカンドレベル修了者：奥田 唱子
- 看護学生臨地実習受け入れ
  - 大学
    - 梅花女子大学看護保健学部看護学科
    - 大阪医科大学看護学部看護学科
  - 専門学校
    - 高槻市医師会看護専門学校
    - 学校法人大阪慈恵学園 大阪医療看護専門学校
    - 学校法人日本教育財団 大阪医専

## 平成 29 年度（2017 年度）看護部・各看護単位の活動

### 【看護部の活動】

平成 29 年度は、看護部目標長期 5 年計画 5 年目で、長期目標に対する看護実績の達成度を評価した。

#### I. 看護部目標：長期（5 年計画）5 年目

1. 専門職業人として自発的探求心をもち、自律した看護実践ができる。
2. 多職種協働医療チームの中で看護の専門性が発揮できる。
3. 地域完結型の医療サービスを提供する病院の看護職者として、その役割を果たすことができる。

#### II. BSC

##### 1. 目標

###### 財務の視点

- 1) 医学界・看護界の動向への関心・主体的な情報獲得
- 2) 診療報酬の理解と活用
- 3) 看護人員計画・看護職確保
- 4) 看護の魅力を地域に情報発信

###### 顧客（患者）の視点

- 1) 急性期病院における療養生活者への責任ある対応
- 2) 社会人としての常識・専門職人として相応しい接遇の習得と実践
- 3) 患者を中心とした医療安全意識の醸成
- 4) 感染拡大防止意識の醸成
- 5) 患者・家族の生命や人権擁護の観点に立った看護実践

###### 業務プロセスの視点

- 1) 多職種との協働関係の継続
- 2) 患者の療養生活支援における多職種協働を調整できる能力の向上
- 3) クリニカルパスの作成・運用・評価
- 4) 看護職者の知恵を結集した業務改善
- 5) 病床の効率的な運用

###### 学習と成長の視点

- 1) 生涯学習が可能な職場環境作り
- 2) 看護継続教育の充実と評価方法の追求
- 3) 実践家としての知的探求心の維持・向上
- 4) 急性期病院の看護職者として自身に充足（または不足）している知識・技術の明確化
- 5) 自身の看護行為を言語化し他者へ説明できる能力の向上
- 6) 「共に育つ」「後輩が育つ」風土の醸成に向けた努力
- 7) 赤十字病院の使命と役割の理解・赤十字活動への従事

##### 2. 具体的要因

###### 財務の視点

- 1) 地域医療・看護・介護への関心と協働体制
- 2) 情報発信力
- 3) 看護の専門性による診療報酬加算獲得
- 4) 看護職定着

#### 顧客（患者）の視点

- 1) 「看護者の倫理綱領」を正しく理解するための取り組み
- 2) 患者満足度調査
- 3) 医療安全の維持・向上に関する取り組み
- 4) 感染予防、防止対策の維持、質向上に対する取り組み
- 5) 根拠に基づいた看護実践

#### 業務プロセスの視点

- 1) 多職種とのパートナーシップや建設的な意見交換
- 2) 療養生活支援のための業務改善に関する高い意識と実行力
- 3) 病床稼働力

#### 学習と成長の視点

- 1) 専門職業人としての自覚と責任
- 2) キャリア開発ラダー
- 3) 実践の中で生じる驚き・喜び・不確かさ・気付き等が自由に語れる職場環境
- 4) 働きやすい職場環境
- 5) 赤十字教育の充実

### 3. 総括

各看護単位、委員会、ワーキンググループで主体的要因に対して、財務・顧客（患者）・業務プロセス・学習と成長の4つの視点で取り組んだ。看護師長をリーダーとしたワーキンググループは、①重症度 医療・看護必要度適正化②キャリア開発ラダー推進③看護職員採用活動充実④アメニティサポート活用推進の4グループで活動した。

また、専門・認定看護師活動、看護外来や退院調整看護師が看護の専門性を発揮することで看護の質向上、診療報酬加算獲得に寄与した。

看護師採用は平成30年4月採用24名（新卒19名既卒5名）を確保することができた。平成29年度中途採用者は14名であった。年度目標の40名確保は95.0%の達成率であった。病院紹介・看護師紹介動画を作成したことで、今後の看護師確保に活用していきたい。

看護師確保対策として離職者を増やさないことを目標に挙げた。離職率は10.4%で平成28年度9.7%より増加した。部署により退職者に偏りがあることや、退職者の年齢や退職理由の分析に課題が残った。

感染予防、防止対策に取り組んだ。一部の部署でインフルエンザのアウトブレイクがあったが、病院全体に拡大せず、入院患者減少を防ぐことができた。面会制限の対応に課題が残った。

患者・スタッフの安全管理の視点から297台の電動ベッド更新が実現できた。

学会・研修会への主体的な参加ができた。知識の共有を推進していきたい。

キャリア開発ラダー認定取得者はレベルⅠ7名、レベルⅡ3名、レベルⅢ6名で、平成28年度より微減した。ラダーレベル認定取得の意味づけが課題と考える。

赤十字看護師登録数は100名越えになり増加した。各種講習会修了者、指導員を増やしていきたい。赤十字関連講習会への出席時間確保が課題である。

### Ⅲ. 看護部目標：長期（5年計画）評価まとめ

#### 1. 専門職業人として自発的探求心を持ち、自律した看護実践ができる。

生涯学習が可能な職場環境作りとして、キャリア開発ラダーの推進や学会・研修会への主体的な参加を推進してきた。キャリア開発ラダー申請者数や学会等参加者は増加している。研修受講だけで倫理的感受性や医療安全・感染管理意識の醸成等が図れるわけではなく、OJTの現状把握と評価に基づいた、看護継続教育や新人看護職員研修を見直し充実させていくことが必要である。「共に育つ」「後輩が育つ」風土の醸成として、看護実践の中での喜びややりがい語れる職場環境、働きやすい職場環境を整備し、看護職者の定着を図り、看護職確保に努めていくことが喫緊の課題である。

高齢者を対象としていく上で、医療安全意識の醸成、感染拡大・防止対策の周知・徹底はさらに重要になっていくと考える。

赤十字病院の使命と役割の理解を高め、救護員としての赤十字看護師育成を強化していく必要がある。

#### 2. 多職種協働医療チームの中で看護の専門性が発揮できる。

患者の療養生活支援における多職種協働を調整できる能力の向上が求められている。診療科、コメディカルとの多職種カンファレンス・業務調整や委員会でも今後も引き続き、看護職者としてリーダーシップやパートナーシップを築いていく必要がある。

#### 3. 地域完結型の医療サービスを提供する病院の看護職者として、その役割を果たすことができる。

医療制度改革に伴う医療サービスの動向を理解し、看護の専門性、看護の業績による診療報酬加算獲得で病院経営に参画してきた。

経営改善3ヵ年計画に伴う、病床機能の見直し、患者数増加等による収入増加策に積極的に参画していく必要がある。

高齢者を対象とした看護実践の専門家としての役割を果たしていく事が求められている。

3つの看護部目標は、今後も引き続き取り組んでいかなければならない看護部活動の方向付けを示しており、方針として継続していく。

看護部方針は病院の事業計画（経営改善3ヵ年計画）と連動させ、平成31年度に評価する。

### <平成30年度看護部活動目標>

平成29年度看護部目標長期5年計画を評価し、看護部理念、看護部方針、教育理念を改定した。看護部理念を明確化し、戦略をたて、評価していくためにBSCで活動計画をたてる。

※平成30年度の重点看護部目標

#### 1. 病床管理を推進する

①病床の有効活用 ②病棟再編成の実施

#### 2. 看護職確保の強化に努める

①看護職採用強化 ②離職率を下げる ③夜勤勤務者の確保

#### 3. 高齢者の尊厳保持と自立生活支援の推進

①認知症ケア対応能力を高める ②体制整備

#### 4. 電子カルテ更新の推進

①WG活動推進

#### 5. 救護員としての赤十字看護師育成支援

①研修支援

## 2 病棟：原田 香織

財務の視点では、病床稼働率の上昇と在院日数の維持を目標とした。病床稼働率 62.3% 在院日数 7.2 日 (昨年度より病床稼働率 11.5% 上昇、在院日数 +1.6) である。

産婦人科・小児科の入院患者数が減少しているため、産婦人科・小児科以外の多くの診療科を、平日、夜間や休日の救急も含めて積極的に受け入れた。

産婦人科患者と分娩件数の減少に対しては、スマイル通信 (妊娠・出産・育児をしている女性に対して当院が実施している活動を紹介する情報提供) の発信回数を月 1 回に増やすほか、母乳外来を「周産期地域連携の会」で紹介し、当院で実施中の活動について積極的に発信し、当院への来院数増加を図った。

病床稼働率の上昇と、それに伴う多くの診療科受け入れのために業務が複雑・煩雑化しており、来年度の課題は、安楽な看護を常時提供できるための日常の業務整理を継続的に実施することであると考えられる。

顧客サービスの視点では、最も基本的となる安全で安楽な看護の提供を目標とした。高齢者の入院増加に伴い、転倒・転落リスクの問題もあり、老人看護専任看護師 MSW や医療安全担当と連携してカンファレンスを開催し、患者にとってのよりよい療養生活について検討を重ねた。また、倫理的視点で日々の看護を振り返るため、症例 1 件を通してカンファレンスを実施した。

この他、感染予防に対するスタンダードプリコーションの周知徹底を図り、手指消毒剤使用量を昨年度より増量するなどして、インフルエンザの最大流行期にも、病棟閉鎖することなく入院患者を受け入れることができた。

業務プロセスの視点では、継続看護を目標とした。外来での手術の婦人科患者やハイリスク妊婦については、週 1 回産婦人科としてカンファレンスを実施し、情報共有している。継続して地域でのフォローアップが必要なケース 9 件については、市の地域保健センターと連携し、妊産婦と新生児の安全を図るため地域へ繋いだ。クリニカルパスは産婦人科腹腔鏡下手術について申請した。

学習と成長の視点では、実施指導者研修を履修したほか、褥瘡学会に 2 名が参加し、それぞれ学んだことを病棟内で伝達講習した。この他、母乳育児支援、分娩期の看護 (出血時の緊急対応)、老年期の看護 (せん妄患者への対応) などの知識を確認するために勉強会を開催し、看護の実際に繋がった。

また、2 名が赤十字救急法救急員養成講習受講、1 名が赤十字健康生活支援者として地域で活動した。

## 3 病棟：門脇 寛子

3 病棟の病床稼働率 83.2% (昨年度 79.2%) であった。病床が 34 床と限られているため、医師にも協力してもらい業務調整し、10 時に退院、11 時に入院を入れることで昨年度と比べ稼働率アップにつながった。

赤十字キャリア開発ラダー認定レベル I は 2 名、レベル III は 1 名、赤十字看護師登録者は 2 名認定された。

心臓大血管リハビリテーションを導入し 5 年目となった。心臓リハビリテーション専任看護師を配置し、患者数 916 名 (昨年度 757 名)、1418 単位 (1242 単位) を実施した。心臓リハビリテーション専任看護師と病棟看護師が連携を図ることで、患者様を中心とした看護の継続ができ退院調整にも結び付けることができた。

インシデントでは転倒・転落 25 件 (内 3 b 事例 2 件) であった。9 月の 3 b 事例を振り返り、

高齢者も増え、循環器疾患や療養環境やADLについて情報共有し、転倒リスクに要因分析や評価もなく、対策のみで終わっていた。9月から看護係長を中心に転倒前カンファレンスを実施し、処置指示やテンプレートを作成し記録に残した。結果は患者の情報を整理しやすくなった、対策だけでなく要因分析がしやすくなった、統一した看護ができるようになった、5S活動係りとの連携で環境整備を意識するようになり、以後インシデント3b事例0件である。また医療安全フェアでこの取り組みを発表することができた。

今後も看護実践能力の向上を図り、患者・家族への倫理面を考慮した看護介入、ケアカンファレンスが出来るようにしていきたい。

#### HCU：岸 恵美

HCUの効率的な利用促進に向けHCU担当医師と主治医、麻酔科などの連携を強化し退室順位をあらかじめ決める事により夜間の緊急入室にスムーズに対応する事ができた。充床率は昨年度を下回る結果となったがハイケアユニット入院医学管理料は昨年度より増加した。

感染防止に関しては擦式手指消毒薬を携帯する事を推奨し消毒薬の使用量が増加した。インシデントに関しては発生件数の90%以上についてカンファレンスを開催し、分析対策立案、徹底を行った。HCUの業務マニュアルがここ数年改訂されておらず異動者への指導が統一できていなかったため、今年度見直し改訂を行った。

学習面においては学会参加2名、ICLS,MCLAコースに数名ずつ参加した。HCU内の教育プランとして集中治療に携わる看護師のためのクリニカルラダーの作成に着手。プレテストなど行い来年度中に完成予定である。看護部の倫理研修の一環でCNSを交えた倫理カンファレンスを2回開催した。RRTとの協働により急変が起こる前兆にいかにも早く気づき行動を起こす事が大切であると学んだ。

#### 4病棟：看護師長 石黒 早苗

財務の視点：円滑な入院受け入れを進めるため、退院困難症例は入院時よりMSWへ情報提供し、退院調整の取組が遅れないよう多部門で協働した。

結果、病床稼働率75.3%、在院日数15.1日、整形外科在院日数19.3日と、昨年よりも円滑な病床稼働であった。また、看護介入を診療報酬加算につなげる為、担当看護師やリンクナースを中心に、医事課・MSW等と連携した事で、退院支援加算・在宅療法指導料加算などの退院調整支援による診療報酬加算獲得が大幅増加となった。

顧客の視点：患者・家族にとり安心して安全な療養環境の整備を進めるため、高齢者の特性理解と高齢者を取り巻く環境の調整に取り組んだ。環境チェック表を用いて、高齢者の安全に配慮した環境を日々整える事で、院内調査で転倒件数がかつとも少なく、患者が靴を履いている率が高い病棟との結果となった。高齢者の排便コントロールの重要性にも着目し、対象に応じた方法をアセスメントし介入した事や、入院時から転倒転落カンファレンスの実施を習慣化した事も、転倒転落インシデント減少に繋がる成果の一つと考える。術前に、術後せん妄を予測し対策を立てる事の重要性がわかり、CNSやサポートチームへ相談する流れが出来、高齢者に関心を寄せ理解を深める力を強化できた一年となった。病棟内感染予防対策においては、防止対策の徹底と質向上に取り組み、流行期前の勉強会を開催。インフルエンザ等の感染拡大がなく目標達成した。

業務プロセスの視点：圧迫骨折パスを作成し承認された。マニュアルの整備では、糖尿病に関連したマニュアルの作成を行った。整形関連では、外来部門とオリエンテーション用紙の共有を行い、外来時点から入院の準備を進める取り組みができた。リハビリ科との合同勉強会やリハビ

り進捗状況共有の仕組みも整い、担当者と連携をとり、看護師が介入できる休日リハビリの共有等、多職種協働を強化した一年であった。昨年と比較し、術後 DVT 発生件数が 71 件→47 件に減少している事は有意義な結果と考える。

学習と成長の視点：新入職者支援を通じ、教育サポート体制の見直しや修正、エルダーの成長支援を行った。エルダーが新人の精神的サポートを行い、実地指導者が新人の知識や技術面のサポートを行う体制ができ、各々の成長に繋がっている。専門分野での個々のキャリア向上を目指し、3名の看護師が糖尿病療養指導士の資格を取得した。赤十字ラダーは、ラダーⅠ：2名、ラダーⅡ：2名が取得した。赤十字救急法の継続対象者は全員継続登録できた。赤十字看護師登録者はなかったが次年度の取得に向け、計画的に研修参加できた。

## 5 病棟：高橋 晶子

スムーズな入院の受け入れのため、クリニカルパス適応中の患者などは退院を見込んだベッドコントロールを行った。病床稼働率は 76.0% 新入院患者数 1288 人、回転数は 34.3 であった。患者数が増加した一方で人員不足は深刻な状況となり、離職率が 9 名（看護師 7 名・看護助手 2 名）と多く業務改善を進めている途中である。

コスト削減と定数チェックの業務負担軽減のため、医師・ICT と相談の上、今まで摂子・綿球・生理食塩水での創部消毒からスキנקリンコットンを採用し創部を清拭する方法へ変更した。

インシデント発生時にはチームを超えて情報共有を行い、p m SHELL を使用した原因分析や対策を検討した。H29 年度のレベルⅢ b のインシデント件数は 0 件であった。

化学療法のクリニカルパスを新規で 3 件作成した。前年度作成したクリニカルパスも含め、患者説明時に活用できるように、評価・修正も含めて運用を整備していくことが次年度の課題である。キャリア開発ラダー取得者はレベルⅢ 1 名、レベルⅡ 1 名、レベルⅠ 1 名であり、長期研修参加は臨地実習指導者講習会受講者 1 名であった。

病棟内倫理研修は CNS の支援の下 2 事例実施。立ち止まって倫理 4 原則をもとに振り返ることができ、倫理の感性を高める機会となった。病棟勉強会については当該科の疾患と看護や急変時の対応等取り組んだ。今後も看護実践能力の向上に努めていく。

## 6 病棟：看護師長 青木 和美

BSC の視点に沿って報告する。

財務の視点：①緊急入院患者の受け入れ体制の調整②看護必要度の精度の向上に取り組んだ。①病床利用率 83.0%（前年度 78.0%）、平均在院日数 9.2 日と急性期病院としての役割を果たすことができた。②重症度・医療・看護必要度 テストを部署内で実施し、知識の再確認と誤った理解の傾向を把握する事ができ、重症度・医療・看護必要度の重症度割合が 9 月から 25%以上に上がった。

顧客の視点：①患者挨拶カード②安全な療養環境調整③感染予防④倫理感性を養うことに取り組んだ。①患者挨拶カードを使用し担当者の責任を明確にすることができた。②転倒インシデント 63 件、レベル 3 b 以上のアクシデント 1 件。療養環境整備に取り組みインシデントの減少に繋がったのではないかと推察される。③インフルエンザのアウトブレイクを起こし再度手指消毒剤の使用のタイミングの徹底を行った。次年度は、日常的に手指相毒の 5 つのタイミングが徹底されアウトブレイクを起こさないように取り組みたい。④倫理事例検討を行い、本人・家族の思いを振り返り、本人の意思決定を引き出しどう支えるかを考える機会となった。これからの看護実践に活かして行きたい。

業務プロセスの視点：①ペア制②与薬のインシデント③褥瘡予防④安全な療養環境・生活支援⑤入院受け入れに取り組んだ。①ペア制で、短時間勤務者の引継ぎがスムーズになり安全・効率的な業務につなげることができた。②配薬セット時の手順の確認を行い薬剤師とのチェック体制を改善した。手術当日の内服に対しては、前日に確認する方法を統一した。③胃管、イレウス管による鼻腔の褥創が2件発生した。マニュアル（固定方法・観察・記録）を作成しケアの見直しと周知を行った。④毎朝環境整備が行えるように、朝の申し送りをリーダーのみに変更し環境整備の時間を確保できた。⑤毎朝リカバリー室の入室状況・空床の共有を行った。また、他部署の協力を得て予定入院患者数を7名/日以下に調整でき緊急入院の受け入れがスムーズにできる体制を作れた。

学習と成長のプロセス：①看護実践能力の向上②臨地実習指③赤十字活動に取り組んだ、①キャリア開発ラダー取得者：レベルⅠ1名 レベルⅢ1名。学会参加 6名 赤十字救急法指導員取得1名。部署内の学習会は計画通りに進められた。看護を語る場を9月からチーム内で設け、個々の看護をする上で大切にしていることを知る場となり良い刺激を受けることができた。事例検討：倫理事例 1例 急変事例：2例 実施。②臨地実習指導：学生の情報共有・学生カンファレンス担当を明確にした③赤十字活動：赤十字救急法講習会参加 2名 救護訓練の参加 2名 ボランティアの参加 2名 社費・募金の参加 全員 取り組めた。

## 7病棟：高田 佳織

財務の視点では平成29年度の病床稼働率は75.1%で昨年度(69.7%)より増加したが平均在院日数は13.1日(昨年度12.9%)であった。血液腫瘍内科の稼働率は100%以上キープできた。非血縁者間造血幹細胞移植・採取施設認定施設となり、次年度は移植看護の質向上を目指し病棟での継続教育をさらに強化していきたい。また、当部署から2名LTFU外来(移植後フォローアップ外来)を実践しており、移植後フォロー外来の加算件数は219件で昨年度198件より増加した。病棟と外来の情報共有、連携を図り、次年度も患者にとってより充実した外来を目指し、病棟と外来の継続看護の強化を図りたい。

顧客の視点では転倒・転落レベルⅢb事例件数は減少した。しかし、CV自己抜去等、レベルⅢa件数も他部署の比し多く、ハイリスクな治療を受けている後期高齢者も多いことから、引き続き安全な療養環境の整備に努めたい。また、インフルエンザによる部署のアウトブレイクはなかったが、治療による重症な感染症を発症する患者も多く、手指消毒等のスタンダードプリコーションの徹底をしていきたい。

業務プロセスの視点では移植認定施設、骨髄採取認定施設になったことを受けて同種幹細胞移植マニュアルを整備した。患者、ドナーにとって安全に移植関連の治療が遂行できるよう活用していきたい。

成長プロセスの視点では、大阪府看護協会主催の臨地実習指導者講習会1名、認定看護管理者過程(ファースト)研修1名、赤十字近畿ブロック中堅職員研修1名が受講した。キャリア開発ラダーについては、レベルⅠ：1名が申請し、認定された。赤十字活動に関しては赤十字救急員養成講習3名、健康生活支援講習1名が指導員として参加し、赤十字救急法継続研修に2名が受講した。

## 9病棟：西 ひろみ

看護部のBSCに基づいて「呼吸器内科看護師として誇りをもって看護実践し、地域の急性期医療に貢献する」を目標に掲げ病棟活動を行った。

財務の視点では平均在院日数が 15.3 日、平均患者 44.6 名、充床率 79.7%であった。昨年度より在院日数短縮、充床率上昇であった。11 月から 901 号室が院内呼称のリカバリー室運用となり男女混合のメリットを最大限に有効活用し、ハード面や回転率が低いなどの課題が残ったが急性病院としての役割を果たす努力はできた。

顧客の視点では、入院患者の高齢化率（65 歳の高齢者の割合）は 81%であった。慢性呼吸不全の急性増悪、低酸素状態や CO<sub>2</sub>ナルコーシスなどの身体的侵襲、治療に伴う医療機器の装着等により、せん妄、BPSD が出現しやすく、環境調整、コミュニケーションへの配慮など、予防的ケアや発症時の早期対応ができるよう努力した。認知症をもつ高齢者が増える中、認知機能の低下に起因する転倒などの医療事故のリスクは高く、転倒事故は全体の 25.8%を占めた。新しい取り組みとして高齢者が治療に安全で安心な入院生活を送れる為に朝礼終了後にスタッフ全員で各部屋を訪室し環境整備を中心に、多数の目で安全な環境に関心が向けられるように取り組んだ。昨年度は転倒によるアクシデントⅢ - b が 3 件発生したが本年度は 0 件であった。

業務プロセスの視点では、日々のミニカンファレンス実施を意識することで、看護をチームで確認する場が増加してきている。9 病棟の特徴でもある患者の超高齢化を踏まえ、入院が長期化しやすい患者や複雑な治療を受ける患者に対し、入院時より退院を意識した支援を行っている。MSW と協力し 9 病棟独自に 10 日毎に退院調整カンファレンスを開催している。調整がどのぐらい進んでいるのかカンファレンスや記録に残すことでチーム看護に繋がっている。

学習と成長の視点では、レベルⅠ 2 名、レベルⅢ 1 名、計 3 名のキャリア開発ラダーの取得が行えた。異動や退職により呼吸器内科経験 2 年未満が 48%を占めた。呼吸器ケアに関する基本的な知識を学習し、看護師が自信を持って楽しく呼吸ケア看護を行うことを目指し、医師の協力を得て勉強会の開催ができた。最近のエビデンスやガイドライン、身近な事例から疾患の基本的知識と実践が結び付くような学ぶ機会を多く持つことができ、更なる看護実践能力向上に努めていく。

#### 緩和ケア病棟：西浦 美香

平均病床利用率を 80%以上、緊急入院の要請にできる限り対応するため、看護業務において、アナムネ入力の簡素化やセット引用を用いた入院処置指示入力の活用を行い、入院受け入れの業務の簡素化、効率化を図った。

結果的に在院日数の減少から病床利用率は 76.4%となったが、緊急入院の要請もすべて対応することができた。在宅退院も前年度 5.6%から 10.4%に上昇し、今後も患者のニーズを踏まえたうえでの病床の有効活用とスタッフ間の協力体制、業務整理を強化したい。

看護ケアの質向上においては、STAS-J の 7 日目実施の定着化に加え、明らかになった問題点を速やかに看護計画に反映、看護ケアに活かすこととした。また、毎日 15 時に看護ケアに関するカンファレンスの時間を設けた。PNS に限らず日々の担当看護師が患者の情報を発信し問題提起や情報共有を行い、知恵を出し合って看護の力をより発揮できるような意見交換の場となっている。看護師間で解決に至らない問題は他職種に相談することとしている。

学習面では「緩和ケア学会」一題、「死の臨床」二題発表。また ELNEC-J2 名 PEACE2 名受講。個々で専門分野での学習に取り組んでいる。

また、病棟内倫理研修には CNS の支援の下、一題取り組むことができた。日々倫理的問題があふれる日常であるが、身近な症例で学習できたことは非常に貴重な時間となった。今後も倫理的感性を磨きながら、意識的に立ち止まって考える時間を働きかけあえる職場づくりに努めたい。

#### 手術室・中央材料室：奥田 唱子

手術件数の増加に向けては、スムーズな受け入れや効率的な運用を検討し電子カルテの入力内容の変更、現状分析のためのデータ作成を行った。今年度手術件数 2454 件で前年度より 80 件の増となった。今後も引き続き 3000 件に対応する運用を検討していく。また、看護師確保の一環として、積極的に見学者の受け入れを行った。見学ルートや説明用紙を変更し魅力ある職場をアピールすることに努めた。またブラックジャックセミナーの応援スタッフとしても 7 名が参加した。

患者（家族）が安心して手術を受けられる環境づくりとして、WHO 作成の「安全な手術のためのガイドライン」をもとに安全に関する取り組み強化を行った。主な内容としては、「患者確認」「器械カウント」「標本の取扱い」において全員が確実にできるものへ変更した。いずれもアクシデントⅢ - b 以上は発生していない。

学習面では、各自が自己研鑽のための 1 回以上の研修参加し、手術室看護学会研修会 10 名、手術室看護学会 8 名と多施設の取り組みや今後の手術室の動向を知ることで専門性を高める努力を行っている。また、年度後半より「私が患者さんと接する上で大切にしていること」を発表し、互いの考えを承認する場を作り看護実践における感性を高める取り組みとした。今後も看護実践能力の向上を図り、多職種と協働しながら患者・家族への倫理面を考慮した看護介入が行える職場としていきたい。

#### 外来：川上 伊津子（代筆：福谷 裕美）

外来では、慢性疾患看護専門看護、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、また、禁煙認定指導者、糖尿病療養指導士、リウマチケア看護師が勤務しそれぞれに専門性を発揮し活動している。

看護専門外来は、看護師主体の外来でその領域で認定されている看護師が医師の指示のもとで、患者の自己管理能力の向上や、家族を含めた患者の QOL の支援に努めている。

看護専門外来での療養指導料の算定などは病院経営に貢献している。

#### 外来における診療報酬算定件数

- ・禁煙：初回 16 件 2~4 回：39 件 5 回目：11 件
- ・糖尿病合併管理：47 件
- ・糖尿病透析予防指導管理：88 件
- ・在宅自己腹膜還流指導管理：30 件
- ・在宅療養指導：464 件
- ・移植後患者指導管理：207 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 27 回以下）：1061 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 28 回以上）：2360 件
- ・がん患者指導管理 1：13 件
- ・がん患者指導管理 2：94 件

#### 看護記録・監査委員会：門脇 寛子

看護過程質監査表の活用は 90% であった。記録委員が中心に啓蒙を行う事ができた。評価の基準が分からない、どのように説明すればいいのか分からない事例もある、時間の関係で監査のみで修正したりできていない現状があった。監査の実施率だけでなく、次年度は病棟に啓蒙していく看護記録委員のスキルアップや委員会での事例検討を図っていく必要がある。

標準看護計画の修正・作成は新たに 7 つ申請・登録された。次年度も委員が中心となり各病棟で特殊性をふまえた標準看護計画の修正・作成を実施していきたい。

昨年度に引き続き新入職者に対して実施した。今年度初めて、11月院内研修を実施し17名参加となった。看護過程における正しい記録に関して事例検討をグループワークで行った。実践における看護記録を様々な意見が活発に交換できた研修であった。委員も企画から研修に携わり、事例を選び、看護展開する中で多くの学びがあった。

大阪府看護協会研修3名や日本看護診断学会5名参加し、委員会で伝達講習を行った。

#### 看護継続教育委員会：高田 佳織

平成29年度看護継続教育委員会が企画した研修に約140名が受講した。受講者の研修満足度は、概ね評価はよかった。しかし、年度後半の繁忙期に病床稼働率が高くなってくると、研修を受講する時間的制約もあったためか研修受講者の人数が減少し、受講希望者数が少ない場合は、中止する研修もあった。次年度は、集合教育で必要な研修は何か、教育ニーズや学習ニーズをふまえて再検討が必要である。その一環として次年度早々に看護職員に対し学習ニーズの調査を実施する予定である。また、看護実践能力の向上を目指し、看護倫理の視点を強化するため、研修として部署で事例検討を実施した。CNSの介入により、事例での看護の振り返りや倫理的視点を深めることができた。

#### 看護基準・手順整備委員会：奥田 唱子

根拠に基づいた看護実践に繋がるよう、看護基準・手順活用・浸透に向けた取り組みを行った。看護実践基準の活用に向けた取り組みとして、入院・退院・患者誤認防止の3項目に対し、現存する手順との整合性の確認を行なった。入院では、オリエンテーションにおいて「日課」の説明部分が現状と大きく乖離しているため、問題点を抽出し係長会へ変更を依頼した。他の2項目は手順に記載されている内容の周知が不十分であることがわかり、委員から啓蒙を行った。次年度は、すべての基準が、手順と紐付けできているかを確認していく。

「ナーシングスキル」の活用は導入時から継続して啓蒙活動を行っている。しかし学習・指導・教育以外の場面では使用されているがそれ以外の場面での活用されていないことが、年度末のアンケートで明確になった。また、気軽に使用できるはずのインターネット版の利用率の大きな変化は見られなかった。次年度はこのことを踏まえ、活用方法や使用方法の提示を行っていきたい。

#### 新入職看護職者支援委員会：花田 季代子

2017年度は次の2点の『ちから』をつけられるような委員会活動を行った。

##### 1. 新入職看護職者を支援する体制を強化するための実行力

新卒看護職者の退職は1名、既卒看護職者・中途採用者の退職者はいなかった。新入職看護職者達は個々の差はあったものの、教育計画に則り、概ね良好な1年を過ごしたと言える。目標数値とした、離職率0%とはならなかったが、過去3年間と比べると大幅に低下した。これは、新卒看護職者達の本来の資質も大きな要因ではあるが、アクションプランに基づき、新入職看護職者の“居場所づくり”に力を注いだ委員を中心とした現場の看護職者達の努力の結果だと評価したい。



## 2. 確実な研修運営のための発想力・創造力・行動力

各委員達は、研修会の2ヶ月前から準備に入り、検討を重ねながら綿密な企画ができていた。今年度の研修会は、受講者自身が“考えながら主体的に参加する”ことに焦点を当てた教育内容・方法を作り上げていった。そのため、各委員達が準備に費やす労力は大きく負担に感じていたかと推察できる。だが、受講者達の良い反応をみて得られた達成感も大きかったのではないだろうか。

教育内容・方法は、研修受講者のレディネスによって変化させる必要がある。次年度以降は、今年度の評価できる部分はそのまま継続し、受講者の状況に合わせて柔軟に対応しながら、その内容を洗練させていくような取り組みをしたい。

### 看護研究委員会：西 ひろみ

看護研究委員会は3つの柱で活動を行った。1つは「看護研究研修会」の運営・評価。2つ目は「院内看護研究発表会」に向けての準備。3つ目は「知的好奇心を育む」活動を行った。「看護研究研修会」は、同志社女子大学看護学部 葉山有香先生を講師に招き平成29年7月7日（金）から1月19日（金）の期間で6回開催した。第1回～4回は個別指導、5回目は講義、6回目は看護計画書の成果発表会を実施した。受講者からは「とても勉強になった」「今後の看護研究に役立てたい」との声が多く寄せられた。研修会のねらいでもあった看護研究の具体的プロセスを確実に踏む事ができ全員が看護研究計画書の完成ができた。そのうち1名は、院内倫理委員会に提出するまでに至った。2年間の学習総括として研究を実際に行い、平成30年度末の「院内看護部研究発表会」での発表を期待したい。「院内看護研究発表会」に向けての準備については当初、院内看護研究発表会に関する現場のニーズの調査を予定した。文献検索をしたところ既に全国規模での院内看護研究発表会や研究活動の調査報告が多々あり、当院における状況も既出の調査結果の背景と大きく変わらないものと考えた。平成31年3月に看護研究発表会の日を最終決定し、開催に向けて要項の素案が完成した。「知的好奇心を育む」活動は「看護実践現場で研究的な取り組みを支える、共に考えるということはどういう事なのか」を委員会で検討した。その結果、「委員自身が自発的な看護研究に対する自覚を深めること。個々の看護師が看護研究に対しての興味や関心を持ち、日々の看護について探究心を養うことができること」が必要と捉え委員自身が多数の看護研究学会に参加し学んだことを伝達、共有を行った。また各部署で「研究的視点」についてのリーフレットとそのマニュアルを作成し伝達講習を行った。各部署ですぐに看護研究を行うという職場風土にはなっていないが、委員会メンバーや看護研究のプロセスを踏んだ受講生が中心となり看護研究の花を咲かせられるための素地作りに手応えを感じた一年であった。

### 患者サービス向上委員会：石黒 早苗

当委員会は、高槻赤十字病院で働く看護職員一人ひとりが「地域の人々が誇りにする病院」となることを目指す為、当院に来院する患者・家族に提供されるサービスの質向上を図る目的の下活動している。

顧客の視点では、医療接遇を意識した立ち居振る舞いを考え行動できる様、各病棟で患者さんから頂いた声事例を委員会内でワークし、「患者さんの立場に立って、明日から自分達にできる事」として各看護単位に伝達を行った。また、身だしなみの現状調査を行い、看護職者の身だしなみの強化すべき項目を明らかにする事ができた。

業務プロセスの視点では、患者や家族、病院を訪れる人にとり気持ちの良い療養環境を整える一環として、「挨拶カード」を用いた就業前・就業後挨拶の啓蒙を進めると共に、「挨拶カード」

の問題点や課題を調査する事で、利用率向上への手がかかりとなった。

学習と成長の視点では、責任感があり患者に優しい医療接遇が実施できるスタッフの育成を目的に、外部講師を招き研修を行い、48名の参加があった。

各看護単位で接遇の核となるスタッフの参加を呼びかけた事で、研修内容を理解し「実践に活かせる」との意気込みを参加者全員が感じた研修となり、研修3ヵ月後調査においても、88%の参加者が「実践できている」と自己評価していた。

次年度も、責任感があり患者に優しい、医療接遇が実践できるスタッフの育成を図るため、地道な活動を継続する。

#### 臨地実習指導者委員会：高橋 晶子

「実習指導者のスキルアップを図ると共に、自部署の問題を明確にし、後輩指導に活かすことができる」を目標に取り組んだ。

委員会では毎月15分の学習会を開き、実習指導の基礎知識や研修・学会等の伝達講習を行い委員のスキルアップに努めた。大阪府看護協会実習指導者講習会に委員から3名が参加。研修受講後には伝達講習を行い、知識の共有を図った。

院内看護部集合研修で「効果的な実習指導」について企画し、11月に開催。研修受講者は14名であった。

委員会内では2つのグループに分かれて事例検討を行い、患者・看護師・学生・教員のそれぞれから問題を抽出し、実習指導場面について振り返った。今後は事例検討をタイムリーに行い、自部署へフィードバックできるように努めたい。また、次年度は委員が委員会内で得た知識・技術を自部署に伝達し、共に育つ・後輩が育つ風土の醸成に努めていきたい。

# 医療社会事業部

## 社会課

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という日本赤十字社の Mission statement のもと日々業務をおこなっており、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動しています。

### <平成 29 年度スタッフ>

濱田 健司（社会課長）

間瀬 由加理

### ■平成 29 年度実績（平成 30 年 3 月 31 日現在）

平成 29 年度日本赤十字社大阪府支部救護員（救護班要員）

救護班要員 44 名 医師 5 名、看護師長 5 名、看護師 10 名、助産師 1 名、  
こころのケア 6 名、薬剤師 5 名、主事 5 名、自動車操作要員 5 名  
補助 3 名

	第 1 班	第 2 班	第 3 班	第 4 班	第 5 班
医 師	岡本 文雄	小林 稔弘	恒松 一郎	山中 雄介	後藤 健一
看 護 師 長	白根 志保	門脇 寛子	南波 広美	松浦 昭子	井上 尚代
看 護 師	森下 かおり	前田 敦子	梅本 美紀	大枝 綾香	有持 由江
	奥川 聡子	野田 実岐	亀岡 さつき	溝邊 ゆかり	赤座 貴史
主 事	黒田 智文	迫田 博史	松原 健夫	新地 史章	綱島 準
自動車操作要員	藪 敏雄	山口 博志	山崎 雅樹	佐橋 克哉	吉田 桂
薬 剤 師	松本 弘誠	小西 史子	濱武 清範	奥村 優介	奥村 茜子
補 助	濱田 健司・吉田 篤美				
こころのケア要員	阿部 哲子・高田 佳織・川崎 知子・門脇 寛子・村嶋 涼子・井上 尚代				
助 産 師	名田 季理子				

- ◆ 日赤災害医療コーディネーター 救急部長 岡本 文雄  
日赤災害医療コーディネートスタッフ 社会課長 濱田 健司

- ◆ 国際活動 国際救援・開発協力要員の登録状況  
岸 恵美、原田 香織

- ◆ こころのケア指導者  
阿部 哲子、高田 佳織、川崎 知子、村嶋 涼子、井上 尚代

◆ 赤十字救急法指導員

青木 和美、高田 佳織、石黒 早苗、仲 砂千代、  
前田 敦子、梅本 美紀、清田 絢子、南波 広美、村上 美穂子、佐橋 克哉、永本 和弘、  
山崎 孝子、辻 浩子、和田 香織、吉川 三保、松岡 郷子、濱田 健司、亀岡 さつき  
石原 早苗、山下 拓郎

◆ 第2級陸上特殊無線技師

大内 貞則、迫田 博史、篠田 隆史、長谷 雄介、佐橋 克哉、阪本 達矢、西村 大樹、  
山崎 孝子、吉田 桂、河野 博文、吉岡 健太郎、濱田 健司

救護員研修会

月 日	研修会名	参加者	人数
4月11日	平成29年度第1回日本赤十字社大阪府支部 救護員指導者協議会	救急部長 岡本 文雄 看護副部長兼 HCU看護師長 岸 恵美 薬剤部長 小島 一晃 社会課長 濱田 健司	4
4月20日	平成29年度第23回日本赤十字社 第4ブロック合同災害救護訓練にかかる 第4ブロック救護員指導者協議会（第3回）	救急部長 岡本 文雄 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長兼 HCU看護師長 岸 恵美 社会課長 濱田 健司	1
5月11日	大阪国際空港緊急計画連絡協議会 第1回医療救護部会	社会課 濱田 健司	1
5月20日	平成29年度日本赤十字社大阪府支部 救護員指導者等研修会	看護副部長兼 HCU看護師長 岸 恵美 理学療法士 菊池 直人 社会課長 濱田 健司	3
7月1日 ～7月3日	平成29年度全国赤十字救護班研修会	救急部長 岡本 文雄 社会課長 濱田 健司	2
7月9日	平成29年度日本赤十字社大阪府支部 救護員基礎研修会	看護師 一ノ瀬 友美 甲斐 三保子 田中 彩子 和田 房子 小松 歩未 有持 由江 野田 美岐 放射線課長 松原 健夫 放射線技師 梅原 笑 検査係長 吉田 桂 薬剤師 宮西 將之	11
7月23日	全国救護班研修	救急部長 岡本 文雄	1

9月11日	平成29年度 第1回日本赤十字社大阪府支部こころのケア研修会	看護師 甲斐 三保子 小松 歩未 有持 由江 田中 彩子 講師【看護師】 村嶋 涼子	5
9月12日	大規模訓練地震時医療活動訓練 報告会	救急部長 岡本 文雄	1
9月21日	2017年度航空機事故対策部分訓練第2回 訓練担当者会議	看護副部長兼 HCU看護師長 岸 恵美 社会課長 濱田 健司	2
9月25日	平成29年度第2回日本赤十字社大阪府支部 救護員指導者協議会	看護副部長兼 HCU看護師長 岸 恵美 社会課長 濱田 健司	2
10月4日	平成29年度第23回日本赤十字社 第4ブロック合同災害救護訓練にかかる 第4ブロック救護員指導者協議会（第4回）	看護副部長兼 HCU看護師 岸 恵美 長薬剤部長 小島 一晃 社会課長 濱田 健司	3
10月21日	平成29年度日本赤十字社大阪府支部 ステップアップ・deru 研修会	看護係長 南波 広美 看護師 西谷 貴子 小松 歩未 鹿野 瑠美 大枝 綾香 山田 理砂子 放射線課長 松原 健夫 放射線科係長 中村 義隆 放射線技師 梅原 笑 薬剤師 宮西 將之 社会課長 濱田 健司	11
11月1日 24日 12月1日、 3日、8日、 9日 平成30年 1月7日	平成29年度赤十字救急法指導員養成講習（計8回）	看護師 村嶋 涼子	1
11月2日	平成29年度 第2回日本赤十字社大阪府支部こころのケア研修会	看護師 榎本 裕二 新井 かほる 小山 由貴 放射線技師 梅原 笑 放射線課長 松原 健夫 講師【看護師】 井上 尚代	6
11月9日	2017年度大阪国際空港航空機事故対策部分訓練 評価会議	社会課長 濱田 健司	1
12月9日	MCL標準コース	看護師 関岡 薫 辻 佳恵子	2

12月9日	平成29年度赤十字幼児安全法指導員養成講習の 事前説明会	看護師長 高橋 晶子	1
12月12日	第4ブロック赤十字健康生活支援講習指導員研修会	看護師 井手 淳子	1
12月15日	平成30年度日本赤十字社 第4ブロック合同救護訓練にかかる 第1回第4ブロック救護員指導者協議会	救急部長 岡本 文雄 看護副部長 岸 恵美 兼HCU師長 臨床工学技術係長 吉岡健太郎 社会課長 濱田 健司	4
平成30年 3月9日	第4ブロック合同災害救護訓練にかかる 第4ブロック救護員指導者協議会	救急部長 岡本 文雄 看護副部長 岸 恵美 兼HCU師長 看護師長 高田 佳織 社会課長 濱田 健司	4

#### 災害救護訓練

月 日	訓練名	派遣先	参加者	人数
6月11日	平成29年度近畿地方 DMATブロック訓練（第 1回ロジスティクス研修）	高槻赤十字病院	社会課長 濱田 健司	1
6月16日 6月17日	第23回日本赤十字社 第4ブロック合同災害 救護訓練	京都府立丹波自然 運動公園	社会課長 濱田 健司 救急部長 岡本 文雄 医 師 吉見 宏平 後藤 健一 松村 大志郎  看護副部長 岸 恵美 兼HCU師長 看護師長 西浦 美香 看護係長 白根 志保 森下 かおり  看護師 奥川 聡子 山内 洋平  薬剤部長 小島 一晃 薬剤係長 小西 史子 診療放射線科 松山 佳央 理学療法士 菊池 直人 臨床工学係長 吉岡 健太 主 事 川崎 清司	17
7月28日	院内防火・防災訓練	高槻赤十字病院	全職員対象	

7月29日	平成29年度 大規模地震時医療活動訓練	大阪府庁  岸和田公園  大阪府三島救命 救急センター  高槻赤十字病院	救急部長 岡本 文雄  医 師 康 あんよん 研 修 医 池田 有紀 看護師長 門脇 寛子 看護 師 梅本 美紀 亀岡 さつき 放射線係長 中村 義隆 検査係長 吉田 桂 人事係長 佐橋 克哉  医 師 後藤 健一 外来係長 網島 準  主 事 加賀瀬 博	12
9月 1日	院内防火・防災訓練	高槻赤十字病院	全職員対象	
9月 9日	第12回高槻医師会 災害医療救護訓練	高槻市立 北清水小学校 校庭	救急部長 岡本 文雄 研 修 医 原田 優介 奥野 岳 看護係長 南波 広美 前田 敦子 看護 師 野田 実岐 尾藤 弘美 連携推進係長 迫田 博史 主 事 松宮 源朗 藤岡 寛子	1
10月12日	2017年度大阪空港航空機 事故対策部分訓練の参加	大阪空港	救急部長 岡本 文雄 HCU副部長 江口 英希 看護係長 松浦 昭子 看護 師 大枝 綾香 溝邊 ゆかり 社会課長 濱田 健司 主 事 間瀬 由加理	7
10月27日	平成29年度大阪府 三島救命救急センター 災害医療訓練の実施	大阪府三島 救命救急センター	医事係長 網島 隼	1
11月5日	平成29年度 近畿府県合同防災訓練	堺泉北港2区基幹的 広域防災拠点	救急部長 岡本 文雄 医 師 後藤 健一 看護係長 小笠原 舞 看護 師 赤座 貴史 山田 理砂子 検査技師 今井 祥太郎 放射線係長 中村 義隆 臨床工学係長 吉岡 健太郎 社会課長 濱田 健司	10

11月12日	新名神高速道路での多数 傷病者発生事故対応訓練	新名神高速道路 (竜王山トンネル)	救急部長 岡本 文雄 医 師 平野 玄起 鈴木 悠介 看護副部長兼 HCU看護師長 岸 恵美 看護師長 高田 佳織 看護 師 里村 裕史 西谷 貴子 薬 剤 師 酒井 ちひろ 連携推進係長 迫田 博史 社会課長 濱田 健司	10
平成29年 1月7日	平成29年 高槻市消防出初式	高槻市立第一中学校	医事係長 篠田 隆史 社会課長 濱田 健司 作業療法士 山崎 孝子 主 事 東條 文子	4

赤十字救急法指導員（職員）研修会（大阪府支部にて開催）

5月17日	平成29年度赤十字救急法指導員 資格継続適性審査会	看護係長 前田 敦子	1
5月17日	平成29年度赤十字救急法指導員 指導実績未達成研修	理学療法士 永本 和弘 人事係長 佐橋 克哉	2
5月17日	平成29年度赤十字救急法指導員研修	看護師長 青木 和美 石黒 早苗 高田 佳織 看護係長 前田 敦子 看護 師 清田 絢子 松岡 郷子 村上 美穂子 看護助手 辻 浩子 作業療法士 山崎 孝子 社会課長 濱田 健司 主 事 山下 拓郎	11
5月25日	平成29年度赤十字救急法指導員研修	看護係長 南波 広美 看護 師 梅本 美紀 仲 砂千代 吉川 三保 主 事 石原 早苗 人事係長 佐橋 克哉 理学療法士 永本 和弘	7
6月25日	平成29年度赤十字救急法資格継続研修	看護 師 尾藤 弘美	1
11月19日	平成29年度赤十字資格継続研修	看護 師 水戸 彩夏 高嶋 幸江 吉田 智代美	3
11月7日～ 1月8日まで 計8日	赤十字救急法指導員養成講習	看護 師 村嶋 涼子	1

赤十字救急法救急員養成講習会（高槻赤十字病院にて開催）

月 日	受講生	人数
10月28日 11月11日 11月12日	小笠原 舞、太田 弘美、下井 優華、那須 まき、松山 尚子 村嶋 涼子、児玉 亜也、的場 加奈、佐藤 真史、前田 仁美 友安 直美、亀山 雅貴、奥宮 寿乃、間瀬 由加理（基礎受講済） 北村 めぐみ（11日、12日欠席）、妹背 美和子（11日、12日欠席）	16
各 日 程	指 導 員	人 数
10月28日（基礎）	高田 佳織（基礎） 佐橋 克哉 仲 砂千代 永本 和弘 濱田 健司	5
11月11日（養成1）	永本 和弘 梅本 美紀 南波 広美 辻 浩子 松岡 郷子 濱田 健司	6
11月12日（養成2）	吉川 三保 青木 和美 清田 絢子 亀岡 さつき 松岡 郷子	5

赤十字救急法救急員等資格継続研修（高槻赤十字病院にて開催）

月 日	受講生	人数
6月3日	名田季理子 一ノ瀬友美 甲斐三保子 角野 睦美 依藤 里香 西辻 保美 高橋 晶子 松家久美子 北村 弥生 本阿弥千恵 橋本 龍 溝邊ゆかり 加藤 幸枝 三谷 友宏 佐々木千恵 宮越 綾乃 井上真理子 羽瀬 麻紀 伊藤 勝也 吉田 裕代 西 佳奈	21
月 日	指 導 員	人数
6月3日	辻 浩子 亀岡さつき 梅本 美紀 山下 拓郎 山崎 孝子 濱田 健司	6
月 日	受講生	人数
1月27日	井手 淳子 岩村 宏美 吉川 知世 戸川 綾女 鹿野 瑠美 植村 恵子 美和美佳子 里村 裕史 山田理砂子 奥川 聡子 木村 淳子 井上 尚代 野田 実岐	13
月 日	指 導 員	人数
1月27日	石黒 早苗 亀岡さつき 山崎 孝子 石原 早苗 清田 絢子 濱田 健司	6

赤十字救急法救急員指導員派遣（支部にて開催）※養成1→養成1日目、養成2→養成2日目

月 日	参加者	人 数
7月 4日（基礎）	村上 美穂子・石原 早苗	2
8月 29日（養成1）	南波 広美	1
8月 30日（養成2）	梅本 美紀	1
8月 31日（養成2）	前田 敦子・清田 絢子	2
2月 21日（基礎）	山崎 孝子・高田 佳織 吉川 三保	3
2月 22日（養成1）	田淵 美世・石黒 早苗	2
2月 23日（養成2）	濱田 健司・青木 和美 亀岡 さつき	3
3月 13日（基礎）	濱田 健司	1
3月 14日（養成1）	山崎 孝子・清田 絢子	2
3月 15日（養成2）		0

赤十字健康生活支援講習支援員養成講習

6月 9日	工藤ゆかり・豊留ひとみ 井手淳子・末廣悦子 仲 砂千代	5
-------	-----------------------------------	---

健康生活支援講習 講師派遣

6月 2日（第1回）	磯野 悦子	1
6月 6日（第1回）	支部より代理	1
6月 12日（第1回）	支部より代理	1
6月 14日（第1回）	工藤 ゆかり	1
6月 26日（第1回）	豊留 ひとみ	1
6月 29日（第1回）	井手 淳子・仲 砂千代	2
9月 28日（第2回）	豊留 ひとみ	1
10月 4日（第2回）	工藤 ゆかり	1
10月 11日（第2回）	井手 淳子	1
10月 18日（第2回）	濱田 恵	1
10月 26日（第2回）	工藤 ゆかり	1
11月 1日（第2回）	末廣 悦子	1
1月 18日（第3回）	仲 砂千代	1
1月 26日（第3回）	濱田 恵	1
2月 1日（第3回）	豊留 ひとみ	1
2月 8日（第3回）	井手 淳子	1
2月 15日（第3回）	仲 砂千代	1
2月 22日（第3回）	工藤 ゆかり	1

平成 29 年度ボランティア受入れ・参加

月 日	訓練名	人数
4月29日	天理教ひのきしん	400
4月29日	移動採血車来院	46
5月21日	平成 29 年度春季「高槻市環境美化推進デー」清掃ボランティア活動参加	2
5月18日	移動採血車来院	32
5月31日	アンサンブル「サフラン」患者慰問コンサート	5
6月 1日	ANA グループ客室乗務員による「すずらんのお見舞い」	5
6月14日	高槻市立阿武山小学校3年生児童、災害救護倉庫等見学	25
8月 2日	緩和ケア病棟ボランティア公開講座	50
10月19日	移動採血車来院	39
11月19日	平成 29 年度秋季「高槻市環境美化推進デー」清掃ボランティア活動参加	5
11月29日	アンサンブル「サフラン」患者慰問コンサート	8
12月16日	7病棟にて JAMATA によるボランティア活動	8
12月18日	クラリネット、歌、フルート、ピアノ演奏	14
2月14日	緩和ケアボランティア公開講座	50
6月11日	平成 29 年度近畿地方	1

中学生実習職業体験受入

月 日	項 目	人数
平成 29 年 5 月 31 日、6 月 1 日	高槻市立第 8 中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2
平成 29 年 10 月 26 日、27 日	茨木市立北陵中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2
平成 29 年 10 月 1 日、11 月 1 日	高槻市立阿武野中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2
平成 29 年 11 月 9 日、10 日	茨木市立太田中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2

その他 ( ) 内前年度

平成 29 年度 赤十字社員増強運動実績	364 人	197,500 円 (398 人 257,000 円)
赤十字の活動資金 (募金箱分)		144,256 円 (82,000 円)
新潟県糸井川市大規模火災義援金		10,383 円
平成 29 年度 NHK 海外たすけあい義援金実績		3,630 円 (107,526 円)
平成 29 年 7 月 5 日からの大雨災害義援金		5,848 円
平成 29 年度台風第 18 号災害義援金		1,261 円
平成 29 年 平成 28 年熊本地震災害義援金		77,452 円

## (平成 29 年度糖尿病教室)

月 日	テーマ	講 師	参加者	
4月11日	糖尿病との付き合い方 糖尿病合併症について 食事療法 1 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 糖尿病療養指導士 管理栄養士  理学療法士	金子至寿佳 角屋 麻由 南 美保子  倉繁 浩一	8
5月9日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病と循環器疾患	薬剤師 検査技師 管理栄養士  循環器科医師	小西 史子 土居美都子 南 美保子  木澤 隼	10
6月13日	患者体験談意見交換会 糖尿病について 食事療法 3 (ミニ健康講座) 糖尿病と循環器疾患	当院患者 糖尿病療養指導士 管理栄養士  糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長	坂本寿美子 松岡 郷子 南 美保子  金子至寿佳	10
7月12日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法 1 (ミニ健康講座)	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 糖尿病療養指導士 管理栄養士	金子至寿佳 戸川 綾女 平野なつみ	8
8月9日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病に対する運動療法	薬剤師 検査技師 管理栄養士  理学療法士	小西 史子  平野なつみ  倉繁 浩一	8
9月13日	患者体験談 糖尿病について 食事療法 3 (ミニ健康講座)	当院患者 糖尿病療養指導士 管理栄養士	坂本寿美子 長野 友美 平野なつみ	8
10月10日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法 I (ミニ健康講座) 糖尿病と網膜症	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 糖尿病療養指導士 管理栄養士  眼科医師	金子至寿佳 和田 房子 西岡 美穂  木村 大作	11
11月14日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	薬剤師 臨床検査技師 管理栄養士  理学療法士	小西 史子 土居美都子 西岡 美穂  倉繁 浩一	11
12月13日	糖患者意見交換 糖尿病について 食事療法 3 (ミニ健康講座) 糖尿病と足病変	参加者全員 糖尿病療養指導士 管理栄養士  皮膚科医師	富久真由美 西岡 美穂  古川 福実	11

1月9日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法1 (ミニ健康講座) 小児Ⅱ型糖尿病	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 糖尿病療養指導士 管理栄養士  小児科医師	金子至寿佳 角屋 麻由 藤本 智子  瀧北 章一	12
2月13日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法2 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	薬剤師 検査技師 管理栄養士  理学療法士	小西 史子 佐藤 裕司 藤本 智子  倉繁 浩一	16
3月13日	患者意見交換 糖尿病について 食事療法3 (ミニ健康講座) 糖尿病について	懇談会 糖尿病療養指導士 管理栄養士  糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長	松岡 郷子 藤本 智子  金子至寿佳	9

(平成 29 年度市民公開講座)

月 日	テーマ	講 師	参加者
6月26日	しっかり学ぼう！関節リウマチ (西阿武野コミュニティーセンター) 1. 関節リウマチ治療 最前線 2. 関節リウマチ 日常のケア・注意点	整形外科部長 小田 幸作 リウマチケア看護師 野口 郁代	69
11月11日	しっかり学ぼう！関節リウマチ (茨木イオンシネマ6) 1. 関節リウマチ 日常生活のケア・注意点 2. 関節リウマチのリハビリ 3. 関節リウマチの治療の選択	整形外科部長 小田 幸作 リウマチケア看護師 野口 郁代 リハビリテーション科 八木 紀子	80
3月17日	知っておきたい！お腹のお話 (ホテルクレストいばらき) 1. 増えているお腹の病気 ～潰瘍性大腸炎など～ 2. お腹のがんの予防と早期発見、そして 治療	消化器科・消化器内視鏡センター 池田 宗弘 消化器科・消化器内視鏡センター 部長 神田 直樹	30

## 地域医療連携課

### <スタッフ>

渡部 悟 (地域医療連携課長)  
遠藤 美智子 (地域医療連携係長)  
大迫 明子 (嘱託主事)  
新行 彩加 (主事)  
仁志出 裕介 (主事)  
迫田 博史 (地域連携推進係長)  
阪本 達矢 (入退院支援係長)  
宮前 弥生 (嘱託主事)  
河津 絵里 (パート主事)

### <平成 29 年度活動実績>

平成 29 年度は、4 月から原田かおる看護副部長を患者支援センター長として迎え、更なる業務改革を進めました。

#### <<係毎の新たな取り組み>>

##### (地域医療連携係)

- ・断診リストの作成・報告。
- ・断診の根絶を目指し、入院依頼及び他病院からの転医時、お断りされた場合、各科部長へ直接センター長及び課長が交渉を行いました。
- ・紹介先への返書作成を徹底する為、毎月返書未作成リストを病院連絡会議へ提出。
- ・登録医からの外来受診時は 5 分以内での応需を徹底。
- ・紹介患者の当日受診時、外来への案内を廃止して、連携業務に専念し登録医からの紹介時の対応を強化。
- ・茨木方面への送迎強化の為、タクシー運用を開始。
- ・人員体制の強化 (課内での異動を行い、6 名体制を実施)
- ・係内ミーティングの定期開催

##### (地域医療推進係)

- ・近隣病院への年 2 回の定期訪問を開始。(7 ~ 8 月、11 ~ 12 月に各 40 病院訪問)
- ・年末に登録医へご挨拶訪問及びカレンダーの配布を実施。
- ・消防隊員向け勉強会の実施。(年 1 回)
- ・渉外業務専用の公用車を調達。
- ・日報の作成。

##### (入退院支援係)

- ・日報の作成。
- ・係内ミーティングの開始 (月 1 回)

##### (課全体の実施項目)

- ・FAX 送信時の誤送信防止の為ダブルチェックの徹底を実施。
- ・係を跨り業務習得者を増やし、急な休みや夏期休暇中の業務体制の強化を実施。

平成 29 年度は紹介件数、入院稼働率も前年を上回りました。

◆共同診療は、合計 101 回実施されました。(昨年度 101 回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
12回	10回	10回	9回	7回	7回	10回	5回	11回	1回	7回	5回

◆平成 30 年 2 月 17 日（土）大阪新阪急ホテルにて『高槻赤十字病院地域連携の会』を開催。登録医他 104 名、職員 30 名の参加がありました。「大腸がんの予防と治療～大腸癌で亡くなる人を減らしましょう！」消化器科部長から、「ここがポイント！皮膚科救急の勤どころ」院長から講演を実施しました。

### 平成 29 年度研修会等開催実績

日時	研修名	参加人数
平成 29 年 7 月 1 日	市民公開講座「見て、触って、早期発見！」	70 名

### <平成 30 年度活動目標>

I、地域の人々に安全・安心な医療提供のために継続的に地域医療・院内の連携に努める

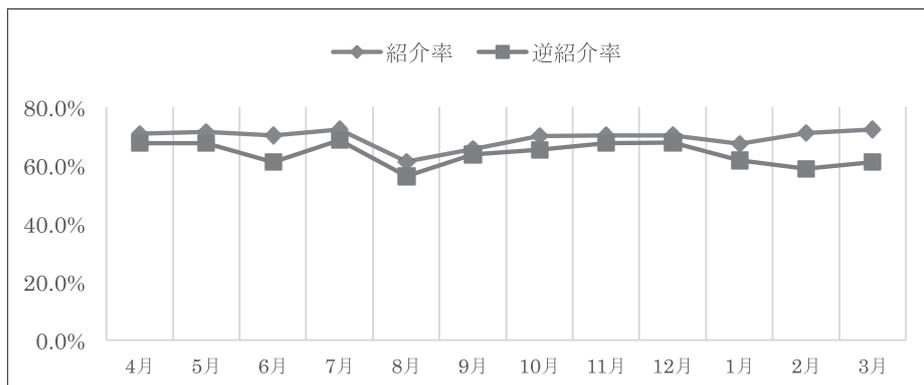
財務に関する事項	地域医療支援病院の継続	①紹介率 65%以上・逆紹介率 40%以上 ②地域支援病院に関する研修の実施
	登録医訪問の強化	①紹介患者の増加 ②当院の担当医師と共に訪問活動を強化
	がん診療拠点病院の獲得	①承認事項の実施 ②がん患者・家族に沿って支援強化
	紹介率のアップ	①オープン検査項目の増加 ②大腸内視鏡検査紹介への強化 ③登録医プレートの作成・配布 ④当院専用ファイルの作成・配布 ⑤近隣病院への年 2 回定期訪問 ⑥卓上カレンダーの作成・配布（年末）
	がん連携パスの増加	①大阪府がん診療連携パス（肺・胃・肝・乳・大腸）の増加 ②がん疼痛緩和ケア地域連携パス運用に関する支援強化
顧客に関する事項	紹介された患者さんの受入態勢の迅速化	①予約依頼から 5 分以内返答の徹底
	登録医の期待に応える	① 100%返書を返す
内部プロセスに関する事項	登録医からの紹介患者を断らない	①当日緊急依頼については、全て受け入れる。 ②オープン検査結果等の返書は 100%返す ③月間紹介件数の目標を立て、紹介状況の把握を行う
	地域医療連携業務の強化	①共同診療件数の前年度比 20%上昇 ②開放病床利用率の上昇

## II、個々の専門性を活かした質の高い情報の提供と自己研鑽を行う

戦略に関する事項	個々の専門性を発揮し医療連携、患者支援の質の向上を図る	①院内院外への研修に積極的参加 ②患者支援サービスについて内容検討 ③課内の情報共有強化の実施
----------	-----------------------------	---

## III、平成 29 年度の紹介率と逆紹介率

年間 紹介率	68.7%
逆紹介率	62.9%



### 地域医療連携課 医療福祉相談係

#### <スタッフ>

志水 陽子（医療福祉相談係長・社会福祉士）  
 信本 愛（医療社会事業司・社会福祉士）  
 大島由起子（医療社会事業司・社会福祉士）  
 北村 民（医療社会事業司・社会福祉士）※平成29年12月31日まで

#### <特色>

医療福祉相談係ではソーシャルワークを担当しており、厚生労働省の業務指針に基づき①療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助、②退院援助、③社会復帰援助、④受診・受療援助、⑤経済的問題の解決・調整援助、⑥地域活動を行っている。

また、当院は府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターでの業務も医療ソーシャルワーカーが、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師とともに、がん相談支援センター相談員を兼務することで継続した。

平成29年8月よりケースの担当を病棟ごとに分担し、より一層の病棟との連携強化やケース依頼経路の整備を図った。全8病棟に対し、ソーシャルワーカー1人につき2病棟ずつ半年ごとのローテーションで実施した。平成29年12月に1名が退職し、以降4月までは3名で補ったが、病棟担当制を実施したことは各病棟や主治医にも担当者が明確になり、退院支援加算1を取得する準備にもつながったため成果としては大きかったと思われる。また、地域との連携や自己研鑽のため、三島圏域リハビリテーション連絡協議会や、大阪医療ソーシャルワーカー協会、三島圏域ソーシャルワーカー連絡会、全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会等に所属し、研修活動などに参加した。また、担当圏域地域包括ケア会議や難病ネットワーク会議等、地域包括支援センターや医師会主催の会議にも出席した。

## < 29年度の活動実績 >

「全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会」の日報・月報様式を使用し、活動実績を集計した。  
 なお、この統計は、4月～12月は4名体制、1月以降は3名体制として集計した実績値である。

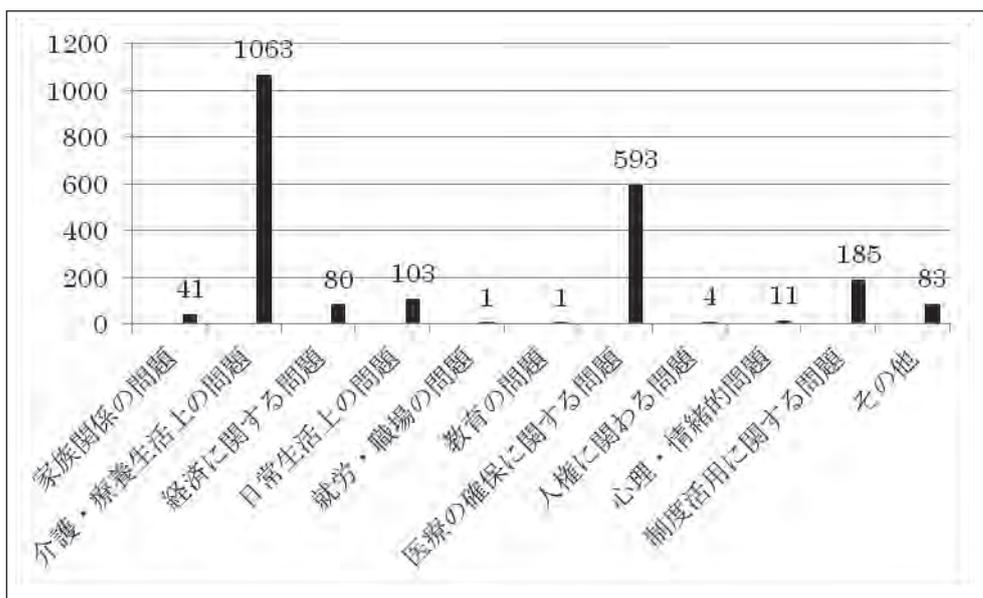
◇年度実人数・・・計 1,542 名

◇対応した問題（1問題1ケースとしてカウントしたため延べ相談件数となる）

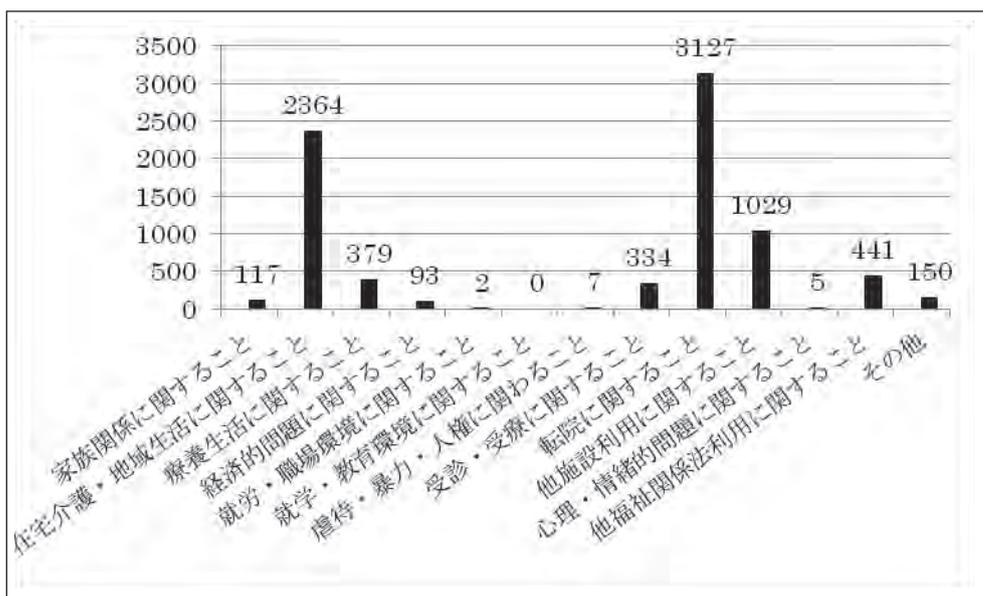
計 7,443 件

以下に、①問題件数、②相談援助内容、③援助方法、④新ケースの紹介経路をグラフにて示す。

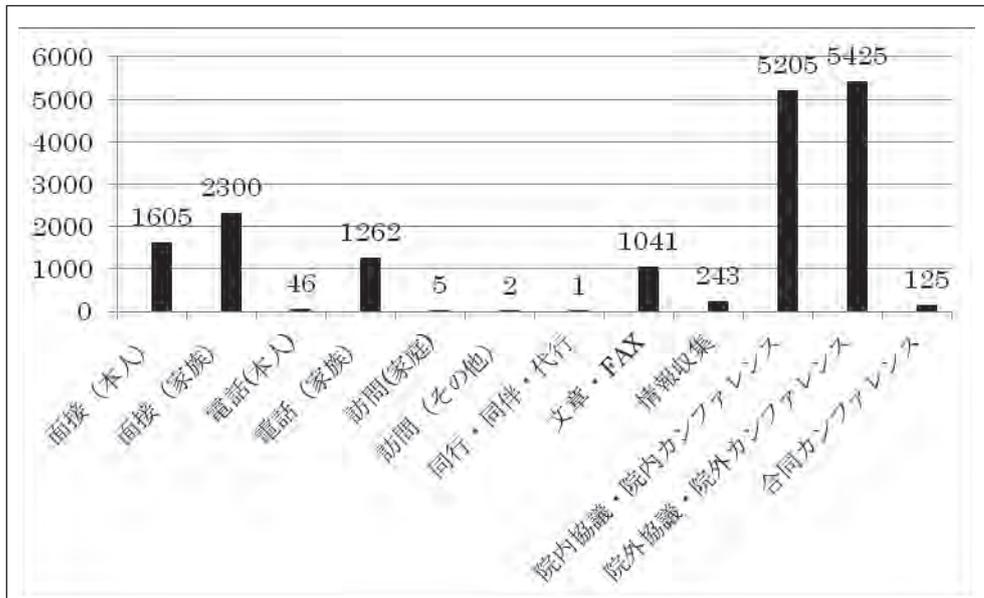
①問題件数（実件数として計上 単位：件 n = 2,165 件）



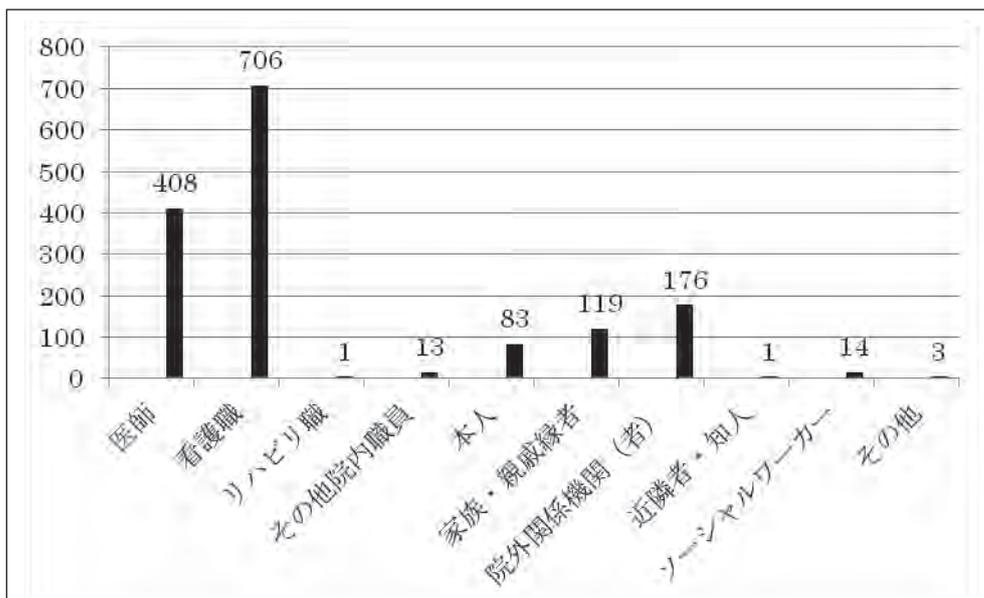
②相談援助内容（延件数・複数カウント 単位：件 n = 8,048 件）



③援助方法（複数カウント 単位：件 n = 17,260 件）



④新ケースの紹介経路（単位：件 n = 1,524 件）



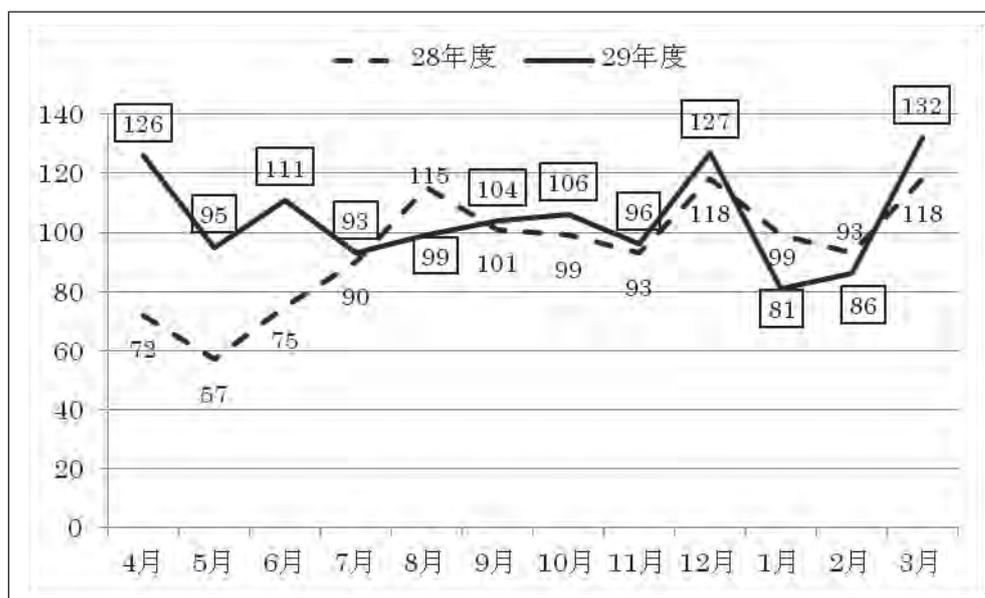
上記件数は個別ケースとして取り扱った件数である。そのケースに費やされた時間が反映されていないため、数値だけで業務内容をあらわすことは難しい。対応した問題としては介護・療養生活上の問題が約5割を占めている。相談援助内容では、転院調整援助と他施設利用援助とで約5割、在宅介護・地域生活に関する相談援助が約3割を占めている。このことは、医療ソーシャルワーカーの業務のうち退院支援にかかる業務の必要性・必然性を示している。援助方法の内訳からみてわかるように、患者本人・家族との直接的な面接や院内外の連絡調整が多くを占めている。合同カンファレンス開催の割合は援助方法全体からすると1割ではあったが、院外のかかりつけ医や訪問看護師、ケアマネジャーなど地域を支える社会資源と患者家族を橋渡しする場として重要な場であった。家庭訪問や同行ケースの件数は年々減少しているが、これまで医療ソーシャルワーカーが担ってきた役割を、ケアマネジャーをはじめとした院外の関係機関と連携し、引き継ぐこ

とで分担している。必要時においては、家庭訪問や公的機関への同行は継続していく。

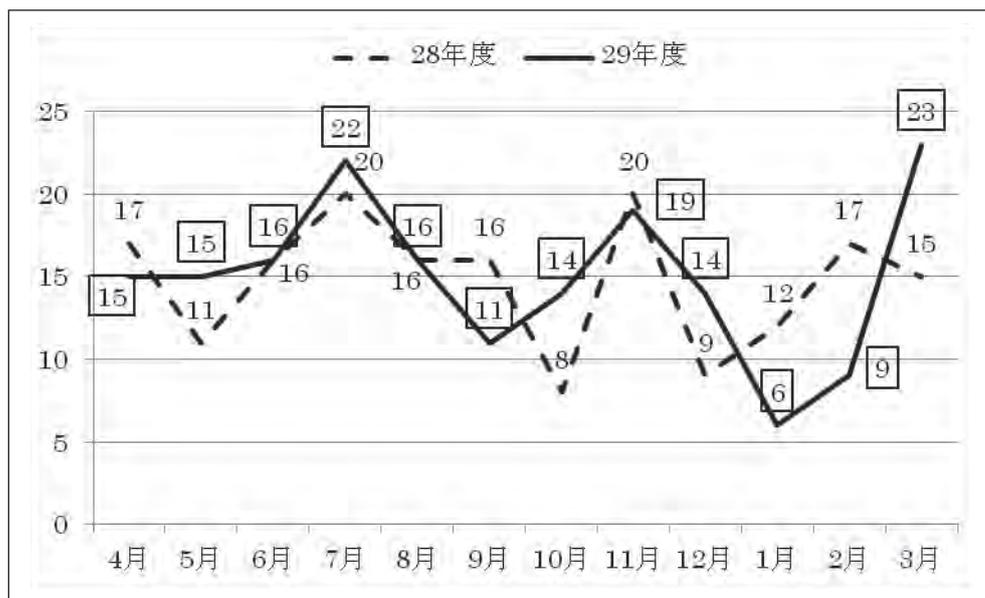
個別ケース以外にルーチンワークとして介護保険主治医意見書や身体障がい者診断書等、書類の管理や整備なども担当した。医療ソーシャルワーカーが、書類等の相談をきっかけとして患者の生活背景や家族の状況をアセスメントし、ニーズの把握につなげ、新たに問題解決のため調整するという機能は担えるが、書類管理や整備に費やす時間も多くを占めている。事務作業が他の事務担当者等に移行することによりカンファレンスやアセスメントに費やす時間がより確保できるため、引き続き他部署との役割分担を検討していきたい。

退院調整には院内外の関係者によるチームでの関わりが必要であり、当院の中でも定着してきている。医療ソーシャルワーカーはその地域連携の窓口という役割を果たし、患者・家族と社会資源だけでなく、院内外の関係職種の連携そのものを橋渡ししているといえる。連携に伴ない、退院支援計画書や介護連携指導記録、退院時共同指導記録の作成を行った。退院支援カンファレンスを病棟担当者が行ったが12月末に医療ソーシャルワーカーが1名退職後は退院調整看護師にも2病棟分を応援していただいた。介護連携指導記録は、病院を訪問したケアマネジャーに情報提供を行うことで算定できるが、これについては昨年度の件数を、多少は増えているものの、大幅に上回ることはできなかった。これは、ケアマネジャーが来院しても、利用者に直接面会し、医療ソーシャルワーカーや病棟看護師など医療機関の職員から情報収集することなしに帰ってしまうパターンが多いことに起因すると思われる。また、特に今年度は1月以降インフルエンザの流行に伴い面会制限を実施したことも影響している。今後も継続してケアマネジャーとの連携を密に取り、ケアマネジャーが来院の際にはなるべく面談のうえ連携していく努力を重ねて行くとともに、病棟スタッフへも周知を行っていく。

⑤退院支援加算算定件数（平成28年度・平成29年度の比較 単位：件）



⑥介護連携指導加算算定件数（平成 28 年度・平成 29 年度の比較 単位：件）



また、昨年度より認知症ケア加算 1 の施設基準を取得しており、医療ソーシャルワーカーも 2 名、専任として認知症ケアサポートチームに所属し、週 1 回のカンファレンスに参加した。

上記件数以外にがん相談支援センターの相談業務も兼務で行っているが、それについては「がん相談支援センター」の項目で活動報告を行う。

< 30 年度の活動目標 >

1. 社会資源の整備と開拓
  - 1) 社会資源（転院先も含む）の新規開拓をし、患者・家族の選択肢を拡げる。
  - 2) 変化し続ける制度の情報収集に努め、なるべく簡素に可視化し、関係者・患者・家族への周知に努める。
2. 地域や院外関係機関との連携を強化する。
  - 1) 地域の社会資源（かかりつけ医・ケアマネジャー・訪問看護師・ヘルパーなど）と常に連携をはかり、患者・家族と保健・医療・福祉の橋渡しとしての機能を果たす。  
職能団体の活動に参加・協力する。
  - 2) 地域関係機関の活動や会議に出席し、情報収集に努める。
  - 3) 近隣の関係施設や医療機関への訪問を随時行い、連携強化をはかる。
  - 4) その他、地域の活動に参加・協力をし、連携をはかっていく。
3. 院内の連携を強化する
  - 1) 院内他部門との連携をよりいっそうはかり、役割分担を明確にしていく。
  - 2) 退院調整看護師と協力・連携し、各病棟における退院調整カンファレンスを継続していく。  
また個別ケースについても情報共有・役割分担を行いながらチームで支援していく。
  - 3) 認知症ケアサポートチームの一員として、対象患者のアセスメントや当該病棟へのコンサルテーションを行う。
  - 4) 地域医療連携係と地域住民の前方支援・後方支援について情報共有・役割分担を行いながら協力・連携に努める。

4. 業務の整理を行う
  - 1) 記録の整備に努める。
  - 2) 業務統計の整備に努める。
5. 個人情報保護法に基づいた相談援助活動の方法を検討していく。
  - 1) 院外関係機関との情報交換
  - 2) 記録・書類の管理におけるセキュリティ
6. 教育・養成活動
  - 1) 医療ソーシャルワーカー志望の実習生（社会福祉学系大学生）の受け入れ・教育・指導に努める。
  - 2) 医療ソーシャルワーカーの現任研修の一環としての見学実習を受け入れる。
7. がん相談支援センター業務の一環を担う。
  - 1) 緩和ケア病棟入院相談の窓口担当
  - 2) がん相談支援センターの相談業務を協力して担当し、記録の整備と管理を行う。
8. 医療ソーシャルワーカーとしての資質向上・研鑽に努める。
 

大阪医療ソーシャルワーカー協会などの職能団体に所属し、会員との交流を図り研修等に参加する。

【医療福祉相談係長 志水陽子】

## 地域医療連携課 がん相談支援センター

### <スタッフ>

原武 麻里（看護師※）※がん看護専門看護師 平成 29 年 9 月 30 日まで  
 楠岡 京（看護師※）※がん看護専門看護師 平成 29 年 11 月 1 日～  
 藤原 和子（看護師※）※緩和ケア認定看護師  
 志水 陽子（がん相談支援センター係長※）※社会福祉士  
 信本 愛（医療社会事業司※）※社会福祉士  
 北村 民（医療社会事業司※）※社会福祉士 平成 29 年 12 月 31 日まで  
 大島由起子（医療社会事業司※）※社会福祉士  
 小島 一晃（薬剤師※）※がん専門薬剤師

### <特 色>

当院は大阪府指定のがん診療拠点病院に指定されている。がん相談支援センターの業務として、がんに関する一般的な情報提供、がん患者の療養上の相談、患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援などがある。当院では、がん相談の対象を院内外のがん患者・家族とし、いつでも気軽に相談できるように面談は予約なしで受けられる体制を整えている。相談内容に応じて、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師および医療ソーシャルワーカーがそれぞれ兼務で対応し、必要時には院内外の職種とも連携している。当院は緩和ケア病棟を有するため、緩和ケアおよび緩和ケア病棟に関する相談が多く、緩和ケア病棟入院相談（緩和ケア病棟担当医が行う外来の予約を含む）については医療ソーシャルワーカーが担当している。平成 29 年度はがん相談支援センターを構成しているスタッフの退職や入職で入れ替わりがあったが、大きな混乱はなく引き継ぎができた。また、三島医療圏のがん診療拠点病院で院外の患者・家族も対象としたがん患者サロンを開催しているのは当院のみであり、院外のがん患者・家族への支援の場にもなっている。

## <平成 29 年度の活動実績>

### 1. 相談活動

1) がん相談支援センターでは、ホームページ等で以下のように案内し、相談活動を行った。

#### ・相談の方法

\*来院 \*電話（直通：072-696-3512）

\*メール：trc@takatsukijrc.or.jp

\*FAX：072-696-1228（高槻赤十字病院総務課）

#### ・相談にかかる費用

無料 セカンドオピニオンについては有料

#### ・受付日時

毎週 月曜日～金曜日 9時～16時

2) 相談総件数（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）：計 1319 件（月平均 110 件）

平成 30 年 1 月より厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した相談記入シートに合わせて相談内容や援助内容の入力項目を追加している。

#### [月別件数]

年月	平成 29 年									平成 30 年			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
相談件数	128	94	137	107	138	84	122	75	123	116	91	104	1,319

相談内容は「緩和ケア病棟のこと」、「在宅療養」、「看護・介護・養育」、「症状・副作用・後遺症への対応」、「不安」などであった。

### 2. がん患者サロン

昨年度に引き続き、毎月 1 回、院内外のがん患者および家族を対象に「がん患者サロン」を開催した。

今年度はミニ講座の講師にスタッフだけでなく院内の管理栄養士や臨床心理士にも担当を依頼することができ、参加者により幅広い情報提供を行うことができた。サロン終了後に参加者にアンケートを実施し、参加者のニーズ把握と意見反映に努めている。アンケートの回収率は 82.4% である。

参加者（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）：延べ 91 名（患者 70 名、家族 21 名）

院内外の内訳は院内 79 名 (85%)、院外 12 名 (15%) であった。月平均 7.5 名の参加である。

年 1 回の参加者は全体の 34%、2 回以上参加のリピーターは 66% であった。

対象：がん患者とその家族（他院通院中の方も参加可）

開催日時：毎月第 3 水曜日 13 時～15 時（出入り自由、申し込み不要）

※平成 30 年 3 月は第 3 水曜日が祝日であったので第 4 水曜日に変更した。

13:00～13:30 ミニ講座 13:30～15:00 フリー座談会

[実施日・ミニ講座のテーマ・参加者数]

日程	ミニ講座のテーマ	参加者数
H29. 4.19 (水)	がんとうまくつき合うために	11名
5.17 (水)	抗がん剤治療について	9名
6.21 (水)	免疫療法について	11名
7.19 (水)	がんと診断されたときからの緩和ケア	7名
8.16 (水)	お金と生活の支援	6名
9.20 (水)	災害への備え	8名
10.18 (水)	がんと向き合うこころのケア	8名
11.15 (水)	治療と仕事の両立について	4名
12.20 (水)	外見のケアについて	7名
H30. 1.17 (水)	がん治療中の食事の工夫	7名
2.21 (水)	訪問看護の利用の仕方	4名
3.28 (水)	緩和ケア病棟について	9名

参加動機としては「講義に興味がある」「がん患者同士で話がしたい」という方が多かった。ミニ講座受講のニーズがあるものとし、次年度も継続していく。フリー座談会では参加者同士で尊重し合いながら相互で支援されていた。

### 3. 在宅緩和ケアサロン

地域の在宅療養支援スタッフ間の情報交換の場を提供し、地域での緩和ケアを継続的に発展させることを目的に、地域の在宅療養支援スタッフを対象とした「在宅緩和ケアサロン」を開催した。緩和ケア認定看護師・がん看護専門看護師が中心となって運営し、緩和ケアに関する講義や事例検討、困り事の相談などを行った。

参加者数は平均10名前後であった。うち訪問看護師58%、看護師25%、ケアマネジャー13%という内訳となっている。アンケートでは事例検討や勉強会を通じて地域の訪問看護師、ケアマネジャー、介護職などが交流し、参加者は新たな視点に気づいたり、得た情報や知識を日々の支援に活用したいということで、今後もサロンの継続を希望する意見が大半であった。地域包括ケアシステムに関連した研修が増加しており在宅を支える医療職と介護職が集う機会も得られている中でサロンの意味も変化しつつある。開催方法や内容など検討が必要な時期である。

[開催日・テーマおよび参加者数] 計3回開催 延べ32名の参加者

会場：やすらぎホール

開催年月日	参加者数	テーマ	内容
H29.5.13 (土)	11名	イレウスによる嘔気・嘔吐が持続し、症状の緩和に難渋した事例①	事例検討：訪問看護ステーション アイより事例提供 勉強会：消化器症状とケア (講師：原武がん看護 CNS)
8.5 (土)	10名	イレウスによる嘔気・嘔吐が持続し、症状の緩和に難渋した事例②	事例検討：訪問看護ステーション アイより事例提供 勉強会：フェンタニル製剤のレスキューについて (講師：原武がん看護 CNS)

H30.1.13(土)	11名	・PCUにおける療養生活について紹介 ・日本死の臨床研究会発表2題紹介 ・事例紹介とグループワーク	事例検討：高槻赤十字病院・藤原 緩和ケア認定看護師より事例提供
-------------	-----	---	------------------------------------

#### 4. 患者図書コーナー

2010年9月より1階フロアに開設している。開館時間は9時～15時であり、管理は診療情報管理課が行った。がん相談支援センターからは、がんに関する研修会のチラシや患者会発行の機関誌が提供された際に配架を依頼した。

#### 5. 広報活動

- ・がん相談支援センターホームページを更新した。
- ・がん相談支援センターのリーフレットを関連部署に配架した。

### <平成30年度の活動目標>

1. がん相談支援センターの体制の充実をよりいっそうはかる
  - 1) 最新の情報を収集・準備し、患者・家族が活用できるようにする
  - 2) 患者サロンの継続と発展
    - ・平成29年度と同様の形式で開催を継続する
    - ・ミニ講座の講師について多職種(栄養士、臨床心理士、薬剤師、がん放射線療法認定看護師)の協力を得る
  - 3) 相談対応の質の担保
    - ・国立がんセンター開催の相談支援センター相談員に関する研修会へ参加する
    - ・その他、院内外の研修会に参加する
    - ・特に就労支援、がん治療と妊孕性温存、自殺予防に関する学習を深める
    - ・相談困難事例などについて検討する
  - 4) 府下のがん相談支援センターと情報交換・連携を図る
    - ・相談支援センター部会に参加し、情報交換・連携を図る
  - 5) 相談状況の可視化
    - ・毎回の相談記録より相談件数、内容等を集計し、現状や課題を明確にする
2. 患者・家族および医療者に対するがん相談支援センターの周知
  - ・ホームページの更新を行う
  - ・院内(病棟・外来)にリーフレットを配架する
  - ・年1回以上院内職員に対して周知を行い、主治医等からがん患者及びその家族に対し、周知が図られる体制を整備する
  - ・地域の医療者に向けて周知を行う

【がん相談支援センター係長 志水陽子】

## 訪問看護ステーション

### <スタッフ>

山本 裕恵（室長・看護師）、鈴木 かおる、今村 利恵、豊田 典子、吉野 咲絵（看護師）  
小森 万里子（看護師 H29年12月1日 入職）  
迫川 由里子（看護師 休職 ～ H29年6月30日 退職）  
永本 和弘（理学療法士 H29年1月より交代）、本間 幸美（事務）

### <特 色>

高槻赤十字病院は「大阪府がん診療拠点病院」「地域医療支援病院」であり、強いバックアップのもと緩和ケア病棟や緩和サポートチーム等と連携し、エンド・オブ・ライフ・ケアに取り組んでいる。専門看護師、認定看護師等と協働しながら、療養支援に取り組んでいる。

各種指定：[医療保険] 24時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア加算  
[介護保険] 指定訪問看護事業（H26年4月～H32年3月）  
指定予防介護訪問看護事業（H30年4月～H36年3月）  
緊急時訪問看護加算、特別管理加算、ターミナルケア加算、  
サービス提供体制加算、看護体制強化加算（H29年12月中止届出）

公費負担制度：原爆医療、労災（H7年9月～）  
生活保護医療（H26年7月～H32年3月）  
難病指定医療（H27年1月～H32年12月）  
指定小児慢性特定疾病医療（H27年1月～H32年12月）  
指定自立支援医療（H27年8月～）

### < H29年度の活動実績 >

#### 1. H29年度 利用者状況

- ① 年間利用者実数 121名（H28年度119名、H27年度121名、H26年度121名）
- ② 年間延べ訪問件数 5,230件  
・ 昨年比約9%増加（H28年度4,814件、H27年度4,717件、H26年度4,504件）
- ③ 訪問看護の訪問件数 合計 3,889件（介護保険2,341 + 医療保険1,548）
- ④ リハビリの訪問件数 合計 1,341件（介護保険959 + 医療保険382）  
・ 全体の訪問件数中、リハビリの占める割合 約26%（昨年同様）
- ⑤ 新規開始利用者数 59名（H28年度56名、H27年度62名、H26年度54名）
- ⑥ 終了者数 54名（死亡31名、中止23名）  
（H28年度49名、H27年度64名、H26年度64名）
- ⑦ 利用保険の内訳 介護保険計3,300件（63%）、医療保険計1,930件（37%）  
・ 医療保険の利用者（がん末期、人工呼吸器装着等）の割合は、一昨年までの約30%より増加、今年の43%より減少。  
・ 介護保険対応の各訪問割合は、30分 17→20%、60分 45→53%、90分 38→27%と、短時間が増え長時間は減少した。

介護保険	予防給付	介護給付	合計	医療保険	介護+医療合計
30分未満	296	186	482 (20%)		
60分未満	427	810	1,237 (53%)		
90分未満	41	581	622 (27%)		
訪問看護合計	764	1,577	2,341 (100%)	訪問看護 1,548	訪問看護 3,889 (74%)
リハビリ	378	581	959	リハビリ 382	リハビリ 1,341 (26%)
介護保険合計	1,142	2,158	3,300	医療合計 1,930	総合計 5,230 (100%)

## 2. がん患者支援・緩和ケアへの取り組み

### ① 利用者の疾患別割合

- ・年間利用者 121名中、がん疾患が最も多く 41名（約34%）。
- ・他疾患では、循環器疾患 24名（約20%）、呼吸器疾患 17名（約14%）と続く。循環器疾患が年々増加している。

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
がん疾患	44名（約36%）	47名（約39%）	41名（約35%）	41名（約34%）
循環器疾患	15名（約12%）	21名（約17%）	23名（約19%）	24名（約20%）
呼吸器疾患	14名（約12%）	11名（約9%）	17名（約14%）	17名（約14%）

### ② 終了者数と転帰別内訳および死亡した場所の推移

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
死亡者数		43名	39名	26名	31名
死亡場所	病院（一般・緩和）	35名	26名	22名	19名
	在宅 （在宅死亡率）	9名 (21%)	13名 (32%)	4名 (15%)	12名 (39%)
中止	入所・入院等	13名	16名	18名	7名
	軽快・転居他	8名	9名	5名	16名
死亡者数中の がん患者率		30名 (70%)	35名 (90%)	18名 (69%)	18名 (58%)

- ・H29年度は、在宅死亡率が増加したが、死亡者中のがん患者率は減少した。  
在宅死亡者数中、約半数が循環器疾患、呼吸器疾患末期患者であった。

## 3. 地域との連携

- (1) 在宅療養支援診療所の連携先ステーションとして指定いただいた在宅医 5か所  
（井上クリニック、近藤診療所、角辻医院、富永クリニック、宮田診療所）
- (2) 指示書の交付を受けている かかりつけ医（H30年3月時点）
  - ① 地域の開業医 18医院（医師19名（33%））
  - ② 地域の病院 6病院（医師9名（16%））  
（藍野病院、大阪大学医学部附属病院、大阪医科大学附属病院、大手前病院、  
京都大学医学部附属病院、高槻病院）
  - ③ 高槻赤十字病院の医師 29名（51%）

- (3) 連携しているケアマネジャー 82名  
 事業所 35か所(69名) + 地域包括支援センター 4か所(13名)  
 その他、自立支援センター2か所、民生委員等
- (4) 新規登録59名の依頼元
- ① 院内 38名(MSWから35名、退院調整看護師から3名)(65%)
  - ② 地域のケアマネジャーおよび地域包括支援センターから 19名(32%)
  - ③ 他の病院MSW、保健所等から 2名(3%)

(5) 訪問地域分布

① 利用者居住地域分布(地域包括支援センター圏域ごとに分類)

		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
高槻市(83%)	阿武山地域	44	36.4%	48	39.7%	46	38.7%	56	46.2%
	郡家地域	18	14.9%	20	16.5%	22	18.5%	16	13.2%
	清水地域	16	13.2%	16	13.2%	18	15.1%	13	10.7%
	高槻北地域	9	7.5%	6	5.0%	7	5.9%	6	5.0%
	富田地域	5	4.1%	6	5.0%	5	4.2%	4	3.3%
	日吉台東地域	2	1.7%	1	0.8%			1	0.8%
	高槻中央地域	1	0.8%	1	0.8%	1	0.8%	3	2.5%
	富田南地域	1	0.8%						
	茨木市(17%)	庄栄エルダー地域	18	14.9%	19	15.7%	11	9.3%	14
	天兆園地域	5	4.1%	4	3.3%	7	5.9%	4	3.3%
	春日丘地域	1	0.8%			1	0.8%	1	0.8%
	茨木市(社協)					1	0.8%	3	2.5%
	忍頂寺(社協)	1	0.8%						
合計		121		121		119		121	

- ・利用者は病院から北側、山手方面に多い。市の中心部のように狭い範囲にマンション等が密集している地域と違い、利用者は広い範囲に分散し、移動に時間と経費を要してしまう。なるべく近隣の利用者を獲得するよう、病院所在地の地域包括支援センター等への働き掛けを工夫し、昨年度は阿武山地域への訪問が増加した。

② 新規利用者56名の居住地分布推移

	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
阿武山地域	17	29%	22	41%	24	39%	20	36%	29	49%
郡家地域	15	25%	6	11%	11	18%	12	21%	9	15%
清水地域	4	7%	4	7%	9	14%	9	16%	5	9%
高槻北地域	1	2%	4	7%	4	6%	4	7%	2	3%
日吉台東地域	1	2%	1	2%					1	2%
高槻中央地域									2	3%
富田地域	3	5%	5	9%	3	5%	2	4%	1	2%
富田南地域			1	2%						
茨木市	18	30%	11	21%	11	18%	9	16%	10	17%
合計	59		54		62		56		59	

- ・全体の利用者分布と同様、阿武山地域の新規利用者が多かった。

#### 4. 経営健全化・看護の質の向上のための業務改善

##### 1) 訪問の効率化と看護の質向上を目的とし以下を実施

- ・ 6月 受け持ち担当制からチーム制へ変更  
訪問開始前ミーティングにて情報共有およびケアのディスカッション
- ・ 10月 夜間・休日緊急対応を当番制へ変更
- ・ H30年2月 ICT（モバイル）導入（大阪府訪問看護推進事業 ICT 導入補助助成授与）

##### 2) 経営状況の明確化

- ・ 四役会議への事業報告（隔月）を実施し病院経営側との情報共有および助言を得た。
- ・ ステーション内経営ミーティングおよびスタッフと情報共有し意識化を図った。

#### 5. 後進の育成、訪問看護普及のための実習生等の受け入れ

- ・ 大阪医科大学看護学部 在宅実習 2週間3クール 合計6名受け入れ
- ・ 大阪赤十字看護専門学校 在宅実習 2週間1クール 合計2名受け入れ
- ・ 大阪府看護協会（大阪府受託研修）「医療機関で働く看護師と訪問看護ステーションで働く看護師の相互研修」 病院勤務看護師のステーション実習 3名受け入れ
- ・ 高槻市における在宅医療・介護連携事業 他職種同行訪問研修 4名受け入れ

#### 6. 地域との連携、対外的な活動

- ・ 高槻市障がい福祉課 第2審査部会委員 会議9回参加
- ・ 担当圏域地域包括ケア会議（阿武山地域、郡家地域）参加
- ・ 在宅緩和ケアサロン世話人 研修3回
- ・ 認知症を理解し地域で支える会主催の認知症研修・相談会 企画実行委員
- ・ 在宅の“わ”（高槻市医師会や医療・福祉の専門職による連携会議）主催 世話人
- ・ 大阪府看護協会府北支部 施設代表者会議参加

#### 7. その他

- ・ 車両管理：11月 三菱ミニカバン老朽化にて廃車  
スズキワゴンR 新規リース契約  
H30年2月 ダイハツムーヴ（リース契約車）地域医療連携室より返却

---

# 医療安全推進室

---

## <スタッフ>

- 玉田 尚 (副院長兼医療安全推進室長)  
福谷 裕美 (医療安全管理者)  
木元 道雄 (緩和ケア科部長)  
岸 恵美 (看護副部長兼 HCU 師長)  
小島 一晃 (薬剤部長兼医薬品安全管理責任者)  
中田 祐二 (臨床工学技術課長兼医療機器安全管理責任者)  
酒井 美幸 (医療安全課長)  
松下めぐみ (医療安全課感染対策係長)  
山崎 雅樹 (医療安全課医療安全係長)  
下門 英俊 (医療安全課主任)

## <平成 29 年度活動実績>

### 【活動目標】

1. チームカアップの医療安全改革 (チーム STEPPS の導入)
2. インシデント事例の共有、再発防止策の可視化
3. リスクマネジメント部会活動の促進
4. 看護部以外からのインシデント報告の増加

### 【活動内容】

- ・「医療における安全文化に関する調査」実施
- ・チーム STEPPS 研修 8 回開催
- ・ANZEN ニュース毎月発行
- ・安全メール配信 24 回
- ・安全ラウンド 全部署 48 部署実施
- ・麻薬処方箋再発行によるインシデント報告から再発行禁止を周知
- ・不眠時異常時指示の見直し
- ・導尿用潤滑剤に単包化製剤を導入
- ・接続部 (プラグ) が一体化した輸液セットの導入
- ・ベッドサイドに禁忌情報の表示を標準化
- ・転倒予防ワーキンググループによる具体的な対策および研修会開催、マニュアル更新
- ・アドレナリン誤投与への再発防止 (救急カート内の表示を明確化、救急講習会開催)
- ・中心静脈穿刺実施報告の収集

【院内研修会】

実施日	研修名	対象	参加人数
3月	新採用研修医研修	研修医	3名
4月	新採用職員研修	新入職者	32名
4月	転倒予防～転ばぬ先の知恵～	全職員	103名
6月	救急講習会	看護師	137名
7月	リスクマネージャー研修会 ～チーム STEPPS～	各部署リスクマネージャー	36名
8月～12月	部署別講習会 (医療安全・感染対策)	薬剤部、検査部、放射線課、 リハビリテーション科	48名
9月～1月	チーム STEPPS	全職員	178名
10月	護身術講習会	看護師・事務職員	66名
11月	クレーム対応研修会	事務職員	5名
2月	医療安全フェア	全職員	545名

【医療安全管理マニュアルの新規作成・改正】

VII -15	自殺事故防止と対応	新規	10月
VII -5	転倒・転落防止対策	改正	12月
X -1	院内暴力行為の発生時の対応	改正	2月

【患者相談・意見への対応】

1. 相談対応（医療メデイエーション）

・患者側からの相談 7件                      ・医療者側からの相談 4件

2. 意見・苦情の総数 92件

接遇、職員の対応（説明不足、態度が悪い、不信感等）	49件
施設、設備（病室、トイレ、備品、駐車場等）	21件
環境（清掃、空調、臭気、騒音等）	15件
診療体制（予約方法、待ち時間、逆紹介等）	21件
受付体制（受付処理、会計処理、案内等）	13件
その他（売店、循環バス等）	25件
感謝、激励	15件

**【保安、その他】**

1. 暴力被害 3件（昨年度10件） 警察への通報 0件（昨年度0件）

発生場所：外来 1件 病棟 2件

被害職員：医師 1名 看護師 1件

考 察：救急患者による暴言被害が発生し、改めて現況を確認し救急室に非常時コールボタンを設置することができた。

2. 盗難被害 4件（昨年度4件） 警察への通報 4件（昨年度3件）

発生場所：病棟 4件

考 察：被害件数としてはここ数年、5件以内にとどまっているがゼロにはならない。

入院中の貴重品は施錠管理するよう案内しているが徹底されていない場合に発生している。事後報告であっても患者・家族に警察への被害届を促している。

**<平成30年度活動目標>**

インシデントレポート報告の増加をめざす（各部署100%増）

---

## 教育研修推進室

---

### <スタッフ>

玉田 尚（副院長兼教育研修推進室長）  
河野 龍一（事務部長）  
北 英夫（呼吸器科部長）  
小島 一晃（薬剤副部長）  
松井 和世（副院長兼看護部長）  
松原 健夫（放射線課長）  
阿部 哲子（研修課 課長）  
石原 早苗（研修課 主事）

### <異 動>

平成 29 年度中の移動なし

### <平成 29 年度活動実績>

- 1、初期研修医のマッチングでは、フルマッチはしたが前年同様、1名が大学の卒試で落第したため、国試を受験できないアクシデントにみまわれた。しかし2次募集で1名マッチングし、4名枠を充足できた。
- 2、昨年度延期となった第3回北摂アカデミックフィールドを5月に開催。大阪医科大学総合診療内科 鈴木教授を招き、「不明熱の診断戦略」をテーマに講義していただいた。研修医は勿論、当院の医師の参加も多数得られた。大阪医大からの参加も5名あった。
- 3、新専門医制度に関連して、第1回JMECCを11月30日(木)やすらぎホールで開催した。ディレクターには、国立病院機構京都医療センター救命救急科 田中博之先生を迎え、インストラクターは救急部の岡本部長、アシスタントは京都第一赤十字病院の木下先生と当院消化器科の熊澤先生が行った。2ブース6名の参加で試みたが、参加者も熱心で研修もスムーズに進行した。見やすさを考慮して、初めてTVモニターを使用したのが好評であった。
- 4、新専門医制度のプログラム申請は無事終了し、1名の内科専攻医を院内から採用することができた。

### <平成 30 年度活動目標>

- 1、研修医・専攻医の研修環境の改善の推進。
- 2、「北摂アカデミックフィールド」の企画と実施。
- 3、新専門医制度開始に伴う内科基幹病院としての健全なプログラム運営を支援する。

---

## 事務部

---

<スタッフ> 平成 29 年 4 月 1 日付

事務部長 河野 龍一 (平成 29 年 4 月着任)

事務副部長 (欠員)

課長職 浦川総務課長 (平成 29 年 4 月着任)、三上経営企画課長、片岡会計課長  
杉山診療情報管理課長、日高用度施設課長兼総務課長代理  
酒井医療安全課長、阿部看護師長兼研修課長、檜原事務部付課長 (8 名)

係長職 14 名

一般職 24 名

<組織・業務>

総務課 (庶務係、人事係)

文書管理、構内の管理、患者搬送手配、車両管理、個人情報保護に関すること。

職員の人事給与、労務管理、サービス及び福利厚生に関すること。

会計課 (経理係、出納係)

予算・決算、収入・支出に関すること。

経営企画課 (企画係、広報係)

病院経営の企画立案、広報に関すること。

医事課 (医事係、外来係、入院係)

外来診療の受付、会計処理、入退院患者の医療費請求に関すること。

医事関連等統計に関すること。

診療情報管理課 (診療情報管理係、図書係)

診療情報の管理、統計、DPC の運用、診療録の保管と閲覧に関すること。

図書の購入、保管、閲覧および貸し出しに関すること。

医師事務作業補助に関すること。

用度施設課 (用度係、管理係、施設係)

物品の購入、処分及び器械・器具の修理に関すること。

土地、建物の取得並びに処分、構内設備の管理、工事及び修繕に関すること。

医療安全課 (医療安全係、感染対策係)

医療事故防止、院内感染防止対策に関すること。患者からの意見、相談に関すること。

医療紛争に関すること。

研修課 (研修係)

初期研修医の募集、研修の運営と修了に関すること。院内外の研修全般に関すること。

情報システム管理課 (システム管理係) 平成 30 年 1 月新設

病院情報システム、電子カルテの取り扱い及び管理に関すること。

## <平成 29 年度活動状況>

当院は経営収支及び財務状況の悪化を理由に平成 28 年度に本社「重点支援病院」の指定を受け、平成 31 年度に減価償却前の黒字化（キャッシュフローの改善）を図るべく「経営改善 3 か年計画（平成 29 年～ 31 年度）」を策定し、次の事項に取り組んだ。

### 1. 経営の健全化に向けた取り組みについて

- 1) 病院連絡会議、イントラネット等、様々な媒体で院長メッセージ・病院情報を発信することによる職員への意識改革
- 2) 新規施設基準：総合入院体制加算 3 を取得（5 月より）
- 3) 入院患者、紹介患者等増加のための病院アクセス改善として、JR 摂津富田～病院間のシャトルバスの運行を開始
- 4) 茨木市登録医からの紹介患者の送迎サービスの増便
- 5) 三島医療圏の開業医、病院への訪問による医療連携強化
- 6) 電子カルテの更新に向け情報システム管理課を新設
- 7) 患者満足度調査の実施と評価
- 8) 職員満足度調査の実施と評価

### 2. 補助金等による医療機器等の整備について

支部繰入金による超音波診断装置 3 台の更新整備、一般社団法人日本損害保険協会寄付金による患者監視装置の更新整備、大阪府新型インフルエンザ患者入院医療機関設備整備事業補助金による人工呼吸器の更新整備などを行い、診療体制の強化に繋いだ。

以上

## **Ⅶ 委員会活動**

## D P C 診療記録管理委員会

### 目 的

D P C 運用に関する検討、D P C 調査データの作成・分析、D P C に関わる情報収集と広報をおこなう。

### 委員会開催

#### 第 1 回

開催日：平成 29 年 5 月 30 日

- 議 題：1. D P C データサマリ (2018 年度分 外科) について
2. D P C ベンチマークデータ抜粋
- ①平成 27 年度 入院期間別退院患者の割合
  - ②平成 28 年 4 月～6 月 定義副傷病あり患者の割合
  - ③平成 29 年度 機能評価係数Ⅱ合計：効率性係数：複雑性係数
3. 平成 28 年度 定義副傷病名あり・なし一覧 (外科)
- ①定義副傷病名あり・なし月別推移 (全科)
  - ②請求額構成比 (外科)
4. 定義副傷病あり・なし 比較
5. 外科請求額上位 定義副傷病名 (参考資料)
6. 先生方へのお願い と 「(ちなみに) 電子カルテ画面での確認方法」

#### 第 2 回

開催日：平成 29 年 6 月 27 日

- 議 題：1. D P C データサマリ (2018 年度分 消化器科) について
2. D P C ベンチマークデータ抜粋
- ①平成 27 年度 入院期間別退院患者の割合
  - ②平成 28 年 4 月～6 月 定義副傷病あり患者の割合
  - ③平成 29 年度 機能評価係数Ⅱ合計：効率性係数：複雑性係数
3. 平成 28 年度 定義副傷病名あり・なし一覧 (消化器科)
- ①定義副傷病名あり・なし月別推移 (全科)
  - ②請求額構成比 (消化器科)
4. 定義副傷病あり・なし 比較
5. 消化器科請求額上位 定義副傷病名 (参考資料)
6. 先生方へのお願い と 「(ちなみに) 電子カルテ画面での確認方法」
7. 昨年度の具体例

#### 第 3 回

開催日：平成 29 年 7 月 25 日

- 議 題：1. D P C データサマリ (2018 年度分 呼吸器科・呼吸器外科) について
2. D P C ベンチマークデータ抜粋
- ①平成 27 年度 入院期間別退院患者の割合
  - ②平成 28 年 4 月～6 月 定義副傷病あり患者の割合
  - ③平成 29 年度 機能評価係数Ⅱ合計：効率性係数：複雑性係数

3. 平成 28 年度 定義副傷病名あり・なし一覧（呼吸器科・呼吸器外科）
  - ①定義副傷病名あり・なし月別推移（全科）
  - ②請求額構成比（呼吸器科・呼吸器外科）
4. 定義副傷病あり・なし 比較
5. 消化器科請求額上位 定義副傷病名（参考資料）
6. 先生方へのお願い と 「(ちなみに) 電子カルテ画面での確認方法」
7. 昨年度の具体例

#### 第 4 回

開催日：平成 29 年 8 月 18 日

議 題：1. 救急医療管理加算について

- ①新入院数&救急医療管理加算算定推移（H 18 年 4 月～H 29 年 7 月）
- ②他施設との比較
- ③救急医療管理加算 1、救急医療管理加算 2 の経時変化
- ④過去の査定状況
- ⑤定義の有無について

2. その他

- ①算定の効果

### HCU 運営委員会

#### 目 的

HCU の適切な運用を行う事を目的とし、当委員会で企画・検討・審議する。

#### 委員会開催（H29 年 12 月 8 日）

- ・委員会規則の策定
- ・HCU 稼動状況の共有
- ・HCU 入室のフローチャートの説明

上記について話し合いを持った。今後委員会の開催時期は 2 回 / 年とした。

### ICT委員会

#### 目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など院内感染防止対策の啓蒙活動。

毎週木曜日、約 90 分間の ICT ラウンド（環境、抗菌薬）を実施。

- 今年度目標
- ① WHO 手指衛生のガイドライン 5 つのタイミングが周知・遵守できる
  - ②接触感染予防策が遵守できる

#### 委員会開催

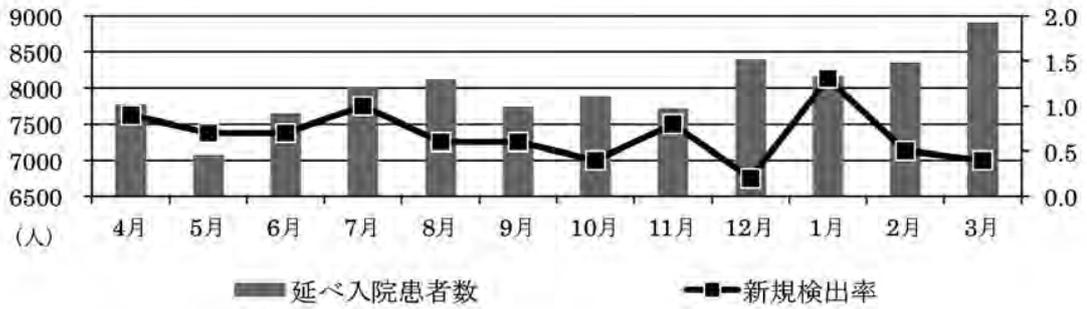
定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

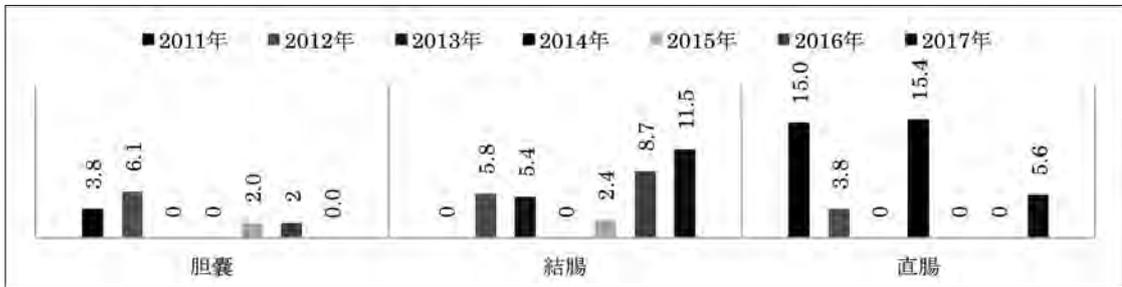
開催日	議 題
平成 29 年 4 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インフルエンザ対策の振り返りとアンケート集計結果の報告</li> <li>・ 年間活動計画について</li> <li>・ 携帯用手指消毒剤の試用について</li> <li>・ 院内感染対策マニュアルの見直し・改訂について</li> </ul>
5 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間活動計画について</li> <li>・ 携帯用手指消毒剤の試用結果について</li> <li>・ 職員家族の水痘事例と対応について</li> </ul>
6 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策ネットワーク活動について</li> <li>・ 院内感染対策マニュアルの見直し・改訂について</li> <li>・ 行政からの通知文の共有方法について</li> </ul>
7 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染対策マニュアルの見直し・改訂について</li> <li>・ N95 マスクの見直しとフィットテストの結果について</li> <li>・ 陰洗ボトルの洗浄および消毒後の乾燥器具について</li> <li>・ エタプラス手押し式スプレーポンプの取り扱いについて</li> <li>・ 手術時手洗いの細菌学的評価（パームスタンプ法）について</li> </ul>
8 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策ネットワーク活動の報告</li> <li>・ 携帯用手指消毒剤の運用について</li> <li>・ 手指衛生強化週間について</li> <li>・ 汚物室への食器乾燥機配置について</li> </ul>
9 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携帯用手指消毒剤の運用について</li> <li>・ 陰圧個室の空調管理について</li> <li>・ 滅菌水溶性潤滑剤の単包化について</li> <li>・ SUD の再使用について</li> <li>・ 感染対策ネットワーク活動の報告</li> </ul>
10 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内研修会参加率 UP の方策について</li> <li>・ SUD の再使用について</li> <li>・ 感染対策ネットワーク活動の報告</li> <li>・ 疥癬の発生と対応について</li> </ul>
11 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナースステーション手洗いシンク交換について</li> <li>・ 携帯用手指消毒剤導入後の手荒れ対策について</li> <li>・ 院内感染対策マニュアルの見直し・改訂について</li> <li>・ 新型インフルエンザ発生時の対応訓練について</li> <li>・ 感染対策ネットワーク活動の報告</li> </ul>
12 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策ネットワーク内の CRE アウトブレイク発生について</li> <li>・ 院内感染対策マニュアルの見直し・改訂について</li> <li>・ 新型インフルエンザ発生時の対応訓練について</li> <li>・ 感染対策ネットワーク活動の報告</li> </ul>
平成 30 年 1 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インフルエンザ発生状況と対応について</li> <li>・ 手荒れ対策について</li> <li>・ 新型インフルエンザ発生時の対応訓練について</li> <li>・ ペダル式ゴミ箱に使用するビニール袋の容量と請求について</li> </ul>
2 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インフルエンザ発生状況と対応について</li> <li>・ 抗真菌薬の併用使用について</li> <li>・ イナビルの院内採用中止について</li> <li>・ AST（抗菌薬適正使用支援チーム）について</li> </ul>
3 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インフルエンザ発生状況と対応について</li> <li>・ PPE の使用状況について</li> <li>・ 今年度活動評価</li> <li>・ 次年度の診療報酬改訂と感染管理組織体制について</li> </ul>

◆各種サーベイランスの結果

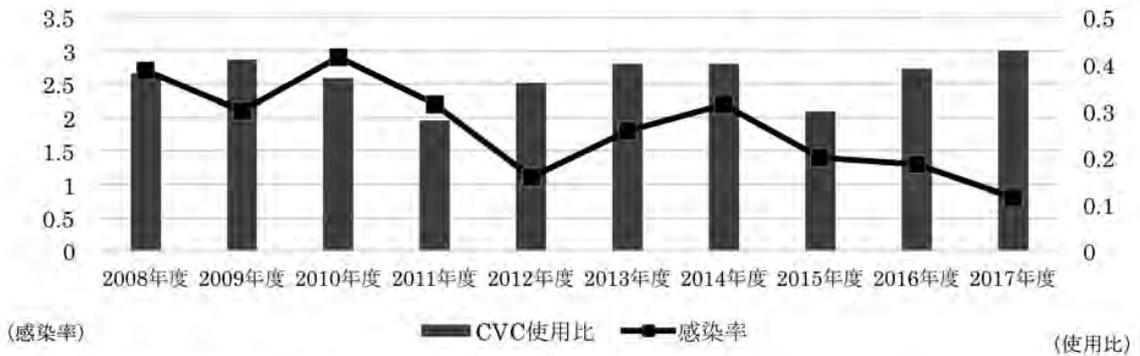
① MRSA 新規検出率 (延べ入院患者数と新規検出率の推移)



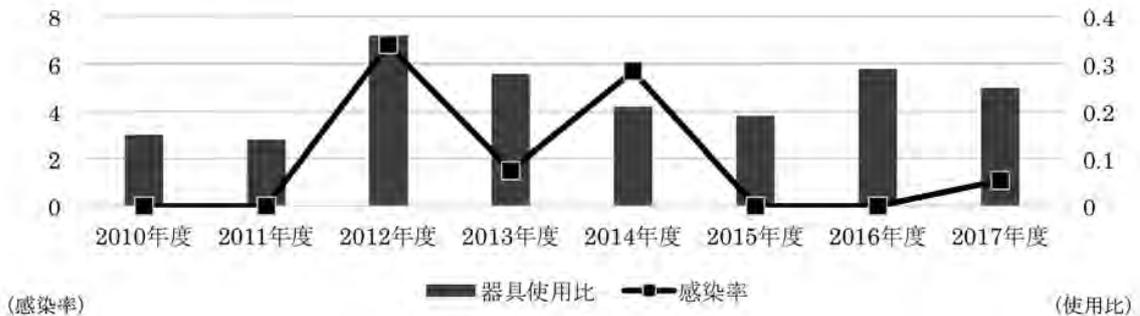
② SSI (手術部位感染) 年次推移  
外科 (%)



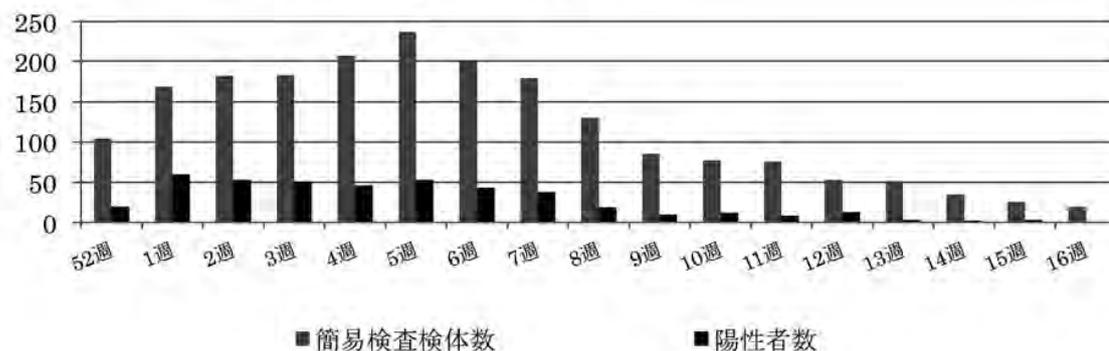
③ BSI (血液内科病棟) 年次推移  
(件/1000patient-days)



④ VAP(HCU) 年次推移  
(件/1000 patient-days)



⑤インフルエンザ（2017年12月25日～2018年4月22日）

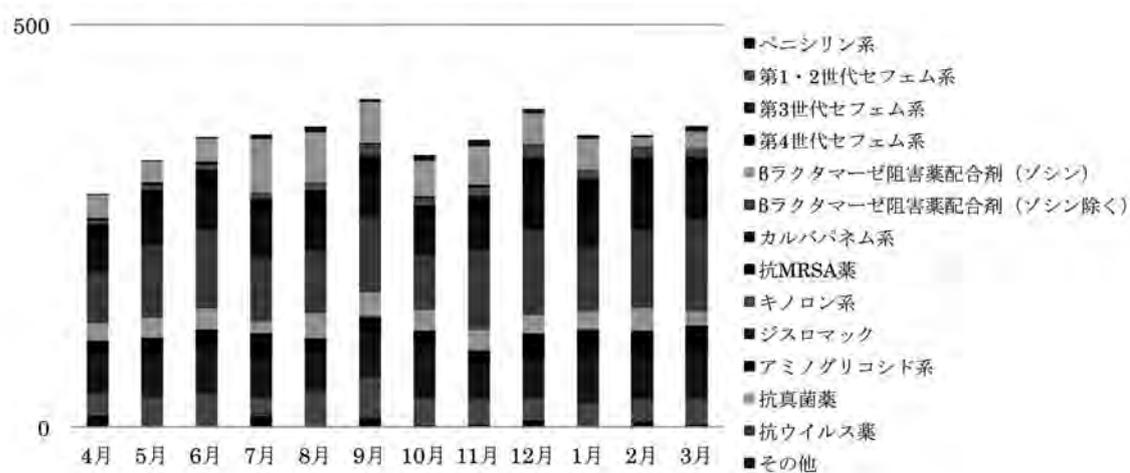


◆抗菌薬適正使用の推進結果

①抗菌薬使用報告書提出率（%） 平均：94%



②抗菌薬使用量月別 AUD (DDD / 1000bed-days)



◆感染対策マニュアルの更新（内容を見直し改訂した）

- ・感染対策 Q&A
- ・インフルエンザ
- ・水痘 / 播種性帯状疱疹
- ・院内感染アウトブレイクの把握と対策
- ・病原体別予防策
- ・疥癬
- ・届出等特別な対応が必要な感染症について  
(院内感染対策マニュアルを院内 HP へ掲載)

## ◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月10日	新採用者研修会	新採用職員	33名
6月12日～14日	N95マスクフィットテスト	結核患者に接する職員	40名
8月21日～31日	手指衛生研修会	全職員	554名
10月19日	知っておきたい梅毒による皮膚感染症の診断と治療	全職員	62名
11月1日、8日	インフルエンザの感染対策	全職員	153名
2月7日～13日	医療安全フェア（ポスター展示）	全職員	665名

## ◆広報と啓蒙活動

ICT ニュース	No 93～No 100、院内HPへ掲載
手洗いトレーニング	10月～3月 看護職員対象に実施
ICT 院内ラウンド	週1回、全病棟と外来、その他の各部門 延べ50回実施
手指衛生キャンペーン	10月～11月 直接観察法による実態調査実施（155場面）
新型インフルエンザ対応訓練	12月 発生時の外来対応実施（17名参加）

## NST 委員会

### 目 的

医療の質と向上のために、全ての治療の基盤である栄養管理を促進する。

### 委員会開催

院内勉強会（2回/年 開催）

①開催日：平成29年7月4日

内 容：「食欲不振患者さんへの嗜好調査時のアプローチ」

講 師：臨床心理士 岡村 宏美 先生

研修参加者数：6名

②開催日：平成29年12月12日

内 容：「サルコペニア診療ガイドライン2017と

最新のリハビリテーション栄養の実践」

講 師：社会医療法人社団 熊本丸田会

熊本リハビリテーション病院

リハビリテーション科・副部長 吉村 芳弘 先生

研修参加者数：19名

## SPD・診療材料購入審査委員会

### 目 的

新規診療材料の採用の可否・SPD 活動（不動在庫削減・診療材料の購入コスト低減・業務の効率化）の推進による病院経営の合理化を目的とする。

### 委員会開催

#### 第 1 回

開催日：平成 29 年 5 月 2 日

議 題：①新規材料について  
②サンプル品使用について  
③その他

#### 第 2 回

開催日：平成 29 年 6 月 6 日

議 題：①新規材料について  
②新規定数及び定数変更（増量）について  
③サンプル品使用について  
④その他

#### 第 3 回

開催日：平成 29 年 7 月 4 日

議 題：①新規材料について  
②新規定数及び定数変更（増量）について  
③サンプル品使用について  
④その他

#### 第 4 回

開催日：平成 29 年 8 月 1 日

議 題：①新規材料について  
②サンプル品使用について  
③その他

#### 第 5 回

開催日：平成 29 年 9 月 5 日

議 題：①新規材料について  
②新規定数及び定数変更（増量）について  
③サンプル品使用について  
④その他

#### 第 6 回

開催日：平成 29 年 10 月 3 日

議 題：①新規材料について  
②サンプル品使用について  
③その他

#### 第7回

開催日：平成 29 年 11 月 7 日

- 議 題：①新規材料について  
②新規定数及び定数変更（増量）について  
③サンプル品使用について  
④その他

#### 第8回

開催日：平成 29 年 12 月 5 日

- 議 題：①新規材料について  
②新規定数及び定数変更（増量）について  
③サンプル品使用について  
④その他

#### 第9回

開催日：平成 30 年 2 月 6 日

- 議 題：①新規材料について  
②新規定数及び定数変更（増量）について  
③サンプル品使用について  
④その他

#### 第10回

開催日：平成 30 年 3 月 6 日

- 議 題：①新規材料について  
②新規定数及び定数変更（増量）について  
③サンプル品使用について  
④その他

### がん診療関連機能充実委員会

#### 目 的

「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に則して、がん診療関連機能の充実を図ることについて討議する。

#### 活動実績

平成 29 年度は計 8 回開催。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

#### 第1回

開催日：2017 年 4 月 25 日（火）

- 議 題：1 がん相談支援センターより報告  
2016 年度の活動報告（相談件数は 1435 件）、がん患者サロン報告（2016 年度は延べ 72 名、4/19 は 11 名参加）、在宅緩和ケアサロン（5/13 予定）  
2 がん患者指導管理料算定について報告  
I・II は 2016 年度の総合報告（I：50 件、II：130 件）  
III 3 月：15 件（算定外 90 件） 4 月：7 件（算定外 65 件）

- 3 緩和ケア研修会について  
参加申し込み状況、当日のスタッフについて
- 4 「苦痛のスクリーニング」について報告
- 5 緩和ケア普及啓発事業の報告 申請内容は全額認可
- 6 その他  
各部会の動き、勉強会の案内、がんパスの運用について

## 第2回

開催日：2017年5月30日（火）

- 議 題：
- 1 がん相談支援センターより報告  
活動報告（4月の相談件数128件）、がん患者サロン報告（5/17開催、参加者9名）、在宅緩和ケアサロン報告（5/13開催、事例検討 参加者11名）
  - 2 がん患者指導管理料算定について報告  
4月度 I：4件、II：17件、III：9件（算定外81件）
  - 3 緩和ケア研修会の報告  
5/20（土）・21（日）に開催。24名の医師と3名の看護師の参加あり、大きな問題なくスムーズに終了。次年度は開催予定なし、次々年度に開催予定。
  - 4 その他  
各部会の予定、市民公開講座（7/1開催予定）についてアナウンスなど

## 第3回

開催日：2017年6月27日（火）

- 議 題：
- 1 がん相談支援センターより報告  
活動報告（5月の相談件数94件）、がん患者サロン報告（6/21開催、参加者11名）、在宅緩和ケアサロンの予定（次回開催：8/5予定、勉強会と事例検討）
  - 2 がん患者指導管理料算定について報告  
5月度 I：3件、II：17件、III：6件（算定外84件） 算定要件について確認
  - 3 各部会の報告 6/14に放射線部会（指定要件など）
  - 4 その他  
地域連携パス推進会議（6/23）報告（がんパス推進についての意見交換）、高槻市がん検診の精検結果の市への返信の徹底、市民公開講座のアナウンス

## 第4回

開催日：2017年7月25日（火）

- 議 題：
- 1 がん相談支援センターより報告  
活動報告（6月の相談件数137件）、がん患者サロン報告（7/19開催、参加者7名）
  - 2 がん患者指導管理料算定について報告  
6月度 I：3件、II：13件、III：14件（算定外71件）
  - 3 各部会の報告
    - ・緩和ケア部会（6/28）⇒緩和ケアパスの運用について
    - ・地域連携クリティカルパス部会（7/5）⇒がんパス推進について意見交換
    - ・小児・AYA部会（7/12）⇒ネットワークの整備について
    - ・相談支援センター部会（7/15）⇒相談記入シートの統一、就労支援について

#### 4 緩和ケアパスの運用について

運用についての意見集約とパイロットスタディへの参加について討議。国拠点病院の大阪医大と足並みをそろえる形で今回は不参加

### 第5回

開催日：2017年8月29日（火）

議 題： 1 がん相談支援センターより報告

活動報告（7月の相談件数107件）、がん患者サロン報告（8/16開催、参加者6名）、在宅緩和ケアサロン報告（8/5開催、薬剤の勉強会と事例検討 参加者10名）

2 がん患者指導管理料算定について報告

7月度 I：5件、II：6件、III：24件（算定外46件）

3 各部会の報告

・がん登録・情報提供部会（7/28）⇒がん登録の研修等今後の開催予定など提示。大阪がん診療実態調査事業に参加予定。

・大阪府がん診療連携協議会（8/2）⇒協議会は2回/年開催予定。資料は電カル共有フォルダに入れる。

4 その他

・緩和サポートチーム中間報告

・緩和ケア研修会のポスター掲示について大阪府より協力依頼あり医局掲示板などに掲示予定。

・放射線科、緩和ケア診療科における診療科との連携併診について。

### 第6回

開催日：2017年10月31日（火）

議 題： 1 がん相談支援センターより報告

活動報告（8月の相談件数138件、9月は84件）、がん患者サロン報告（9/20開催：参加者8名、10/18開催：参加者8名）、在宅緩和ケアサロンは2018年1月に開催予定

2 がん患者指導管理料算定について報告

8月度 I：4件、II：13件、III：23件（算定外73件）

9月度 I：0件、II：14件、III：13件（算定外62件） CNSの入退職により届出の関係でIが0となった。

3 各部会の報告

・放射線部会（10/11）⇒基本計画の説明、拠点病院の指定要件、ホームページの強化など

・相談支援センター部会（10/28）⇒研修「治療と就業生活の両立について」（パネルディスカッション）

4 大阪府がん診療拠点病院現況報告について

例年より1ヶ月遅れでの提出要請。概ね2017年9月1日現在での状況を報告。各項目を分担、とりまとめを杉山・渡部両課長が担当。大阪府への提出期限は11月30日。

- 5 その他
  - ・ 苦痛のスクリーニングの取りまとめ
  - ・ 放射線科の件数が減少傾向（免疫抑制剤併用の影響もあり）。統計を取って検討予定。
  - ・ 第3期がん対策推進基本計画の概要をイントラにUP。

#### 第7回

開催日：2017年11月28日（火）

- 議 題：
- 1 がん相談支援センターより報告
    - 活動報告（10月の相談件数122件）、がん患者サロン報告（11/15開催、参加者4名）
  - 2 がん患者指導管理料算定について報告
    - 10月度 I：0件、II：9件、III：27件（算定外60件）
  - 3 各部会の報告
    - ・ がん地域連携パス促進会議（12/13）⇒今回は欠席予定
    - ・ 三島圏域緩和ケア部会（2018年1/25）⇒同日に三島圏域がん研究会。12月中旬に院内職員に案内
  - 4 大阪府がん診療拠点病院現況報告について
    - 11/30が提出期限。関連部署でシート作成を振り分けし集約中。
  - 5 その他
    - ・ 苦痛のスクリーニングの取りまとめ
      - 4月4件、5月2件、6月2件、7月6件、8月4件、9月7件、10月6件
    - ・ 放射線科より報告と提案
      - 診療開始から7年、放射線科の延べ件数：1030件 今年度（1月～11月28日）で114件、12月までの見込みが125件。2011年～2016年の年間平均件数は146件。放射線治療適用について海外と比較すると海外は5割、日本は3割を下回り、その中で当院はどの程度なのか今後調べていく。院内職員に対する放射線科医師の講義による研修を提案。研修課と提携して企画していく。

#### 第8回

開催日：2017年2月27日（火）

- 議 題：
- 1 がん相談支援センターより報告
    - 活動報告（11月の相談件数75件、12月は123件）、がん患者サロン報告（12/20開催：参加者7名、1/17開催：参加者7名、2/21開催：参加者4名）
  - 2 がん患者指導管理料算定について報告
    - 12月度 I：0件、II：4件、III：16件（算定外64件）
    - 1月度 I：0件、II：9件、III：22件（算定外64件）
    - 2月度 I：0件、II：9件、III：21件（算定外57件） ※2/26まで
  - 3 各部会の報告
    - ・ 三島圏域緩和ケア部会（1/25）⇒緩和ケア研修会の新指針としてeラーニング型を導入予定。診療報酬改定について（在宅復帰率、終末期の心不全や個別栄養食事管理加算新設、緩和ケアチーム専従要件など）
  - 4 大阪府がん診療拠点病院現況報告について
    - 11月末に提出後2回修正あり先週最終報告終了。



1. 日時：平成 29 年 9 月 19 日（火）
2. 審議事項：
  - 1) クリニカルパスの申請状況
  - 2) パス適用率報告
  - 3) その他

1. 日時：平成 29 年 10 月 17 日（火）
2. 審議事項：
  - 1) クリニカルパスの申請状況
  - 2) パス適用率報告
  - 3) その他

1. 日時：平成 29 年 12 月 15 日（金）
2. 審議事項：
  - 1) クリニカルパスの申請状況
  - 2) パス適用率報告
  - 3) その他

1. 日時：平成 30 年 1 月 16 日（火）
2. 審議事項：
  - 1) クリニカルパスの申請状況
  - 2) パス適用率報告
  - 3) その他

平成 29 年度 クリニカルパス新規承認パスは 10 件であった。

委員会開催月	No.	平成 29 年度 新規申請パス	備考
平成 29 年 6 月	1	胸腰椎圧迫骨折	
	2	同種幹細胞移植 骨髄採取ドナー用	
平成 29 年 9 月	3	オブジーボ導入腎癌（外来）	
	4	オブジーボ導入腎癌（入院）	
	5	透析シャント経皮血管拡張術	
平成 29 年 10 月	6	C-mab+FOLFOX	
	7	C-mab+FOLFIRI	
平成 29 年 12 月	8	オブジーボ導入胃癌（外来）	
	9	オブジーボ導入胃癌（入院）	
平成 30 年 1 月	10	婦人科腹腔鏡下手術	
合計		10	



## 医療安全管理委員会

### 目 的

安全かつ適切な医療が提供できる体制を確立すること。

### 委員会開催

#### 第1回

開催日：平成 29 年 4 月 19 日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（3月）
- ②平成 28 年度報告事案の総括
- ③平成 28 年医療安全推進室活動のまとめと今年度の活動計画

2. 検討事項

- ①転倒予防対策としての薬剤使用制限について

#### 第2回

開催日：平成 29 年 5 月 17 日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（4月）
- ②転倒予防研修会について
- ③アドレナリン誤投与について

#### 第3回

開催日：平成 29 年 6 月 21 日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（5月）
  - ②救急講習会について
2. 検討事項
- ①薬剤の血管外漏出時の対応マニュアル作成について
  - ②医療における安全文化に関する調査実施について
  - ③日本医療安全調査機構による「中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析」の活用

#### 第4回

開催日：平成 29 年 7 月 19 日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（6月）
  - ②医療における安全文化に関する調査結果について
2. 検討事項
- ①中心静脈穿刺の実施報告書の運用について

#### 第5回

開催日：平成29年8月16日（水）

議題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（7月）
  - ②リスクマネージャー研修会と今後のチーム STEPPS 活動について
2. 検討事項
- ①安全ラウンドに委員会の医師も同行することについて
  - ②中心静脈穿刺の実施報告書の運用について
  - ③「カルテコンサルト」の運用廃止について

#### 第6回

開催日：平成29年9月20日（水）

議題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（8月）
  - ②オカレンス（合併症）報告の上半期の状況について
2. 検討事項
- ①新規作成した自殺事故防止と対応マニュアルについて

#### 第7回

開催日：平成29年10月18日（水）

議題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（9月）
  - ②中心静脈穿刺実施報告書の提出状況について
2. 検討事項
- ①転倒転落防止対策マニュアルの改正について
  - ②胸腔ドレナージの説明と同意書について
  - ③転倒予防ワーキンググループによる入院患者の履き物調査について

#### 第8回

開催日：平成29年11月15日（水）

議題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（10月）
2. 検討事項
- ①暴言・暴力発生時の対応フローの見直しについて
  - ②迷惑行為患者等に対する文書交付について

#### 第9回

開催日：平成29年12月20日（水）

議題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（11月）
  - ②中心静脈穿刺実施報告書の提出状況について
2. 検討事項
- ①院内暴力行為発生時の対応マニュアルの改正について

## 第 10 回

開催日：平成 30 年 1 月 24 日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（12 月）
  - ②チーム STEPPS 研修会について
2. 検討事項
- ①院内暴力行為発生時の対応マニュアルの改正について
  - ②医療安全研修会「医療安全フェア」開催について

## 第 11 回

開催日：平成 30 年 2 月 24 日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（1 月）
- ②研修会「医療安全フェア」について

## 第 12 回

開催日：平成 30 年 3 月 14 日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデント・アクシデントレポート（2 月）
  - ②研修会「医療安全フェア」について
  - ③中心静脈穿刺実施の現況について
2. 検討事項
- ①医師のためのルール一覧 2018 年度版発行について
  - ②医療安全地域連携加算の申請と連携先について

## 院内感染防止対策委員会

### 目 的

院内感染の防止対策及び予防活動に関する事案を審議する。実働部隊としての ICT から各サーベイランスの報告を受け、院内感染防止対策の監視と啓発活動を行う。

### 委員会開催

定例会議 毎月第 4 木曜日 16 時 40 分～

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、抗菌薬使用状況について報告と審議

開催日	議 題
平成 29 年 4 月 27 日	① 2017 年度環境培養調査年間スケジュールについて ②院内感染対策マニュアルの改訂について ③職員への MR ワクチン接種推奨について
5 月 25 日	① CRE 感染症の発生と対応について ②院内感染対策マニュアルの改訂について ③携帯用手指消毒剤の導入について ④職員の麻しん対応について ⑤滅菌水溶性潤滑剤の単包化導入について

開催日	議 題
6月22日	①ナースステーション手洗いシンクの清掃消毒と交換について ②クーリングタワーのレジオネラ調査について ③スパイロフィルターの取り扱いについて ④感染対策ネットワーク活動について
7月27日	①院内感染対策マニュアルの新規作成、改訂について ②感染対策ネットワーク活動の報告 ③汚物室への食器乾燥機配置について
8月24日	①クーリングタワーのレジオネラ調査の結果について ②大量調理施設衛生管理マニュアル改訂に伴う体制の整備について ③院内研修会について
9月28日	①感染対策ネットワーク活動の報告 ②手術室での一足制導入について ③新採用者への IGRA 実施について ④疥癬の発生と対応について ⑤結核接触者調査の結果について
10月26日	①水痘・播種性帯状疱疹の発生と対応について ②疥癬の発生と対応について ③インフルエンザワクチンの供給不足について ④栄養課職員の細菌検査項目について ⑤感染管理室の設置について
11月30日	①感染対策ネットワーク内の CRE アウトブレイク発生について ②今季インフルエンザ対策について ③携帯用手指消毒剤導入後の手荒れと対策について ④感染対策ネットワーク活動の報告
12月28日	①インフルエンザ発生状況と対策について ②携帯用手指消毒剤の追加採用について ③感染対策マニュアルの改訂について ④ペダル式ゴミ箱に使用するビニール袋の整備について
平成30年 1月25日	①インフルエンザ発生状況と対策について ②抗インフルエンザ薬の院内採用について ③院内感染対策マニュアルの改訂について ④平成30年度診療報酬改訂について
2月22日	①インフルエンザの発生状況と対策について ②職員採用時の健診項目の見直しについて ③感染対策ネットワーク活動の報告 ④経口セフェム系抗菌薬の見直しについて
3月22日	①インフルエンザ発生状況と感染対策について ②抗インフルエンザ薬の新規採用について ③AST（抗菌薬適正使用支援チーム）活動について

## 化学療法委員会

### 目的

安全で効果的ながん化学療法を行なうことを目的として、外来のがん化学療法に関する審議・検討を行なう。

### 委員会開催

#### 第1回

開催日：平成 29 年 10 月 12 日

- 議 題：1. 仮承認されたレジメンの報告と承認  
2. 新規や変更レジメンの報告と承認  
3. オプジーボ・キイトルーダーのクリニカルパスに関する検査項目改定内容の報告  
4. 外来化学療法室利用状況報告・インシデント等の報告  
5. 血管外漏出時対応マニュアルの修正内容の報告  
6. 抗がん剤取り扱いマニュアル一部改定の報告

#### 第2回

開催日：平成 30 年 3 月 8 日

- 議 題：1. 薬剤師外来設置予定の報告  
2. 外来化学療法室利用状況・インシデント等の報告  
3. 仮登録されたレジメンの報告と承認  
4. 新規や変更レジメンの報告と承認  
5. 化学療法指導パンフレット案の報告  
6. その他

## 救急委員会

### 目的

救急車搬送増加と、円滑な受入れ体制の強化、断診の防止対策の為検討・討議を行う。

### 委員会開催

12 回 / 年開催

### 活動実績

- ・月々の救急搬送件数や内容など統計データの共有や分析
- ・救急診療管理加算データの共有（特に「加算 1」算定への取り組み）
- ・受入れ困難症例のデータ共有や分析
- ・救急隊員向けの勉強会や懇親会の企画・実行
- ・新企画 RRT (Rapid Response Team) の立ち上げや定着への努力

## 給食委員会

### 目的

患者の栄養管理ならびに給食サービスの円滑な運営とその向上を図る

### 委員会開催

開催日：平成 29 年 7 月 10 日

議 題：1) 嗜好調査報告（平成 29 年 4 月実施）

2) その他

糖質調整流動食品目変更の件

グルセルナ EX ⇒ アイソカルサポート

分割食（15 時）献立内容変更（報告）

麺 ⇒ 麺 4 回 / 週とパン（かぼちゃパン・白パン・ツイスト）

### 化学療法食実務ミーティング

開催日：平成 30 年 2 月 26 日

内 容：化学療法食開始に向けて打ち合わせ

### 化学療法食説明会（試食会）

開催日：平成 30 年 3 月 14 日

内 容：化学療法食実施に向けてスタッフへの周知の目的で開催

## 健診事業運用委員会

### 平成 29 年度 目標

1) 受診者中心の人間ドックの達成。

「お待たせしないドック」と、よどみのない、かつ正確なドック運用が安定してできる体制づくりを目指す

2) 経鼻胃カメラによる胃検査の推進

厚労省が胃がん検診にて、胃カメラ検査も可能とし、高槻市がん検診においても、平成 30 年度より本格導入される。

人間ドック事前案内書類に、経鼻胃カメラの利点を記載した文書を同封し、さらなる経鼻胃カメラによる胃検査の推進を図る。

### 平成 29 年度 委員会開催

#### 第 1 回

開催日：平成 30 年 1 月 12 日（金）16 時 00 分～17 時 00 分

議 題：1. 平成 29 年度事業報告書

2. 平成 30 年度事業計画書

3. 人間ドック機能評価ロードマップ

## 第2回

開催日：平成30年2月23日（金）16時00分～16時30分

議案：健診事業運用委員会規定の改訂

1. 委員会を原則として、3ヵ月に1回開催とする。
2. 委員会総数の2/3以上の出席（委任状を加算）にて成立とする。

## 研修運営委員会

### 目的

「研修管理委員会」の下部委員会として、研修医師の研修内容及び関係部門並びに院外の関連施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

### 委員会開催

開催日：平成29年4月12日（水）17:00～17:15

議題：①新研修医紹介

- ②2年目研修医進捗状況（レポート提出状況）
- ③ホームページ更新に伴う撮影会（4月20日）
- ④MEC病院説明会 ブース出展について（4月30日）
- ⑤1年目研修医スケジュールについて

開催日：平成29年5月10日（水）17:05～17:25

議題：①研修医進捗状況

- ②MEC病院説明会の報告
- ③その他

開催日：平成29年6月14日（水）17:05～17:25

議題：①研修医進捗状況

- ②平成30年度採用研修医 採用試験日決定について
- ③レジナビフェアについて
- ④その他

開催日：（臨時）平成29年7月6日（木）16:30～17:00

議題：指導医が不在時の対応と指導に関する責任所在他について  
（糖尿病・内分泌・生活習慣病科の1例をあげての話し合い）

開催日：平成29年8月9日（水）17:05～17:25

議題：①研修医進捗状況

- ②平成30年度初期臨床研修医採用試験（1回目）（報告）
- ③平成30年度初期臨床研修医採用試験（2回目）
- ④10月の研修運営委員会について
- ⑤その他

開催日：平成 29 年 9 月 13 日（水） 17：05 ～ 17：23

議 題：①研修医進捗状況（レポート提出状況）

- ②平成 30 年度初期臨床研修医 採用試験について（報告）、マッチングについて
- ③新専門医制度について
- ④その他

開催日：平成 29 年 10 月 4 日（水） 17：00 ～ 17：55

議 題：①研修医進捗状況（レポート進捗状況）

- ②マッチングについて
- ③その他

開催日：平成 29 年 11 月 8 日（水） 17：00 ～ 17：25

議 題：①研修医進捗状況（レポート提出状況）

- ②平成 30 年度採用研修医 マッチング結果について
- ③一人部長診療科の代診医の届け出ルール（案）について
- ④その他

開催日：平成 29 年 12 月 13 日（水） 17：05 ～ 17：10

議 題：①研修医進捗状況（レポート提出状況）

- ②研修管理委員会 開催日
- ③その他

開催日：平成 30 年 1 月 10 日（水） 17：03 ～ 17：10

議 題：①研修医進捗状況（レポート提出状況）

- ②1 年目研修医 基本的臨床能力試験の受験について
- ③1 年目研修医 日赤本社 臨床研修研修会への参加について
- ④その他

開催日：平成 30 年 2 月 14 日（水） 17：05 ～ 17：25

議 題：①研修医進捗状況（レポート提出状況）

- ②2 年目研修医 終了判定
- ③平成 30 年度 研修プログラムについて
- ④平成 30 年度入職 初期研修医事前研修について
- ⑤平成 30 年度 ミニレクチャースケジュール（案）について
- ⑥日赤本社開催 赤十字病院臨床研修医研修会への 1 年目研修医参加について
- ⑦その他

開催日：平成 30 年 3 月 14 日（水） 17：05 ～ 17：13

議 題：①研修医進捗状況（レポート提出状況）

- ②研修管理委員会、修了式について
- ③平成 30 年度初期研修医 追加 1 名内定について
- ④平成 30 年度ミニレクチャースケジュールについて
- ⑤その他

## 研修管理委員会

### 目 的

臨床研修指定病院として研修医師の研修内容及び関係部門並びに院外の関連施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

### 委員会開催

開催日：平成 30 年 3 月 2 日（金）

- 議 題：①平成 28 年度採用研修医の臨床研修修了について  
②平成 30 年度 臨床研修スケジュールについて  
③井澤研修医の研修中断について  
④平成 29 年度 臨床研修補助金の分配について  
⑤平成 30 年度採用研修医紹介  
⑥研修管理委員会委員の変更などについて  
⑦その他

## 個人情報保護委員会

### 目 的

日本赤十字社が保有する個人情報の適正な取り扱いに関して必要な基本事項を定めることにより、個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護すること。

### 委員会開催

本年度開催なし

## 広報委員会

### 目 的

病院の広報に関することを検討する。

主に、院内広報誌、院外広報誌、ホームページの掲載内容について検討する。

### 委員会開催

#### 第 1 回

開催日：平成 29 年 4 月 25 日

- 議 題：①平成 29 年度広報誌・年報などの作成スケジュールについて  
②院外誌・院内誌の掲載記事について  
③ホームページ・フェイスブックの更新状況について  
④その他

## 第2回

開催日：平成29年8月7日

- 議 題：①院外誌・院内誌の掲載記事について  
②ホームページ・フェイスブックの更新状況について  
③その他

## 第3回

開催日：平成29年11月21日

- 議 題：①院外誌・院内誌の掲載記事について  
②ホームページ・フェイスブックの更新状況について  
③その他

## 第4回

開催日：平成30年3月19日

- 議 題：①平成30年度広報誌・年報などの作成スケジュールについて  
②院外誌・院内誌の掲載記事について  
③ホームページ・フェイスブックの更新状況について  
④その他

## 購買委員会

### 目 的

各部署から提出された医療用器械備品・その他器械備品等（原則、購入予定価格が160万円以上の物品）の整備依頼調書に基づき、各部署のヒアリングを行い、購入の是非を検討する。

### 委員会開催

#### 第1回

議 題：ゲティング製 ジェットウォッシャー WD46TURBO について（文書審議）

#### 第2回

開催日：平成30年1月30日（火）15：00～16：10

- 議 題：①血液成分分離装置の更新  
②逆浸透水処理（RO）装置の更新  
③X線乳房撮影装置（マンモグラフィー）の更新  
④低温滅菌装置の更新  
⑤その他（購買委員会規程について）

#### 第3回

開催日：平成30年3月5日（月）16：00～17：00

- 議 題：①内視鏡室 VPP 契約の更新  
②VIO3の新規整備  
③内視鏡ナビゲーションシステムの新規整備  
④Signia システム（自動縫合器）の新規整備  
⑤簡易睡眠評価装置の新規整備  
⑥その他

## 治験審査委員会

### 目 的

新規治験の実施および進行中の治験の継続について、科学面・安全面・倫理面から適正に審議することが目的。

GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する省令）に準拠した委員会であり、構成人員・審議書類・記録方法等が詳細に規定されている。

併せて、GPPS（医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準に関する省令）に準拠した製造販売後調査・副作用報告に関する審議・報告等も必要に応じ実施している。

### 委員会開催

#### 第1回

開催日：平成 29 年 4 月 21 日

- 議 題：1. 迅速審査・その他の報告  
2. 委員会審議（治験の継続を審議）  
3. 安全性情報（治験の継続を審議）

#### 第2回

開催日：平成 29 年 5 月 19 日

- 議 題：1. 迅速審査・その他の報告  
2. 新規治験の実施の可否を審議  
3. 委員会審議（治験の継続を審議）  
4. 安全性情報（治験の継続を審議）

#### 【新規承認試験】

- ◇ BAY1067197（15128）第Ⅱ相試験（循環器科／心不全）

#### 第3回

開催日：平成 29 年 6 月 16 日

- 議 題：1. 迅速審査・その他の報告  
2. 新規治験の実施の可否を審議  
3. 委員会審議（治験の継続を審議）  
4. 安全性情報（治験の継続を審議）  
5. 製造販売後調査の実施の可否を審議

#### 【新規承認試験】

- ◇ BAY1067197（17582）第Ⅱ相試験（循環器科／心不全）  
◇ LY900014 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病）

#### 第4回

開催日：平成 29 年 7 月 21 日

議 題：第2回と同様

#### 【新規承認試験】

- ◇ EFC14113 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病）

第5回

開催日：平成 29 年 8 月 18 日

- 議 題：1. 迅速審査・その他の報告  
2. 委員会審議（治験の継続を審議）  
3. 安全性情報（治験の継続を審議）  
4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

第6回

開催日：平成 29 年 9 月 15 日

議 題：第 1 回と同様

第7回

開催日：平成 29 年 10 月 20 日

議 題：第 5 回と同様

第8回

開催日：平成 29 年 11 月 17 日

議 題：第 2 回と同様

【新規承認試験】

- ◇ CS-3150 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病）

第9回

開催日：平成 29 年 12 月 15 日

議 題：第 5 回と同様

第10回

開催日：平成 30 年 1 月 19 日

議 題：第 1 回と同様

第11回

開催日：平成 30 年 2 月 16 日

議 題：第 3 回と同様

【新規承認試験】

- ◇ MK-1242 第Ⅲ相試験（循環器科／心不全）

第12回

開催日：平成 30 年 3 月 16 日

議 題：第 2 回と同様

【新規承認試験】

- ◇ PXL008-020 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病）

## 治験・製造販売後調査等の終了報告

### 【治験】

GB28689 第Ⅲ相試験 呼吸器科 (中止)  
Ba679 + BI1744 第Ⅲ相試験 呼吸器科  
NN1218-4131 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科  
KHK4563 第Ⅲ相試験 呼吸器科  
BAY86-5321 製造販売後臨床試験 眼科  
NN2211-4174 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科  
NN9068-4184 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科  
NN9068-4183 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科

### 【製造販売後調査】

ハラヴェン静注 1mg 消化器外科  
ステラーラ皮下注 45mg シリンジ 皮膚科  
アレセンサカプセル 呼吸器科  
サムスカ錠 7.5mg I 消化器科  
タケキャブ錠 10mg、20mg 血液・腫瘍内科  
アグリリンカプセル 0.5mg 血液・腫瘍内科  
ジェブタナ点滴静注 60mg 泌尿器科  
サイモグロブリン点滴静注用 25mg 血液・腫瘍内科

### 【副作用報告】

アイリーア硝子体内注射液 眼科  
ロンサーフ 消化器外科  
ルセフィ錠 糖尿病・内分泌・生活習慣病科  
リアルダ錠 消化器科  
キイトルーダ点滴静注 呼吸器科

## 29年度の振り返り

昨年度に引き続き、委員の半数以上が、ここ数年、治験審査委員会に継続して参加していただいているので、継続的に倫理面・科学面で深い審議がされることにより、安全に円滑に被験者の方に治験を受けていただけると感じている。

幹事として、委員の方々や治験事務局員、治験コーディネーターなどから、力を借りながら、委員会を準備、開催し、大きな問題なく治験が進めることができた。

最近の治験は、検査等で色々条件が求められる事が多くなり、また、国際共同試験が多く、求められる条件に対して対応する際に、連絡のやりとりで時間がかかることがある。よって、治験開始前の準備に時間をかけるケースが増えてきた。今まで以上に治験業務に関われるよう、自分の業務調整がより必要となったことが、現在の課題である。

以上  
幹事 美和 孝之

## 手術室運営委員会

### 目 的

高槻赤十字病院における手術室運営に関する諸問題の協議・調整を行い、安全かつ適切な手術が行える体制を確立する。

第 1 回	4 月 28 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告 平成 29 年度診療報酬累計 48,626,800 点 (前年比 - 5,685,970 点)</li> <li>医療機器 / 器具 設備 関連報告</li> </ol>
第 2 回	5 月 28 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>デバイスの運用について (リユース品の効果的な運用)</li> <li>術中動画の管理運用について (検討)</li> </ol>
第 3 回	6 月 23 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>X線ガーゼ不具合報告 (エム・シー・ヘルスケア㈱)</li> <li>術中動画の管理運用について (決定)</li> </ol>
第 4 回	7 月 28 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>X線ガーゼ不具合報告 (エム・シー・ヘルスケア㈱)</li> <li>手術台機種選定について</li> </ol>
第 5 回	8 月 25 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>X線ガーゼ不具合報告 (エム・シー・ヘルスケア㈱)</li> <li>手術台機種選定について</li> </ol>
第 6 回	9 月 22 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>線ガーゼ及び腹腔鏡ガーゼの検討</li> <li>スリッパ洗浄器故障の対応</li> </ol>
第 7 回	10 月 27 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>一足制導入に向けての聞き取り調査報告</li> <li>単回使用医療機器の取り扱いについて</li> </ol>
第 8 回	11 月 24 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>一足制導入についての検討</li> <li>笑気ガス配管マニホールド交換について</li> </ol>
第 9 回	12 月 22 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>吸引バックサンプル説明 (エム・シー・ヘルスケア㈱)</li> <li>一足制導入についての検討</li> </ol>
第 10 回	1 月 26 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>麻酔科当番医師への連絡について</li> </ol>
第 11 回	2 月 23 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>シューズカバーの選定</li> <li>単回使用医療機器導入時の試算</li> </ol>
第 12 回	3 月 23 日 (金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>統計報告</li> <li>禁煙に向けての取り組みについて</li> <li>平成 30 年度麻酔科医師及び看護師の紹介</li> </ol>

## 図書委員会

### 目 的

図書室の運用及びそれに関する事項について審議する。

### 委員会開催

#### 第1回

開催日：平成29年10月10日（火）

- 議 題：①洋雑誌の選定について  
②パッケージジャーナルについて  
③和雑誌の選定について  
④利用統計について  
⑤文献検索データベースについて  
⑥文献取り寄せについて  
⑦臨時図書購入について  
⑧その他

## 地域医療支援病院運営委員会

### 目 的

委員会は、地域における医療の確保・向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

### 平成29年度 委員会開催

#### 第1回

開催日：平成29年6月21日

#### 第2回

開催日：平成29年9月20日

#### 第3回

開催日：平成29年12月20日

#### 第4回

開催日：平成30年3月14日

### 【内容】

- ・紹介患者実績、紹介率・逆紹介率、共同利用、救急搬入件数、地域の医療従事者対象の研修やセミナーなど、登録医訪問など地域医療支援病院承認要件の報告。
- その後、当院の現状・活動について、今後当院との連携強化にむけて各委員（院外委員）と意見交換を実施。

## 地域医療連携運営委員会

平成 29 年度 委員会開催

第 1 回

開催日：平成 29 年 4 月 27 日

議 題：CF オープン検査報告、送迎状況報告、平成 28 年度紹介率・逆紹介率 など

第 2 回 ：平成 29 年 5 月 25 日

議 題：月次報告、送迎状況報告 など

第 3 回 ：平成 29 年 6 月 22 日

議 題：月次報告、患者確保プロジェクト残項目纏め など

第 4 回 ：平成 29 年 9 月 28 日

議 題：月次報告、地域連携の会開催に向けて など

第 5 回 ：平成 29 年 10 月 26 日

議 題：月次報告、逆紹介書類の変更 など

第 6 回 ：平成 29 年 11 月 30 日

議 題：月次報告、地域連携の会について、近隣病院訪問状況 など

第 7 回 ：平成 29 年 12 月 28 日

議 題：年末近隣病院・登録医訪問状況報告、地域連携の会状況報告 など

第 8 回 ：平成 30 年 1 月 18 日

議 題：地域連携の会について など

第 9 回 ：平成 30 年 2 月 22 日

議 題：地域連携の会報告 など

高槻赤十字病院地域連携の会

開催日：平成 30 年 2 月 17 日 (土)

会 場：大阪新阪急ホテル 花の間

参 加：第 1 部 104 名

第 2 部 100 名

## 認知症ケアサポートチーム委員会

### 目 的

認知症ケアサポートチームは、病棟における認知症患者へのケアの実施状況を把握するとともに、専門スタッフが病棟職員、家族・家族等に助言等を行い、拘束患者の早期離脱をすすめ、認知症患者への理解を深めながら療養環境の改善を目的とします。

### 委員会開催

2回／年開催（必要時に開催）

### 活動実績

- ・毎週火曜日にミーティング及び、各病棟のラウンドを行い状況の確認・対応方法の検討と対策を行った。
- ・認知症患者の人数を把握し、各病棟の状況等を把握し、拘束患者の介入を行い拘束からの解放を行っている。
- ・ミーティングなど認知症・せん妄の状況を把握し判定を行い、対応方法など検討を行った。

認知症ケア加算1：6,027件（平成29年度）

## 病院機能評価受審委員会

### 目 的

（財）日本医療機能評価機構が行う病院機能評価について、更新受審のための院内調整及び各種取り組みを計画・実行し、更新確認を得ること。

### 委員会開催

本年度開催なし

## 病床管理運営委員会

### 目 的

急性期医療機関として、効率的かつ円滑な病床運営について検討・提案を行う。

### 委員会開催

12回／年開催

### 活動実績

- ・病棟別、診療科別入院患者統計の報告
- ・HCU運営委員会との統合を検討
- ・リハビリ室設置の検討
- ・稼働状況メールの内容変更
- ・病床の効率的運用、病床稼働を上げるための課題の抽出及び検討（8月）
- ・午前退院、午後入院の検討
- ・病床利用促進のための空床状況報告・周知方法の検討

## 保険委員会

### 目的

診療報酬請求の査定状況報告、返戻状況・再審査請求状況の報告、医師への情報提供、医事課内勉強会の報告等を行ない、診療報酬算定UPを行う。

### 委員会開催

4回／年開催（3ヶ月に1度）

### 活動実績

- ・医事課内に算定強化チーム、査定対策チームを作り、診療報酬請求の増収を行った。
- ・医師へ再審査請求の協力を依頼し、診療報酬請求復活の増加を行った。
- ・委員会にて最新の査定状況の報告を行い、その対策や検討を行い査定金額の縮小対策を行った。

## 放射線安全委員会

### 目的

放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保する目的として、当委員会で放射線被ばく等に関する必要な事項を企画、審議する。

### 委員会開催

開催日：平成29年4月17日

議題：

- ①「放射線教育訓練について」
- ②「放射線取扱主任者の選任と解任について」

開催日：平成29年12月18日

議題：

- ①「放射線障害防止法改正について」
- ②「来年度の放射線教育訓練について」

## 防火防災・災害対策委員会

### 目的

消防法第8条の規定に基づき、自衛消防組織を設置し、病院敷地内における火災を予防すると共に、火災その他の災害時における被害を軽減することを目的とする。

### 委員会開催

本年度開催なし

### 消防訓練開催

第1回

開催日：平成29年4月10日

親入職員対象とした消防訓練

- 訓練内容：①消化器を使用しての消火訓練  
②屋内消火栓を使用しての放水訓練  
③担架・毛布を使用しての応急救護・避難訓練

## 第2回

開催日：平成29年7月28日

目的：大規模災害を想定した各部署アクションカードを用いての初動、自衛消防本部・災害対策本部の情報収集、統括の活動を検証し管理体制の改善を図る。現行のBCP（事業継続計画）の見直しを行う。

内容：勤務時間外（休日、15時）に発生した地震（M7.0、震度6強）により、限られた勤務者だけで暫定災害対策本部を立上げ情報収集を行う。自主登院した職員により2階に本部を移行する。その中で、エレベーター内に閉じ込め発生し救出救護する。

## 第3回

開催日：平成29年9月1日

目的：大規模災害を想定した被災傷病者受入れ態勢とトリアージ、初療活動を検証する。

内容：受け入れの準備、ゾーン分け、トリアージ、エリアごとの初療活動から入院までの連携。

## 薬事委員会

### 目的

医薬品や検査試薬等の採用や削除について、医師の依頼に基づいて適正に審議することが目的。

不良在庫の見直しによる採用薬品数の削減も、薬剤部の提案により本委員会で検討される。

後発品への切り替えは、DPC導入もあり病院経営の観点からも重要である。後発品の品質・供給体制等を考慮し、薬剤部より提案のうえ本委員会にて審議している。

### 委員会開催

#### <第1回>

開催日 平成29年4月7日

- 議題
1. 仮採用依頼品目の審議
  2. 院外採用依頼品目の審議
  3. 採用中止候補品目の審議
  4. 仮採用品目の本採用審議
  5. 特定患者用薬品の使用状況報告
  6. その他の報告・審議・承認依頼事項
  7. 6ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告
  8. 5ヶ月院内処方がない品目の報告
  9. 後発品切替についての審議

#### <第2回>

開催日 平成29年6月2日

- 議題 1-9
10. SGLT2阻害薬の糖尿病専門医限定の解除についての審議
  11. 薬事委員会規定の改訂についての審議

<第3回>

開催日 平成29年7月7日

議題 1-9

10. SGLT2阻害薬の糖尿病専門医限定の解除についての審議

<第4回>

開催日 平成29年8月4日

議題 1-9

<第5回>

開催日 平成29年9月1日

議題 1-9

10. 国内承認薬の適応外使用についての審議

<第6回>

開催日 平成29年10月6日

議題 1-9

10. 国内承認薬の適応外使用についての審議

11. 国内承認薬の適応外使用に関する迅速審議について

12. 薬事委員会規定の改訂についての審議

<第7回>

開催日 平成29年11月10日

議題 1-9

<第8回>

開催日 平成29年12月1日

議題 1-9

<第9回>

開催日 平成30年1月5日

議題 1-9

<第10回>

開催日 平成30年2月2日

議題 1-9

10. イナビル吸入粉末剤20mgの適正使用、採用切替について

<第11回>

開催日 平成30年3月2日

議題 1-9

## 平成 29 年度の振り返り

平成 28 年度に引き続き委員会を原則毎月開催し、会議時間の短縮と院内のドラッグラグの解消に努めた。

4 月は認知症ケアサポートチームの依頼に応じ、認知症ケアに必要な薬剤の充実を図った。

適正使用の観点から、薬剤部提案として多数の薬剤の採用見直しを行った。エルネオパ輸液はビタミンの配合が改良されたエルネオパ NF 輸液に切替えを行い、不適切な規格使用のため保険査定を受ける可能性のある薬剤については採用規格の適正化を行った。エビデンスの観点からイナビル吸入粉末剤 20mg を院外採用へ移行し、ゾフルーザ錠を採用とした。

また国内承認薬の適応外使用の申請が増加傾向を示しており、急を要する国内承認薬の適応外使用については迅速審議の規約を設けた。エビデンスレベルが高く、既に慣例的に適応外使用されている薬剤について薬剤部で取りまとめ、審議を行い、適応外使用が承認された。

特定患者用薬品（臨時購入）については申請受付時に必要性について申請医と十分な協議を行い、臨時購入が必要なケースかチェックする体制を引き続き強化した。

後発品関連は、平成 27 年度に主な薬剤の切替えが完了していたが、毎回領域ごとに少しずつ切替を継続した。平成 26 年度診療報酬改定で新設された後発医薬品指数は、平成 29 年度は上限の使用量ベース 80% に到達し、平成 30 年度は使用量ベース 85% を目指す。平成 29 年度も製薬メーカーの再編に伴い販売中止の薬品が頻発し、採用薬切替えの対応に追われた一年であった。平成 30 年度は厚労省が作成した薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランに従い、抗微生物剤の使用量削減のため、院内採用薬の見直しを行う予定である。

以上  
幹事 仲 忠士

## 輸血療法委員会

### 目 的

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とすること。

### 委員会開催

#### 第 1 回

開催日：平成 29 年 4 月 5 日

- 議 題：① 2016 年度 輸血用血液製剤損失額報告  
② アルブミン、FFP の使用について  
③ 遡及調査の依頼の報告  
④ 輸血副作用報告  
④ 輸血副作用報告様式について他院情報の収集結果報告  
⑤ 出産後の大量出血のため発生した緊急輸血について

#### 第 2 回

開催日：平成 29 年 5 月 10 日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について  
② 輸血副作用の報告  
③ 4 月に報告した遡及調査の依頼のあった 2 名のうち  
輸血後検査未実施の 1 名についての患者情報確認

### 第3回

開催日：平成 29 年 6 月 7 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②遡及調査の依頼の報告

③輸血副作用報告書について看護部側の意見を受けた上での検査側からの提案

④輸血マニュアル改訂案

### 第4回

開催日：平成 29 年 7 月 5 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血伝票のレイアウト変更および輸血副作用報告書の導入報告

### 第5回

開催日：平成 29 年 8 月 2 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②未返却の輸血伝票の対応について

### 第6回

開催日：平成 29 年 9 月 6 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

② 8 月に検討した未返却の輸血伝票の対応についての決定事項

③輸血勉強会のお知らせ

### 第7回

開催日：平成 29 年 10 月 4 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血副作用の報告

④輸血勉強会の報告&お知らせ

### 第8回

開催日：平成 29 年 11 月 1 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③新薬ダラザレックスの治療を開始するにあたって輸血に関する注意点

④輸血勉強会のお知らせ

### 第9回

開催日：平成 30 年 1 月 10 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③照射赤血球液（RBC）の廃棄報告

- ④輸血副作用の報告（1件）および調査報告（2件）
- ⑤人血小板濃厚液の使用時の安全確保措置の周知徹底について
- ⑥輸血勉強会の報告

#### 第10回

開催日：平成30年2月7日

- 議 題：①アルブミン、FFPの使用について  
②輸血副作用報告件数

#### 第11回

開催日：平成30年3月7日

- 議 題：①アルブミン、FFPの使用について  
②輸血副作用報告件数  
③手術中の出血に対する大量輸血実施の報告

#### 輸血勉強会の開催

##### 第1回

テーマ：「安全な輸血のために～使用指針の改訂～」

開催日：平成29年10月2日（月）

##### 第2回

テーマ：「安全な輸血のために～基礎編～ + 手技体験」

開催日：平成29年11月6日（月）

### **倫理委員会**

#### 目 的

当院で行われるヒトを対象とした医学の研究及び臨床応用についての「医の倫理」に関する事項をヘルシンキ宣言（2013年WMAフォルトアレザ総会修正）の趣旨に添い審議することを目的とする。

#### 委員会開催

（書類審議）

実施日：平成29年4月17日

- 議 題：①大腸ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）後のポリペクトミー後電気凝固症候群（Postpolypectomy Electroagulation Syndrome）の頻度の研究（H28-06の部分変更）  
②胃食道逆流症患者の症状尺度の開発研究（承認番号H28-17の部分変更）  
（①～②以上2件 消化器科）

##### 第1回

開催日：平成29年4月27日

- 議 題：①胃切除後がん患者の食生活自己管理スキル尺度の開発  
（大阪医科大学大学院 看護研究科博士後期課程 学生）

- ②在宅緩和ケアサロン参加者の経験とニーズの実態（看護部）
- ③大腸 T1 癌の予後に関する他施設共同前向きコホート研究
- ④ERCP（内視鏡的逆行性胆膵造影）の胆管選択挿入困難時における、膵管ガイドワイヤー留置下 pre-cut の安定性についての検討
- ⑤胃 ESD（内視鏡的粘膜下剥離術）後のポリペクトミー後熱凝固症候群（Post polypectomy Electrocoagulation Syndrome）の頻度の検討
- ⑥萎縮性胃炎の点滴分類スコアリングと内視鏡治療後異時性胃癌発癌の検討  
（③～⑥以上 4 件 消化器科）

## 第 2 回

開催日：平成 29 年 6 月 23 日

- 議 題：①がん放射線療法看護認定看護師が行った心理的不安に対する看護支援の現状と課題（看護部）
- ②日本人 2 型糖尿病患者におけるインスリン治療と sGLT2 阻害剤による  $\beta$  細胞機能改善の比較検討（糖尿病・内分泌・生活習慣病科）

（書類審議）

実施日：平成 29 年 8 月 7 日

- 議 題：①早期胃癌 ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）非治癒切除症例の長期予後についての検討（消化器科）
- ②自己免疫性溶血性貧血患者の血中 ST2 と赤血球結合 IgG サブクラスの定量（血液腫瘍内科）

## 第 3 回

開催日：平成 29 年 8 月 30 日

- 議 題：①自己免疫性溶血性貧血患者の血中 ST2 と赤血球結合 I g G サブクラスの定量（血液腫瘍内科）
- ②日本光電製耳朶用 SpO<sub>2</sub> プロープの鼻翼測定の見直し（医療技術部）
- ③EGFR（上皮成長因子受容体）阻害薬の皮膚障害に対する保湿剤の有効性確認試験（皮膚科）
- ④単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TEP）において最適なプラットフォームとは
- ⑤FOLFOXplus panitumumab による一次治療抵抗または不耐となった RASwild-type 切除不能進行、再発大腸癌に対する二次治療としての FOLFIRIpluspanitumumab 療法の有効性に関する多施設共同第 II 相試験
- ⑥大腸癌に対する oxaliplatin 併用の術後補助化学療法終了後 6 か月以降再発例を対象とした oxaliplatin based regimen の有効性を検討する第 II 相臨床試験（④～⑥ 以上 3 件 消化器外科）
- ⑦タダラフィルの下部尿路症状改善効果と患者属性（泌尿器）
- ⑧EGFR 遺伝子変異陽性で癌性胸膜炎を伴う進行非小細胞肺癌に対するオシメルチニブ第 II 相試験（呼吸器外科）
- ⑨整形外科手術における同種骨移植（整形外科）
- ⑩在宅酸素療法を必要とする安定期 COPD 患者における長期高流量鼻カニューラ酸素療法に対する有効性及び安全性に関する検討：多施設前向きランダム化比較試験
- ⑪当院呼吸器内科外来における急性咳嗽の原因疾患に関する検討  
（⑩～⑪以上 2 件 呼吸器科）

(書類審議)

実施日：平成 29 年 10 月 17 日

議 題：①在宅酸素療法を必要とする安定期 COPD 患者における長期高流量鼻カニユラ酸素療法に対する有効性及び安全性に関する検討：多施設前向きランダム化比較試験（呼吸器科）

(書類審議)

実施日：平成 29 年 10 月 26 日

議 題：①ストレス誘因を伴わないタコツボ型心筋症の臨床像に関する症例検討（循環器科）

#### 第 4 回

開催日：平成 29 年 10 月 31 日

議 題：①一般入院患者に対する看護ケアとしてのアロマセラピーマッサージの実施（看護部）  
②大阪府下の在宅呼吸ケアに関する実態  
③当院呼吸器内科外来における喘息初診患者の通院継続状況に関する検討（②～③以上 2 件 呼吸器科）  
④糖尿病患者および非糖尿病患者における栄養知識調査「実態調査研究」（糖尿病・内分泌・生活習慣病科）  
⑤RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI + セツキシマブと FOLFOXIRI + ベバシズマブの最大腫瘍縮小率 (D p R) を検討する無作為化第 II 相臨床試験  
⑥「RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI + セツキシマブと FOLFOXIRI + ベバシズマブの最大腫瘍縮小率 (D p R) を検討する無作為化第 II 相臨床試験」におけるバイオマーカー研究（⑤～⑥以上 2 件 消化器外科）  
⑦過敏性腸症候群に対する集団認知行動療法の実施可能性及び有効性に関するパイロット研究  
⑧大腸腫瘍患者に対するクルクミンの発癌予防臨床試験（無作為二重盲検試験）  
⑨ C 型肝炎ウイルス排除後の肝細胞癌発症を予測する臨床疫学的因子の検討（⑦～⑨以上 3 件 消化器科）

#### 第 5 回

開催日：平成 29 年 12 月 5 日

議 題：①マイトマイシンを使用した緑内障手術（眼科）  
②標準化学療法に不応・不耐切除不能進行・再発結腸・直腸癌患者を対象とした biweekly TAS-102 と Bevaccizumzb の同時併用療法第 I b/ II 相臨床試験（消化器外科）  
③気管支喘息患者における血清ペリオスチンの予後予測能の検討（呼吸器科）  
④後天性血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) の遺伝的背景に関する研究（血液腫瘍内科）

(書類審議)

実施日：平成 30 年 1 月 25 日

議 題：① EGFR（上皮成長因子受容体）阻害薬の皮膚障害に対する保湿剤の有効性確認試験実施計画変更（承認番号 H29-20 の部分変更）（皮膚科）

(書類審議)

実施日：平成 30 年 2 月 9 日

議 題：①喘息合併慢性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻副鼻腔手術が喘息コントロールに与える影響についての検討（呼吸器科）

第 6 回

開催日：平成 30 年 2 月 27 日

議 題：①遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究（J-HOPE 4 研究）

（緩和ケア科）

②緩和ケアチームで行うアロマテラピーマッサージの有効性（看護部）

③糖尿病と 25OH ビタミン D および骨折との関連についての研究

（糖尿病・内分泌・生活習慣病科）

④骨髄腫関連疾患患者の臨床データおよび治療経過に関する疫学観察研究の登録に関する許可（血液腫瘍内科）

⑤気胸に対する胸腔造影について（呼吸器科）

## 臨床検査適正化委員会

### 目 的

臨床検査の適正なる運用を推進すること。

第 183 回

開催日 平成 29 年 4 月 11 日

1. 3 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規実施項目案内と報告遅延について
3. 白血病キメラ遺伝子検査における低値化傾向について
4. 血清無機リン（IP）について
5. 平成 29 年度 日臨技臨床検査精度管理調査について

第 184 回

開催日 平成 29 年 5 月 9 日

1. 4 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の検査一時受託中止と新規契約申請について
3. マイコプラズマ抗原キットの院内採用について
4. BNP（脳性ナトリウム利尿ペプチド）の測定について
5. その他

第 185 回

開催日 平成 29 年 6 月 13 日 5 月分院内測定項目実績件数

1. 外注検査の新規契約申請と基準値変更について
2. 白血病キメラ遺伝子検査 17 項目の検査再開について
3. ROS1 融合遺伝子の検査について
4. 外注項目の院内化依頼について
5. 精度管理調査について
6. 職員健康診断について
7. その他

#### 第 186 回

開催日 平成 29 年 7 月 11 日

1. 6 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 次世代シーケンサーを用いたリキッドバイオプシーによる遺伝子解析について
4. HB s 抗体検査の異常高値について
5. 精度管理調査について
6. その他

#### 第 187 回

開催日 平成 29 年 8 月 8 日

1. 7 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 血清ビリルビン測定の不具合について
4. 検査ラベルの患者名表示の一部変更について
5. その他

#### 第 188 回

開催日 平成 29 年 9 月 12 日

1. 8 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 日臨技臨床検査精度管理調査の結果について
4. 血液ガスの測定時間の表示について
5. その他

#### 第 189 回

開催日 平成 29 年 10 月 10 日

1. 9 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 同定不能の抗酸菌検査について
4. 外注検査結果の FAX 要望と SRL 大阪ラボの進捗状況について
5. その他

#### 第 190 回

開催日 平成 29 年 11 月 14 日 (火)

1. 10 月分 院内測定項目
2. 実績件数外注検査の新規契約について
3. 院内測定項目の追加について
4. 外注検査の WEB 参照について
5. 検査の基準値と意義が書かれた表の配布について
6. 停電の件
7. その他

#### 第 191 回

開催日 平成 29 年 12 月 12 日

1. 11 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 定期予約オーダーから次回来院時オーダーへの確定について
4. 年末年始の検査体制について
5. クオంటィフェロンの定期健診と院内勉強会について

#### 第 192 回

開催日 平成 30 年 1 月 9 日

1. 12 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. non-HDL コレステロール表記について
4. 検査の基準値と意義が書かれた表の配布について
5. クオంటィフェロンの定期健診と院内勉強会について
6. 検査定期オーダーの医師による次回来院時オーダーへの検査確定実施について
7. その他

#### 第 193 回

開催日 平成 30 年 2 月 13 日

1. 1 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査委託中止と基準値の変更について
3. プロカルシトニン検査について
4. 定期予約オーダーの名称変更について
5. その他
6. SRL 検査結果 WEB 参照について

#### 第 194 回

開催日 平成 30 年 3 月 13 日

1. 2 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注の新規依頼について
3. 日本医師会臨床検査精度管理調査の結果報告
4. CRP の表記について
5. 病棟採血時間前倒しの効果について
6. その他

### 労働安全衛生委員会

#### 委員会開催

平成 29 年 4 月 17 日 (月) 16:05 ~ 16:25

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 平成 29 年度ストレスチェックについて
3. 定期健康診断実施について
4. その他

平成 29 年 5 月 15 日（月） 16：05 ～ 16：20

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 定期健康診断実施について
3. 平成 29 年度ストレスチェックについて
4. その他

平成 29 年 6 月 26 日（月） 16：00 ～ 16：15

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 定期健康診断実施について
3. その他

平成 29 年 7 月 24 日（月） 16：00 ～ 16：10

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 平成 29 年度ストレスチェックについて
3. 定期健康診断について
4. その他

平成 29 年 8 月 21 日（月） 16：00 ～ 16：10

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 平成 29 年度ストレスチェックについて
3. 定期健康診断について
4. その他

平成 29 年 9 月 25 日（月） 16：05 ～ 16：25

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 平成 29 年度ストレスチェックについて
3. インフルエンザの予防接種の実施について
4. その他

平成 29 年 10 月 16 日（月） 16：00 ～ 16：20

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. インフルエンザの予防接種の実施について
3. その他

平成 29 年 11 月 20 日（月） 16：00 ～ 16：25

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. インフルエンザの予防接種の実施について
3. その他

平成 29 年 12 月 26 日（火） 15：35 ～ 15：45

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 深夜業務者等特定業務従事者の定期健康診断の実施について
3. その他

平成 30 年 1 月 15 日（月） 16：10 ～ 16：20

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 深夜業務者等特定業務従事者の定期健康診断の実施について
3. その他

平成30年2月19日(月) 16:05～16:10

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 深夜業務者等特定業務従事者の定期健康診断の実施について
3. その他

平成30年3月19日(月) 16:35～16:55

1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 平成30年2月健診クオンティフェロン結果について
3. 職員採用時(6月)の職員健診でのHBs抗体検査について
4. 医師の当直明けの勤務について
5. その他

## 褥瘡委員会

### 目 的

高槻赤十字病院において褥瘡対策を円滑に推進するため、院内褥瘡対策について討議検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

### 委員会

褥瘡対策の実際としては毎週、褥瘡対策チームが回診を行い、ベッドサイドカンファレンスでケアの評価、および処置を実施・指導している。褥瘡委員会の下部組織として、褥瘡リンクナーズ会を設置し、各病棟にリンクナースを配置して褥瘡対策に取り組んでいる。

今年度はポジショニングクッションを購入し、各病棟に配置した。

院内発生褥瘡について NPUAP の分類で深達度Ⅱ度以上の褥瘡発生件数は 29 件で推定発生率は 0.7%であった。発生部位は昨年度と同様に踵部、仙・尾骨部が多かった。

褥瘡ハイリスク患者ケア加算は 853 件算定した。

## 電子カルテ委員会

### 目 的

電子カルテシステムの運用及び更新等の推進を目的とする。

### 委員会開催

#### 準備委員会

開催日：平成29年5月24日(水) 16:00～17:00

場 所：3階講義室

- 議 題：1. 委員会設立目的について
2. 当院の電子カルテシステムの現状について
  3. 今後の活動について
  4. 各委員から出たQ&Aについて

## 第1回

開催日：平成29年11月29日（水）16：30～17：10

場 所：内視鏡カンファレンス室

- 議 題：1. 今後の方針について  
2. 方針について質問  
3. その他

## 第2回

開催日：平成30年1月30日（火）16：00～17：10

場 所：3階講義室

- 議 題：1. 委員会及びワーキンググループ（WG）のメンバーについて  
2. 委員会規程について  
3. 11/29 電子カルテ委員会以降の動きについて  
4. 電子カルテ委員会資料（今後の方針）について  
5. 電子カルテ導入スケジュール案について  
6. 各部門との打ち合わせについて  
7. 他の赤十字病院電子カルテ使用状況について  
8. 富士通の代理店について  
9. 部門システム選定に当たっての注意点について

## 患者サービス向上委員会

### 目 的

患者サービス向上委員会は、医療や患者へのサービスの充実を図り、患者の満足度や職員のモラルを高めることを目的とします。

### 委員会開催

原則月1回、第4水曜日16時

### 活動実績

- ・平成29年8月から患者サービス向上委員会として活動し、平成29年10月に入院患者満足度調査、平成29年11月に外来患者満足度調査、平成29年12月に職員満足度調査の計3回の調査を実施した。
- ・平成30年4月に患者満足度調査の結果報告を病院ホームページ及び院外広報誌に掲載した。又、平成30年5月に職員満足度調査の結果報告を院内ホームページ及び院内広報誌に掲載した。
- ・今後、各調査に寄せられた意見に対する対応策をまとめ、改善策などを検討していく。

## **VIII 誌上・講演発表**

## 《誌 上》

### 糖尿病・内分泌・生活習慣病科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Shinji Taneda Jacob Hyllested-Winge, Mari-Anne Gall, Shizuka Kaneko, Koichi Hirano	Insulin degludec/insulin aspart versus biphasic insulin aspart 30 twice daily in insulin-experienced Japanese subjects with uncontrolled type 2 diabetes: subgroup analysis of a pan-Asian, treat-to-target phase 3 trial.	J Diabetes.2017; vol9(3):p243-247. doi:10.1111/1753-0407.12407	2017年
Shizuka Kaneko Youhei Ueda, Yumiko Tahara	IDegAsp provides simple intensification without the addition of another insulin injection and simple delivery system	Diabetes Management 2017 7(2), p177	2017年
Shizuka Kaneko Tomonori Oura, Akiko Matsui, Tomotaka Shingaki, Masakazu Takeuchi	Efficacy and safety of subgroup analysis stratified by baseline HbA1c in a Japanese phase 3 study of dulaglutide 0.75 mg compared with insulin glargine in patients with type 2 diabetes.	Endocrinol journal 2017 vol. 64 no.12	2017年
Shizuka Kaneko Keiji Nishijima, Heidrun Bosch-Traberg, Kohei Kaku, Yutaka Seino	Efficacy and safety of adding liraglutide to existing insulin regimens in Japanese subjects with type 2 diabetes mellitus: A post-hoc analysis of a phase 3 randomized clinical trial.	J Diabetes Investig. 2017 Dec 26.	2017年
Yutaka Seino Yasuo Terauchi, Takeshi Osonoi, Daisuke Yabe, Nobuyuki Abe, Tomoyuki Nishida, Jeppe Zacho and Shizuka Kaneko	Safety and efficacy of semaglutide once weekly vs sitagliptin once daily, both as monotherapy in Japanese people with type 2 diabetes.	Diabetes Obes Metab. 2018 Feb;20(2):378-388. doi:10.1111/dom.13082.	2018年2月

総 説 等

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
金子 至寿佳	高齢化社会に向けた食育の重要性～『自身の健康を守る力』を鍛える(前編)～	少年写真新聞 高校保健ニュース 2017年6月8日号	2017年6月
金子 至寿佳	高齢化社会に向けた食育の重要性～『自身の健康を守る力』を鍛える(後編)～	少年写真新聞 高校保健ニュース 2017年7月8号	2017年7月
金子 至寿佳 福井 次矢、高木 誠、 小室 一成	代謝疾患 インスリン自己注射患者のケア	今日の治療指針 2018 vol.60 P745	2018年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
金子 至寿佳	今の食生活が、あなたの未来をつくれます！前編 こどもの頃からの知識が将来の病気発症の予防に	給食ニュース 2018年2月8号	2018年2月
金子 至寿佳	今の食生活が、あなたの未来をつくれます！後編 こどもの頃からの知識が将来の病気発症の予防に	給食ニュース 2018年3月8号	2018年3月

## 緩和ケア診療科

著 書 (分担執筆)

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
岸本寛史	MSSM の変法	細川佳博・山中康裕編集『MSSM への招待』創元社、所収	2017年

査読論文

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
亀井 由美 北村 弥生・原武 麻里・ 藤原 和子・岡村 宏美・ 金村 誠哲・岸本 寛史	アロマセラピストの資格を持つ看護師の緩和ケアチームへの参加と一般病棟におけるがん患者へのアロマセラピーマッサージの提供	Palliative Care Research 12(2) 923-27	2017年
金村 誠哲 橋本 典夫・藤原 和子・ 原武 麻里・岩井 真里絵・ 小島 一晃・岸本 寛史	緩和ケアチームが介入した一般病棟入院中の終末期がん患者に対する鎮静についての後方視的カルテ調査	Palliative Care Research 12(4) 317-20	2017年

論 文

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
岸本 寛史	バウムテストの開通効果	精神療法 43(1) 18-21	2017年
岸本 寛史	ニューロフィロソフィーからみた意識	臨床精神医学 46 (6) 693-698	2017年
岸本 寛史	がん医療と描画を介したナラティブ	N: ナラティブとケア 9、30-36	2018年

その他 (事例コメント)

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
岸本 寛史	心理療法におけるパラドックス - 奈木論文へのコメント	常葉大学心理臨床事例研究 8、113-115	2017年
岸本 寛史	言葉はロジックとマジックのサンドウィッチである - 中野論文へのコメント	岐阜大学心理教育相談研究 16、13-15	2017年

## 呼吸器科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Oga T Taniguchi H, Kita H, Tsuboi T, Tomii K, Ando M, Kojima E, Tomioka H, Taguchi Y, Kaji Y, Maekura R, Hiraga T, Sakai N, Kimura T, Mishima M, Windisch W, Chin K	Comparison of Different Disease-Specific Health- Related Quality of Life Measurements in Patients with Long-Term Noninvasive Ventilation.	Can Respir J.2017; 2017:8295079. doi: 10.1155/2017/8295079.	2017年5月
Oga T Taniguchi H, Kita H, Tsuboi T, Tomii K, Ando M, Kojima E, Tomioka H, Taguchi Y, Kaji Y, Maekura R, Hiraga T, Sakai N, Kimura T, Mishima M, Chin K	Analysis of the relationship between health status and mortality in hypercapnic patients with noninvasive ventilation.	Clin Respir J; 11(6):772-780	2017年11月
Inoue H Ito I, Niimi A, Matsumoto H, Oguma T, Tajiri T, Iwata T, Nagasaki T, Kanemitsu Y, Morishima T, Hirota T, Tamari M, Wenzel SE, Mishima M	Association of interleukin 1 receptor-like 1 gene polymorphisms with eosinophilic phenotype in Japanese adults with asthma.	Respir Investig; 55(6):338- 347	2017年11月
Goto K Ogawa E, Shimizu K, Makita H, Suzuki H, Kawata Y, Niki N, Nishimura M, Nakano Y	Relationship of annual change in bone mineral density with extent of emphysematous lesions and pulmonary function in patients with COPD	International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease.13 : 639- 644	2018年2月

総 説 等

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
後藤 健一 岡本 文雄	熊本地震避難所における感染性 胃腸炎流行と感染対策	感染症学雑誌 第91巻 第5号	2017年
田尻 智子 鳳山 絢乃、祖開 暁彦、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫	当院呼吸器科外来における急性 咳嗽の原因疾患に関する検討	アレルギー67(1) : 46-51	2018年

## 外科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
恒松 一郎 平松 昌子、小林 稔弘、 河野 恵美子、今井 義朗、 前沢 早紀	腹腔鏡下に切除した後腹膜 PEComa の1例	日本臨床外科学会雑誌 78(4):853-858	2017年4月
平松 昌子	内視鏡外科時代における外科医 の教育	日本外科学会雑誌 118 (5) : 497	2017年9月
平松 昌子	特別企画(6)「女性外科医総活 躍社会を目指して」 4. 外科医総活躍社会実現のため	日本外科学会雑誌 119 (1) : 103-105	2018年1月

その他 (Media Seminar の取材掲載)

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
平松 昌子 力山 敏樹 (自治医科大学埼 玉医療センター、一般・消 化器外科教授)、長谷川 英美 (自治医科大学埼玉医療セン ター、一般・消化器外科)	今週の話題：女性外科医のキャ リアとライフイベント両立を目 指す	Medical Tribune Vol. 51, No. 7, p3	2018年
平松 昌子 力山 敏樹 (自治医科大学埼 玉医療センター、一般・消 化器外科教授)、長谷川 英美 (自治医科大学埼玉医療セン ター、一般・消化器外科)	取材速報	放射線科情報ポータル Rad Fan ONLINE	2018年 3月14日

## 形成外科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
田辺 敦子	シリコンによると考えられる隆 鼻術から40年以上経過後に外 鼻変形をきたした2症例の検討	日本美容外科学会会報：第40巻、 第1号、9-17頁	2018年3月

## 皮膚科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Yokogawa N, Eto H, Tanikawa A, Ikeda T, Yamamoto K, Takahashi T, Mizukami H, Sato T, Yokota N, Furukawa F	Effects of hydroxychloroquine on cutaneous lupus erythematosus: A multi-center double-blind randomized parallel-group trial.	Arthritis Rheumatol 69:791- 799	2017年
Kawashima M, Sato S, Furukawa F, Matsunaga K, Akamatsu H, Igarashi A, Tsunemi Y, Hayashi N, Yamamoto Y, Nagare T, Katsuramaki T	Twelve-week, multicenter, placebo-controlled, randomized, double-blind, parallel-group, comparative phase II/III study of benzoyl peroxide gel in patients with acne vulgaris: A secondary publication.	J Dermatol. 44:774-782	2017年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kunimoto K, Mikita N, Kanazawa N, Furukawa F	Case of Legionella pneumophila pneumonia (legionellosis) developed in a psoriatic arthritis patient receiving adalimumab.	J Dermatol 44:982-983	2017年
Yasuda H, Ikeda T, Hamaguchi Y, Furukawa F	Clinically amyopathic dermatomyositis with rapidly progressive interstitial pneumonia:The relation between the disease activity and the serum interleukin-6 level.	J Dermatol. 44:1164-1167	2017年
Yasuda H, Kanazawa N, Matsuda M, Hamada T, Furumura M, Hashimoto T, Nakama T, Furukawa F	A case of Hailey-Hailey disease with a novel mutation in the ATP2C1 gene.	Ann Dermatol 29:642-644	2017年
Matsunaka H, Yamamoto Y, Furukawa F	Non-invasive quantification of melanin in the stratum corneum: A novel indicator of skin lesions in pigmentation diseases.	Skin Res Technol 23:104-111	2017年
Kaminaka C, Furukawa F, Yamamoto Y	The Clinical and Histological Effect of a Low-Fluence Q-Switched 1,064-nm Neodymium: Yttrium-Aluminum-Garnet Laser for the Treatment of Melasma and Solar Lentigenes in Asians: Prospective, Randomized, and Split-Face Comparative Study.	Dermatol Surg. 43:1120-1133	2017年
Elman SA, Joyce C, Nyberg F, Furukawa F, Goodfield M, Hasegawa M,Marinovic B, Szepietowski J, Dutz J, Werth VP, Merola JF	Developing classification criteria in discoid lupus erythematosus: results of a Delphi exercise.	J Am Acad Dermatol 77:261-267	2017年
Fujimoto M, Matsuzaki I, Yamamoto Y, Warigaya K, Iwahashi Y, Kojima F, Furukawa F, Murata SI	Adipophilin expression in cutaneous malignant melanoma	J Cutan Pathol 44: 228-236	2017年
Tanaka M, Yamamoto Y, Misawa E, Nabeshima K, Saito M, Yamauchi K, Abe F, Furukawa F	Effects of Aloe sterol supplementation on skin elasticity, hydration, and collagen score: a 12-week double-blind, randomized, controlled trial.	Skin Pharmacol Physiol 29:309-317	2017年
Misawa E, Tanaka M, Saito M, Nabeshima K, Yao R, Yamauchi K, Abe F, Yamamoto Y,Furukawa F	Protective effects of Aloe sterols against UVB-induced photoaging in hairless mice.	Photodermatol Photoimmunol Photomed. 33:101-111	2017年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Watanabe S, Ohnishi T, Yuasa A, Kadota JI, Iwata S, Kaku M, Watanabe A, Sato J, Hanaki H, Manabe M, Suzuki T, Otsuka F, Aihara M, Iozumi K, Tamaki T, Funada Y, Shinozaki M, Kobayashi M, Okuda M, Kikyo G, Kikuchi K, Okada Y, Takeshima M, Kaneko O, Ogawa N, Ito R, Okuyama R, Shimada S, Shimizu T, Hatta N, Maeda M, Tsutsui K, Tanaka T, Miyachi Y, Asada H, Furukawa F, Kurokawa I, Iwatsuki K, Hide M, Muto M, Yamamoto O, Morita E, Takagaki K, Kubota Y, Sayama K, Sano S, Furue M, Kanekura T	The first nationwide surveillance of antibacterial susceptibility patterns of pathogens isolated from skin and soft-tissue infections in Dermatology of Japan.	J Infect Chemother 23:503-511	2017年
Ito T, Yoshimasu T, Furukawa F, Nakamura M, Tokura Y	Three-microneedle device as an effective option for intralesional corticosteroid administration for the treatment of alopecia areata.	J Dermatol. 2017 Nov;44(11):e304-e305. doi: 10.1111/1346-8138.13950. Epub	2017年
Furukawa F	From the desk of the Editor-in-Chief: Welcome to the first issue of Trends in Immunotherapy	Trends Immunother 1: 1	2017年
Naotaka Doi, Yumi Nakatani, Yutaka Inaba, Toshikazu Kondo, Fukumi Furukawa, Nobuo Kanazawa	Acute-phase effects of single-time topical or systemic corticosteroid application immediately after hot water-induced burn injury of various grades.	Trends Immunother 1: 19-27	2017年
Furukawa F	Introducing the Editor-in-Chief of Trends in Immunotherapy	Trends Immunother 1: 54-56	2017年
Mikita N, Inaba Y, Yoshimasu T, Nobuo Kanazawa, Fukumi Furukawa	Mast cells in collagen diseases.	Trends Immunother 1: 75-81	2017年
Mana Nishiguchi, Fukumi Furukawa, Takaharu Ikeda	Treatment of a case with anti-MDA5 antibody positive clinically amyopathic dermatomyositis complicated with stomach cancer and colon cancer.	Trends Immunother 1: 89-92	2017年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Furukawa F	Hydroxychloroquine in lupus erythematosus, a new horizon of the old drug.	Trends Immunother 1: 99-100	2017年
Furukawa F	New horizon of cancer vaccine therapy using dendritic cells made from pluripotent pluripotent stem cells.	Trends Immunother 2(1): 625. doi: 10.24294/ti.v2i1.625.	2018年
Mikita N, Furukawa F	Transient effectiveness of dapsone for skin lesions in a patient with discoid lupus Erythematosus	Trends Immunother2(1):565. doi:10.24294/ti.v2i1.565	2018年
Furukawa F	Dapsone and NETs Trends in Immunotherapy	Trends Immunother 2(1): 634. doi: 10.24294/ti.v2i1.634.	2018年
Takashi Yoshimasu, Naoya Mikita, Takaharu Ikeda, Nobuo Kanazawa1, Fukumi Furukawa, Masatoshi Jinnin	Combination use of triamcinolone acetonide and immunotherapy as a new therapeutic option in alopecia totalis.	Trends Immunother 2(1): 149. doi: 10.24294/ti.v2i1.149.	2018年
Ayaki T, Murata K, Kanazawa N, Uruha A, Nishino I, Omura K, Sugie K, Kasagi S, Mori M, Ueno M, Furukawa F, Ito H, Urushitani M, Takahashi R	Myositis and muscular inclusions in Nakajo-Nishimura syndrome.	J Neurol Sci 381:268-269	2017年
Mori M, Murata KY, Kanazawa N, Ayaki T, Furukawa F, Ito H	Clinical and pathological features in patients with Nakajo-Nishimura syndrome and inclusion body myositis.	J Neurol Sci 381:819-820	2017年
古川 福実	エリテマトーデスに対するヒドロキシクロロキン療法	臨床皮膚科 71:96-100	2017年
古川 福実	ループスエリテマトーデスの皮膚病変の最近の話題	皮膚臨床 59 : 1251-1260	2017年
川口 亜美、奥平 尚子、土井 直孝、三木田 直哉、金澤 伸雄、古川 福実、吉益 隆	PUVA-bath 療法を施行した Sezary 症候群の 1 例	皮膚臨床 59 : 1214 - 1215	2017年
原 真理子、国本 佳代、古川 福実、山本 有紀	エトレチナート内服が有効であった Verrucous carcinoma の一例	Skin Cancer 30:203-207	2017年
前田 珠未、三木田 直哉、稲葉 豊、土井 直孝、国本 佳代、池田 高治、上中 智香子、金澤 伸雄、古川 福実、山本 有紀	和歌山県立医科大学皮膚科における顔面に生じた基底細胞癌の発生部位について	和歌山県皮膚科医会誌 9:71-74	2017年
稲葉 豊、土井 直孝、池田 高治、古川 福実、山本 有紀	足趾、腓腹筋に壊疽を生じた抗リン脂質抗体症候群の 1 例	日本皮膚外科学会誌 21 : 32-33	2017年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
金澤 伸雄、上中 智香子、野際 智子、小寺 雅也、白田 俊和、石地 尚興、金蔵 拓郎、古川 福実	膿疱性乾癬に続発した有棘細胞癌における新規 IL36RN 遺伝子変異	第 31 回日本乾癬学会学術大会記録集 12_118	2017 年
川口 亜美、国本 佳代、奥平 尚子、野際 智子、古川 福実、山本 有紀	乳頭部に生じた悪性黒色腫の 1 例	皮膚の科学 16 巻 6 号 p.399-403	2017 年
奥野 愛香 樋上 敦、鈴木 健司	左第Ⅲ趾顆粒細胞腫	皮膚診療：40 (4)；377-380, 2018	2018 年
Hirakawa Y Okuno A, Kimura D, Okuwa T, Furukawa F	Hydroxychloroquine enhanced urticarial reaction in a patient with discoid lupus erythematosus	Trends in Immunotherapy 1：121 - 123	2017 年

その他（ガイドライン作成）

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
古川 福実、池田 高治、石黒 直子、宇月 美和、尾崎 承一、勝岡 憲生、幸野 健、川上 民裕、川名 誠司、小寺 雅也、澤井 高志、沢田 泰之、清島 真理子、谷川 瑛子、陳 科榮、長谷川 稔	日本皮膚科学会 血管炎・血管障害診療ガイドライン 2016 年改訂版	日本皮膚科学会雑誌 127:299-415	2017 年
林 伸和、赤松 浩彦、岩月 啓氏、大森 遼子、上中 智香子、黒川 一郎、幸野 健、小林 美和、谷岡 未樹、古川 福実、古村 南夫、山崎 修、山崎 研志、山本 有紀、宮地 良樹、川島 眞	日本皮膚科学会ガイドライン 尋常性痤瘡治療ガイドライン 2017	日本皮膚科学会雑誌 127:1261-1302	2017 年

その他（研究報告）

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
関東 裕美、古川 福実、山本 有紀、鷺崎 久美子	エステティックサービスにおける健康被害の実態把握及び原因の究明	厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業「エステティックの施術による身体への危害についての原因究明及び衛生管理に関する研究」平成 28 年度分担研究報告書 17-24	2017 年 3 月
古川 福実、金澤 伸雄、池田 高治、上中 智香子、三木田 直哉、国本 佳代、稲葉 豊、中谷 友美、井田 弘明、吉浦 孝一郎	自己炎症性皮膚疾患（中條－西村症候群など）の解析	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究」平成 28 年度総括・分担研究報告書 22-28	2017 年 3 月
古川 福実、金澤 伸雄、池田 高治、上中 智香子、三木田 直哉、国本 佳代、稲葉 豊、中谷 友美、井田 弘明、吉浦 孝一郎	自己炎症性皮膚疾患（中條－西村症候群など）の解析	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究」平成 26-28 年度総合研究報告書 34-44	2017 年 3 月

その他

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	発行
古川 福実	「好奇心」と「なんでや？」にみちた回診	日本医事新報 4884：3	2017年
古川 福実	巻頭言 Derma Dream 的研究のススメ	和歌山医学 68：43	2017年
古川 福実	変貌する自己 左右（とにかく）なんとか過ごしてはきた	京都大学大学院医学研究科皮膚科学年報 2016年度、106-114	2017年
古川 福実	教室便り 皮膚科学講座 皮膚エリテマトーデスの治療薬ヒドロキシクロロキンの発売にあたって	和歌山県立医科大学医学部同窓会誌 9：126	2017年
古川 福実	Derma Dream 教授退職記念講演会から	和歌山県皮膚科医会誌 9:6-14	2017年
古川 福実	名誉会員表彰を受けましたー第41回日本研究皮膚科学会に参加して	和歌山県皮膚科医会誌 9:35ー37	2017年

その他（医療従事者専用サイト）

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	配信日
古川 福実	【キーワードでみるアレルギー性皮膚疾患】OD錠(口腔内崩壊錠)	患者さんへのメリット、M 3	2017年 10月24日配信
古川 福実	【キーワードでみるアレルギー性皮膚疾患】口腔内崩壊錠 (OD)錠	QOL への影響、M 3	2017年 11月21日配信

その他（医療検索サイト）

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	掲載年
古川 福実	医師に出会う <a href="https://medicalnote.jp/doctors/151117-000008-NONBTN">https://medicalnote.jp/doctors/151117-000008-NONBTN</a> <a href="https://medicalnote.jp/doctors/stories/68">https://medicalnote.jp/doctors/stories/68</a>	Medical Note	2017年
古川 福実	ドクターズガイド <a href="https://medical.jiji.com/doctor/2216">https://medical.jiji.com/doctor/2216</a>	時事メディカル	2017年

その他（雑報 挨拶等）

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	発行
古川 福実	2018年版 国民のため の名医ランキングーいざという時の頼れる医師ガイド 全国名医 514 人厳選	桜の花出版編集部，発行 桜の花出版 発売 星雲社、「アレルギー・皮膚科」部門 P387	2017年
古川 福実	関白殿下片山一郎先生と同じ時代をシェアしたことに感謝です	片山一郎教授 退官記念寄稿集 8-10	2018年
古川 福実	新任院長紹介・年頭所感	院長連盟通信 67:94-95	2018年

## 眼科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kimura D Sato T, Suzuki H, Kohmoto R, Fukumoto M, Tajiri K, Kobayashi T, Kida T, Ikeda T	A case of Rhegmatogenous Retinal Detachment at Late Stage following Endogenous Bacterial Endophthalmitis.	Case Rep Ophthalmol. 8(2) 334-340	2017年6月
根元 栄美佳 木村 大作、大須賀 翔、 高井 章子、森下 清太、 福本 雅格、佐藤 孝樹、 小林 崇俊、喜田 照代、 池田 恒彦	網膜有髄神経線維を伴う硝子体 黄斑牽引症候群に対して硝子体 手術を施行した1例	臨床眼科 71(7) 1099-1104	2017年7月
家久未 啓吾 鈴木 浩之、佐藤 孝樹、 河本 良輔、福本 雅格、 木村 大作、喜田 照代、 池田 恒彦	眼内異物放置例に晩発した裂孔 原性網膜剥離の1例	臨床眼科紀要 10(9) 726-730	2017年10月
Kohmoto R Kobayashi T, Sato T, Kimura D, Fukumoto M, Tajiri K, Kida , Ikeda T	A case of proliferative diabetic retinopathy in which scintillating particles appeared in the intra vitreal cavity after laser photocoagulation.	BMC Ophthalmol. 17:254	2017年12月
Kimura D Sato T, Nemoto E, Osuka S, Fujita Y, Fukumoto M, Kida T, Ikeda T	A Case of Serious Eye Injury Caused by a Mistaken Injection of Methylrosaniline Chloride During Vitreous Surgery.	Ophthalmic Surg Lasers Imaging Retina 48:1010- 1015.	2017年12月
Kimura D Sato T, Oosuka S, Kohmoto R, Fukumoto M, Mimura M, Tajiri K, Kobayashi T, Kida T, Ikeda T	Case Report of a Family Affected by Stickler Syndrome in Which Rhegmatogenous Retinal Detachment Occurred in Five Eyes of Three Siblings.	Case Rep Ophthalmol. 9:1-8.	2018年1月
Kimura D Kida T, Sato T, Fukumoto M, Kohmoto R, Kojima S, Mizuno H, Sakaguchi H, Sugawara J, Ikeda T	A Case of Retinal Detachment with Unique Optical Coherence Tomography Findings after Gamma knife® Radiosurgery Treatment for Choroidal Melanoma.	Case Rep Ophthalmol. 9(1): 17-23.	2018年1月

## 薬剤部

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
小島 一晃 1, 濱武 清範 1, 福井 美礼 1, 美和 孝之 1, 仲 忠士 1, 松本 弘誠 1, 小西 史子 1, 中西 輝 1, 岩井 真里絵 1, 奥村 優介 1, 友尾 幸司 2, 千葉 渉 1,3 1 高槻赤十字病院薬剤部, 2 大阪薬科大学薬品物理化学 研究室, 3 高槻赤十字病院副 院長	携帯型持続注入ポンプを用いた 持続投与法におけるフルオロウ ラシル先発品・後発品の同等性 の検証	日本病院薬剤師会雑誌 53(4), 411-416,	2017年

## 検査部

その他（症例報告）

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
平岩 理雅 奥洞 智太、扇田 裕允、 森 京子、大関 ゆか、 成田 努、玉井 浩	血漿におけるPCR法が早期確 定診断に有用であった伝染性単 核球症の一例	医学検査 VOL.66 NO.6 2017 691-695	2017年11月

その他（資料）

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
扇田 裕允 平岩 理雅、奥洞 智太、 大関 ゆか、瀧北 彰一、 成田 努、玉井 浩	小児科における細菌性腸炎（腸 管出血性大腸菌、サルモネラ腸 炎、カンピロバクター腸炎）の 糞便からのPCR法による迅速診 断法の構築	医学検査 VOL.67 NO.1 2018 78～83	2018年1月

## 《講 演》

### 糖尿病・内分泌・生活習慣病科

#### 学会発表

##### 一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
池田 有紀 中森 翔平、山本 祐樹、 植田 洋平、田原 裕美子、 金子 至寿佳	GLP1 受容体作動薬デュラグルチド週1回投与の1年間の有用性と安全性の検討	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	愛知	29年 4月28日
原田 優介 井澤 岳、奥野 岳、植田 洋平、 田原 裕美子、金子 至寿佳	SGLT2 阻害薬における重大副作用4症例について	第54回日本糖尿病学会近畿地方会	大阪	29年 11月11日
Shizuka Kaneko Ryoko Michibata	Dietary Education Toward to Aged Society.	American Diabetes Association's 77rd Scientific Sessions. (ADA)	San diego	Jun 2017

##### 特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	より効果的、効率的な治療を目指して~IdegAspが混合製剤の壁を破る~	Diabetes Scientific Meeting in Fukui	福井	29年 4月6日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関する講演	たつの市揖保郡医師会学術講演会	兵庫	29年 4月13日
金子 至寿佳	糖尿病の最新治療	神戸薬科大学同窓会大阪支部学術講演会	大阪	29年 4月16日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	第1回 Incretin Deep Dive GIFU	岐阜	29年 4月18日
金子 至寿佳	糖尿病治療薬の情報提供	田辺三菱製薬(株)講師招聘勉強会	大阪	29年 4月24日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関する講演	GLP-1 Open Conference 2017 in 丹波	兵庫	29年 4月27日
金子 至寿佳	インスリン製剤に関して	Insulin Open Conference in 宍粟	兵庫	29年 5月11日
金子 至寿佳	GLP-1製剤に関する講演	Diabetes Expert Meeting	鹿児島	29年 5月22日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関する講演	Diabetes Update Meeting in Koshigaya	埼玉	29年 5月24日
金子 至寿佳	三島医療圏病院薬剤師の糖尿病薬物治療における適正使用を含めた関連知識習得	糖尿病療育薬物治療セミナー	大阪	29年 5月27日
金子 至寿佳	ライゾデグに関する講演	糖尿病療育薬物治療セミナー	大阪	29年 5月27日
金子 至寿佳	ライゾデグに関する講演	Changing Diabetes in MITO	茨城	29年 5月29日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関して	糖尿病治療セミナー in 淡路	兵庫	29年 6月1日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	第17回北摂インスリン勉強会	大阪	29年 6月17日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳	糖尿病治療の知見を広める	Diabetes & Incretin Seminar in 三島	静岡	29年 6月19日
金子 至寿佳	最新の医学的知見の普及	第3回結果にコミットしたチーム医療	大阪	29年 6月22日
金子 至寿佳	食事について	総合学術講演会	大阪	29年 7月8日
金子 至寿佳	食育についての生徒保護者向けの講演	中学2年生保護者向け食育講義	京都	29年 7月8日
金子 至寿佳	三島エリアにおける糖尿病治療の発展のため、特に病診連携を密接に図る	第7回三島内科・眼科糖尿病連携フォーラム	大阪	29年 7月8日
金子 至寿佳	食育と糖尿病に関する講演	第27回本荘由利糖尿病勉強会	秋田	29年 7月12日
金子 至寿佳	自身の健康を守る力をつないでいく	読売健康講座 防ごう糖尿病！～詳しく知る予防の知識～	大阪	29年 7月15日
金子 至寿佳	糖尿病治療の知見を広める	Diabetes & Incretin Seminar in 三島	大阪	29年 7月29日
金子 至寿佳	より効果的、効率的な治療を目指して～IdegAspが混合製剤の壁を破る～	Insulin Analog Expert Meeting 2017	千葉	29年 8月1日
金子 至寿佳	インスリン製剤に関する講演	Insulin UP-to-date-Meeting in 南丹	京都	29年 8月5日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関して	糖尿病サマーセミナー	大阪	29年 8月24日
金子 至寿佳	防ごう糖尿病!夏休みに親子で考える!食べる物の選び方	読売健康講座	大阪	29年 8月26日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	TLC Expert meeting 2017	大阪	29年 10月15日
金子 至寿佳	内科又は糖尿病診療における栄養食事運動療法実践指導の実情と将来展望	第5回食事運動生活習慣をより良くする会	大阪	29年 10月21日
金子 至寿佳	泉南地方における医療の質および連携を深める	第3回 CARDS Summit	大阪	29年 10月28日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	GLP-1 セミナー in 青森	青森	29年 11月18日
金子 至寿佳	糖尿病関連知識向上	第124回糖尿病教育学習研究会	兵庫	29年 11月25日
金子 至寿佳	実臨床における糖尿病治療の実際について	Dr. レクチャーシリーズ	大阪	29年 12月18日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報	Diabetes & Incretin Seminar in 大阪	大阪	30年 2月1日
金子 至寿佳	糖尿病の最新知識	Diabetes & Incretin Seminar in 名古屋西	愛知	30年 2月7日
原田 優介	糖尿病周辺知識の向上	第12回糖尿病臨床フォーラム	大阪	30年 2月10日
金子 至寿佳	糖尿病の最新知識	Diabetes & Incretin Seminar in 東神戸	兵庫	30年 2月23日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳	先生、糖尿病にどう対処しますか?	読売健康講座	大阪	30年 3月2日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	トルリシティ全国 Web 講演会	大阪	30年 3月8日

座長

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関して	第25回北摂四医師会北摂糖尿病フォーラム	大阪	29年 4月8日
金子 至寿佳	1型糖尿病1	第54回日本糖尿病学会近畿地方会	大阪	29年 11月11日

Web講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳	メトホルミンの適正使用の推進	糖尿病 Web 講演会	大阪	2018年 3月

海外 Web 講演 (全世界発信)

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
Shizuka Kaneko	Insulin Intensification Strategies -An Expert Perspective from Asia-Pacific-	MedCape Lecture		2017年 11月

出前授業

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
金子 至寿佳	中学3年向け「技術家庭(家庭分野)」	大阪医科薬科大学高槻中学・高等学校	大阪	30年2月 3,5,8日

緩和ケア科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
橋本 典夫、金村 誠哲 岸本 寛史、木元 道雄	高槻赤十字病院緩和ケア病棟における当院外からの入院患者と当院他科より緩和ケアチーム介入後の転棟患者の比較	第22回日本緩和医療学会	横浜	29年 6月23日
金村 誠哲 橋本 典夫、秋山 加奈子、 佐賀 昭子、松下 めぐみ、 江口 英希、恒松 一郎、 木元 道雄、岸本 寛史	当院緩和ケア病棟におけるアルコール擦式消毒薬による手指衛生状況の実態調査	第22回日本緩和医療学会	横浜	29年 6月23日

特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
橋本 典夫	緩和ケア研修	箕面市立病院緩和ケア研修会	大阪	29年 10月22日
金村 誠哲	緩和ケア研修	箕面市立病院緩和ケア研修会	大阪	29年 10月29日
木元 道雄	緩和ケア研修	大阪医科大学付属病院 緩和ケア研修会	大阪	29年 5月27日

座長

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
橋本 典夫	緩和ケアにおける治療学知識の普及	第23回大阪緩和医療フォーラム	大阪	29年 7月1日

## 緩和ケア診療科

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
今村 愛子 岸本 寛史	せん妄患者さんが体験している世界や感情に寄り添う視点を持つこと	第 59 回三島地区緩和ケア研究会	高槻	2017 年 7 月 21 日
亀井 由美 北村 弥生、原武 麻里、 岡村 宏美、金村 誠哲、 岸本 寛史	患者の語りから見たアロマセラピーマッサージの意義—緩和ケアチームの取り組みから	第 22 回日本緩和医療学会学術大会	パシフィコ横浜	2017 年 6 月 24 日
藤原 和子 原武 麻里、出島 麻理	在宅緩和ケアサロンの9年間の活動報告	第 41 回死の臨床研究会	秋田	2017 年 10 月 7 日
岡村宏美	地震災害救護者に対する心理的支援を振り返る	第 36 回日本心理臨床学会	横浜	2017 年 11 月 19 日

### 特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
岸本 寛史	ニューロサイコアナリシスへの招待—バウムテストへの示唆	岐阜県臨床心理士会	岐阜	2017 年 6 月 25 日
岸本 寛史	がんという異世界—患者の語りや表現を手掛かりに理解の糸口を探る	北野病院	大阪	2017 年 9 月 29 日
岸本 寛史	語りに基づく緩和ケア	第 6 回高松市民病院学会	高松	2017 年 10 月 14 日
岸本 寛史	バウムテストの治療促進的要因	静岡県臨床心理士会	静岡	2017 年 10 月 22 日
岸本 寛史	白血病患者の体験する異界	Team Hematology Forum	福岡	2017 年 10 月 28 日
岸本 寛史	緩和ケアという物語 - 正しい説明という暴力	神戸市立西神戸医療センターがん総合診療部緩和ケアチーム主催合同カンファレンス	兵庫	2017 年 11 月 9 日
岸本 寛史	バウムテストの開通効果	京都府臨床心理士会	京都	2017 年 11 月 26 日
岸本 寛史	緩和ケアの基盤としての語り—エビデンスの盲点	弘前大学がんプロセミナー	弘前	2018 年 3 月 11 日

### シンポジウム

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
高橋 里江、金子 真理子 井上 美穂、岸本 寛史、 木下 寛也、梅田 恵	ケアギバーのストレス・燃え尽き症候群	第 22 回日本緩和医療学会	横浜	2017 年 6 月 24 日
水俣 健一、柏谷 優子 小川 弘美、岸本 寛史 林 章敏、久山 幸恵	ケアする私を客観視するために	第 41 回死の臨床研究会	秋田	2017 年 10 月 7 日
平尾 和之、岸本 寛史、 久保田 泰孝、成田 廣一、 秋本 倫子	ニューロサイコアナリシスへの招待	第 36 回日本心理臨床学会	横浜	2017 年 11 月 18 日
岸本 寛史	緩和ケア	第 20 回日本臨床心理身体運動学会	浜松	2017 年 12 月 16 日
久保田 泰孝、成田 廣一 岸本 寛史、秋本 倫子	short introduction to "Neuropsychanalysis in practice" and "Unlocking the brain"	第 7 回神経精神分析ワークショップ	滋賀	2018 年 3 月 6 日

その他（座長）

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
津田 真 岸本 寛史	精神科医が体験している緩和ケアの世界	第 59 回三島地区緩和ケア研究会	高槻	2017 年 7 月 21 日

その他（指定討論者）

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
小坂 和子 岸本 寛史	心身症女性の長期心理療法過程—自分だけの象徴の創成	第 6 回日本ユング心理学会	米子	2017 年 6 月 18 日
草野 直子 岸本 寛史	時間的展望におけるノスタルジーの意味	第 36 回日本心理臨床学会	横浜	2017 年 11 月 20 日
槇山 春香 岸本 寛史	食道がんの終末期患者との面接	第 20 回日本臨床心理身体運動学会	浜松	2017 年 12 月 17 日

その他（講義）

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
岸本 寛史	患者の基本的権利と自己決定権・インフォームドコンセント・守秘義務	大阪薬科大学	大阪	2017 年 4 月 25 日、 5 月 23 日、 6 月 13 日、 6 月 27 日
岸本 寛史	薬物治療学実習	同志社女子大学	京都	2017 年 6 月 1 日、 6 月 29 日
岸本 寛史	「医学コミュニケーション論」 医学部1年生講義	大阪市立大学	大阪	2017 年 9 月 28 日
岸本 寛史	全人的医療学(3回生)	関西医科大学	大阪	2017 年 10 月 12 日
岸本 寛史	緩和医療概論⑤・緩和医療の実践(緩和ケア医の立場から) ③	上智大学グリーンケア研究所	大阪	2017 年 12 月 20 日
岸本 寛史	臨床薬剤学2	同志社女子大学	京都	2018 年 1 月 16 日

その他（集中講義）

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
岸本 寛史	心身医学特論	仁愛大学	福井	2017 年 8 月 31 日 - 9 月 2 日
岸本 寛史	身体症状の意味論	常葉大学	浜松	2018 年 2 月 22 日 - 24 日

血液腫瘍内科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
坂本 宗一郎	有害事象により TKI 変更を要した CML の 2 症例	MPN/CML X Conference	大阪	29 年 5 月 20 日
坂本 宗一郎	アザシチジン治療を長期継続後に臍帯血移植を施行した高齢者骨髄異形成症候群の 1 例	第 107 回近畿血液学地方会	京都	29 年 6 月 17 日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
岡田 睦実 井澤 悠、坂本 宗一郎、 安齋 尚之、馬止 裕、 田嶋 政郎	亜急性期感染心内膜炎、糸 球体腎炎に合併した血球貪食 症候群 HPS の一例	第 12 回 Meet the Hematologists	京都	29 年 7 月 1 日
坂本 宗一郎	リンパ節の病気	市民公開講座	高槻	29 年 7 月 1 日
坂本 宗一郎	アザシチジン治療に抵抗性と なり臍帯血移植を施行した高 齢者 MDS の 1 例	第 7 回 OSAKA MDS FORUM	大阪	29 年 7 月 21 日
原田 優介 岡田 睦実、坂本 宗一郎、 恩田 佳幸、馬止 裕、 安齋 尚之、田嶋 政郎	臍帯血移植後に意識障害を合 併した症例についての後方視 的検討	第 40 回日本造血細胞移植学 会総会	北海道	30 年 2 月 2 日

一般演題（ポスター）

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
Mutsumi Okada Souichiro Sakamoto、 Yoshiyuki Onda、 Naoyuki Anzai、 Hiroshi Umadome、 Masaro Tashima	Successful rituximab therapy in refractory nephrotic syndrome After allo HSCT、 possible renal GVHD	第 79 回日本血液学会学術 集会	東京	29 年 10 月 20 日

特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
安齋 尚之	血液疾患診療の実際	MR 研修会	大阪	29 年 7 月 6 日
安齋 尚之	血液疾患に関する最新の医学 的知見	FN associated with Chemotherapy Colloquium	大阪	29 年 9 月 1 日
安齋 尚之	血液腫瘍に関する最新の医学 的知見	社員研修会	大阪	29 年 12 月 21 日

座長

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
安齋 尚之	多発性骨髄腫に関する最新の 医学的知見	HOKUSETSU MYELOMA CONFERENCE	大阪	29 年 6 月 2 日
安齋 尚之	テーマ 「血液疾患」	第 10 回北摂北河内血液セミ ナー	大阪	29 年 6 月 15 日

循環器科

特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
大中 玄彦	動脈硬化の残余リスクに対す る治療介入	高槻市医師会学術講演会	大阪	29 年 9 月 21 日
大中 玄彦	糖尿病患者の心血管病予防に ついて	Mishima DKC Conference	大阪	30 年 1 月 27 日

座長

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
大中 玄彦	循環器疾患に関する最新の医 学的知見	第 35 回北摂心臓病談話会	大阪	30 年 3 月 17 日

学生・初期研修医セッション

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
山本 祐樹 大中 玄彦、岡本 文雄、 土居 裕幸、平野 玄起、 李 剛至	身体診察が診断に有効であった心室中隔穿孔の一例	第123回日本循環器学会近畿地方会	大阪	29年 6月24日

消化器科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
熊澤 佑介	EUS-FNAにより診断した後腹膜PEComa(Perivascular epithelioid cell tumor)	第103回日本消化器病学会総会	東京	29年 4月22日
Takuto Yoshioka Akihisa Fukuda, Tsutomu Chiba, Hiroshi Seno	Buil marks actively cycling gastric stem cells located in the isthmus in mice	Mc Carmick Place	Chicago	29年 5月6日
松島 勇介	肝疾患における診断と治療の知識向上	肝疾患の治療連携を考える会		29年 6月16日
池田 宗弘 神田 直樹、山中 雄介、 吉岡 拓人、松島 勇介、 濱田 達雄、熊澤 佑介、 松村 大志郎、今田 祐子、 玉田 尚	膵癌と鑑別を要した自己免疫性膵炎(AIP)の1例	日本内科学会近畿支部第217回近畿地方会	大阪	29年 9月16日
奥野 岳 池田 宗弘、神田 直樹、 山中 雄介、吉岡 拓人、 吉見 宏平、松島 勇介、 濱田 達雄、熊澤 佑介、 玉田 尚	超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)により確定診断した高度の炎症所見を伴った膵扁平上皮腺癌の1例	日本内科学会近畿支部第217回近畿地方会	大阪	29年 9月16日
原田 優介 池田 宗弘、神田 直樹、 松村 大志郎、熊澤 佑介、 松島 勇介、吉見 宏平、 吉岡 拓人、今田 祐子、 玉田 尚	食道小細胞癌・大腸腺癌重複癌症例に対し集学的治療を行い、内視鏡的に治療経過を観察しえた1例	第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	京都	29年 11月18日

特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
熊澤 佑介	消化器疾患診断の更なる向上	第25回o.k勉強会	大阪	29年 12月6日

シンポジウム

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
池田 宗弘 松島 勇介、吉岡 拓人、 山中 雄介、神田 直樹	胃癌ESD後に病理学的に適応外病変を診断された症例の長期予後についての検討	第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	京都	29年 11月18日
松村 大志郎 松島 勇介、濱田 達雄、 熊澤 佑介、神田 直樹	自己炎症性疾患に伴う下部消化管病変	第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	京都	29年 11月18日

## 座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
吉岡 拓人	Young Endoscopist Session 2 胃 1	第 99 回日本消化器内視鏡学 会近畿支部例会	京都	29 年 11 月 18 日

## その他 (ラジオ)

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
玉田 尚	C 型肝炎疾病啓発	ラジオによる C 型肝炎疾患啓 発番組	大阪	29 年 9 月 8 日

## その他 (コーディネーター)

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
神田 直樹	ハンズオンセミナー「消化管 ESD コース」	第 99 回日本消化器内視鏡学 会近畿支部例会	京都	29 年 11 月 18 日

## 呼吸器外科

## 一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
康 あんよん 山本 恭通、鳳山 絢乃、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、田尻 智子、 中村 保清、北 英夫、 千葉 渉、菅 理晴	肺腺癌術後の縦隔放射線照射 中に間質性肺炎の急性増悪か ら急速な転帰をとった 1 例	第 106 回日本肺癌学会関西 支部学術集会	大阪	29 年 6 月 24 日
菅 理晴 康 あんよん、山本 恭通、 千葉 渉	肺動脈舌区枝が高位分岐し左 上葉気管支頭側を走行してい た一手術例	第 79 回日本臨床外科学会 総会	東京	29 年 11 月 24 日
康 あんよん 山本 恭通、菅 理晴、千葉 渉、 鳳山 絢乃、祖開 暁彦、 後藤 健一、深田 寛子、 田尻 智子、中村 保清、 北 英夫	腎血管筋脂肪腫術後 18 年が 経過し多発肺結節影を呈した 一例	第 90 回日本呼吸器学会・ 第 120 回日本結核学会近畿 地方会	大阪	29 年 12 月 16 日

## 特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
千葉 渉	予防接種 (成人含) について	高槻市看護師会事務局	大阪	29 年 10 月 17 日
千葉 渉	呼吸器感染症について	平成 29 年度高槻市市民医学 講座	大阪	29 年 10 月 19 日
菅 理晴	肺癌の周術期治療について	大鵬薬品工業 (株) 社内研修会	大阪	29 年 10 月 20 日
千葉 渉	肺がんにおける治療の変遷と 当院の治療	第 28 回近畿赤十字病院リハ ビリテーション研修会	大阪	30 年 3 月 10 日

## 座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
千葉 渉	肺がんにおける PD - L 1 検 査の実践	Immuno Oncology NSCLC Forum	大阪	29 年 5 月 12 日

## 呼吸器科

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
中村 保清 佐渡 紀克、祖開 暁彦、 後藤 健一、田尻 智子、 北 英夫	当院における気管支喘息患者 に対するチオトロピウムの臨 床効果の検討	第 57 回日本呼吸器学会学術 講演会	東京	29 年 4 月 22 日
石山 祐美 (京都大学 呼吸器 内科) 松本 久子、金光 禎寛、 東田 有智、堀口 高彦、 北 英夫、桑原 和伸、 富井 啓介、大塚 浩二郎、 藤村 政樹、大倉 徳幸、 富田 桂公、横山 彰仁、 大西 広志、中野 恭幸、 小熊 哲也、保澤 総一郎、 新実 彰男、出原 裕美、 長崎 忠雄、小熊 毅、 田尻 智子、伊藤 功朗、 出原 賢治、三嶋 理晃、 森本 千絵、砂留 広伸、 太田 昭一郎、小野 純也、 玉利 真由美、広田 朝光、 井上 英樹、岩田 敏之	気管支喘息の病因・病態 血 清ペリオスチン低値喘息群に おける増悪因子	第 57 回日本呼吸器学会総会	東京	29 年 5 月 9 日
田尻 智子 佐渡 紀克、祖開 暁彦、 後藤 健一、中村 保清、 北 英夫	Adherence to Outpatient Clinic Vistits by Patients with Asthma	American Thoracic Society2017 International Conference	Washington, DC	29 年 5 月 19 ~ 24 日
田尻 智子	当院呼吸器外来における咳嗽 診療の実際	第 65 回京大呼吸器疾患 同好会	大阪	29 年 6 月 4 日
中村 保清 佐渡 紀克、祖開 暁彦、 後藤 健一、田尻 智子、 北 英夫、康 あんよん、 菅 理晴	当院において EWS を用いて 気管支充填術を施行した症例 の検討	第 40 回日本呼吸器内視鏡学 会学術集会	長崎	29 年 6 月 9 日
石山 祐美 (京都大学 大学院 呼吸器科) 松本 久子、金光 禎寛、 東田 有智、堀口 高彦、 北 英夫、桑原 和伸、 富井 啓介、大塚 浩二郎、 藤村 政樹、大倉 徳幸、 富田 桂公、横山 彰仁、 大西 広志、中野 恭幸、 小熊 哲也、保澤 総一郎、 新実 彰男、出原 賢治、 三嶋 理晃、森本 千絵、 砂留 広伸、出原 裕美、 長崎 忠雄、小熊 毅、 田尻 智子、伊藤 功朗、 太田 昭一郎、小野 純也、 玉利 真由美、広田 朝光、 井上 英樹、岩田 敏之	成人喘息の診断と検査 (バイ オマーカー) 血清ペリオスチ ン低値の喘息例における増悪 因子の検討	第 66 回日本アレルギー学会 総会	東京	29 年 6 月 16 日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
田尻 智子 鳳山 絢乃、祖開 暁彦、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫	成人重症喘息におけるフルチ カゾンフランカルボン酸エス テル/ピランテロール 配合剤の有効性の検討	第 66 回日本アレルギー学会 総会	東京	29 年 6 月 16 日
鳳山 絢乃 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、田尻 智子、 中村 保清、康 あんよん、 山本 恭通、菅 理晴、千葉 渉、 北 英夫	ペメトレキセド維持療法が 長期奏功した肺腺様嚢胞癌の 1 例	第 89 回日本呼吸器学会近畿 地方会 第 119 回日本結核 病学会近畿地方会	大阪	29 年 7 月 8 日
田尻 智子 藤田 修二、鳳山 絢乃、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	両側生体麻痺で発症した筋委 縮性側索硬化症の 1 例	第 89 回日本呼吸器学会近畿 地方会 第 119 回日本結核 病学会近畿地方会	大阪	29 年 7 月 8 日
北 英夫	CPAP を導入した喘息症例 の検討	第 6 回三島呼吸器疾患セミ ナー	高槻市	29 年 9 月 2 日
今戸 美奈子 田尻 智子、鳳山 絢乃、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	当院の喘息患者における吸入 再指導事例の検討	第 120 回日本結核病学会 第 90 回日本呼吸器学会近畿 地方会	大阪	29 年 12 月 16 日
田尻 智子 鳳山 絢乃、祖開 暁彦、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫	当院における好酸球性細気管 支炎の 2 例	第 120 回日本結核病学会近 畿地方会 第 90 回日本呼吸 器学会近畿地方会	大阪	29 年 12 月 16 日
後藤 健一 北 英夫、鳳山 絢乃、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、田尻 智子、 中村 保清、康 あんよん、 菅 理晴	当院における肺結核治療	第 120 回日本結核病学会近 畿地方会 第 90 回日本呼吸 器学会近畿地方会	大阪	29 年 12 月 16 日

パネルディスカッション ディスカッション

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
北 英夫	当院における重症喘息の取り 組み	大阪重症喘息学術講演会	大阪	29 年 5 月 11 日

パネリスト

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
北 英夫	リアルワールドにおける喘息 治療	Expert Meeting in Hokusetsu	大阪	29 年 12 月 7 日

座長 (司会)

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
北 英夫	喘息診療の課題とこれからの 対策について	高槻呼吸器疾患連携セミナー	高槻市	29 年 9 月 28 日

座長

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
北 英夫	症例提示 1 症例提示 2	Chugai Lung Cancer Meeting	大阪	29 年 11 月 28 日
北 英夫	IPF の診断と治療	Takatsuki IPF セミナー	高槻市	30 年 1 月

その他（報告）

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
祖開 暁彦	当院における間質性肺炎における抗繊維化薬の使用状況	Takatsuki IPF セミナー	高槻市	30年1月

消化器外科

一般演題

氏名	演題	学会名	開催地	月日
鈴木 悠介 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 今井 義朗、松田 純奈	単孔式腹腔鏡下腸瘻造設術 ～われわれの工夫～	第3回北摂外科治療研究会	大阪市	29年 7月29日
池田 有紀 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 今井 義朗、松田 純奈、 鈴木 悠介	術前診断し得た膵臓扁平上皮癌の一切除例	第200回近畿外科学会	京都市	29年 9月2日
今井 義朗 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 前沢 早紀	当院での単径ヘルニア手術	第4回大阪医科大学ヘルニアセミナー	高槻市	29年 11月18日
池田 有紀 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 今井 義朗、松田 純奈、 鈴木 悠介	他臓器合併切除にて治癒切除し得た膵臓扁平上皮癌の一例	第79回日本臨床外科学会	東京都	29年 11月24日
今井 義朗 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 松田 純奈、前沢 早紀	当院における急性胆嚢炎手術症例の検討	第79回日本臨床外科学会	東京都	29年 11月25日
鈴木 悠介 平松 昌子、恒松 一郎、 河野 恵美子、今井 義朗、 松田 純奈	我々の考案した単孔式腹腔鏡下腸瘻造設術	第30回日本内視鏡外科学会	京都市	29年 12月8日
今井 義朗 平松 昌子、恒松 一郎、 河野 恵美子、松田 純奈、 鈴木 悠介	手袋法による単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TEP）	第30回日本内視鏡外科学会	京都市	29年 12月9日
河野 恵美子 平松 昌子、野村 幸世、 大越 香江、梅澤 昭子、 北見 智恵、小林 美奈子、 廣野 誠子、島田 光生、 瀬戸 泰之、大辻 英吾	子育て女性外科医にも優しい アニマルラボトレーニング セミナー（MasterClass for AEGIS Women）	第30回日本内視鏡外科学会	京都市	29年 12月9日

一般演題（ポスター）

氏名	演題	学会名	開催地	月日
田代 圭太郎 河合 英、李 相雄、革島 悟史、 田中 亮、平松 昌子、 内山 和久	75歳以上高齢者食道癌切除症例における術式の検討	第71回日本食道学会学術集会	長野県 北佐久郡	29年 6月15日

氏名	演題	学会名	開催地	月日
河合 英 李 相雄、田代 圭太郎、 革島 悟、田中 亮、平松 昌子、 内山 和久	進行食道がんに対する術前補助化学療法の検討	第 71 回日本食道学会学術集会	長野県 北佐久郡	29 年 6 月 15 日

一般演題（ミニオーラル）

氏名	演題	学会名	開催地	月日
河野 恵美子 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、今井 義朗、 前沢 早紀	アンケート調査に基づいた「手動式」ならびに「電動自動式」自動縫合器の主観的評価	第 72 回日本消化器外科学会	金沢市	29 年 7 月 21 日
今井 義朗 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 前沢 早紀	前立腺全摘術後の鼠径ヘルニア修復術の検討	第 72 回日本消化器外科学会	金沢市	29 年 7 月 21 日

要望演題

氏名	演題	学会名	開催地	月日
大越 香江 野村 幸世、河野 恵美子、 梅澤 昭子、北見 智恵、 小林 美奈子、廣野 誠子、 島田 光生、瀬戸 泰之、 大辻 英吾、平松 昌子	女性医師支援のあゆみとこれから～消化器外科領域における次世代女性指導者の育成をめざして～	第 79 回日本臨床外科学会	東京都	29 年 11 月 24 日
河野 恵美子 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、今井 義朗、 松田 純奈、鈴木 悠介	web システムを活用した女性外科医教育	第 79 回日本臨床外科学会	東京都	29 年 11 月 24 日
今井 義朗 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 鈴木 悠介	下部消化管穿孔における予後予測因子の検討	第 54 回日本腹部救急医学会	東京都	30 年 3 月 8 日

特別講演

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子 小林 稔弘、恒松 一郎、 河野 恵美子、今井 義朗、 前沢 早紀	外科医総活躍社会実現のために	第 117 回日本外科学会	横浜市	29 年 4 月 29 日
河野 恵美子	外科女性医師のキャリア	人間関係教育 女性医師・研究者支援シンポジウム 2017	東京	29 年 5 月 27 日
平松 昌子	男性も、女性も、外科医として輝き続けるために	岡山消化器外科女性医師ワークショップ	岡山市	29 年 9 月 22 日
河野 恵美子	医療機関における女性医師の働き方、女性活躍の取り組みについて	顧客コラボレーション	東京都	29 年 11 月 27 日
河野 恵美子	今を生きる～患者・癌家族・看護師・医師を経験して今思うこと～	第 15 回三島圏域がん研究会	大阪府	30 年 1 月 25 日
平松 昌子	女性医師のキャリア・ステップ	平成 29 年度 医学生、研修医等をサポートするための会～女性医師のキャリアを支える～	高槻市	30 年 2 月 3 日

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子	女性医師のキャリア・ステップ 一男女ともに医師総活躍社会を目指して一	H29年度第2回日本赤十字病院臨床研修医研修会	東京都	30年 2月10日
河野 恵美子	女性外科医の現状とキャリア	AMDD Sales Women Network	大阪府	30年 2月16日
平松 昌子	食道癌治療の現状と周術期リハビリテーション	第28回日近畿赤十字病院リハビリテーション研修会	高槻市	30年 3月10日

#### 会長特別企画

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子	男女ともに「医師の総活躍社会」実現のために	第14回日本消化管学会	東京都	30年 2月9日

#### ポスターセッション

氏名	演題	学会名	開催地	月日
今井 義朗 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 高野 義章、前沢 早紀、 内山 和久	単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TEP）の定型化に向けて	第117回日本外科学会	横浜市	29年 4月28日

#### サージカル・フォーラム

氏名	演題	学会名	開催地	月日
河野 恵美子 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、今井 義朗、 高野 義章、前沢 早紀、 大平 猛、内山 和久	日本消化器外科学会会員による腹腔鏡用鉗子の主観的評価	第117回日本外科学会	横浜市	29年 4月29日
大越 香江 河野 恵美子、野村 幸世、 梅澤 昭子、北見 智恵、 小林 美奈子、廣野 誠子、 島田 光生、瀬戸 泰之、 大辻 英吾、平松 昌子	女性外科医のサブスペシャリティにおける活躍を目指して～消化器外科女性医師の活躍を応援する会の発足と今後の活動～	第117回日本外科学会	横浜市	29年 4月29日

#### 主題関連口演

氏名	演題	学会名	開催地	月日
河合 英 李 相雄、田代 圭太郎、 革島 悟、田中 亮、平松 昌子、 内山 和久	食道癌に対する胃管を用いた最適な再建方法の検討	第72回日本消化器外科学会	金沢市	29年 7月20日

#### ランド・テーブル・ディスカッション

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子	日本の女性外科医の現状	第12回胸部外科女性医師の会	札幌市	29年 9月28日

#### デジタルポスターセッション

氏名	演題	学会名	開催地	月日
今井 義朗 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 前沢 早紀	単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TEP）において最適なプラットフォームとは？	JDDW 2017	福岡市	29年 10月14日

氏名	演題	学会名	開催地	月日
河野 恵美子 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、今井 義朗、 前沢 早紀	切除不能進行大腸がんに対し TAS-102 投与中に重篤な経過をたどった薬剤性間質性肺炎の一例	JDDW 2017	福岡市	29年 10月14日
恒松 一郎 平松 昌子、小林 稔弘、 河野 恵美子、今井 義朗、 前沢 早紀、神田 直樹、 熊澤 佑介	Reduced Port Surgery にて 切除した後腹膜 PEComa の一例	JDDW 2017	福岡市	29年 10月14日

ジョイントセッション

氏名	演題	学会名	開催地	月日
Yoshiro Imai (今井 義朗) M Hiramatsu, T Kobayashi, I Tsunematsu, n E Kono, J Sakane, Y Suzuki	Standardization of single port totally extraperitoneal hernioplasty (SPTEP)	The 21st Asian Congress of Surgery	東京都	29年 11月23日

イベント (講演)

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子	男脳・女脳	女性外科医による「キャリア アップ10ミニッツ・セミナー PART5」	東京都	29年 11月23日

司会

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子	女性外科医による「キャリア アップ10ミニッツ・セミナー PART3」	女性外科医による「キャリア アップ10ミニッツ・セミナー PART5」	横浜市	29年 4月28日
平松 昌子	見て、触って、早期発見！	市民公開講座	高槻市	29年 7月1日
平松 昌子	女性外科医による「キャリア アップ10ミニッツ・セミナー PART4」	第72回日本消化器外科学会 総会・AEGIS-Women イベント	金沢市	29年 7月20日
河野 恵美子	腹腔鏡手術手技の技術向上と 医療機器の安全使用の習得	第1回 Master Class for AEGIS Women	神奈川県	30年 1月27日
平松 昌子	進化する癌化学療法	第32回高槻市医師会勤務医 会総会	高槻市	30年 2月1日

司会：特別企画

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子 馬場 長	ワークライフバランスを考えた スターサージャンへの道	第30回日本内視鏡外科学会	京都市	29年 12月8日

司会：研修医・医学生セッション

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子	十二指腸・小腸	第54回日本腹部救急医学会	東京都	30年 3月8日

コース・ディレクター、司会

氏名	演題	学会名	開催地	月日
平松 昌子	腹腔鏡手術手技の技術向上と 医療機器の安全使用の習得	第1回 MasterClass for AEHIS-Women	川崎市	30年 1月27・ 28日

座 長

氏 名	演 題	学会名	開催地	月 日
恒松 一郎	北摂地区の薬剤耐性菌状況に関する調査	第3回北摂感染ネットワーク	大阪	29年 9月30日
平松 昌子 矢野 隆子	イクメン、イクボスへの道、指南します。	大阪府医師会 女性医師支援のためのパネルディスカッション	高槻市	29年 11月4日
Masako Hiramatsu (平松 昌子) Chikara Kunisaki (國崎 主税)	Joint Session; Upper GI 2	The 21st Asian Congress of Surgery	東京都	29年 11月23日

座長：ポスター

氏 名	演 題	学会名	開催地	月 日
平松 昌子	集学的治療3	第71回 日本食道学会学術集会	長野県 北佐久郡	29年 6月16日

座長：一般口演

氏 名	演 題	学会名	開催地	月 日
平松 昌子	その他（男女共同参画、ナースプラクシショナー他）	第42回日本外科系連合学会	徳島市	29年 6月30日

座長：デジタルポスターセッション

氏 名	演 題	学会名	開催地	月 日
平松 昌子	食道・咽頭（補助化学療法）	JDDW 2017	福岡市	29年 10月13日

座長：ビデオシンポジウム7

氏 名	演 題	学会名	開催地	月 日
平松 昌子 二宮 基樹	開腹手術での起死回生の一手（胃）	第79回日本臨床外科学会	東京都	29年 11月24日

ビデオ出演

氏 名	タイトル	メディア名	月 日
河野 恵美子	Women In Surgery Empowerment Project (WISEP)	第79回日本臨床外科学会	29年 11月24日

乳腺外科

一般演題（ポスター）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小林 稔弘 前沢 早紀、今井 義朗、 平松 昌子	乳腺 Encapsulated papillary carcinoma の検討	第25回日本乳癌学会学術総会	福岡	29年 7月13日
前沢 早紀 小林 稔弘、今井 義朗、 平松 昌子	当院における浸潤性小葉癌の検討	第25回日本乳癌学会学術総会	福岡	29年 7月13日
田中 覚（大阪医科大学） 岩本 充彦、木村 光誠、 藤岡 大也、寺沢 理沙、 川口 佳奈子、松田 純奈、 碓 絢菜、前沢 早紀、 小林 稔弘、富永 智	HER2 陰性乳癌に対する術前化学療法後のテガフル・ウラシルによる術後化学療法の認容性確認試験	第25回日本乳癌学会学術総会	福岡	29年 7月14日

## 整形外科

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
小田 幸作 野口 郁代	当科における高齢者関節リウマチ治療の現状	第 61 回リウマチ学会総会・ 学術集会	福岡	29 年 4 月 20 日
市場 厚志 平井 宏典、岡吉 倫弘、 徳山 文人、小田 幸作	前十字靭帯再建術後膝の大腿骨と脛骨間の回旋異常の検討 解剖学的一重束再建術と二重束再建術での比較	第 90 回日本整形外科学会学術総会	宮城	29 年 5 月 18 日
市場 篤志 徳山 文人、小田 幸作	解剖学的前十字靭帯再建術後の患者立脚型評価による検討	日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	札幌	29 年 6 月 22 日
小田 幸作 石谷 貴、池田 邦之、 徳山 文人、市場 厚志	難治性脛骨疲労骨折に観血的骨接合術の施行した 1 例	第 129 回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会	富山	29 年 10 月 6 日

### 特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
小田 幸作	「しっかり学ぼう！関節リウマチ」	市民公開講座	大阪	29 年 11 月 11 日
小田 幸作	しっかり学ぼう！ 関節リウマチ	茨木イオンシネマ	大阪	29 年 3 月 12 日

### 座長

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
小田 幸作	リウマチ治療の最新の話～画像から見た生物学的製剤の評価～	第 15 回北摂リウマチ病診連携会	大阪	29 年 6 月 24 日
小田 幸作	「一筋縄でいかない高齢 RA 患者～症例ベースで考えよう～」	第 3 回大阪 RA Medical staff Meeting	大阪	29 年 8 月 20 日
小田 幸作	運動器慢性疼痛治療の最近の話	三島慢性疼痛治療フォーラム	大阪	29 年 8 月 24 日
小田 幸作	皮膚、関節疾患	高槻 阿武山 免疫 meeting	大阪	29 年 12 月 6 日
小田 幸作	「NSAIDs による消化管傷害の現状と対策」	北大阪リウマチセミナー	大阪	30 年 1 月 18 日

## 形成外科

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
小関 梨奈 田辺 敦子	臀部フルニエ壊疽の 1 例	第 117 回 関西形成外科学会学術集会	和歌山	29 年 11 月 26 日
田辺 敦子	ミュンヒハウゼン症候群の 1 例	第 58 回 KC 会	大阪	29 年 12 月 16 日

## 皮膚科

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
古川 福実	気をつけたい皮膚の変化	高槻赤十字病院市民公開講座	高槻市	2017年 7月1日
平川 結賀 奥野 愛香、木村 大作、 大桑 隆、古川 福実	ヒドロキシクロロキンが奏功したDLEの1例	第68回日本皮膚科学会中部支部学術大会	京都	2017年 10月7日
榎本 多津子、榎本 雅夫、 古川 福実	ヨモギクリームを使用中に花粉症症状を呈した2症例について	和歌山県医師会医学会総会	和歌山市	2017年 11月19日
奥野 愛香	症例検討 白癬治療剤使用経験	三島地区皮膚疾患研究会	高槻市	2017年 11月25日
古川 福実	和歌山県立医大におけるハンセン病をテーマとした人権教育について	第273回日本皮膚科学会岡山地方会・第85回総会	岡山	2018年 1月13日
金澤 伸雄 中谷 友美、原 知之、 稲葉 豊、国本 佳代、 古川 福実	自己炎症性皮膚疾患の現状	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究」平成29年関西支部班会議	大阪市立大学	2018年 2月6日
古川 福実	高槻赤十字病院紹介	高槻赤十字病院地域連携の会	大阪	2018年 2月17日
古川 福実	ここがポイント 皮膚科救急の勘所	高槻赤十字病院地域連携の会	大阪	2018年 2月17日
古川 福実	皮膚ループスエリテマトーデスの痒み	第466回大阪地方会プログラム（片山一郎大阪大学教授退官記念地方会）	大阪	2018年 3月10日

### 特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
古川 福実	ヒドロキシクロロキン開発物語	茨城県皮膚膠原病セミナー	茨城	2017年 5月11日
古川 福実	皮膚ループス 最近の話題	Lupus Erythematosus Expert Meeting in Yamaguchi	山口市	2017年 5月30日
古川 福実	教育講演 皮膚エリテマトーデスー世界の流れ	第41回日本小児皮膚科学会学術大会	福井	2017年 7月8・9日
奥野 愛香	小児によくみられる皮膚トラブル～アトピー性皮膚炎を中心に～	高槻市医師会 子供の健康講座	高槻市	2017年 10月25日
古川 福実	皮膚科最新の治療 ヒドロキシクロロキン	第81回日本皮膚科学会東京支部学術大会	東京	2017年 11月18日
古川 福実	慢性蕁麻疹治療のコツ	高槻阿武山免疫 Meeting	高槻市	2017年 12月6日
古川 福実	皮膚エリテマトーデス最近の話題	第324回沖縄皮膚科勉強会	那覇	2017年 12月7日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
古川 福実	糖尿病患者のフットケア	高槻赤十字病院糖尿病教室	高槻市	2017年 12月12日
奥野 愛香	～アトピー性皮膚炎と乾癬～	読売健康講座 皮膚のトラブルについて考えてみましょう！	大阪	2018年 2月10日
古川 福実	ループス 最近の話題	第120回日本皮膚科学会静岡地方会・第6回日本皮膚科学会静岡講習会	浜松市	2018年 3月3日

#### シンポジウム

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
平川 結賀 二木 杉子、前村 憲太郎、 古川 福実、森脇 真一	露光部皮膚悪性腫瘍における基底膜蛋白質nidogen 1の免疫組織学的検討	第28回太陽紫外線防御研究委員会シンポジウム	京都	2018年 3月16日

#### その他（メディア出演）

氏名	演題	メディア名	月日
古川 福実	第41回日本小児皮膚科学会教育講演 ループスの皮膚病変：世界の視点から	マルホ皮膚科セミナー、ラジオ NIKKEI	2018年 3月15日 放送

## 泌尿器科

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
徳地 弘 金谷 勲、武縄 淳	根治的前立腺全摘術後の切迫性尿失禁に対する治療効果	第105回日本泌尿器科学会総会	鹿児島	29年 4月23日
徳地 弘 金谷 勲、武縄 淳	多剤薬物療法で十分な効果が得られなかったBPH/LUTH症例に対するタダラフィル追加投与の効果	第105回日本泌尿器科学会総会	鹿児島	29年 4月23日

### 特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
徳治 弘	顕微鏡下開放根治的前立腺全摘除術	第36回泌尿器科手術研究会	宮崎	30年 1月27日

## 眼科

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
木村 大作 小林 崇俊、丸山 会里、 河本 良輔、福本 雅格、 喜田 照代、池田 恒彦	黄斑円孔を発症した家族性滲出性硝子体網膜症の1例	第56回日本網膜硝子体学会総会	東京	29年 12月2日

### 一般演題（ポスター）

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
木村 大作 喜田 照代、福本 雅格、 佐藤 孝樹、河本 良輔、 菅沢 淳、池田 恒彦	脈絡膜悪性黒色腫に対するガンマナイフ治療後に網膜剥離をきたした1例	第34回日本眼循環学会	大阪	29年 7月22日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
奥村 峻大 喜田 照代 (大阪医大)、 木村 大作、 河本 良輔 (大阪医大)、 福本 雅格 (大阪医大)、 佐藤 孝樹 (大阪医大)、 小林 崇俊 (大阪医大)、 池田 恒彦 (大阪医大)	Patchy ischemic retinal whitening を呈した乳頭血管炎の一例	第 56 回日本網膜硝子体学会総会	東京	29 年 12 月 2 日
根元 栄美佳 植木 麻里 (大阪医大)、 前田 美智子 (大阪医大)、 河本 良輔 (大阪医大)、 小 嶋 祥太 (大阪医大)、 杉山 哲也 (中野眼科医院)、 池田 恒彦 (大阪医大)	Successful treatment of bleb revision with ologen for bleb leak. 濾過胞漏出に ologen Collagen Matrix を用いた濾過胞再建術が奏功した 1 例	第 28 回日本緑内障学会	広島	29 年 9 月 30 日

特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
木村 大作	病診連携 眼科に紹介してほしい症例	第 7 回三島内科・眼科糖尿病連携フォーラム	大阪	29 年 7 月 8 日

## 耳鼻咽喉科

特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
藤田 修治	慢性副鼻腔炎以外の副鼻腔炎～真菌症、腫瘍に対する ESS～	茨木市耳鼻咽喉科領域研究会	大阪	29 年 8 月 5 日

一般演題 (ポスター)

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
藤田 修治	鼻型NK / T細胞リンパ腫の 2 症例	第 56 回日本鼻科学会総会・学術講演会	山梨	29 年 9 月 28 日

## 放射線科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
山室 正樹 松原 健夫、西村 大樹、 的場 直樹、後藤 公男	SPECT / CT 融合装置の初期使用経験	第 26 回北摂四医師会医学会総会	大阪	29 年 6 月 10 日

## リハビリテーション科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
井上 環	造血管細胞移植前後の理学療法についてー心理面に配慮した症例ー	第 28 回近畿ブロック赤十字病院リハビリテーション研修会	大阪	30 年 3 月 11 日
山崎 孝子	抗癌剤治療の副作用“手指しびれ感”に対する OT アプリケーション	第 28 回近畿ブロック赤十字病院リハビリテーション研修会	大阪	30 年 3 月 11 日

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
新地 史章	一般演題 セッション3	第44回日本赤十字リハビリテーション協会学術集会	京都	29年 11月18日
馬止 裕	治療の変遷と当院の治療	第28回近畿赤十字病院リハビリテーション研修会	大阪	30年 3月10日
新地 史章	生物の進化と肺癌	第28回近畿ブロック赤十字病院リハビリテーション研修会	大阪	30年 3月10日
倉繁 浩一	食道癌治療の変遷と周術期リハビリテーションのポイント	第28回近畿ブロック赤十字病院リハビリテーション研修会	大阪	30年 3月10日
野村 省二	メディカルスタッフが知っておくべき放射線療法	第28回近畿ブロック赤十字病院リハビリテーション研修会	大阪	30年 3月11日
倉繁 浩一	呼吸理学療法の臨床応用 ～がん～	第28回近畿ブロック赤十字病院リハビリテーション研修会	大阪	30年 3月11日

講 師

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
八木 紀子	関節リウマチのリハビリ	市民公開講座 しっかり学ぼう！関節リウマチ	大阪	29年 11月11日

その他（勉強会） 講師

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
新地 史章、不破 賢太郎	呼吸理学療法の基礎と実技	大阪府理学療法士会三島ブロック勉強会	大阪	29年 6月23日
菊池 直人、岸田 尚子	急性期から在宅までの呼吸リハビリテーションについて～周術期、COPD、在宅での呼吸理学療法～	大阪府理学療法士会三島ブロック勉強会	大阪	29年 9月15日

救急部

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
岡本 文雄	エコノミークラス症候群の見極め	第4回災害鍼灸コーディネーター研修オープン講座	京都	29年 12月16日

健診部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
河北 誠三郎 今田 祐子、神田 直樹、 荒木 孝一郎、佐藤 祐司、 吉田 桂、村上 かおり、 高橋 奈七	腹部超音波検査精度向上への 当院の取り組み	第58回日本人間ドック学会 学術大会	埼玉	29年 8月25日

栄養課

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
藤本 智子 桑田 由起江、廣田 眞希	当院における嚥下食の 取り組み	第53回 日本赤十字社医学会 総会	宮城	平成29年 10月24日 (火)

## 臨床工学技術課

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
中田 祐二 吉村 忠、成瀬 大輝、 吉田 真希、久保 慎太郎、 吉岡 健太郎	当院におけるフローチャートを用いた条件付きMRI対応ペースメーカーのMRI撮像について	第67回日本病院学会	兵庫	29年 7月21日
吉岡 健太郎 佐賀 昭子、松下 めぐみ、 迫田 博史、濱田 健司、 恒松 一郎	感染防止を地域全体に広げる感染制御チームの役割	第67回日本病院学会	兵庫	29年 7月21日
成瀬 大輝 吉村 忠、吉田 真希、 久保 慎太郎、吉岡 健太郎、 中田 祐二	当院の人工呼吸器研修会の取り組み	第67回日本病院学会	兵庫	29年 7月21日
中田 祐二	カプセル内視鏡検査の院内医療機器からの影響の調査	第53回日本赤十字社医学会総会	宮城	29年 10月23日

## 薬剤部

### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
足立 那々緒 1、中西 輝 1、 奥村 優介 1、通山 由香 1、 後藤 仁美 1、美和 孝之 1、 仲 忠士 1、松本 弘誠 1、 小西 史子 1、松島 勇介 2、 神田 直樹 2、小島 一晃 1 1 高槻赤十字病院薬剤部、 2 高槻赤十字病院消化器科部	非代償期肝硬変におけるトルバプタン導入のクリニカルパス運用	第53回 日本赤十字社医学会総会	仙台	29年10月
小島 一晃 1、濱武 清範 1、 小西 史子 1、美和 孝之 1、 仲 忠士 1、松本 弘誠 1、 中西 輝 1、奥村 優介 1、 飯田 有香 1、北 英夫 2、 菅 理晴 3 1 高槻赤十字病院薬剤部、 2 高槻赤十字病院呼吸器科部、 3 高槻赤十字病院呼吸器外科部	CDDP ショートハイドレーション法は安全か？	第27回 日本医療薬学会年会	千葉	29年11月
小西 史子、濱武 清範、 足立 那々緒、飯田 有香、 岩井 真里絵、梶 美里、中西 輝、 松本 弘誠、仲 忠士、美和 孝之、 小島 一晃 高槻赤十字病院薬剤部	非小細胞肺癌に対するNivolumab 治療の取り組みと使用経験	第27回 日本医療薬学会年会	千葉	29年11月
濱武 清範、小西 史子、 足立 那々緒、奥村 優介、 美和 孝之、仲 忠士、松本 弘誠、 中西 輝、岩井 真里絵、 福井 美礼、小島 一晃 高槻赤十字病院薬剤部	GEM+nab-PTX 療法における有効性と安全性	第27回 日本医療薬学会年会	千葉	29年11月

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
足立 那々緒 1、中西 輝 1、 奥村 優介 1、通山 由香 1、 後藤 仁美 1、美和 孝之 1、 仲 忠士 1、松本 弘誠 1、 小西 史子 1、松島 勇介 2、 神田 直樹 2、小島 一晃 1 1 高槻赤十字病院薬剤部、 2 高槻赤十字病院消化器科部	非代償期肝硬変におけるトル バプタン導入のクリニカルパ ス運用	近畿薬剤師合同学会大会	京都	30年2月

#### 特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
濱武 清範	進化する抗がん剤の副作用予 防：むかつき予防	高槻赤十字病院 市民公開講座	高槻	29年 7月1日
小島 一晃	クリニカルパス運用と薬剤師 外来	Immune-related adverse events 対策セミナー	大阪	29年 11月9日
小島 一晃	災害救護活動における薬剤師 の役割	北摂薬剤師セミナー	千里中央	29年 11月29日
小島 一晃	免疫チェックポイント阻害薬 における集約的クリニカルパ ス運用と薬剤師外来	第32回 高槻市医師会勤務 医会総会講演会	高槻	30年 2月1日

#### 検査部

##### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
扇田 裕允 奥洞 智太、平岩 理雅、 松下 めぐみ、恒松 一郎、 成田 努、千葉 渉	当院における MDRP の検出 状況とカルバペネマーゼ産生 菌検出方法の検討	第53回日本赤十字社医学会 総会	仙台	29年 10月24日
扇田 裕允 奥洞 智太、平岩 理雅、 荒木 孝一郎、森 京子、 千葉 渉	血液培養陽性検体から質量分 析装置にて迅速同定できた Granulicatella adiacens に よる感染性心内膜炎の一例	第21回日赤検査学会大会	沖縄	29年 11月12日
奥洞 智太 平岩 理雅、扇田 裕允、 土井 美都子、荒木 孝一郎、 李 剛至、千葉 渉	犬咬傷患者の Capnocytophaga canimorsus による敗血症の 1例	第21回日赤検査学会大会	沖縄	29年 11月11日

#### 病理診断部

##### 一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
荒木 孝一郎 渡邊 千尋、村上 浩子、 廣田 智美、千葉 渉、 小林 忠男	Perivascular epithelioid cell tumor(PEComa) of the retroperitoneum diagnosed by Preoperative EUS-FNA cytology : a case report	第58回 日本臨床細胞学会 総会	大阪	29年 5月27日

その他

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
荒木 孝一郎 神田 直樹、山田 桂実、 山本 翔、廣田 智美、千葉 渉、 渡邊 千尋	当院における EUS-FNA 細胞診：検体適正評価を中心に	第 43 回 日本臨床細胞学会 近畿連合会学術集塊	滋賀	29 年 10 月 1 日
荒木 孝一郎 渡邊 千尋、山田 桂実、 山本 翔、廣田 智美、千葉 渉	当院における病理検査精度管理の現状と課題	第 32 回 日本赤十字社臨床検査技師会近畿ブロック研修会	京都	29 年 10 月 8 日

看護部

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
今戸 美奈子 森本 美智子、河田 照絵、 長谷 佳子	COPD 患者における息切れの質とマネジメント法の実態	第 57 回日本呼吸器学会学術講演会	東京	2017 年 4 月 23 日
森本 美智子 河田 照絵、今戸 美奈子、 長谷 佳子	COPD 患者が息切れを和らげるために用いているマネジメント法の特徴 クラスター分析を用いた類型化による検討	第 57 回日本呼吸器学会学術講演会	東京	2017 年 4 月 23 日
河田 照絵 今戸 美奈子、森本 美智子、 長谷 佳子	COPD 患者の息切れに対するセルフマネジメントへの取り組みと QOL、ADL の実態 呼吸リハビリテーション受講歴の有無による検討	第 57 回日本呼吸器学会学術講演会	東京	2017 年 4 月 23 日
今戸 美奈子 東 めぐみ、富田 真佐子、 大澤 栄美、鈴木 麻美、 阿部 利恵	退院直後の慢性疾患患者に対する外来での在宅療養支援の実態	第 11 回日本慢性看護学会学術集会	佐久	2017 年 7 月 2 日
森本 美智子 河田 照絵、今戸 美奈子、 竹川 幸恵、本城 綾子、 伊藤 史、上原 喜美子、 毛利 貴子、松本 麻里、 森 菊子、池田 由紀、 長谷 佳子	慢性呼吸器疾患患者の息切れに対するコントロール感尺度における配置不変性の検討 COPD/IP 患者での検討	第 11 回日本慢性看護学会学術集会	佐久	2017 年 7 月
松本 麻里 森 菊子、森本 美智子、 今戸 美奈子、河田 照絵、 竹川 幸恵、本城 綾子、 伊藤 史、上原 喜美子、 毛利 貴子、池田 由紀、 長谷 佳子	息切れのある慢性呼吸器疾患患者が医療者に求める支援ニーズ 全国質問紙調査自由記載の内容分析による検討	第 11 回日本慢性看護学会学術集会	佐久	2017 年 7 月 2 日
西 ひろみ 原田 かおる	認知症高齢者の転倒予防～病棟移動における環境調整のケア継続の試み～	第 53 回日本赤十字社医学会総会	仙台	29 年 10 月 24 日
伊藤 史 森本 美智子、今戸 美奈子、 竹川 幸恵、本城 綾子、 松本 麻里、毛利 貴子、 上原 喜美子、池田 由紀	慢性呼吸器疾患患者の吸入薬に関するアドヒアランスの実態	第 27 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	仙台	2017 年 11 月 18 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子 田尻 智子、鳳山 絢乃、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	当院の喘息患者における吸入 再指導事例の検討	第 90 回日本呼吸器学会 近畿地方会	大阪	2017 年 12 月 16 日
森 菊子 森本 美智子、河田 照絵、 竹川 幸恵、本城 綾子、 今戸 美奈子、毛利 貴子、 松本 麻里、上原 喜美子、 池田 由紀、伊藤 史	間質性肺炎患者における息切 れのマネジメント法の特徴	第 37 回日本看護科学学会学 術集会	仙台	2017 年 12 月 16 日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子	スペシャリストNsが行う看 護の技 セルフマネジメント の継続を支える看護	第 27 回日本呼吸ケア・リハ ビリテーション学会学術集会	仙台	2017 年 11 月 17 日

**平成 29 年度 病院年報**

発行日 平成 31 年 3 月

発行者 **高槻赤十字病院**

院長 古川 福実

〒 569-1096

高槻市阿武野一丁目 1 番 1 号

☎ (072) 696-0571

編集者 経営企画課

印刷所 株式会社 一心社